

□ 2020 □

履修の手引き

日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

人間社会学部

日本女子大学での学びかた

本学は 1901 年、20 世紀の幕開けとともに創立され、総合的な教育を行う女子高等教育機関として最も長い歴史を持っています。創立者成瀬仁蔵はアメリカに留学し、「自発的教育」に感銘を受け本学を創立しました。建学の精神は女子を「人として、婦人（女性）として、国民として」教育することであり、教育の理念として「信念徹底」、「自発創生」、「共同奉仕」の三綱領を創立者は残しています。本学は現在もこの精神をしっかりと引き継ぎ、人格を高め個性を発揮して、国際人として貢献できる人材の育成に努めています。このような目標のもとに、創立当初から「教養特別講義」（旧「実践倫理」）として、人格の形成及び人間力の向上に資するとともに、女性のキャリア（生き方）形成への指針ともなる講義を行っています。

大学のカリキュラムは、大きく分けて外国語及び基礎的な知識と幅広い教養を身につける基盤的な授業科目群と、専門領域の知識を習得するための授業科目群から構成されています。これに加えて資格関係の科目及び、本学ではキャリア形成科目等将来のキャリアデザインの構築に指針を与える科目を置いています。どのような道に進むにも、社会から求められるのは幅広い教養に基づいた、創造的な理解力です。専門領域は多岐の分野から成り立っていますが、それぞれの講義は専門分野の研究を背景に持つ教員によって行われます。大学の講義は 1 つの科目毎にその内容は広く奥深いものであり、1 学期間の授業だけではとても修得できるものではありません。講義科目で単位を取得するためには、授業時間外に授業時間の 2 倍の予習や復習が要求されます。自分で調べた情報をもとに勉強するうちに、全体像が見えて興味が湧き、充実感を味わうことができます。自ら考察し、理解するための勉強が大切です。上述したように、創立者は「自発的教育」の実践形態として、「自念自動」、「自学自動」を奨めています。自ら考え学んで、実行するという意味です。そのためにも図書館を大いに利用してください。

幅広い教養と専門性を身につけ、自分で考えて問題を解決する力を培うこと、そして自分の考えを文章や口頭で表現する力を磨くことにより、自信を持って社会に羽ばたくことができます。新しい知識を吸収することを楽しむ姿勢、および自己を積極的に表現しようという意欲を、日々の学習の中で地道に育ててください。

日本女子大学

履修の手引き 目次

I 基本情報

2020年度学年暦(人間社会学部)	3
2020年度年間行事予定表(人間社会学部)	4
学生証	6
学籍(学則参照)	7
その他の注意事項について	9

II 履修登録

授業科目	10
卒業するために必要な要件	11
履修登録について	12
本学以外で修得する単位について	16
5大学間学生交流(f-Campus)	16
技能審査等の合格による単位認定	17
海外留学・海外短期研修	18
同志社女子大学との学生交流	18
大学院の授業科目の先取り履修について	18

III 授業・試験・成績

授業について	19
定期試験・追試験・再試験	22
成績評価・成績の通知	25
卒業	28

IV 授業科目

授業科目表の見方について	29
教養特別講義	30
外国語科目(2016年度入学者より適用)	35
(2015年度入学者まで適用)	41
現代社会学科	48
社会福祉学科(社会福祉士・精神保健福祉士受験資格取得について含む)	56
教育学科	69
心理学科	83
文化学科	98
展開科目	109
外国人留学生科目・交換留学生科目	118
キャリア形成科目	120
キャリア女性学副専攻について	123

V 資格 139

教職課程	141
司書課程	201
司書教諭課程	204
博物館学芸員課程	206
社会教育主事	214
日本語教員養成講座	219
その他の資格	225

VI 規程 227

日本女子大学学則	229
日本女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程	240
日本女子大学学生表彰規程及び日本女子大学学生懲戒規程	248

2020年度 学年暦

【前期】

始 業

2 年次以上履修ガイダンス

入 学 式

新入生オリエンテーション

自治活動オリエンテーション

前 期 授 業 開 始

授 業 科 目 登 録 期 間

創 立 記 念 日 ・ 創 立 記 念 式 典

授 業 科 目 登 録 訂 正 期 間

昭 和 の 日

み ど り の 日

こ ど も の 日

憲法記念日（3 日）の振替休日

教育実習（4 年次 幼小中・高）

教育実習（4 年次 中高）

成瀬仁蔵先生生誕日

補 講 日

振 替 授 業 日

前 期 授 業 終 了

前 期 定 期 試 験

夏 季 休 暇

前 期 追 ・ 再 試 験

3 月 3 1 日（火）

3 月 3 1 日（火）

4 月 1 日（水）

4 月 2 日（木）～6 日（月）（履修ガイダンス・健康診断を含む）

4 月 4 日（土）・6 日（月）

4 月 7 日（火）

4 月 1 4 日（火）～1 6 日（木）

4 月 2 0 日（月）（授業は「教養特別講義1」のみ、その他は休講）

4 月 2 3 日（木）・2 4 日（金）

4 月 2 9 日（水・祝）（通常授業を行う）

5 月 4 日（月・祝）（通常授業を行う）

5 月 5 日（火・祝）（通常授業を行う）

5 月 6 日（水・休）（通常授業を行う）

5 月 2 5 日（月）～6 月 5 日（金）

5 月 2 5 日（月）～6 月 1 2 日（金）

6 月 2 3 日（火）

6 月 2 0 日（土）・2 7 日（土） 7 月 4 日（土）・1 1 日（土）

（いずれの日とも3 時限から5 時限まで）

7 月 1 4 日（火）（月曜日の授業を行う）

7 月 1 4 日（火）

7 月 1 5 日（水）～2 1 日（火）

7 月 2 2 日（水）～9 月 2 0 日（日）

9 月 1 0 日（木）・1 1 日（金）・1 2 日（土）

【後期】

後 期 授 業 開 始

後 期 授 業 科 目 登 録 変 更 期 間

後 期 授 業 科 目 登 録 訂 正 期 間

日女祭（準備・後片付けを含む）

教育実習（3 年次 小中）

勤 労 感 謝 の 日

補 講 日

振 替 授 業 日

冬 季 休 暇

授 業 再 開

振 替 授 業 日

大 学 入 学 共 通 テ ス ト

補 講 日

後 期 授 業 終 了

後 期 定 期 試 験

成瀬仁蔵先生告別講演の日

一 般 選 抜 入 学 試 験

卒 業 論 文 発 表 会

後 期 追 ・ 再 試 験

成瀬仁蔵先生命日

卒 業 式

9 月 2 1 日（月・祝）（通常授業を行う）

9 月 3 0 日（水）～1 0 月 2 日（金）

1 0 月 8 日（木）・9 日（金）

1 0 月 1 5 日（木）午後 ～1 9 日（月）（休講）

1 0 月 1 9 日（月）～1 1 月 9 日（月）

1 1 月 2 3 日（月・祝）（通常授業を行う）

1 1 月 2 1 日（土）・2 8 日（土）1 2 月 1 2 日（土）・1 9 日（土）

（いずれの日とも3 時限から5 時限まで）

1 2 月 2 3 日（水）（金曜日の授業を行う）

1 2 月 2 4 日（木）～1 月 6 日（水）

1 月 7 日（木）

1 月 1 4 日（木）（土曜日の授業を行う）

1 月 1 5 日（金）～1 7 日（日）（休講）

1 月 2 0 日（水）・2 1 日（木）（両日とも5 時限まで）

1 月 2 1 日（木）

1 月 2 2 日（金）～2 9 日（金）

1 月 2 9 日（金）

2 月 1 日（月）・2 日（火）・3 日（水）

2 月 5 日（金）・6 日（土）・8 日（月）・9 日（火）・1 0 日（水）

（1 0 日（水）は卒業論文発表会予備日）

2 月 1 2 日（金）・1 3 日（土）・1 5 日（月）

3 月 4 日（木）（休業日）

3 月 2 0 日（土・祝）

学生総会

6 月 2 5 日（木）・1 1 月 2 6 日（木）

防災訓練

1 1 月 5 日（木）

年間行事予定表

[前期/3・4月～9月]

印の祝日は授業なし

3・4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月		
日	曜	行 事	日	曜	行 事	日	曜	行 事	日	曜	行 事	日	曜	行 事	日	曜	行 事
31	火	始業・ 2年次以上履修ガイダンス	1	金		1	月		1	水		1	土		1	火	
1	水	入学式															
2	木	新入生 オリエンテーション 2 日～6 日 自治活動 オリエンテーション 4 日・6 日	2	土		2	火		2	木		2	日		2	水	
3	金		3	日	憲法記念日	3	水		3	金		3	月		3	木	
4	土		4	月	みどりの日 (通常授業を行う)	4	木		4	土	補講(3～5 時限)	4	火		4	金	
5	日		5	火	こどもの日 (通常授業を行う)	5	金	(幼小中・高は 5 日まで)	5	日		5	水		5	土	
6	月		6	水	振替休日 (通常授業を行う)	6	土		6	月		6	木		6	日	
7	火	授業開始	7	木		7	日		7	火		7	金		7	月	
8	水		8	金		8	月		8	水		8	土		8	火	
9	木		9	土		9	火		9	木		9	日		9	水	
10	金		10	日		10	水		10	金		10	月	山の日	10	木	前期 追・再試験 (10～12 日)
11	土		11	月		11	木		11	土	補講(3～5 時限)	11	火		11	金	
12	日		12	火		12	金	(中高は 12 日まで)	12	日		12	水		12	土	
13	月		13	水		13	土		13	月		13	木		13	日	
14	火	授業科目 登録受付 14 日～16 日	14	木		14	日		14	火	振替授業日(月曜 日の授業を行う) 前期授業終了	14	金		14	月	
15	水		15	金		15	月		15	水	前期定期 試験開始	15	土		15	火	
16	木		16	土		16	火		16	木	前期定期 試験	16	日		16	水	
17	金		17	日		17	水		17	金		17	月		17	木	
18	土		18	月		18	木		18	土		18	火		18	金	
19	日		19	火		19	金		19	日		19	水		19	土	
20	月	創立記念日 (授業「教養特別 講義1」のみ行う)	20	水		20	土	補講(3～5 時限)	20	月		20	木		20	日	夏季休暇終了
21	火		21	木		21	日		21	火	前期定期 試験終了	21	金		21	月	敬老の日 (通常授業を行う) 後期授業開始
22	水		22	金		22	月		22	水	夏季休暇開始 (9 月 20 日まで)	22	土		22	日	秋分の日
23	木	授業科目 登録訂正 期間	23	土		23	火		23	日	海の日	23	日		23	水	
24	金		24	日		24	水		24	金	スポーツの日	24	月		24	木	
25	土		25	月	4年次 教育実習	25	木	学生総会(午後)	25	土		25	火		25	金	
26	日		26	火		26	金		26	日		26	水		26	土	
27	月		27	水		27	土	補講(3～5 時限)	27	月		27	木		27	日	
28	火		28	木		28	日		28	火		28	金		28	月	
29	水	昭和の日 (通常授業を行う)	29	金		29	月		29	水		29	土		29	火	
30	木		30	土		30	火		30	木		30	日		30	水	後期授業 科目登録 変更受付
			31	日					31	金		31	月				
						23 日(火): 成瀬仁蔵先生生誕日											

年間行事予定表

[後期/10月～3月]

10 月			11 月			12 月			2021 年 1 月			2 月			3 月		
日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事
1	木	後期授業 科目登録 変更受付 9月30日～ 10月2日	1	日		1	火		1	金	元日	1	月		1	月	
2	金		2	月		2	水		2	土		2	火	一般選抜入学試験 1日～3日	2	火	
3	土		3	火	文化の日	3	木		3	日		3	水		3	水	
4	日		4	水		4	金		4	月		4	木		4	木	成瀬仁蔵先生 命日(休業日)
5	月		5	木	防災訓練	5	土		5	火		5	金		5	金	
6	火		6	金		6	日		6	水	冬季休暇終了	6	土		6	土	
7	水		7	土		7	月		7	木	授業再開	7	日		7	日	
8	木	授業科目 登録訂正 期間	8	日		8	火		8	金		8	月		8	月	
9	金		9	月		9	水		9	土		9	火		9	火	
10	土		10	火		10	木		10	日		10	水		10	水	
11	日		11	水		11	金		11	月	成人の日	11	木	建国記念の日	11	木	
12	月		12	木		12	土	補講(3～5 時限)	12	火		12	金	後期 追・再試験 12日～15日	12	金	
13	火		13	金		13	日		13	水		13	土		13	土	
14	水		14	土		14	月		14	木	振替授業日 (土曜日の授業を行 う)	14	日		14	日	
15	木	午前:通常授業 午後:日女祭準備 (休講)	15	日		15	火		15	金	大学入学 共通テスト(休講) 15日～17日 (準備を含む)	15	月		15	月	
16	金	日女祭準備(休講)	16	月		16	水		16	土		16	火		16	火	
17	土	日女祭(休講)	17	火		17	木		17	日		17	水		17	水	
18	日	～18日	18	水		18	金		18	月		18	木		18	木	
19	月	日女祭後片付け (休講) 3年次教育実習 (小中)	19	木		19	土	補講(3～5 時限)	19	火		19	金		19	金	
20	火		20	金		20	日		20	水	補講 20 日・21 日 (両日とも最終時限ま で)	20	土		20	土	春分の日 卒業式
21	水		21	土	補講(3～5 時限)	21	月		21	木	21 日:後期授業終了	21	日		21	日	
22	木		22	日		22	火		22	金	後期定期 試験開始	22	月		22	月	
23	金		23	月	勤労感謝の日 (通常授業を行う)	23	水	振替授業日 (金曜日の授業を行 う)	23	土		23	火	天皇誕生日	23	火	
24	土		24	火		24	木	冬季休暇開始 (1月6日まで)	24	日	後 期 定 期 試 験	24	水		24	水	
25	日		25	水		25	金		25	月		25	木		25	木	
26	月		26	木	学生総会(午後)	26	土		26	火		26	金		26	金	
27	火		27	金		27	日		27	水		27	土		27	土	
28	水		28	土	補講(3～5 時限)	28	月		28	木		28	日		28	日	
29	木		29	日		29	火		29	金	後期定期 試験終了				29	月	
30	金		30	月		30	水		30	土					30	火	
31	土					31	木		31	日					31	水	
									29日(金): 成瀬仁蔵先生告別講演の日			5日(金)・6日(土)・8日(月) ・9日(火)・10日(水): 卒業論文発表会(10日(水) は卒業論文発表会予備日)					

学 生 証

1 学 生 証

学生証は日本女子大学の学生であることを証明するものです。学生生活を送る上で様々な場面で使用します。常時携帯してください。

1. 交付
新入生の学生証（裏面シール含）は、入学時式後に交付します。2年次以上の学生には毎年始業時に当該年度の裏面シールを交付します。
*裏面シールを当該年度のものに貼り替えることで学生証を更新したことになります。
*裏面シールに学籍番号・氏名・現住所を記入の上、裏面に貼付してください。
当該年度の裏面シールの貼付・記入の無いものは学生証として効力がありません。
2. 有効期限
学生証は発行から在学期間中有効です。卒業・退学等により本学の学籍を失ったときは、学生証を西生田学務課に返還しなければなりません。
3. 学生証の提示が必要な場合
①履修や授業等に関する相談をする場合 ②試験を受ける場合 ③各種証明書等の交付を受ける場合
④通学定期券を購入および学割証を利用してＪＲ線の乗車券を購入・使用する場合 ⑤教職員から提示を求められた場合
4. 記載事項変更
氏名等に変更があった場合は、直ちに西生田学務課に申し出てください。
5. 学生証取り扱いの注意
磁石、テレビ、スマートフォン、携帯電話、ＩＣカード等磁気を帯びたものと一緒にしないでください。磁気に異常が生じた場合は西生田学務課で再発行の手続きをしてください（手数料 ¥500 が必要です）。なお、再発行には1週間かかります。
6. 紛失・破損・忘れ
学生証を紛失・破損したときは速やかに西生田学務課で再発行の手続きをしてください（手数料¥2, 000 が必要です）。なお、再発行には1週間かかります。この間、仮学生証(学内のみ1週間有効)を発行します。定期試験の際に学生証を忘れた場合は仮学生証交付の手続きをとってください(手数料¥200が必要です)。この場合、仮学生証は発行当日のみ有効です。当日使用後速やかに返却してください。
7. 氏名表記について
学生証に記載される氏名は、JIS 第1・2水準に含まれる文字で電算処理されます。
在学中の諸証明書および学位記、卒業後の諸証明書はこの文字で発行します。
英文の場合、氏名は通常ヘボン式で記載されます。（パスポートの氏名がヘボン式表記と違う場合はパスポートを持参の上、西生田学務課に申し出てください。）

2 学 籍 番 号

入学と同時に学籍番号が指定されます。次のような8桁の数字からなり、原則として在学中変わりません。学生生活を送るうえで大切な番号ですから正確に記憶してください。

(例) 2 2 0 6 1 9 9 9
学校コード 入学年度※ 学科番号 学科における本人の番号

※「20」は2020年度を表します。編入学者・学士入学者・再入学者は指定された学年の入学年度にならいますので、入学した年度とは限りません。
《学科番号一覧》（交換留学生・同志社女子大学交流学生…92 科目等履修生…91）

人間社会学部		家 政 学 部		文 学 部	
現代社会学科	61	児童学科01		日本文学科	11
社会福祉学科	62	食物学科	食物学専攻02	英文学科	12
教育学科	63		管理栄養士専攻03	史学科	13
心理学科	64	住居学科	居住環境デザイン専攻18	理 学 部	
文化学科	65		建築デザイン専攻19	数物科学科	16
		被服学科05		物質生物科学科	17
		家政経済学科10			

学 籍（学 則 参 照）

休学、復学、転学、退学しようとする学生は、各学科のアドバイザーに願い出てください。アドバイザーの了承があれば、各願の所定用紙をお渡しします。（各所定用紙は、西生田学務課でお渡しします。）各願は必要事項を記入し、保証人連署・捺印のうえ、西生田学務課へ提出してください。

手続方法の詳細は、西生田学務課窓口まで問い合わせてください。

本学における修業年限は4年とし、在学年限は8年とします。
編入学者、学士入学者、再入学者は、西生田学務課で確認してください。

1 休 学

病気その他やむを得ない理由により修学することができない場合、前期または後期を単位として休学することができます。休学を希望する者は、「休学願」（所定用紙）にその理由を記し、西生田学務課に提出してください。教授会の議を経て学長が許可します。休学理由が病気の場合は医師の診断書を添付してください。

1. 休学期間

- ・休学期間は、原則として1年以内です。ただし、特別の理由のある場合は、引き続き休学を願い出ることができます。その場合は改めて休学の手続きをしてください。また、年度をまたがって休学する場合にも、次年度に改めて手続きが必要です。
- ・休学期間は通算して2年を越えることはできません。
- ・休学期間は在学期間に含まれません。

《休学願提出期限》	休 学 願	提 出 期 限
	前期（4月1日～9月20日）のみ休学する場合 1年間（4月1日～3月31日）休学する場合	前年度末日（3月31日）まで
	後期（9月21日～3月31日）のみ休学する場合	前期末日（9月20日）まで

※やむを得ない事情により期限までに「休学願」が提出できない場合は、休学しようとする学期の授業科目登録締切日までに提出してください。

2. 休学の場合の学費

- ・休学期間中の授業料、施設設備費、学生図書費を免除し、別途在籍料を納入するものとします。
- ・在籍料は、前期および後期各100,000円とします。
- ・入学と同時に休学を開始する場合は、上記に関わらず、入学した期の学費は所定額の全額を納めなければなりません。
- ・詳細については経理課に問い合わせてください。

2 復 学

休学の理由がなくなったときは、「復学願」（所定用紙）を西生田学務課に提出してください。教授会の議を経て学長が許可します。なお、学期途中の復学はできません。

病気のため休学した者は、「復学願」に校医の診断書を添付してください。なお、校医の診断書は、西生田保健管理センターで校医の診察後に発行します。その際、医師により復学可能であると記載された診断書が必要となります。診断書については事前に必ず、西生田保健管理センターにお問い合わせください。

《復学願提出期限》	復 学 願	提 出 期 限
	後期より復学する場合（9月21日付）	前期末日（9月20日）まで
	新年度より復学する場合（4月1日付）	年度末日（3月31日）まで

※やむを得ない事情により期限までに「復学願」が提出できない場合は、復学しようとする学期の授業科目登録締切日までに提出してください。

3 転 学

他の大学に転学を志願しようとする者は、「転学願」（所定用紙）にその理由を記し西生田学務課に提出し、教授会の議を経て学長の許可を得なければなりません。

4 退 学

退学しようとする者は、「退学願」（所定用紙）にその理由を記し、西生田学務課に提出してください。教授会の議を経て学長が許可します。なお、退学を願い出る時期までの授業料等を未納のまま退学することはできません。

《退学願提出期限》

退 学 願	提 出 期 限
前期末で退学する場合（9月20日付）	前期末日（9月20日）まで
年度末で退学する場合（3月31日付）	年度末日（3月31日）まで

※やむを得ない事情により期限までに「退学願」が提出できない場合は、次の学期の授業科目登録締切日までに提出してください。

5 除 籍

授業料を納めることを怠り、督促期日を過ぎてなお納めない者は、除籍されます。

《除籍日》

前期授業料未納の場合	前年度後期末日（3月31日）除籍
後期授業料未納の場合	当該年度前期末日（9月20日）除籍

※除籍の場合、当該期の履修科目の登録・成績・単位等は全て無効となります。

6 転 学 科

他学科への転学科を志望する者には、選考の上転学科を許可することがあります。ただし、受け入れ学科において受け入れの余裕がある場合に限られます。転学科願の受付など詳細については西生田学務課に問い合わせてください。

7 留 学

協定大学又は認定大学への留学を希望する者は、許可を得て留学することができます。この場合の留学は1年間を限度として在学期間に算入することができます。

また、修得した単位は、30単位を限度として本学の卒業に必要な単位として認められることがあります。ただし、休学して留学した場合はこの限りではありません。上記の留学のほかに、本学が認めるものとして海外短期研修があります。詳細については、国際交流課に問い合わせてください。

8 交 流 学 生

本学と協定のある日本国内または外国の大学、または短期大学において授業科目の履修および単位の修得を希望する者は、許可を得て交流学生として派遣されます。派遣期間は1年間を限度として在学期間に算入することができます。詳細については西生田学務課に問い合わせてください。

9 再 入 学

退学した者（除籍者含む）が再入学を願い出たときは、教授会の議を経て、学長はこれを許可することがあります。

退学（除籍）してから再入学するまでの中断期間の限度を4年とします。ただし、かつての在学年数が4年を超えていた場合は、入学年度後7年目までとします。退学（除籍）後再入学を希望する場合は、学科研究室または入学課に問い合わせてください。

10 科 目 等 履 修 生 及 び 研 究 生

本学には科目等履修生及び研究生の制度が置かれています。詳細については、西生田学務課に問い合わせてください。

その他の注意事項について

1 学生への通知・連絡

西生田学務課からの通知・連絡は、下記の掲示板等によって行います。学生は毎日必ず掲示板等を見る習慣をつけてください。また、期限を明示するものについては、必ず期限を厳守するように注意してください。

水田記念学生ホール内掲示板は、以下のように使用されます。

1. 電子掲示板----- 休講情報、教室変更・時間割変更、お知らせなど
JASMINE-Navi 用 PC ---- Web 学生支援システム（休講情報、学生呼出、履修科目登録状況、定期試験時間割情報、お知らせなど）
2. 第一掲示板----- 時間割、教養特別講義、その他の学事・教務関係の掲示
3. 第二掲示板----- 試験、資格関係、補講、5 大学間学生交流関係、就職関係などの掲示
学生生活関係（奨学金・ロッカー・寮・留学・留学生関係など）、総務・経理関係（公示のお知らせ・実験実習料・校納金など）の掲示

（注意） ※電子掲示板（大型モニターカラー画面）は、約 10 秒間隔で画面が変わっていくので内容を十分確認してください。
※詳細は「学生情報システム利用ガイド」で確認してください。
※JASMINE-Navi は自宅やコンピュータ演習室など、インターネットに接続可能なパソコンから利用することができます。
また携帯サイトやメールでも情報の一部を閲覧することができます。（JASMINE-Navi URL <https://www6jwu.ac.jp/pc>）

2 授業担当者との連絡について

個人情報保護法の観点より、教職員の連絡先をお教えすることはできません。また、伝達間違い等による誤解を防ぐため、授業担当者への連絡の中継ぎをすることもできません。

授業・レポート等に関する質問は、授業時に直接、授業担当者に確認するようにしてください。

3 授業の録音・撮影について

本学では、個人情報・肖像権・著作権保護の観点から、担当教員の許可無く本学設置科目受講者及びその他の者による授業の録音・撮影を禁止しています。

ただし、授業中にノートを取り終えることが難しい状況にある等、特別な事情がある場合は個別に授業担当者に相談してください。

4 西生田学務課 窓口受付時間

月～金	9：00～17：30
土	9：00～12：00

※ 夏、冬、春の休暇中の事務取扱いについては、その都度掲示します。

伝達間違い等による誤解を防ぐため、行事予定、休講、その他授業及び試験等に関して、電話・メールでの問い合わせには一切お答えしておりません。ご注意ください。

授業科目

1 授業科目の区分

本学では、本学共通の教育理念に基づき、学部・学科共通の基礎的な知識、幅広い教養を身につけるための授業科目群と、学科の教育理念に基づいた専門分野の知識を習得するための授業科目群によって、教育課程（＝カリキュラム）が構成されています。その上で、資格関係科目、キャリア形成科目、副専攻など、様々な授業科目を提供しています。授業科目は、下表のとおり区分になっています。専門教育である学科教育科目の他に、各区分から定められた単位数分の授業科目をバランスよく履修する必要があります。

なお、学科教育科目は、基本科目、学科専門科目、展開科目からなり、それぞれ必修科目、選択必修科目、選択科目に分かれています。所属学科の定めるところにより、学科の必修科目は全科目を履修し、選択必修科目、選択科目については卒業するために履修すべき授業科目及び修得すべき単位数表を参照して、所定単位を選択履修します。

教養特別講義		全学に共通な教育科目であり、教養特別講義1及び教養特別講義2からなります。それぞれ1単位、計2単位が必修科目となっています。
学科教育科目	基本科目（外国語科目を含む）	学科の専門的学習の基礎となる学力を涵養することを目的とし、外国語科目及び基礎的な科目から構成されています。そのため、少人数の演習形式による授業を一部取り入れています。 外国語の履修は、大学における専門教育の基礎として必要不可欠であるばかりでなく、国際化した社会における現代人の教養としても重要な意義をもっています。英語、ドイツ語、フランス語、中国語、イタリア語、韓国語を履修することができます。
	学科専門科目	各学科の専門的教育の中核をなす科目群からなります。学科の教育目標に沿って多様な授業科目が開講されており、系統的・計画的な履修により、最終学年には卒業論文・卒業研究によって4年間の学習の成果を結実させます。
	展開科目	展開科目は自己の教養を深め発展させることを目的とした科目で、3つの領域に分かれ、実践的な科目が設けられています。
キャリア形成科目		将来のキャリアデザイン設計に向けて、自己の適性や可能性を探るきっかけとなる就業体験や、在学生が実社会への入口を前にして進路選択を考える科目として開講されます。
資格関係科目	教職に関する科目	資格関係科目は資格取得を目的として設けられています。それぞれ詳細は「V資格」を参照してください。
	司書及び司書教諭に関する科目	
	博物館に関する科目	
	社会教育主事に関する科目	
	日本語教員養成講座に関する科目	
外国人留学生科目・交換留学生科目		それぞれ学則に定める外国人留学生・交換留学生を対象とした科目として置かれています。

2 履修する科目の選択

履修とは、受講しようとする科目を登録し、授業・試験等を受けて単位を修得する、その一連の過程をいいます。特に「履修登録」に関することを指して使われる場合があります。

大学における学習の特徴は、各自が履修する科目を選択して学べることにあります。大学で学ぶにあたっては、各自が、自分の学習の目標を定め、そのための堅実な履修計画を立てていくことが大切です。履修登録の際は、『履修の手引き』や『講義概要（シラバス）』、『授業科目登録ガイド』を熟読し、授業の『時間割』から履修計画を立てましょう。

3 単位制度と学修時間

1. 単位とは

単位とは、科目を修得するために必要な学修の量を示すものです。

すべての授業科目には一定の基準により単位が定められています。本学では、1単位の授業科目は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準として定めています。

学修時間には、授業時間だけでなく、予習・復習等教室外の自習時間も含まれます。

2. 単位と授業時間の関係

授業の形態に応じて、授業の教育効果や授業時間外に必要な予習・復習を考慮して、次の基準により、単位数を計算します。

1回あたりの授業時間は100分（原則として初回授業は50分）、半期14回の授業を行います。単位数を計算する上では、45分を1時間相当の学修時間とし、100分（原則として初回授業は50分）×14週をもって30時間とみなします。

授業形態	基準
講義・演習	15～30時間の授業をもって1単位
実験・実習・実技	30～45時間の授業をもって1単位
卒業論文・卒業研究	上記の基準に当てはまらない例外 学修の成果を評価して単位が与えられる

例えば、講義科目で2単位を修得するには、1単位あたり45時間の学修を必要としますので、90時間の学修が必要です。

そのため、30時間の授業を受けた上で、授業時間外に授業時間の2倍の60時間の学修時間（予習・復習等）が要求されることになります。

＜2単位修得するための学修時間＞

$$90\text{時間（必要学修時間）} - 30\text{時間（授業時間）} = 60\text{時間（授業時間外の自習時間）}$$

このように、単位の修得のためには、教室内での授業の他に自主的な学修が不可欠となっています。履修計画を立てる際には、『講義概要（シラバス）』の「授業外で行うべき学修＜準備学修・事後学修等＞」を参考にし、十分留意してください。

卒業するために必要な要件

卒業するためには、学科ごとに定められた所定の単位を修得しなければなりません。授業科目および最低単位数は次の表に示すとおりです。授業科目の履修・単位の修得にあたっては、各授業科目表の履修方法に従わなければなりません。

卒業するために履修すべき授業科目及び単位数

学 科	入学年度	教養特別講義 (必修)	基本科目		学科専門科目		展開科目		所属学科又は 所属学科以外の科目 (自由選択科目)※	合計 (最低修得 単位数)
			必修	選択	必修	選択	必修	選択		
現代社会科学	2003～2015	2	24	0	14	46	2	24	12	124
	2016～	2	28	0	14	46	2	24	8	124
社会福祉学科	2003～	2	16	0	26	28	0	22	30	124
教育学科	2003～2015	2	12	0	18	40	2	20	30	124
	2016～	2	22	0	18	40	2	20	24	128
心理学科	2011～2015	2	38	0	28	12	2	28	16	126
	2016～2017	2	22	0	28	28	2	28	16	126
	2018～	2	18	0	26	34	2	28	16	126
文化学科	2005～	2	44	0	14	32	0	22	12	126

※ 所属学科又は所属学科以外の科目（自由選択）の単位について

「基本科目（外国語科目を含む）」、「学科専門科目（選択）」、「展開科目」において、卒業するために必要な単位数以上の単位を修得した場合は、超えた単位数を自由選択として算入することができます。また、「資格等に関する科目」、「他学部他学科の開講科目」、「キャリア形成科目」、「本学の定めるところにより他の大学等において履修した授業科目」も自由選択として算入することができます。ただし、卒業するために必要な単位に含めない授業科目（授業科目表の備考欄に◆印のある科目、教育学科以外は◇印のある科目も含む）の単位は除きます。

単位数の数え方

選択必修科目は必修科目として数えます。選択必修科目を余分に修得した場合は、選択科目の単位として数えることができます。さらに選択科目の単位を余分に修得した場合は、一部学科を除き、自由選択科目の単位として数えることができます。

同じ学科でも入学年度によって、卒業要件が異なることがあります。

卒業するまで本書を大切に保管するようにしてください。

※ 編入学者・学士入学者の入学年度については「Ⅰ 基本情報 学生証について」のページの「学籍番号」の項を参照してください。

※ 資格取得のための履修要件や取得要件等は、法律の改正等により変更されることがあります。毎年配布される『履修の手引き』の「Ⅴ 資格」のページを必ず確認してください。

履修登録について

履修登録とは、その年度に履修する（授業を受ける）科目を届け出る手続きのことです。

履修計画を立てて1年間に履修する全ての科目を前期登録期間（4月中旬）までに登録してください。

(f-Campus 他大学提供科目の履修登録期間は異なります。詳しくは、f-Campus 履修マニュアルを確認してください。)

1 履修登録の流れ

前期

1年分の履修計画を立てる。

後期

前期の単位修得状況を確認した上で、再度履修計画を立て直す。

「JASMINE-Navi」(次ページ参照)の「履修/時間割」から履修登録

「履修登録」から登録

- ・必ずパソコンから履修登録を行ってください。
- ・スマートフォンでは履修登録することができません。
- ・一部の科目を除き、履修登録期間中であれば、繰り返し追加・変更・取消が可能です。

【後期登録期間についての注意】

- 変更がない場合でも、必ず内容に問題がないことを確認してください。エラー等が生じていない限り、前期の仮登録内容が反映されます。
- 「前期科目」「通年科目」は追加・変更・取消できません。

「学生時間割表」印刷

→ 登録画面の「確定ボタン」を押すと「学生時間割表」が表示されます。

- 各自、登録情報の確認用資料として必ず印刷しておいてください。
後期に変更がない場合でも必ず印刷してください。
- 登録の結果に疑問点や不明点がある場合、この「学生時間割表」がなければ問い合わせにお答えすることができません。

履修登録訂正期間

※ 学生時間割表を必ず印刷しておくこと

前期

- 前期・通年科目については登録確定です。
- 後期科目については、仮登録完了です。
- 登録・訂正期間を過ぎてからの変更はできません。

後期

履修登録変更完了

- 後期科目についての登録変更完了です。
- 登録・訂正期間を過ぎてからの変更はできません。

- ・登録に関する一切の責任は、学生本人にあります。
- ・定められた期間に、履修登録およびその確認を行わない学生は、その学期における履修の権利を放棄したものとみなします。
- ・理由の如何を問わず、期限を過ぎてからの書類の提出や訂正の申し出は認められません。
- ・履修登録をしていない授業科目に出席し、試験を受けても、単位を修得することはできません。
- ・履修登録やその確認を怠ったために、不利益を被ることのないよう各自十分に注意してください。
- ・JASMINE-Navi の履修登録を完了した際の時間割は各自で必ずプリントアウトし、大切に保管してください。プリントアウトしたものがなければ登録の結果についての問い合わせに答えることはできません。

2 履修計画を立てる

履修ガイダンスに必ず出席し、『履修の手引き』・『時間割』・『講義概要（シラバス）』・『授業科目登録ガイドブック』『Web 履修登録システムマニュアル』などを熟読したうえで、1年間の履修計画を立てます。

教育課程全体の体系性を分かりやすく明示する仕組みとして、2019年度より科目ナンバリングを導入しました。各授業科目の科目ナンバリングコードはシラバスに掲載されています。科目ナンバリングの詳細については、JASMINE-Navi より閲覧できます。

*『時間割』・『講義概要（シラバス）』・『授業科目登録ガイド』・『Web 履修登録システムマニュアル』は、JASMINE-Navi より閲覧できます。

*『授業科目登録ガイド』・『Web 履修登録システムマニュアル』は、各自印刷し熟読した上で履修登録をしてください。

JASMINE-Navi とは

「JASMINE-Navi」とは、履修登録や履修の手引き、時間割、シラバス照会、各学生向け情報の閲覧などがインターネット上でできる、Web 学生支援システムです。自宅や学内の JASMINE-Navi 用 PC、コンピュータ演習室など、インターネットに接続が可能なパソコンからログインして利用することができます。常に確認する習慣をつけてください。

第1回目の授業に出席すること

履修科目を決めて、第1回目の授業から出席します。第1回目の授業において、授業担当者が必要と判断した場合に人数調整が行われることがあります。第1回目の授業に必ず出席してください。

人数調整について

① 人数調整とは

履修希望者が多く、授業を行う上で支障をきたす恐れがある場合、設備に限りのある教室を使用する場合、授業効果をあげるために人数制限が必要と授業担当者が判断した場合などに、登録者を制限することがあり、これを「人数調整」といいます。また、履修登録をすることができる学生を登録有資格者と呼びます。

②人数調整を実施する時期と周知方法

前期後期ともに、原則として第1回目の授業において実施します。人数調整が行われた科目およびその結果は、JASMINE-Navi 登録画面上に反映されます。反映されていない場合は、登録有資格者ではありません。なお、登録有資格者一覧については、掲示でもお知らせします。

③その他

一度人数調整を実施した科目は、原則取消不可です。また、登録有資格者が登録を取り消した場合や、授業への出席を放棄する学生がいたとしても、追加の登録受付は一切行いません。

お互いの学習の機会を狭めることがないように、よく考えて、本当に履修したい科目の授業に出席するようにしてください。

JASMINE-Navi のログインについて

日本女子大学ホームページ（<https://www.jwu.ac.jp/>）にアクセスします。

① 「訪問者別メニュー」より、「在学生の方」を選択します。

② 「JASMINE-Navi」のボタンをクリックします。（<https://www6.jwu.ac.jp/pc>）

※ JASMINE-Navi の使用方法等については、「学生情報システム利用ガイド」を確認してください。

※ 必ずパソコンから履修登録を行ってください。スマートフォンでは履修登録することができません。



他学部・他学科の授業科目の履修 について

他学科（目白キャンパスの各学科を含む）開講の科目を履修することができます。ただし、科目によっては他学部、他学科の学生に開放されていない科目および履修条件が付されている科目があります。また、移動時間の関係上、同じ日の続き時限の授業を目白と西生田間で履修することはできません。目白地区と西生田地区の授業時間は異なります。他学科開講科目の履修については、西生田学務課の掲示と各キャンパスの『履修の手引き』で必ず詳細を確認してください。

他学部、他学科開講科目の登録についても、履修登録期間内に JASMINE-Navi 上で行ってください。

履修登録単位数の上限

1 年間に登録できる単位数には上限があります。（ただし、外国人留学生を除きます。）これは、1 単位を修得するために必要な学修時間、授業時間と十分な自習時間（予習・復習）を確保して、1 つの科目の理解をより深めてもらうために設けられている規制です。前期・後期・通年科目を合算しての登録上限単位数は下表のとおりです。なお、卒業するために必要な単位に含めない授業科目（授業科目表の備考欄に◆印のある科目）は、この上限単位数に含めません。

また、登録上限単位は、1 年間に登録できる単位の上限であり、**修得できる単位の上限ではありません**。例えば上限 47 単位の学科の場合、前期登録時点で既に 47 単位登録していたら、前期で不合格になった科目があったとしても、後期登録変更期間に追加登録することはできませんので注意してください。

学科	現代社会	社会福祉	教育	心理	文化
登録上限単位数	48	48	48	48	48

※4 年次学生は目安とします。

反復履修の禁止

一度単位を修得した授業科目は、再び履修することはできません。ただし、授業科目表の備考欄に☆印のついた科目は、繰り返し履修することができます。

実験実習料が必要となる授業科目の履修について

科目によっては別途「実験実習料」が必要になります。授業担当者や経理課からの情報に注意してください。なお、履修登録確定後は、登録取り消し・変更はできませんので、たとえ授業の履修を放棄したとしても実験実習料を支払う必要があります。

3 履 修 登 録

自分が履修したい科目について、以下の登録の手続きに従い、定められた期間内に手続きをします。履修計画を立てて 1 年間に履修する全ての科目を前期登録期間（4 月中旬）までに登録してください。授業科目登録期間は、『授業科目登録ガイド』で確認してください。

4 月に仮登録を済ませていた後期科目でも、後期授業開始後に人数調整が行われた結果、登録有資格者とならなかった場合は、その科目は削除され、登録ができませんので注意してください。なお、4 月に登録した授業科目のうち、後期開講科目（一部を除く）については後期登録変更期間に変更することができます。

1. Web（JASMINE-Navi）登録画面上にて履修登録を行う（必ずパソコンから履修登録を行ってください。スマートフォンでは履修登録することができません）

登録は全て Web 上で行います（メニュー「履修／時間割」→「履修登録」）。

『授業科目登録ガイド』『Web 履修登録システムマニュアル』（JASMINE-Navi より閲覧可能。「履修登録情報」→「2020 年度 Web 履修登録マニュアルについて」）を熟読した上で行ってください。人数調整や各学科でのクラス分け等、登録にあたって制限がある場合には、特に注意が必要です。学科ガイダンスへの出席、第 1 回目からの授業出席、掲示の確認等を怠らないようにしてください。

2. Web 登録画面以外での登録

ほとんどの科目の登録手続きはメニュー「履修／時間割」→「履修登録」より行いますが、次の①②③については例外となりますので、注意してください。

①自動的に登録される必修科目・選択必修科目・選択科目

あらかじめ受講クラスが確定しているため、学生個人の Web 登録画面上に反映されています。

	科目名		開講学科・年次	備考・注意
必修科目・選択必修科目	現代社会	卒業論文	現代社会学科 4 年次	指定クラスが自動登録されます。
	社会福祉	社会福祉演習Ⅰ	社会福祉学科 3 年次	指定クラスが自動登録されます。
		社会福祉演習Ⅱ	社会福祉学科 4 年次	
		卒業研究		
	教育	教育学基礎演習 文献研究基礎演習 学校インターンシップⅠ(2016 年度入学者より)	教育学科 1 年次	指定クラスが自動登録されます。
		量的研究基礎演習 質的研究基礎演習 学校インターンシップⅡ(2016 年度入学者より)	教育学科 2 年次	
		教育学演習Ⅰ	教育学科 3 年次	
		教育学演習Ⅱ	教育学科 4 年次	
		卒業論文		
		心理	心理学統計法Ⅰ 心理学統計法Ⅱ	
	基礎心理学概説・7－Ⅰ 基礎心理学概説・7－Ⅱ		心理学科 1 年次～ (2017 年度入学者まで)	
	文化		基礎演習	文化学科 1 年次
		文化学演習Ⅰ	文化学科 2 年次	
		文化学演習Ⅱ	文化学科 3・4 年次	
		卒業研究	文化学科 4 年次	
	教養特別講義1		全学科 1 年次、2020 年度編入学・学士入学者	指定ゼミが自動登録されます。
			全学科 2～4 年次再履修者	別途、所定用紙で申込を行います。
	教養特別講義2		全学科 2 年次、3 年次 4 年次で所定単位が未修得の者	指定クラスが自動登録されます。
	ベーシック・イングリッシュ a・b・c・d		全学科 1 年次	指定クラスが自動登録されます。
	ベーシック・イングリッシュ a・b・c・d (再履修者)		全学科 2 年次～	別途、所定用紙で申込を行います。
	社会スポーツ実習A 社会スポーツ実習B		現代社会学科・教育学科・心理学科 1 年次	指定クラスが自動登録されます。
			社会福祉学科・文化学科 1 年次履修希望者 全学科 2 年次以上履修希望者	別途、登録票で申込を受け付け、登録許可者を決定します。
選択科目	異文化相互理解実地研究 学校インターンシップⅠ・Ⅱ(2015 年度入学者まで)		教育学科	関係する学生のみ指定クラスが自動登録されます。
	基礎情報処理		全学科	ガイダンス・オリエンテーション期間中に、所定の方法により申込を受け付け、登録許可者を決定します。
	シーズン・スポーツ		全学科	事前説明会または第1回目の授業等で受講調整を行います。調整の結果、登録が許可された学生のみ自動登録されます。
	芸術資料フィールドワーク a・b・c・d・e		全学科	
	異文化体験学習、言語コミュニケーション		全学科	
	外国語(夏期集中授業) 資格英語(集中)1、資格英語(集中)2、資格英語(集中)3、 集中ドイツ語、集中フランス語、集中中国語		全学科	

※ 上記の科目以外にも外国語科目など人数調整を行う科目があります。第1回目の授業には、必ず出席してください。

※ 卒業論文・卒業研究の単位修得には履修登録が必要となります。また、卒業論文・卒業研究は各学科の定める日時までに、所定の提出先に提出しなければなりません。登録方法および提出方法については、各学科の指示に従ってください。

②自動的に登録される資格関係科目

	科目名	対象	備考・注意
資格関係科目	教育実習事前事後指導2 (介護等体験)	前年度に介護等体験を申込み した学生	
	教育実習事前事後指導1 (2年次)	前年度に予備登録をした学生	
	教育実習事前事後指導1 (3年次)		
	教育実習事前事後指導1	教職課程履修者	所定の条件を満たしたものを自動登録します。『履修の手引き』 P.181～186、 P.196～198 を参照してください。
	教育実習		
	教職実践演習 (幼小)・(小中)・(中高)		
	博物館実習(4年次)	博物館学芸員課程履修者	所定の条件を満たしたものを自動登録します。但し、「博物館実習(3年次)」はWeb 登 録が必要です。『履修の手引き』 P.210 を参照してください。
	日本語教育実習	日本語教育実習履修者	所定の条件を満たしたものを自動登録します。『履修の手引き』 P.221～222 を参照し てください。

③その他、特殊な科目

科目ごとに手続き(使用する用紙や届け出る場所、受付機関等)が異なります。手続き期間等は、西生田学務課掲示板および「授業科目登録ガイド」で確認してください。

科目	対象	登録方法
5大学間学生交流(f-Campus)	履修希望者	別途、Web 上のバーチャル事務局での抽選結果がそのまま自動登録されます。『履修の手引き』P.16～17 を参照してください。
インターンシップ I・II	履修希望者	インターンシップ履修事前指導①に必ず出席のうえ、キャリア支援課で登録します。(履修登録日程は別途お知らせします。)

履修登録の訂正期間について

履修を継続する意思がなく、授業科目の履修登録を削除したい場合や、学科から指定された授業のクラスを間違えて登録してしまった場合等、この訂正期間内に履修登録科目の一部について、追加・削除の訂正をすることができます。(この期間内に履修登録を削除した科目は、GPAの算出対象科目にはなりません。)

なお、追加して授業科目の履修登録を行う場合は、今後の授業への出席について授業担当者に確認した上で、訂正を行ってください。(授業科目の運営の性質上、授業担当者によっては、訂正期間内の追加履修登録が認められない場合があります。)

※履修登録確定後に病気や特別な事情等で修学が継続できなくなった場合には、所属学科および西生田学務課に相談してください。

本学以外で修得する単位について

他の大学または短期大学等において修得した単位は、本学の授業科目の履修により修得した単位としてみなされます。単位認定により認定された単位と5大学間単位互換制度により修得した単位は編入学・学士入学の場合を除き、合計60単位を超えないものとします。

単位互換

5大学間単位互換制度 (f-Campus)

単位認定

それぞれ卒業に必要な単位として認定できる単位数には上限があります。(認定された科目の評価表記は「認」(認定)と表記され、GPAの算出対象から除外されます。)なお、単位認定された科目は反復履修可能な科目以外、履修することができません。

	種 別	内 容
1	1 年次入学者の既修得単位	本学に入学する前に大学等(外国の大学等は除く)において修得した単位は、本学の授業科目を履修して修得した単位として認定されます。申請の機会は入学時1回の4月のみで、認定される単位数の上限は30 単位です。
2	技能審査等の合格	入学前または入学後に技能審査等に合格又は規定の点数を取得した場合、本学の規定の授業科目を修得したものと単位認定されます。(本節の「2 技能審査等の合格」参照) 申請の機会は入学時を含め毎年4月です。
3	協定大学・認定大学への留学	学則に基づく協定大学・認定大学への留学により修得した単位は、本学の授業科目を履修して修得した単位として認定されます。認定される単位数の上限は30 単位です。(本節の「3 海外留学・海外短期研修について」及び『留学の手引き』参照)
4	海外短期研修	大学公認の単位認定海外短期研修を修了した学生は、本学の特定の授業科目を修得したものと単位認定されます。(本節の「3 海外留学・海外短期研修について」及び『留学の手引き』参照)
5	同志社女子大学との学生交流	同志社女子大学との学生交流により修得した単位は、本学の授業科目を履修して修得した単位として認定されます。認定される単位数の上限は、所属学科の履修登録単位数の上限に準じます。(本節の「4 同志社女子大学との学生交流について」参照)

1
 5大学間学生交流(f-Campus)について

本学では、学習院大学・学習院女子大学・立教大学・早稲田大学と大学間交流協定を締結し、5大学間単位互換制度 (f-Campus) を実施しています。

2年次以上の学生は「特別聴講学生」として、年間12単位まで協定大学の特定の授業科目を履修登録することができます。また、修得した単位は、卒業要件単位表に基づき、本学の単位に算入することができます。(f-Campus で履修した他大学科目の評価は A+、A、B、C、Fとします。)

この制度では、講義概要・時間割等の情報提供・登録・抽選等を Web 上のバーチャル事務局で行います。今年度の登録日程・提供科目・講義概要・登録方法・試験等、詳しくはfCampus ホームページ (<https://www.fcampus.org>) および『授業科目登録ガイド』を参照してください。

※ 前期と後期の年2回履修登録期間が設けられています。前期科目・通年科目は3月下旬～4月上旬頃、後期科目は9月上旬頃の履修

登録期間に履修登録を行ってください。

※ 本学の履修登録上限単位に十分注意して履修登録を行ってください。前期／後期の f-Campus 科目登録において、本学での1年間に登録できる上限単位数を超えた場合は、例外なく他大学科目が優先されるため、本学科目の登録を取り消さなくてはなりません。

※ f-Campus 他大学提供科目は、履修を許可された場合、登録の取消ができません。

申請にあたっては、本学科目との時間割重複等に充分注意してください。

特に、2、3年次学生は、木曜日の午後に教養特別講義2（必修）の授業がありますので、この時間に f-Campus 科目を登録しないように注意してください

2技能審査等の合格

本学へ入学前または入学後に技能審査等に合格又は規定の点数を取得した場合、本学の規定の授業科目を修得したものとして単位認定されます。認定を希望する学生は、申請手続きの際に「合格証書」または「スコア・レコード」(原本)が必要です。単位認定の手続きは毎年4月初旬に行われます（年1回）。手続きに関する詳細は、西生田学務課掲示板で確認してください。

※ 認定上限単位数は8単位です。認定された単位は、教職免許状申請には使用できません。

2016年度入学者より適用

本学へ入学前又は入学後に以下の技能審査等に合格又は規定の点数を取得した場合は、以下の必修英語の単位を修得したものとして認定されます。すでに認定科目の一部を修得済みの場合は、認定単位数の定めによらず、未修得の認定科目の単位数が認定されます。認定対象科目を全て単位修得済みの場合は、それ以上は単位認定されません。

なお、1年次においてベーシック・イングリッシュ a・b・c・d を8単位認定された場合は、2年次より履修可能な英語科目を1年次において履修することができます。

技能審査の種類		認定科目	認定単位数※
実用英語技能検定	1級	ベーシック・イングリッシュ a・b・c・d	8単位
	準1級	ベーシック・イングリッシュ a・b	4単位
TOEFL－iBT	94点以上	ベーシック・イングリッシュ a・b・c・d	8単位
	64～93点	ベーシック・イングリッシュ a・b	4単位
TOEIC (TOEIC IP)	800点以上	ベーシック・イングリッシュ a・b・c・d	8単位
	650～795点	ベーシック・イングリッシュ a・b	4単位
IELTS	6.5以上	ベーシック・イングリッシュ a・b・c・d	8単位
	5.5～6.0	ベーシック・イングリッシュ a・b	4単位

2015年度入学者まで適用

本学へ入学前又は入学後に以下の技能審査等に合格又は規定の点数を取得した場合は、外国語科目「英語」の単位を修得したものとして認定されます。なお、この単位認定は、現代社会・社会福祉・教育・心理・文化の5学科すべてに適用され、認定された単位は、学科により、所属学科又は所属学科以外の科目（自由選択）あるいは基本科目の外国語科目「英語」として、卒業単位に算入することができます。

技能審査の種類		認定科目	認定単位数※
実用英語技能検定	1級	外国語科目 「英語」	8単位
	準1級		4単位
TOEFL－iBT	94点以上		8単位
	64～93点		4単位
TOEIC (TOEIC IP)	800点以上		8単位
	650～795点		4単位
IELTS	6.5以上		8単位
	5.5～6.0		4単位

1) 同レベル（同じ認定単位数）のものは技能審査の種類が異なっても、追加で認定されません。

(例：実用英語技能検定準1級に合格して4単位認定された場合、その後TOEFL-iBTで64～93点を取得しても追加で4単位認定されることはない。→認定されるのは4単位のみ)

2) レベルの異なるものはそれぞれ認定されます。ただし、合算して8単位までしか認定されません。

(例：実用英語技能検定準1級に合格して4単位認定され、その後TOEFL-iBTで94点以上を取得した場合、上限の8単位からすでに認定された4単位をさし引いた4単位が追加で認定される。→合計8単位認定される)

3 海外留学・海外短期研修について

本学では、留学を本学の教育課程の一環として位置づけ、海外の大学と協定を結び、学生を派遣する協定大学留学制度を実施しているほか、協定大学以外の大学への留学を希望する学生のために認定大学留学制度を設けています。留学を希望する学生を対象に、年に数回、留学説明会等を行っています。詳細は、国際交流課で確認してください。また、長期休暇中には複数の海外短期研修プログラムが行われています。海外留学・海外短期研修には次のものがあります。

協定大学留学

本学と協定を結んでいる海外の大学に留学する制度です。留学期間は修業年限に算入され、本学の開講科目に内容が相当する科目は、30単位を上限に該当する本学開講科目の単位として認定されます。志願者は、本学所定の選考を経る必要があります。(下記協定大学は2020年3月現在)

①ウェルズリー・カレッジ (米国) ②マギル大学 (カナダ) ③ノッティンガム大学 (英国) ④ウォリック大学 (英国) ⑤ヨーク大学 (英国)

⑥ランカスター大学 (英国) ⑦マウント・ホリヨーク・カレッジ (米国) ⑧梨花女子大学 (韓国) ⑨ブリストル大学 (英国)

⑩オレゴン大学 (米国) ⑪ボルドー・モンテーニュ大学 (フランス) ⑫ウプサラ大学 (教育学科※1) (スウェーデン) ⑬中華女子学院 (中国)

⑭逢甲大学 (建築専門学院※2) (台湾)

※1. 全学科からの留学が可能 ※2. 住居学科からの留学が可能

認定大学留学

協定大学以外の海外の大学に、本学の承認を得て留学する制度です。協定大学留学と同様に、留学期間は修業年限に算入され、本学の開講科目に内容が相当する科目は、30単位を上限に該当する本学開講科目の単位として認定されます。志願者は、事前に所属学科長や指導教員に相談の上、自分で留学志望大学に出願し、留学志望大学から入学許可を得ます。認定大学留学制度は、語学研修からスタートすることも可能です。また、半期留学制も可能です。詳細は国際交流課で確認してください。

海外短期研修

長期休暇(夏季、春季)を利用して行われる大学公認の海外研修プログラムです。単位認定される場合があります。詳しくは3月下旬～4月頃の一覧掲示や説明会案内を参照してください。

4 同志社女子大学との学生交流について

本学は、同志社女子大学(京都府)と学生交流協定を締結し、相互に学生を派遣する制度を実施しています。この制度は、本学に1年以上在学し、派遣時に2・3年次の学生を対象として、1年間同志社女子大学で希望する科目を履修するものです。この1年間は本学の在学期間および修業年限に算入されます。また、同志社女子大学で修得した単位のうち、本学の開講科目に内容が相当する科目は、本学における所属学科の履修登録上限単位を超えない範囲で、該当する本学開講科目の単位として算入することも可能です。同志社女子大学での講義内容は、同志社女子大学ホームページ(<https://www.dwc.doshisha.ac.jp/>)で確認できます。詳しくは本学ホームページおよび7月に西生田学務課より配付される募集要項を参照してください。

大学院の授業科目の先取り履修について

本学学部在籍する4年次学生が、本学大学院人間社会研究科・専攻の授業科目を履修(先取り履修)し修得した単位は、**本学大学院研究科・専攻に進学した場合に限り**、大学院博士課程前期の「修了に必要な単位(32単位)」に含めることができます。

なお、大学院の授業科目の先取り履修は、大学の卒業に必要な単位としては認められませんので、誤解のないようにしてください。

【先取り履修実施学科】

- ・社会福祉学科
- ・心理学科

履修の仕方、詳細については、各学科のページを参照してください。

Ⅲ

授 業 ・ 試 験 ・ 成 績

授 業 に つ い て

1

授 業 時 間

授業は、下記の時間表に従って行われます。補講等の時間については、その都度掲示します。

時限	時間	
	前半	後半
1時限目	9：10～10：00	10：00～10：50
2時限目	11：00～11：50	11：50～12：40
3時限目	13：30～14：20	14：20～15：10
4時限目	15：20～16：10	16：10～17：00
5時限目	17：10～18：00	18：00～18：50

2

授 業 へ の 出 席

授業の履修者は、すべての授業回に（すべての授業時間数分）出席するものとします。2/3 以上出席しなければ、評価の対象とはなりません。

受講カード・授業出席票は、履修登録確定前に、受講者数の把握や人数調整の資料として授業時に授業担当者から配付されるものです。授業担当者から指示された場合は提出してください。（受講カード・授業出席票を提出しても、「履修登録」を行なったことにはなりません。）

受 講 カ ー ド

日本女子大学

科目名	人間社会学部																学科	
担当	先生																学籍番号	氏名
前期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	記事	
後期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16		

1. このカードは、履修登録締切日までの授業時に担当教員に提出してください。
2. このカードを提出しても、登録確認表に記載されていない場合は無効となります。

授 業 出 席 票

月	日	曜	時限
授 業 科 目 名			
担 当 者			
学籍番号	人間社会学部	学科	年次
氏名			

3

欠 席 届

本学では、学校感染症により出校停止となった場合以外の理由による欠席は、原則認めておりません。ただし、相当の理由がある場合（下記）は、欠席届を授業担当者に提出することができます。

欠席届は、授業担当者へ欠席理由をお届けするための用紙です。提出の際は必要に応じ指定書類を添付してください。

提出可能な欠席理由および指定書類

欠席理由	添付書類等
傷病	医療機関が発行する証明書（診断書、登校許可証明書等 ※） (当該日に出席できない状態であったと具体的に明記されているもの)(コピーでも可)
忌引 (但し、法事は含まない)	会葬御礼等の印刷物(コピーでも可)その他 父母、配偶者、子女 …………… 7 日 祖父母、兄弟姉妹、配偶者の父母 … 3 日 その他三親等 …………… 1 日
教育実習（教育職員免許状取得のための介護等体験含む）・博物館実習・社会福祉援助技術現場実習・精神保健福祉援助実習	添付書類は不要 但し実習先・実習期間を欠席届の所定欄に記入
その他	欠席理由を証明する書類 ・交通機関の運休・遅延は、交通機関が発行する証明書 ・裁判員制度に伴う欠席は、その旨を証明できる書類 など

欠席届の用紙

JASMINE-Navi (<https://www6.jwu.ac.jp/pc>) (固定情報)から欠席届の用紙がダウンロードできるようになっています。各自で印刷して使ってください。

注 意 事 項

- ・欠席届は、欠席した授業を出席扱いにするものではありません。あくまでも、欠席理由を、授業担当者にお知らせするための書類です。出欠の最終判断は各授業担当者が行います。
- ・授業科目・欠席日毎に指定書類を添えて、「欠席届」に記載されている事項を確認の上、学生本人が授業時に授業担当者へ直接提出してください。
- ・学校感染症による出校停止の場合は、本学所定の「感染症に関する登校許可証明書」または、学校感染症であることが明記されている診断書を添付の上、提出してください。「感染症に関する登校許可証明書」はJASMINE-Navi（固定情報）からダウンロードして使用できます。
- ・欠席届に記載された欠席理由以外でこの用紙を使用しないでください。
- ・授業最終日の欠席の届け出は、西生田学務課に相談してください。なお、最終授業の欠席届については、最終授業後1週間以内に提出してください。
- ・気象条件の悪化、交通機関の運休による欠席は、5のⅣ、「授業欠席等の措置の特例」を確認してください。

4 休 講

教員の病気その他のやむを得ない事情により授業を休講にする場合は、JASMINE-Navi および電子掲示板にその旨掲示します。休講の情報がなく、始業時刻を30分以上経過しても連絡がない場合には、西生田学務課に問い合わせて指示を受けてください。

5 気象条件の悪化、交通機関の運休による授業の休講及び試験の延期措置

通常の授業日・定期試験期間中に、台風・大雪などで首都圏に直接災害が予想される場合、または、以下に掲げる交通機関が、運転を休止している場合あるいは休止が予想される場合には、授業の休講・定期試験の延期措置をとることがあります。

Ⅰ. 措置の基準

暴風警報（暴風雪警報を含み、大雨警報を含まない。）が発令され、かつ暴風の到来が登校時間又は下校時間にあたり、登下校に危険が伴うことが予想される場合。

又は、首都圏においてJR及び大手私鉄(※)が全面的に運転を休止している場合あるいは休止が予想される場合（一時的な事故による運行停止を除く）。

(※) 対象とする交通機関【西生田キャンパス】(①、②、③のいずれか)

- ① 小田急電鉄（新宿－相模大野間）
- ② 京王電鉄（全区間）
- ③ 首都圏JR東日本線（山手・中央・東海道・横浜・京浜東北・埼京・武蔵野・南武・総武）の各線のうち、3線以上

Ⅱ. 授業の休講・定期試験の延期措置の周知の時刻

1. 午前の授業の休講・定期試験の延期措置等については、前日午後8時または当日午前6時15分までに周知します。
2. 午後の授業の休講・定期試験の延期措置等については、当日午前10時15分までに周知します。

なお、気象・交通機関の状況の急変により、上記時刻を過ぎて休講又は試験の延期を決定することがあります。

(注意) 課外活動等授業以外の諸活動の休止(図書館、メディアセンター、体育施設等及び事務窓口の閉館・閉室)は、授業と同様に決定します。(授業期間中は同時に周知します。)

Ⅲ. 授業の休講・定期試験の延期措置の周知方法

原則として日本女子大学緊急連絡用Twitterで発信します。Twitterアカウントを持っていないでも見るができますので、確認するようにしてください。なお、緊急時においては、校内放送を行うことがあります。

【日本女子大学緊急連絡用TwitterURL】 https://twitter.com/JWU_News

Ⅳ. 授業欠席等の措置の特例

学生は、大学の決定した授業の休講・試験の延期措置に原則として従うこととしますが、授業が実施されるキャンパスまでの交通経路内に気象庁による気象警報が発令され、気象状況等に鑑みて登校又は下校に危険又は困難が伴うと自身で判断し、欠席した場合は、欠席届(指定様式)を該当科目の担当教員へ提出する(証明書不要)ことにより、欠席の配慮を求めることができます。また、早退については、担当教員

へ当日申し出て配慮を求めることができます。

6 補 講

授業の進度や休講による授業回数の不足を補う授業として、補講が行われる場合があります。その場合、授業担当者が直接指示するほか、JASMINE-Navi の画面上で補講の情報をお伝えします。

7 振 替 授 業

祝祭日や学校行事などのために生じた授業回数の不足を補うために、あらかじめ決められた振替授業日に授業を行うことがあります。その場合、振替授業の日程については、「学年暦」および「年間行事予定表」のページを参照してください。

8 時 間 割 変 更 ・ 教 室 変 更

時間割、教室等を変更する場合は、電子掲示板に掲示します。JASMINE-Navi からも確認ができます。学期初めには、特に掲示に注意してください。

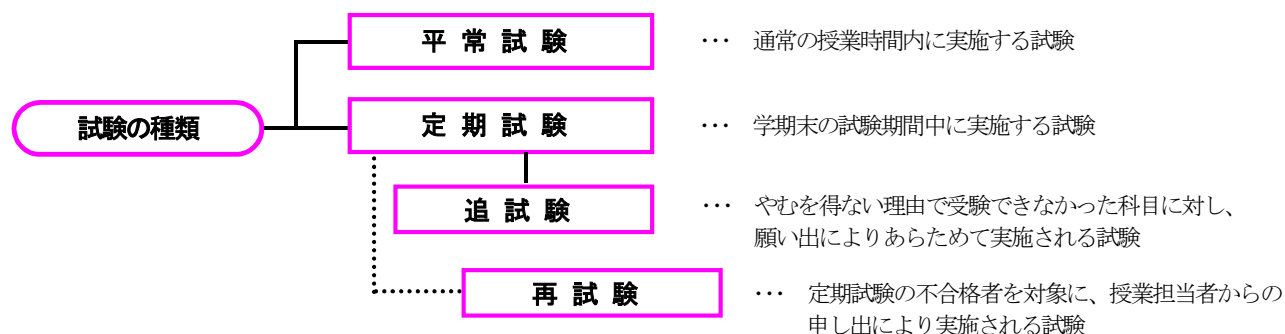
また、以下の URL (QR コード) からも確認ができます。

http://www3.jwu.ac.jp/JASMINE-Navi_info/Kyositsu_henko.asp



定期試験・追試験・再試験

1 試験の種類



2 定期試験とは

定期試験とは、学年暦に示された各学期末の試験期間中に実施する試験です。定期試験は追試験・再試験の対象となります。定期試験は全学一斉に実施されるため、平常試験と異なり試験に関することはすべて西生田学務課（目白地区においては教務・資格課）で取り扱われます。

平常試験との違い

平常試験とは、各授業担当者が試験日その他を決定し、平常の授業時間に実施する試験のことをいいます。平常試験は、すべて担当者の責任で行われます。なお、平常試験は追試験・再試験の対象とはなりません。

3 試験時間

定期試験及び追試験・再試験は、下記の時間表に従って行います。

試験時間	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
	9:10～10:50	11:00～12:40	13:30～15:10	15:20～17:00	17:10～18:50

4 定期試験についての諸注意

- 試験時間割は、試験開始の約 10 日前に第二掲示板に掲示します。また個人向けの試験時間割は JASMINE・Navi(PC およびメール)で確認できます。平常の授業時間割と異なっている場合があるので必ず各自で確認してください。
- 時間割は、発表後に変更する場合があるので試験当日まで常に掲示に注意し、また、試験期間最終日まで予定を入れないようにしてください。
- 30 分以上遅刻した場合は、当該科目は受験できませんので、時間に余裕をもって登校してください。
- 試験開始後 30 分を経過するまでは、試験教室から出られません。また、一旦試験教室から出た場合は、再入室できません。
- 試験教室においては、学生証を机上の指示された場所においてください。学生証を忘れた場合は、西生田学務課で仮学生証の交付（有料 200 円）を受けてください。
- 試験中は携帯電話、スマートフォン等の使用を禁じます。電源を切った上バック等の中にしまってください。時計の代用として使用することも認められません。
- 身体の具合が悪くなった場合は、試験監督者に申し出てください。
- 気象条件の悪化、交通機関の運休により試験を実施できない場合がありますので、学内掲示および日本女子大学緊急連絡用 Twitter の情報には常に注意してください。詳細は、P.20 を確認してください。
- 本学の定期試験と 5 大学間単位互換制度による他大学の定期試験が重複した場合、他大学の試験を優先して受験してください。重複した場合は、西生田学務課へ申し出てください。
- その他試験に関することは、西生田学務課窓口に申し出てください。

5 不正行為

定期試験等の際に不正行為を行った場合は、教授会での取り決めに以下のような処置がなされます。

- | | |
|---|---|
| ① | イ. 当該登録科目の評価、単位無効
ロ. 当期末に定期試験が行われた登録科目の評価、単位無効
ハ. 当期末の全登録科目の評価、単位無効 |
| ② | 以上の処置をした上、学則に基づき懲戒を加えることもある |

なお、追試験・再試験の不正行為についても、上記の教授会での取り決めに適用します。

6

追 試 験 について

定期試験実施科目のうち、傷病、その他やむを得ない理由で受験できなかった科目に対して、学生が願出することによって改めて実施される試験のことをいいます。下記に定める受験資格を満たさなければ、追試験を願出することはできません。また、審査の上、許可された者に限り追試験を受験することができます。

受験資格

診断書等の証明書を添えて、速やかに願出してください。

欠 席 理 由	証 明 書 類 等
傷病	医療機関が発行する証明書（診断書、登校許可証明書等 ※） （当該科目試験受験日に受験できない状態であったと具体的に明記されているもの）
忌引き （ただし、法事は含みません）	会葬御礼等の印刷物 父母、配偶者、子女 …………… 7 日 祖父母、兄弟姉妹、配偶者の父母 …… 3 日 その他三親等 …………… 1 日
教育実習（教育職員免許状取得のための介護等体験含む）・博物館実習	西生田学務課資格担当に照会
交通機関の事故	交通機関の発行する遅延証明書
就職試験	受験先の証明書（キャリア支援課経由で受付）
大学院入学試験	受験票
その他正当な理由と認められる場合	証明書等（西生田学務課に照会）

・

本人の不注意による未受験はいかなる場合も受けませんので、十分注意してください。

・

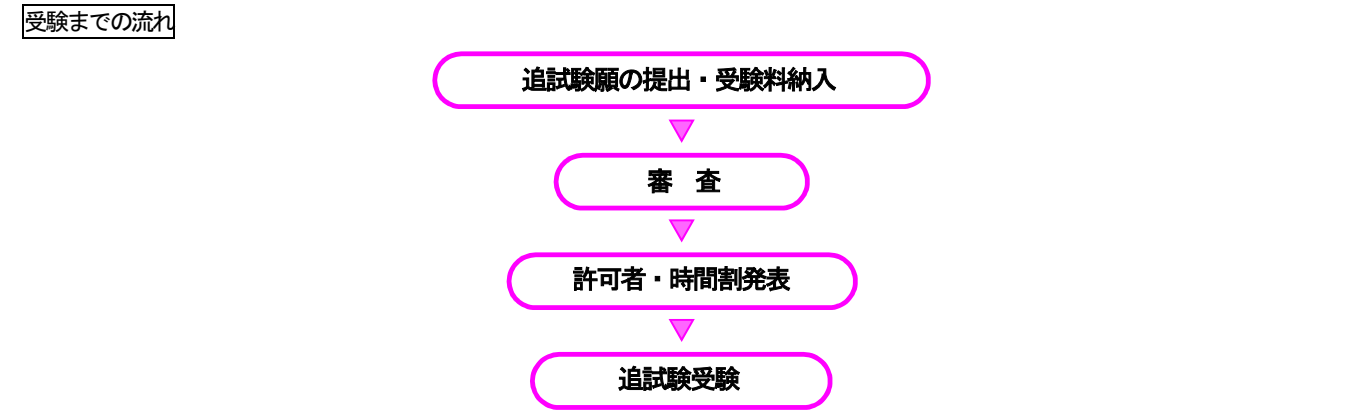
出席時間数が授業時間数の2／3に満たない場合は、追試験を受験できません。

※

傷病の種類が感染症である場合は、本学所定の「感染症に関する登校許可証明書」を使用することができます。用紙はJASMINE-Navi（固定情報）からダウンロードしてください。

受験の手続き

定期試験期間内（やむを得ない場合試験期間終了後3日まで）に証明書を添えて追試験願・受験料（1科目2,000円）を西生田学務課に提出してください。ただし、教育実習・博物館実習、交通機関の事故の場合は受験料が免除されます。
追試験許可者・時間割は掲示にて発表します。



追試験についての注意

・

追試験の詳細（日程・手続き方法等）は、定期試験時間割発表時に掲示します。

・

追試験手続き・受験時は、学生証を必ず提示してください（忘れた場合、手続き・受験はできません）。

・

上記の手続きをそれぞれ定められた期間内に完了しない場合は受験できません。ただし、やむを得ない理由で本人が登校できない場合は、アドバイザーに相談してください。

・

追試験についての諸注意は、「4. 定期試験についての諸注意 [1、9を除く]」（P.22）に準じます。

・

追試験の成績評価については、減点される場合があります。

・

追試験の追試験、再試験は行いません。

7 再 試 験 について

定期試験受験の結果、不合格の認定を受けた科目については再履修することとし、原則として再試験は行いません。ただし、授業担当者からの申し出のあった場合に限り、再試験が実施されます。

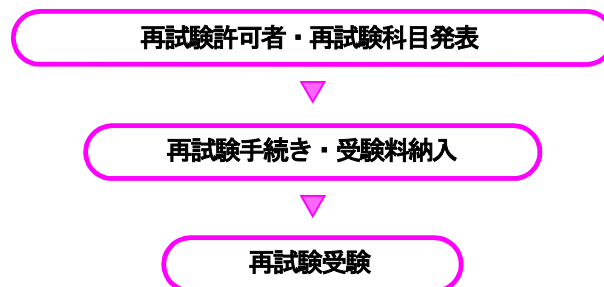
受験の手続き

再試験許可者・時間割を掲示にて発表いたします。

西生田学務課で再試験手続きを行ってください。

受験料（1科目2,000円）が必要です。

受験までの流れ



再試験についての注意

- ・再試験許可の確認、受験手続きは、必ず学生本人が行ってください。代理による手続きは一切認めません。
- ・再試験の詳細（日程・手続き方法等）は、定期試験時間割発表時に掲示します。
- ・受験を希望する者は、上記「受験までの流れ」に従って手続きを行ってください。
- ・再試験手続き・受験時は、学生証を必ず提示してください。忘れた場合、手続き・受験はできません。
- ・上記の手続きをそれぞれ定められた期間内に完了しない場合は受験できません。
- ・再試験についての諸注意は、「4. 定期試験についての諸注意 [1、9を除く]」（P.22）に準じます。
- ・再試験の成績評価は、CまたはFです。
- ・再試験の追試験・再試験は行いません。

成績評価・成績の通知

1 成績評価について

すべての授業科目は、その履修終了時において、試験その他の方法によって成績の評価を行います。
前期科目・後期科目の評価は各期の終了時に行われ、通年科目の評価は1年を通じた履修の終了時に行われます。
成績評価が与えられる条件は、 ①当該科目が履修登録された科目であること
②授業時間数の2／3以上出席していること、となっています。

成績評価は次の通りです。

合否	合格					不合格	
評価	A+	A	B	C	P	F	X
評点	100～90 点	89～80 点	79～70 点	69～60 点	合格	59 点以下	評価なし
評価の基準	到達目標を十分に達成できている非常に優れた成績	到達目標を十分に達成できている優れた成績	到達目標を達成できている成績	到達目標を最低限達成できている成績	段階なし	到達目標を達成できていない成績	評価なし
成績照会画面	A+	A	B	C	P	F	X
成績証明書	A+	A	B	C	P	表示されない	表示されない

注：「X＝評価なし」は、出席不良、受験放棄等当該科目の成績評価の前提条件をみたしていないと授業担当者が判断したもの。

：「P＝合格」は合格に段階を設けない以下の科目において適用されるもの。

「教養特別講義1・2」 「教育実習事前事後指導1」 「教育実習事前事後指導2（介護等体験）」	合格の場合「P」 不合格の場合「F」
「教育実習事前事後指導1（2年次）」 「教育実習事前事後指導1（3年次）」 「インターンシップⅠ・Ⅱ」	合格の場合「P」 不合格の場合「F」または「X」

：「認＝認定」は単位認定制度により単位認定された科目
：5大学間学生交流（fCampus）で履修した他大学科目の評価は A+、A、B、C、F とします。

2 成績の通知について

- ・成績は、JASMINE-Navi（成績照会）で通知されます。
- ・成績公開時期については、別途掲示にてお知らせします。

保証人による成績照会について

保証人の方に JASMINE-Navi の保証人アカウントを付与し、皆様の学修の成果を JASMINE-Navi 上でご確認いただけます。保証人アカウントは4月に学生本人に配付しますので、保証人の方に直接渡してください。

3 GPA 制度について

本学では、GPA 制度を導入しています。
このGPA 制度の導入は、学期ごとの学習成果と推移を明確化して、より細やかな学修指導に活用すること、学修意欲の向上とともに、安易な履修を防ぎ、適切な履修計画を立てて勉学に取り組むことなどを目的にしています。

GPA（Grade Point Average）とは

GPA とは、履修した各科目の成績評価に対してそれぞれポイント（GP）を定め、当該期間の成績の平均値を示す成績評価結果の表示方法の一つです。GPA は、不合格科目や評価なし科目も含め、学期ごと、また入学後から現在までの通算の値が算出されるので、学生が自分の学修の履歴や到達度を把握することができ、学修意欲を高める効果が期待できます。

GPAは皆様の能力すべてを示すものではありませんが、学業成績を測る際の一つの指標となります。「評価は低くても単位がとれれば良い」「とりあえず履修登録して放棄すれば良い」といった履修登録は、結果としてGPAの数値に反映されることとなります。目的を持った履修計画をたてるとともに、履修した科目に責任を持つことが求められます。

GPAの算出方法

学期ごとに履修した対象科目を基にした「学期GPA」及び入学後から現在までに履修した全ての対象科目(累積成績)を基にした「通算GPA」ともに、算出方法は以下のとおりとします。
学期毎の所定の期日までに確定した成績に基づいて算出を行います。

$$\text{GPA} = \frac{\text{A}^+\text{の単位数} \times 4.0 + \text{Aの単位数} \times 3.0 + \text{Bの単位数} \times 2.0 + \text{Cの単位数} \times 1.0}{\text{履修登録単位数 (F 及び X を含む)}}$$

※GPAの算出は、小数点以下第4位を四捨五入し、小数点以下第3位までとします。

合 否	合 格				不 合 格	
評 価	A ⁺	A	B	C	F	X
評 点	100～90 点	89～80 点	79～70 点	69～60 点	59 点以下	評価なし
GPA算出の評点 (grade point)	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

卒業要件に含まれるすべての授業科目を対象とします。
ただし、以下の科目は、GPAの算出対象から除外されます。
1. 評点の付かない科目（P（合格）及び単位認定された科目）
2. 履修登録確定後、前期は6月中旬、後期は11月中旬までに、学科が病気や特別な事情等で修学が継続できないと判断し、所定の履修取消手続き※を経た場合の、当該期履修登録科目
※履修取消手続きの申請方法や詳細な時期等については、所属学科および西生田学務課に相談してください。

不合格のF及び履修放棄のXの評価を受けた場合もGPA算出対象となるので、履修科目の選択や履修登録は各自責任を持って行うよう心がけてください。

GPA 計算例

ある学期に授業科目を履修して、次のような成績をとった場合のGPA数値は以下のとおりとなります。

$$31 \text{ (単位数} \times \text{評点の合計)} \div 13 \text{ (履修登録した単位数)} = 2.385$$

授業科目名	単位数	評価	単位数×評点
教養特別講義 1	1 単位	P	GPA算出対象外
英語（技能審査単位認定）	4 単位	認	GPA算出対象外
情報科学基礎 I	2 単位	C	2×1=2
社会スポーツ実習 A	1 単位	A	1×3=3
こころの科学Ⅱ	2 単位	B	2×2=4
韓国語 I 文法	4 単位	A ⁺	4×4=16
情報グラフィック論Ⅱ	2 単位	F	2×0=0
教職基礎論	2 単位	A ⁺	GPA算出対象外 (◆卒業要件外科目)
マス・コミュニケーション史 (f-Campus 他大学科目)	2 単位	A	2×3=6

GPA 数値による評価の平均値

G P A数値により得られる評価の平均値は以下のとおりとなります。

G P A数値	評価の平均値
4.000～3.000	A+評価～A評価を平均的に修得
2.999～2.000	A評価～B評価を平均的に修得
1.999～1.000	B評価～C評価を平均的に修得
0.999～	不合格の割合が高い

GPAの通知について

G P Aは、JASMINE-Navi の成績照会画面にて確認することができます。

- ・本学では、履修登録や学習を進める上で皆様が助言を受けられるように、学科の学年毎にアドバイザー教員が定められています。オフィスアワー※ の機会を十分に活用してください。
- ・GPAの数値を参考にしながら、自分自身に適した学習の仕方を身につけ、主体的に学習に取り組んでください。

※オフィスアワー…学生と教員のコミュニケーションを充実させるために設けられた時間帯のことです。
この時間帯には、学生からの授業内容等に関する質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について、個人的な相談を受けるために、教員が研究室で待機しています。
(各学科専任教員のオフィスアワー一覧は本学ホームページに掲載されています。)

GPA制度を活用した個別指導について

本学では、皆様の学習意欲を高め、学習成果の効果的な達成を促すことを目的に、より早い段階から成績不振を把握して学修支援を行うための個別指導体制をとっています。

1. 個別指導の対象となる成績不振の基準

個別指導の対象となる成績不振の基準は、以下(1)と(2)のいずれか一方の項目に該当する場合としています。

- (1) 当該年度学期毎の GPA ポイント 1.3 未満
- (2) 学科により定められた修得単位数 (GPA 対象授業科目)

- ・この他、学科毎に追加で基準が定められている場合もありますが、その場合は学科から周知されます。
- ・基準に該当する場合でも、特別の事由があると学科が判断した場合はその対象となりません。

2. 個別指導の内容及び時期

- ・学科長、学科アドバイザー、その他の教員により個別面談を実施し、履修登録や成績改善に向けた指導を行います。必要に応じて、保証人との三者面談を実施する場合があります。
- ・成績不振の原因・理由等が特定できた場合、改善に向けた支援策として所属学科による補習の実施をはじめ、身体的・精神的な要因の場合は、保健管理センター・カウンセリングセンター等と、経済的な要因の場合は、学生課と連携をとります。
- ・個別指導の時期は、原則として前期及び後期の成績開示後から履修登録完了までの間にそれぞれ1回行い、必要に応じて継続的に実施します。
- ・2019 年度入学者より、上記の個別指導、生活指導等を行っても学力不振が続いた場合に限り、2 年次終了時点で通算 GPA ポイント 1.0 未満の学生には、進路指導の一環として退学勧告を行う場合があります。この場合の「勧告」とは、傷病などやむを得ない事情が無いにもかかわらず、修学状況が著しく不良な場合に、進路変更のきっかけとするために、学生に自主的な判断を促すものです。

卒 業

1 卒 業

4年以上在学し、卒業要件を満たした学生には、教授会の議を経て、学長が卒業を認めます。卒業を認められた学生には、学士（社会学、社会福祉学、教育学、心理学、文学）の学位を授与します。

- ・卒業を許可された者の学籍番号を3月上旬に掲示にて発表します。
- ・休学及び停学の期間を除き、4年以上在学している必要があります。
- ・学士入学者・編入学者の在学期間については2年以上（在学すべき年数は入学時に指定）とします。

2 9月卒業

4年以上在学し、前期末の時点で卒業するために必要な単位数を満たした場合には、前期末において卒業が認められます。

IV

授 業 科 目

1 授 業 科 目 名

時間割、掲示等では科目によって××××A、××××Bのようにクラス名（AやBのアルファベットの他、数字の場合もある）が付いています。自分の履修する科目については、時間割でクラス名を確認してください。授業科目名は登録の際の選択、試験の時間割確認等、正確に覚えていないと不利益となる場合がありますので十分注意してください。

また、授業科目名下の〈 〉はサブタイトルを示します。サブタイトルは授業内容を示すものであり、正式な授業科目名ではないので注意してください。

〔例〕 現代社会論Ⅲ 〈ネットワーク社会論〉
 正式な授業科目名 サブタイトル

2 単 位 数

単位数欄は授業科目の単位数と必修科目・選択必修科目・選択科目の別を示します。

〔例〕 必2……………2単位の必修科目 選必4……………4単位の選択必修科目 選4……………4単位の選択科目

3 期

期欄は授業科目の開講期を示します。

前期…………… 前期開講の科目を示します。
 後期…………… 後期開講の科目を示します。
 通年…………… 1年を通じて開講される科目を示します。
 前(後)………… 前期、後期同一内容で繰り返し開講される科目を示します。

4 開 講 年 次

年次欄は授業科目を何年次から履修できるかを示します。

〔例〕 1 …………… 1年次向き授業、1年次以上が履修できます
 1～…………… 1年次以上が履修でき、1年次以上の全ての年次が履修対象者です
 1・2…………… 1、2年次向き授業、1年次以上が履修できます
 3 …………… 3年次向き授業、3年次以上が履修できます

5 備 考

備考欄は授業科目の履修上の注意等を示します。

▲ …………… 他学科の学生が履修できない授業科目
 △ …………… 人間社会学部以外の学生が履修できない授業科目
 ☆ …………… 反復履修することができる授業科目
 ○ …………… 人数制限の可能性のある授業科目
 ◆ …………… 卒業するために必要な単位に含めない授業科目
 ◇ …………… 教育学科を除き、卒業するために必要な単位に含めない授業科目
 ◎ …………… 学科専門科目に含めない授業科目
 ④ …………… 5大学間学生交流による特別聴講学生への提供科目
 (展) ……… 他学科の展開科目となる授業科目
 (寄) ……… 寄附授業特別聴講生も受講できる科目です。
 ○○学科との連携科目 …… 学部・学科が複数連携しての専門教育を推進する科目
 グローバル科目 …………… 外国語による専門科目の授業科目

教 養 特 別 講 義

教養特別講義は、必修科目で教養特別講義1と教養特別講義2からなっています。

教 養 特 別 講 義 1

1) 科目内容

教養特別講義1は1年次の必修科目で、創立記念式典・講演会、各2回の講義とセミナー、『わたしの大学』の講読、成瀬記念館の見学を経て、8月に軽井沢「三泉寮」で行われる1泊2日のセミナーに参加することによって、本学の学生としての社会的責任を自覚し、自分の生き方、生かし方を深く見つめます。ただし2020年度は、8月に軽井沢「三泉寮」で行われる1泊2日のセミナーは実施せず、9月に集中授業を行います。

◆講 義

講義	日時		場所
創立記念式典・講演会	4月20日(月)	12:45～13:00 受付 13:10～15:30 (オリエンテーションを含む)	西生田成瀬講堂
第1回教特1講義	6月11日(木)	13:30～14:15	目白・西生田地区各教室 (後日掲示)
第1回教特1セミナー	6月11日(木)	14:30～16:00	
第2回教特1講義	7月 2日(木)	13:30～14:15	
第2回教特1セミナー	7月 2日(木)	14:30～16:00	
第3回教特1セミナー	9月15日(火) 9月16日(水)	13:00～17:50 13:00～17:50	

※第3回教特1セミナーの予備日（天候等の悪化による休講への対応）：9月17日（木）

◆成瀬記念館の見学 各自見学（夏季休暇前）

2) 履修登録について

指定されたゼミが自動的に登録されます。登録されたゼミの取り消し・変更はできません。履修しない場合は翌年以降、再履修の登録が必要です。

3) 再履修者および2年次以上の未履修者（2020年度編入・学士入学者を除く）の登録申請について

指定されたゼミが自動的に登録されます。登録されたゼミの取り消し・変更はできません。履修しない場合は翌年以降、再履修の登録が必要です。

◎ゼミの確認

履修登録開始日より JASMINE-Navi の履修登録画面で各自必ず確認してください。

集中講義（前期）の欄の科目名と教員氏名を確認してください。科目名の末尾の数字が、指定されたゼミのゼミ No.です。

（例：教養特別講義1-99 → ゼミ No.99）

4) 履修方法

①創立記念式典・講演会は、4学部合同で行われ、式典の前に教特1のオリエンテーションが行われます。式次第・当日の注意事項等については、西生田学務課掲示板（水田記念学生ホール）に掲示しますので、指示に従って履修してください。

②第1回および第2回教特1講義は、目白・西生田地区別に実施します。指定された教室（※）で履修してください。

③第1回・第2回および第3回教特1セミナーは、ゼミ毎に実施します。指定された教室（※）で履修してください。

※②③の教室等は、後日、西生田学務課掲示板（水田記念学生ホール）に掲示します。

注1）『わたしの大学』（創立記念式当日に配付）を読んでください。

注2）成瀬記念館の見学は、必ず夏季休暇前に、目白・西生田地区のいずれかで行ってください。（成瀬記念館展示スケジュールは「教養特別講義2<2020年 成瀬記念館展示スケジュール>」参照）

注3）原則として、遅刻および早退は欠席扱いとします。

注4）「創立記念式典・講演会」「第1回教特1講義」「第1回教特1セミナー」「第2回教特1講義」「第2回教特1セミナー」に5時間以上出席していない場合は、第3回教特1セミナーに参加することはできません。（各講義の時間数は本節末の「教養特別講義 授業科目表」備考欄に記載）

5) 単位の認定

教養特別講義1は、レポート等により単位が与えられます。下記のレポート課題を定められた用紙（創立記念式当日配付の『2020年度教養特別講義1セミナーのしおり』に綴り込み）に記述し、第3回教特1セミナー終了時に各ゼミ担当者に提出してください。

- ◆レポート課題
1. 『わたしの大学』を読んで考えたこと
 2. 創立記念式典・講演会に出席して考えたこと
 3. 成瀬記念館の展示を見学して考えたこと
 4. 第1回・第2回教特1講義に出席して考えたこと
 5. 第1回・第2回教特1セミナーおよび第3回教特1セミナーに出席して考えたこと

6) 欠席について

病気等、止むを得ない理由で第3回教特1セミナーを欠席した場合、および「履修方法」の注4に該当し第3回教特1セミナーに参加できなかった場合は、次年度以降に再履修となります。

7) 教特1講義・セミナーの実施／中止について

気象条件の悪化、交通機関の運休による教養特別講義1の授業の休講措置の周知については、原則として日本女子大学緊急連絡用 Twitter で発信します。

教 養 特 別 講 義 2

1) 科目内容

学内外のあらゆる分野で活躍する講師を招いて講演を聞き、質問を通してその講演者との意見交換を行います。現代を生きる女性のキャリアを十分に伸ばすことに重点を置いたテーマを設け、そのテーマに沿った講演が行われます。

教養特別講義2の各講義テーマは以下のとおりです。

	教養特別講義2－Ⅰ		教養特別講義2－Ⅱ
1	女性のこころとからだ	4	家族と女性の生き方
2	現代文化のなかの女性	5	女性と社会
3	女性と職業	6	女性と世界

学生は1～6の講演テーマを重複なく履修するため、2年次に所属地区の「教養特別講義2－Ⅰ」（講演テーマ1、2、3）を、3年次に「教養特別講義2－Ⅱ」（講演テーマ4、5、6）を履修することになります。西生田地区では2年次に前期2回・後期1回、3年次に前期1回・後期2回の計3回の講義となっています。なお、本講義では学生委員（2・3年次各学科1名選出）を通して広く学生からの希望を積極的に受け入れ、講義を編成しています。また、3年次に各自で成瀬記念館の見学を行い、本学が果たしてきた歴史的役割を知ります。

2020年度の講義・成瀬記念館展示スケジュールは次のとおりです。

◆講 義 （集合13:20 講義13:30～15:30 西生田成瀬講堂）

年次	ク ラ ス	回	月 日	講 師	講演テーマ 「 演 題 」
2 年 次	Ⅰ	1	5月7日（木）	フリーアナウンサー 小林 麻耶	1. 女性のこころとからだ 「命の大切さ」
		2	6月18日（木）	本学学長	2. 現代文化のなかの女性 （未定）
		3	11月5日（木）	女性メディア局プロデューサー 兼 Oggi ブランド室室長 塩谷 薫	3. 女性と職業 「女性誌の編集現場からみえる「女性と職業」
3 年 次	Ⅱ	1	5月28日（木）	「パパコミ」編集長 兼業主夫放送作家 NPO 法人ファザーリング・ジャパン会員 杉山 錠士	4. 家族と女性の生き方 「あまり知られていない “逆転夫婦” の楽しさと苦労」
		2	10月8日（木）	少子化ジャーナリスト、作家 相模女子大学客員教授 白河 桃子	5. 女性と社会 「なぜCMIは炎上するのか？ 同質性のリスクとジェンダー平等の必要性」
		3	11月12日（木）	明治学院大学 社会学部 社会福祉学科 教授 明石 留美子	6. 女性と世界 「グローバル化時代の女性の活躍」

◆成瀬記念館見学（3年次）

＜2020年 成瀬記念館展示スケジュール＞

☆成瀬記念館西生田記念室（西生田キャンパス）

日本女子大学の授業・体育	前期：4/7(火)～5/1(金) 後期：6/23(火)～7/21(火) (前期・後期で一部展示替えを行います)
西生田キャンパスの歴史	9/29 (火) ～12/18 (金)

☆成瀬記念館（目白キャンパス）

日本女子大学の授業・体育	前期：4/7(火)～5/2(土) 後期：6/23(火)～7/21(火) (前期・後期で一部展示替えを行います)
寄贈品展	9/23(水)～12/19(土)

※展示内容については変更されることがあります。展示スケジュール詳細については成瀬記念館掲示板を確認してください。
※レポート提出期限は2021年1月8日（金）です。成瀬記念館見学は上記展示スケジュール内に行なってください。
※見学する記念館は目白、西生田のいずれでもよいものとします。

2) 登録および履修方法

教養特別講義2の登録方法は、自動登録となります。各自、下記の履修方法を参照の上、登録画面上で確認してください。
○履修方法
以下のとおり履修してください。なお、教養特別講義2は1単位を超えて履修することはできません。
2年次に教養特別講義2－Ⅰを0.5単位、3年次に教養特別講義2－Ⅱを0.5単位、計1単位履修すること。

3) 単位の認定

○講義は1学年コース3回受講すること。ただし、2回以上の欠席は、評価の対象とはなりません。
また、「欠席届」は利用できません。他の者に出席を依頼することは不正行為です。そのようなことのないよう、注意を喚起します。
○遅刻は厳禁です。いかなる場合でも遅刻をすると欠席扱いとなりますので、時間は厳守してください。
○早退した場合も、欠席扱いとなります。
○学習結果の評価は、レポート等により行います。
○講義は1クラス3回を受講し、それぞれの講義についてレポートを提出すること。やむを得ず欠席を1回した場合は、講義レポートの代わりに課題図書レポートを1部提出することとします。レポート提出が3部前わない場合は、評価の対象とはなりません。

◆レポート課題

課題①

今年度の教養特別講義2の講義を要約し、自己の考えるところを述べよ(1回の講義につき1000字程度)。
やむを得ず欠席を1回した場合には、課題図書の中から欠席した回のテーマに沿った図書1冊を選択し、その図書の要点と感想をまとめよ。(1200字程度) 課題図書は、西生田学務課掲示板で確認すること。

課題②

成瀬記念館の展示を各自で見学（前記の展示スケジュール参照のこと）し、感想・所見を述べよ。(800字程度)
2年次履修時は提出不要。3年次履修時に提出すること。

※用紙はA4版（横書き・ワープロ可）を使用してください。
※課題①レポート表紙は次頁の見本のとおりに各自作成し添付してください。
（欠席した回のレポートについては、表紙に「選択した課題図書名」を追加記入してください。）
※課題②成瀬記念館見学レポート表紙はJASMINE-Navi「履修登録情報」よりダウンロードしてください。
（通常のコピー用紙に印刷してください。）

課題①《レポート表紙見本》

2020 年度 教養特別講義 2
レポート表紙
クラス名：* 第*回
講義日：2020 年*月*日
テーマ：*****
演 題：*****
講師名：*****
 **学部 **学科 **年次
学籍番号：*****
氏 名：*****

課題②《成瀬記念館見学レポート表紙見本》

2-II 履修者用
2020年度 教養特別講義2
成瀬記念館見学レポート表紙
<div>・この表紙はレポートの一番上に貼って提出してください。 ・このレポートは3年次(または2次2次履修者)のみ提出してください。 ・『履修の手引き』記載の要件を1つ見当ってください。 ・教養特別講義1の課題と見学展示が被らないようにしてください。 ・提出期限は、後期レポート提出日と同様です。</div>
見学展示名：
見学日： 年 月 日 ()
 _____ 学部 _____ 学科
学籍番号 _____ 年次
氏名 _____

教
特

※レポートごとに左上1カ所をホチキスで綴じてください。
※レポートの提出締切日は2021年1月8日（金）、提出場所は各学科中央研究室です。（提出開始日・提出時間及び場所については、各学科より指示がありますので確認してください。）

4) 再履修
○出席日数不足・レポート未提出・レポート不合格により単位の認定を受けられなかった場合は、次年度再履修してください。再履修の場合は、教養特別講義2-Iと教養特別講義2-IIを同一年度に履修することができます。

5) 教養特別講義2講義録「日本をみつめるために」について
○2019年度実施分の講義録（第54集）は図書館ホームページより各自ご確認ください。
【掲載場所】図書館ホームページ（<http://www.lib.jwu.ac.jp/lib/>）
学内刊行物・博士論文 > 教養特別講義2「日本をみつめるために」
※ログインにはJASMINE-Navi アカウントが必要です。
※冊子は図書館にて閲覧可能です。

3

教養特別講義 授業科目表

科目 No	授業科目名	単位数	期	開講 年次	担 当 者	備 考
教特1	教養特別講義1	必1	前期	1	<div>()</div> <div> <div>浅野由子</div> <div>和田上貴昭</div> <div>太田正人</div> <div>江尻憲泰</div> <div>細井昭憲</div> <div>大塚美智子</div> <div>伊ヶ崎大理</div> <div>倉田あゆ子</div> <div>清水康行</div> <div>福田安典</div> <div>佐藤和哉</div> <div>松森晶子</div> <div>黒子康弘</div> <div>池田和弘</div> <div>上田誠二</div> <div>永井暁子</div> <div>清水睦美</div> <div>山下 絢</div> <div>塩崎尚美</div> <div>ニール・アディソン</div> <div>佐々木雄大</div> <div>秋本晃一</div> <div>横田裕介</div> <div>星野由美</div> <div>東田寿子</div> </div> <div> <div>川端有子</div> <div>飯田文子</div> <div>鈴木礼子</div> <div>片山伸也</div> <div>榎本一郎</div> <div>小川哲也</div> <div>小野寺研太</div> <div>坂本清恵</div> <div>林 悠子</div> <div>大場昌子</div> <div>鈴木喜和</div> <div>伊藤寿和</div> <div>吉村雅美</div> <div>渋谷 望</div> <div>沈 潔</div> <div>引土絵未</div> <div>田部俊充</div> <div>金沢 創</div> <div>藤崎和香</div> <div>奥波一秀</div> <div>高井奈緒</div> <div>中島 徹</div> <div>阿部秀樹</div> <div>宮崎あかね</div> <div>吉澤一弥</div> </div>	・講義前期5回(8時間) 1. 創立記念式典参加・講演会 2. 第1回教特1講義 3. 第2回教特1講義 4. 第1回教特1セミナー 5. 第2回教特1セミナー (1.4.5は各2時間) (2.3は各1時間) ・成瀬記念館の見学 ・第3回教特1セミナー(集中12時間)
教特2	教養特別講義2	必0.5 必0.5	通年 通年	2 3	<div>()</div>	・講義6回 ・2.5×6回(15時間) ・目白地区に4クラス、西生田地区に2クラス開講 ・3年次における成瀬記念館の見学を含む ・履修方法等は欄外参照

①教養特別講義2テーマ

教養特別講義2の各講義テーマは以下のとおりとする。

	教養特別講義2－Ⅰ		教養特別講義2－Ⅱ
1	女性のこころとからだ	4	家族と女性の生き方
2	現代文化のなかの女性	5	女性と社会
3	女性と職業	6	女性と世界

・所属地区のクラスを履修すること

②履修方法

・2年次に教養特別講義2－Ⅰを0.5単位、3年次に教養特別講義2－Ⅱを0.5単位、計1単位を履修すること。

③再履修の場合は、教養特別講義2－Ⅰと教養特別講義2－Ⅱを同一年度に履修することができる。

外国語科目 (2016 年度入学者より適用)

1 外国語科目(英語・ドイツ語・フランス語・中国語・イタリア語・韓国語)履修方法 2016年度入学者より

○外国語科目とは

外国語科目とは、文化学科が提供学科となっているベーシック・イングリッシュ・英語・ドイツ語・フランス語・中国語・イタリア語・韓国語・英語会話・英語作文・ビジネス英語・資格英語（集中）・ポピュラー・カルチャーで学ぶ英語（旧映像メディアで学ぶ英語）・ドイツ語会話・フランス語会話・中国語会話・集中ドイツ語・集中フランス語・集中中国語です。ベーシック・イングリッシュは全学科とも必修科目です。ラテン語、古典ギリシア語は、卒業要件上の外国語科目としては扱われないので注意してください。

外国語学習では、卒業するために最低限必要とされる単位数（卒業要件単位）だけを修得して終わりとするのではなく、さらに多くの授業を履修することが特に望まれます。（「卒業要件単位について」のページおよび各学科の「履修方法」のページ参照）

○各学科の卒業要件単位としての履修方法

ベーシック・イングリッシュのほかにも履修した外国語科目の単位数を「卒業するために履修すべき授業科目」の基本科目の単位数に数えるか、自由選択科目の単位数に数えるかは学科によって異なります。

現代社会学科… 以下の [A] [B] を合わせて 16 単位履修する。これを超えて履修した外国語科目の単位数は、自由選択科目として算入することができる。

- [A] ベーシック・イングリッシュ a・b・c・d 合計 8 単位。
- [B] ドイツ語・フランス語・中国語・イタリア語・韓国語より同一言語で 8 単位を選択必修。
（ドイツ語・フランス語・中国語については I 文法・I 読本、イタリア語・韓国語については I 文法・I 実用を履修）

社会福祉学科… ベーシック・イングリッシュ a・b・c・d 合計 8 単位。
この他に履修した外国語科目の単位数は、自由選択科目として算入することができる。

教育学科… ベーシック・イングリッシュ a・b・c・d 合計 8 単位。
この他に履修した外国語科目の単位数は、自由選択科目として算入することができる。

心理学科… ベーシック・イングリッシュ a・b・c・d 合計 8 単位。
この他に履修した外国語科目の単位数は、自由選択科目として算入することができる。

文化学科… 以下の [A] と [B] を合わせて 32 単位を履修する。[A] と [B] いずれか一方は、英語を選択しなければならない。
これを超えて履修した外国語科目の単位数は、自由選択科目として算入することができる。

[A] いずれか一つの言語を選び、以下の組み合わせで 20 単位を選択必修。 [B] [A] で選択したものとは異なる言語を一つ選び、以下の組み合わせで 12 単位を選択必修。

英語	必修	ベーシック・イングリッシュ a・b・c・d	8 単位	合計 20 単位	英語	必修	ベーシック・イングリッシュ a・b・c・d	8 単位	合計 12 単位
	選択	英語、英語会話Ⅰ、英語会話Ⅱ、英語作文、ビジネス英語、資格英語(集中)1、資格英語(集中)2、資格英語(集中)3、ポピュラー・カルチャーで学ぶ英語(閉講)から選択	12 単位			選択	英語、英語会話Ⅰ、英語会話Ⅱ、英語作文、ビジネス英語、資格英語(集中)1、資格英語(集中)2、資格英語(集中)3、ポピュラー・カルチャーで学ぶ英語(閉講)から選択	4 単位	
ドイツ語	必修	ドイツ語Ⅰ 文法、ドイツ語Ⅰ 読本	8 単位	合計 20 単位	ドイツ語	必修	ドイツ語Ⅰ 文法、ドイツ語Ⅰ 読本	8 単位	合計 12 単位
		ドイツ語Ⅱ	4 単位			選択	ドイツ語Ⅱ、ドイツ語原典講読、ドイツ語会話から選択	4 単位	
		ドイツ語会話	4 単位		フランス語	必修	フランス語Ⅰ 文法、フランス語Ⅰ 読本	8 単位	合計 12 単位
選択	ドイツ語Ⅱ、ドイツ語原典講読、ドイツ語会話から選択	4 単位	選択	フランス語Ⅱ、フランス語原典講読、フランス語会話Ⅰ・Ⅱから選択		4 単位			
	フランス語	必修	フランス語Ⅰ 文法、フランス語Ⅰ 読本	8 単位		合計 20 単位	中国語	必修	中国語Ⅰ 文法、中国語Ⅰ 読本
フランス語Ⅱ			4 単位	選択	中国語Ⅱ、中国語原典講読、中国語会話Ⅰ・Ⅱから選択			4 単位	
フランス語会話Ⅰ・Ⅱから選択			4 単位	イタリア語	必修		イタリア語Ⅰ 文法、イタリア語Ⅰ 実用	8 単位	合計 12 単位
選択	フランス語Ⅱ・Ⅲ(閉講)、フランス語原典講読、フランス語会話Ⅰ・Ⅱから選択	4 単位	選択		イタリア語Ⅱ、イタリア語原典講読から選択	4 単位			
	中国語	必修	中国語Ⅰ 文法、中国語Ⅰ 読本		8 単位	合計 20 単位	韓国語	必修	韓国語Ⅰ 文法、韓国語Ⅰ 実用
中国語Ⅱ			4 単位	選択	韓国語Ⅱ、韓国語原典講読から選択			4 単位	
中国語会話Ⅰ・Ⅱから選択			4 単位						
イタリア語	必修	イタリア語Ⅰ 文法、イタリア語Ⅰ 実用	8 単位	合計 20 単位					
	選択	イタリア語Ⅱ、イタリア語原典講読から選択	12 単位						
韓国語	必修	韓国語Ⅰ 文法、韓国語Ⅰ 実用	8 単位	合計 20 単位					
	選択	韓国語Ⅱ、韓国語原典講読から選択	12 単位						

＊留学生については、英語（ベーシック・イングリッシュ a・b・c・d）、英語・会話・作文・ビジネス英語・資格英語（集中）1・資格英語（集中）2・資格英語（集中）3・ポピュラー・カルチャーで学ぶ英語（旧映像メディアで学ぶ英語）を含む）、ドイツ語（集中ドイツ語は除く）、フランス語（集中フランス語は除く）、中国語（集中中国語は除く）、イタリア語、韓国語から母国語を除いて自由に 32 単位を選択必修。
＊フランス語Ⅲ、中国語Ⅲは 2017 年度より、ポピュラー・カルチャーで学ぶ英語は 2019 年度より閉講のため、以降は開講科目より履修すること。

2

科目の概要及び履修にあたっての注意

2016年度入学者より

初回の授業で人数調整を行う場合があるため、前期・後期に関わらず初回の授業には必ず出席すること。

○英語について

	科目	内容	履修にあたっての注意
必修英語 〔2016 年度入学者より適用〕	ベーシック・イングリッシュ a、b	英語の文法力や語彙力を強化しながら、「読む」「書く」「聞く」「話す」を総合的に学習し、理解力と表現力を養成するクラス。	1 年次にベーシック・イングリッシュ a・b・c・d の合計 8 単位を必修科目として履修しなければならない。学科単位で習熟度別にクラス編成されているため、指定されたクラスを受講すること。1 年次に単位を修得できなかった場合は、次年度以降に指定されたクラスを再履修する必要がある。（「必修英語の再履修について」の項目を参照のこと）
	ベーシック・イングリッシュ c、d	英語の文法力や語彙力を強化しながら、とくに表現力やコミュニケーション力を養成するクラス。	
選択英語	英語	中級～上級。文学、映画、ドキュメンタリー、ニュース、新聞など、様々なテーマやテキストを扱う。 1～8、12～19 はキャリア女性学副専攻の国際活動コース指定クラス。より実践的なレベルで、国際活動に必要な英語力を総合的に養成するクラス。 9～11、20～22 は文法力・語彙力の強化を基本とし、読解力や表現力の強化、資格取得対策など、クラスによって養成重点が異なる。 ＊各クラスのテーマ、レベルなどは講義概要を参照。	単位は前期・後期でそれぞれ 2 単位ずつ与えられるが、 <u>原則として前期に履修したものと同一開講時限・同じ担当者の授業を、後期も続けて履修すること。</u> 前期の当該の授業を受けていないと後期の受講を認められない場合がある。また、すべてのクラスは、1 年次から自由に選択して履修できる。講義概要をよく読み、自分の興味や目的にあったクラスを選択すること。
	英語会話	オーラル・コミュニケーションの訓練を中心としたクラス。初級のⅠでは正確な発音の習熟、基本表現のパターンや会話の訓練をする。中級のⅡは運用力、表現力をさらに向上させるためのクラス。	単位は前期・後期でそれぞれ 2 単位ずつ与えられる。英語会話Ⅰは 1 年次から履修可能。英語会話Ⅱは 2 年次以上の学生を対象とするが、ベーシック・イングリッシュ、英語、英語会話Ⅰを修得済みである必要はない。
	英語作文	ライティング力を養成するクラス。	単位は前期・後期でそれぞれ 2 単位ずつ与えられる。いずれも 2 年次以上の学生を対象とするが、ベーシック・イングリッシュ、英語、英語会話Ⅰを修得済みである必要はない。
	ビジネス英語	ビジネスの場面におけるコミュニケーションに必要な聞く力、話す力を養成するクラス。電話、会議、提案、交渉などを想定してのロールプレイやグループディスカッションで訓練する。	
	資格英語（集中）1 資格英語（集中）2 資格英語（集中）3 ポピュラー・カルチャーで学ぶ英語（開講）	目白キャンパスで開講される夏期集中授業。 ＊詳細は講義概要で確認すること。 ＊ポピュラー・カルチャーで学ぶ英語は 2019 年度より閉講。	単位はいずれも前期 2 単位で与えられる。いずれも 2 年次以上の学生を対象とするが、ベーシック・イングリッシュ、英語、英語会話Ⅰを修得済みである必要はない。

○必修英語の再履修について

単位未修得科目	再履修可能な科目
ベーシック・イングリッシュ a	ベーシック・イングリッシュ a
ベーシック・イングリッシュ b	ベーシック・イングリッシュ b
ベーシック・イングリッシュ c	ベーシック・イングリッシュ c
ベーシック・イングリッシュ d	ベーシック・イングリッシュ d

- (1) 4 年次後期に限り、4 年次前期においてベーシック・イングリッシュ a、c を修得できなかった場合は、ベーシック・イングリッシュ b、d で再履修することができる。
- (2) 4 年以上在学し、9 月卒業を希望する場合は、4 年次までに修得できなかったベーシック・イングリッシュ b、d については、ベーシック・イングリッシュ a、c で再履修することができる。
- (3) 前期（ベーシック・イングリッシュ a,c）・後期（ベーシック・イングリッシュ b,d）に関わらず、必ず 4 月の再履修申請期間中に再履修の登録をすること。詳細は、西生田学務課の掲示を確認すること。申請した再履修の登録の訂正、変更、取り消しはできない。

○初修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・イタリア語・韓国語）について

	科目	内容	履修にあたっての注意
初修外国語 <div>ドイツ語 フランス語 中国語 イタリア語 韓国語</div>	I 文法	入門として、発音や書体系から始め、文法・構造の理解を中心とする初級クラス。	単位は通年でそれぞれ 4 単位ずつ与えられる。1 年次から履修可能。「I 文法」「I 読本」(イタリア語・韓国語は「I 文法」「I 実用」)を同年度に両方履修すること。「I 文法」と「I 読本」(イタリア語・韓国語は「I 文法」と「I 実用」)のどちらか一方の単位しか修得できなかった場合は、次年度以降に未修得の科目を再履修すること(前年度とは異なるクラスでも可)。
	(ドイツ語・フランス語・中国語) I 読本	文法力や語彙力を強化しながら、文章読解を中心とする初級クラス。	「I 文法」「I 読本」(イタリア語・韓国語は「I 文法」「I 実用」)の両方の単位を修得しない限り、修得した外国語の単位は現代社会科学・文化学科で基本科目として履修するように定められ、外国語科目の単位としては認められず、自由選択科目の単位としてのみ認められる。
	(イタリア語・韓国語) I 実用	文法力や語彙力を強化しながら、文章読解や基礎的な会話表現を養成する初級クラス。	
	II	初級の I で学んだことを応用、発展させる中級クラス。文章読解、作文、オーラル・コミュニケーションなど、総合的に学習する。	単位は前期・後期でそれぞれ 2 単位ずつ与えられる。「I 文法」「I 読本」(イタリア語・韓国語は「I 文法」「I 実用」)の単位を修得した者、および初級学力認定試験により学力を認定された者を対象とする。反復履修可。同年度に複数クラスを履修可。また、前年度以前に「I 文法」「I 読本」(イタリア語・韓国語は「I 文法」「I 実用」)のいずれか一方の単位しか修得できず、一方を再履修中の場合、同時に履修可。
	(フランス語・中国語) III (閉講)	2017 年度より閉講	
	原典講読	中級～上級レベル。外国語学習テキストではなく、各言語で表現された書籍、雑誌、映像など様々な媒体をテキストとして使用し、日本語の表現との比較や文化的背景の理解をしながら、その言語が使用される地域の文化を理解するための読解力を養成するクラス。	単位は前期・後期でそれぞれ 2 単位ずつ与えられる。「I 文法」「I 読本」(イタリア語・韓国語は「I 文法」「I 実用」)の単位を修得した者、および初級学力認定試験により、学力を認定された者を対象とする。II を履修中または単位を修得した者が望ましい。反復履修可。
	(ドイツ語・フランス語・中国語) 会話	オーラル・コミュニケーションの訓練を中心としたクラス。初級の I では正確な発音の習熟、基本表現のパターンや会話の訓練をする。中級の II は運用力、表現力をさらに向上させるためのクラス。 ＊ドイツ語会話は、I・II の区別はない。	単位は前期・後期でそれぞれ 2 単位ずつ与えられる。「ドイツ語会話」「フランス語会話 I」「中国語会話 I」は、「I 文法」「I 読本」を履修中あるいは修得した者、および初級学力認定により学力を認定された者を対象とする。「フランス語会話 II」「中国語会話 II」は、「I 文法」「I 読本」を修得した者、および初級学力認定試験により、学力を認定された者を対象とする。また、前年度以前に「I 文法」「I 読本」のいずれか一方の単位しか修得できず、一方を再履修中の場合、同時に履修可。
	集中ドイツ語 集中フランス語 集中中国語	目白キャンパスで開講される夏期集中授業 ＊詳細は講義概要を確認すること。	単位は、いずれも前期 2 単位で与えられる。いずれも 2 年次以上の学生を対象とし、原則として「I 文法」「I 読本」または「会話 I」(ドイツ語は「会話」)の計 8 単位を修得済みの者。基本科目の外国語科目として卒業要件単位数は数えられない。自由選択科目として数えられる。

3

初級学力認定

2016年度入学者より

国内または海外においてすでにドイツ語、フランス語、中国語、イタリア語または韓国語を相当程度学習した者（単位取得の有無を問わず本学で当該語学を履修した者を除く）については、その初級修了程度の学力の認定を経てドイツ語Ⅱ、ドイツ語原典講読、フランス語Ⅱ・Ⅲ、フランス語原典講読、中国語Ⅱ・Ⅲ、中国語原典講読、およびフランス語会話Ⅱ、中国語会話Ⅱ、イタリア語Ⅱ、イタリア語原典講読、韓国語Ⅱ、韓国語原典講読を履修することができる。ただし、学力を認定された者は、各言語のⅠを履修することはできない。（それぞれの会話は履修可能）。また、初級学力認定試験に合格した場合、学科により、外国語の履修方法が以下のように緩和される。

なお、認定を希望する者は所定の申込期間内に、西生田学務課教務・資格係に申し出ること。

初級学力認定試験合格後の履修方法変更点

学科	履修方法変更点
現代社会科学	それぞれの語学のⅡ・Ⅲ、原典講読、および会話から同一言語を自由に組み合わせて 8 単位
社会福祉学科	変更なし
教育学科	変更なし
心理学科	変更なし
文化学科	・初級学力認定試験に合格した外国語を[A]として選択 それぞれの語学のⅡ・Ⅲ、原典講読、および会話から同一言語を自由に組み合わせて 20 単位以上選択必修。 ・初級学力認定試験に合格した外国語を[B]として選択 それぞれの語学のⅡ・Ⅲ、原典講読、および会話から同一言語を自由に組み合わせて 12 単位以上選択必修。

2020 年度 外国語 授業科目表(2016 年度入学者より適用)

授 業 科 目 名	担当者名	単位数	期	年次	備 考
ベーシック・イングリッシュ a	坂井 妙子 長谷部 寿女士 大島 有子 小野 聖次郎 寺嶋 さなえ 長岡 智寿子 林 祐子 但馬 香里 工藤 貴恵 林 美里 花塚 優貴 瀬上 和典 井上 真菜 岩内 章太郎	必2	前期	1	△
ベーシック・イングリッシュ b	坂井 妙子 長谷部 寿女士 大島 有子 小野 聖次郎 寺嶋 さなえ 長岡 智寿子 林 祐子 但馬 香里 工藤 貴恵 林 美里 花塚 優貴 瀬上 和典 井上 真菜 岩内 章太郎	必2	後期	1	△
ベーシック・イングリッシュ c	杉山 直子 田中 有美 ニール・アディソン 佐野 陽子 瀬戸 沙央里 安部 佳子 山岡 眞希子 加藤 典子 佐藤 千佳 三田 良平 川村 由美 花塚 優貴 山下 芳典 ジェイソン・バータシヤス 庄子 ひとみ 戸嶋 真弓 林 美里 林 祐子 長谷川 志保 岩内 章太郎	必2	前期	1	△
ベーシック・イングリッシュ d	杉山 直子 田中 有美 ニール・アディソン 佐野 陽子 瀬戸 沙央里 安部 佳子 山岡 眞希子 加藤 典子 佐藤 千佳 三田 良平 川村 由美 花塚 優貴 山下 芳典 ジェイソン・バータシヤス 庄子 ひとみ 戸嶋 真弓 林 美里 林 祐子 長谷川 志保 岩内 章太郎	必2	後期	1	△

授 業 科 目 名	担当者名	単位数	期	年次	備 考
英語	杉山 直子 佐藤 千佳 佐野 陽子 三田 良平 瀬戸 沙央里 山岡 眞希子 加藤 典子 ジェイソン・バーダジャス 但馬 香里 山本 満登香	選2	前(後)	1～	△ ☆ ○
英語会話Ⅰ		選4		1～	閉講
英語会話Ⅰ(前期)	大島 有子 佐野 陽子 山本 満登香 山岡 眞希子	選2	前期	1～	△ ○ 「英語会話Ⅰ」の単位取得者は履修不可
英語会話Ⅰ(後期)	大島 有子 佐野 陽子 山本 満登香 山岡 眞希子	選2	後期	1～	△ ○ 「英語会話Ⅰ」の単位取得者は履修不可
英語会話Ⅱ		選4		2～	閉講
英語会話Ⅱ(前期)	ニール・アディソン 山下 芳典	選2	前期	2～	△ ☆ ○
英語会話Ⅱ(後期)	ニール・アディソン 山下 芳典	選2	後期	2～	△ ☆ ○
英語作文		選4		2～	閉講
英語作文(前期)	庄子 ひとみ	選2	前期	2～	△ ○ 「英語作文」の単位取得者は履修不可
英語作文(後期)	庄子 ひとみ	選2	後期	2～	△ ○ 「英語作文」の単位取得者は履修不可
ビジネス英語		選4		2～	閉講
ビジネス英語(前期)	ニール・アディソン	選2	前期	2～	△ ○ 「ビジネス英語」の単位取得者は履修不可
ビジネス英語(後期)	ニール・アディソン	選2	後期	2～	△ ○ 「ビジネス英語」の単位取得者は履修不可
資格英語(集中) 1		選2	前期	2～	△ ☆ ○ 集中 目白地区開講 2020 年度休講
資格英語(集中) 2		選2	前期	2～	△ ☆ ○ 集中目白地区開講 2020 年度休講
資格英語(集中) 3		選2	前期	2～	△ ☆ ○ 集中目白地区開講 2020 年度休講
ポピュラー・カルチャーで学ぶ英語		選2		2～	閉講 旧「映像メディアで学ぶ英語」
ドイツ語Ⅰ 文法	泉谷 千尋 織田 晶子 早崎 えりな	選4	通年	1	△ ○「ドイツ語Ⅰ 読本」と同年度に履修すること
ドイツ語Ⅰ 読本	泉谷 千尋 織田 晶子 早崎 えりな	選4	通年	1	△ ○ 「ドイツ語Ⅰ 文法」と同年度に履修すること
ドイツ語Ⅱ(前期)	泉谷 千尋	選2	前期	2～	△ ☆
ドイツ語Ⅱ(後期)	泉谷 千尋	選2	後期	2～	△ ☆
ドイツ語原典講読(前期)	織田 晶子	選2	前期	2～	△ ☆ ○
ドイツ語原典講読(後期)	早崎 えりな	選2	後期	2～	△ ☆ ○
ドイツ語会話		選4		1～	閉講
ドイツ語会話(前期)	(未定)	選2	前期	1～	△ ☆ ○ 2015 年度入学者まで適用の外国語科目「ドイツ語会話Ⅰ(前期)」と合同授業
ドイツ語会話(後期)	(未定)	選2	後期	1～	△ ☆ ○ 2015 年度入学者まで適用の外国語科目「ドイツ語会話Ⅰ(後期)」と合同授業
集中ドイツ語	田中 洋	選2	前期	2～	△ ☆ ○ 集中 目白地区開講 8 月 17 日～19 日、21 日、22 日
フランス語Ⅰ 文法	畠山 香奈 宮川 慎也 加倉井 仁	選4	通年	1	△ ○ 「フランス語Ⅰ 読本」と同年度に履修すること
フランス語Ⅰ 読本	高井 奈緒 宮川 慎也 小幡 一雄	選4	通年	1	△ ○ 「フランス語Ⅰ 文法」と同年度に履修すること

授 業 科 目 名	担当者名	単位数	期	年次	備 考
フランス語Ⅱ(前期)	小幡 一雄 加倉井 仁	選2	前期	2～	△ ☆
フランス語Ⅱ(後期)	小幡 一雄 加倉井 仁	選2	後期	2～	△ ☆
フランス語Ⅲ(前期)		選2		3～	閉講
フランス語Ⅲ(後期)		選2		3～	閉講
フランス語原典講読(前期)	高井 奈緒	選2	前期	2～	△ ☆ ○
フランス語原典講読(後期)	高井 奈緒	選2	後期	2～	△ ☆ ○
フランス語会話Ⅰ		選4		1～	閉講
フランス語会話Ⅰ(前期)	B.P.レウルス 畠山 香奈	選2	前期	1～	△ ○ 「フランス語会話Ⅰ」の単位取得者は履修不可
フランス語会話Ⅰ(後期)	B.P.レウルス 畠山 香奈	選2	後期	1～	△ ○ 「フランス語会話Ⅰ」の単位取得者は履修不可
フランス語会話Ⅱ		選4		2～	閉講
フランス語会話Ⅱ(前期)	B.P.レウルス	選2	前期	2～	△ ☆
フランス語会話Ⅱ(後期)	B.P.レウルス	選2	後期	2～	△ ☆
集中フランス語	三宅 京子	選2	前期	2～	△ ☆ ○ 集中 目白地区開講 8月14日、15日、17日～20日
中国語Ⅰ文法	張 培華 黄 昱 田中 千寿	選4	通年	1	△ ○ 「中国語Ⅰ読本」と同年度に履修すること
中国語Ⅰ読本	鄔 越凌 陸 樹芳	選4	通年	1	△ ○ 「中国語Ⅰ文法」と同年度に履修すること
中国語Ⅱ(前期)	三田 明弘 張 培華	選2	前期	2～	△ ☆
中国語Ⅱ(後期)	三田 明弘 張 培華	選2	後期	2～	△ ☆
中国語Ⅲ(前期)		選2		3～	閉講
中国語Ⅲ(後期)		選2		3～	閉講
中国語原典講読(前期)	三田 明弘	選2	前期	2～	△ ☆ ○
中国語原典講読(後期)	三田 明弘	選2	後期	2～	△ ☆ ○
中国語会話Ⅰ		選4		1～	閉講
中国語会話Ⅰ(前期)	鄔 越凌	選2	前期	1～	△ ○ 「中国語会話Ⅰ」の単位取得者は履修不可
中国語会話Ⅰ(後期)	鄔 越凌	選2	後期	1～	△ ○ 「中国語会話Ⅰ」の単位取得者は履修不可
中国語会話Ⅱ		選4		2～	閉講
中国語会話Ⅱ(前期)	黄 昱	選2	前期	2～	△ ☆ ○
中国語会話Ⅱ(後期)	黄 昱	選2	後期	2～	△ ☆ ○
集中中国語	蘆 尤	選2	前期	2～	△ ☆ ○ 集中 目白地区開講 8月11日～14日、17日
イタリア語Ⅰ文法	山手 昌樹	選4	通年	1	△ ○ 「イタリア語Ⅰ実用」と同年度に履修すること
イタリア語Ⅰ実用	ジョヴァニ・シモーネ	選4	通年	1	△ ○ 「イタリア語Ⅰ文法」と同年度に履修すること
イタリア語Ⅱ(前期)	山手 昌樹	選2	前期	2～	△ ☆
イタリア語Ⅱ(後期)	山手 昌樹	選2	後期	2～	△ ☆
イタリア語原典講読(前期)	佐々木 雄大	選2	前期	2～	△ ☆ ○
イタリア語原典講読(後期)	佐々木 雄大	選2	後期	2～	△ ☆ ○
韓国語Ⅰ文法	朴 倍暎 金 福子	選4	通年	1	△ ○ 「韓国語Ⅰ実用」と同年度に履修すること
韓国語Ⅰ実用	李 垠松 呉 世蓮	選4	通年	1	△ ○ 「韓国語Ⅰ文法」と同年度に履修すること
韓国語Ⅱ(前期)	朴 美京 李 垠松	選2	前期	2～	△ ☆
韓国語Ⅱ(後期)	朴 美京 李 垠松	選2	後期	2～	△ ☆
韓国語原典講読(前期)	朴 倍暎	選2	前期	2～	△ ☆ ○
韓国語原典講読(後期)	朴 倍暎	選2	後期	2～	△ ☆ ○

外国語科目 (2015 年度入学者まで適用)

1 外国語科目(英語・ドイツ語・フランス語・中国語・イタリア語・韓国語)履修方法 2015年度入学者まで

○外国語科目とは

外国語科目とは、文化学科が提供学科となっている英語・ドイツ語・フランス語・中国語・イタリア語・韓国語・英語会話・英語作文・ビジネス英語・資格英語（集中）・ポピュラー・カルチャーで学ぶ英語（旧映像メディアで学ぶ英語）・英語プレゼンテーション・ドイツ語会話・フランス語会話・中国語会話・集中ドイツ語・集中フランス語・集中中国語です。ラテン語、古典ギリシア語は、卒業要件上の外国語科目としては扱われないので注意してください。

外国語学習では、卒業するために最低限必要とされる単位数（卒業要件単位）だけを修得して終わりとするのではなく、さらに多くの授業を履修することが特に望まれます。（「卒業要件単位について」のページおよび各学科の「履修方法」のページ参照）

○各学科の卒業要件単位としての履修方法

履修した外国語科目の単位数を「卒業するために履修すべき授業科目」の基本科目の単位数に数えるか、自由選択科目の単位数に数えるかは学科によって異なります。

現代社会学科… ドイツ語・フランス語・中国語・イタリア語・韓国語のうちから同一言語で8単位を選択必修。

（ドイツ語・フランス語・中国語についてはⅠ文法・Ⅰ読本、イタリア語・韓国語についてはⅠ文法・Ⅰ実用を履修）

これを超えて履修した外国語科目の単位数は、自由選択科目として算入することができる。

社会福祉学科… 自由選択履修。

教育学科… 自由選択履修。

心理学科… 以下の[A][B][C]を合わせて24単位以上履修する。

[A] 英語8単位

[B] ドイツ語・フランス語・中国語・イタリア語・韓国語のうちから同一言語で8単位を選択必修

（ドイツ語・フランス語・中国語についてはⅠ文法・Ⅰ読本、イタリア語・韓国語についてはⅠ文法・Ⅰ実用を履修）

[C] 英語・ドイツ語・フランス語・中国語・イタリア語・韓国語から自由に8単位を選択必修（集中ドイツ語・集中フランス語・集中中国語を除く）

（[B]と異なる言語を履修する場合は、ドイツ語・フランス語・中国語についてはⅠ文法・Ⅰ読本、イタリア語・韓国語についてはⅠ文法・Ⅰ実用を履修）

これを超えて履修した外国語科目の単位数は、自由選択科目として算入することができる。

文化学科… 以下の[A]と[B]を合わせて32単位を履修する。

これを超えて履修した外国語科目の単位数は、自由選択科目として算入することができる。

[A] いずれか1つの言語を選び、以下の組み合わせで20単位を選択必修。[B] [A]で選択したものと異なる言語を1つ選び、以下の組み合わせで12単位を選択必修。

英語		英語、英語会話Ⅰ、英語会話Ⅱ、英語作文、ビジネス英語、資格英語(集中)1、資格英語(集中)2、資格英語(集中)3、ポピュラー・カルチャーで学ぶ英語（閉講）、英語プレゼンテーション（閉講）から選択	合計 20 単位	必修	英語	4 単位	
				選択	英語、英語会話Ⅰ、英語会話Ⅱ、英語作文、ビジネス英語、資格英語(集中)1、資格英語(集中)2、資格英語(集中)3、ポピュラー・カルチャーで学ぶ英語（閉講）、英語プレゼンテーション（閉講）から選択	8 単位	合計 12 単位
ドイツ語	必修	ドイツ語Ⅰ文法、ドイツ語Ⅰ読本	8 単位				
		ドイツ語Ⅱ	4 単位				
	選択	ドイツ語Ⅱ・Ⅲ(閉講)、ドイツ語原典講読、ドイツ語会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(閉講)から選択	8 単位	ドイツ語	必修	ドイツ語Ⅰ文法、ドイツ語Ⅰ読本	8 単位
				選択	ドイツ語Ⅱ、ドイツ語原典講読、ドイツ語会話Ⅰ・Ⅱ から選択	4 単位	合計 12 単位
フランス語	必修	フランス語Ⅰ文法、フランス語Ⅰ読本	8 単位	フランス語	必修	フランス語Ⅰ文法、フランス語Ⅰ読本	8 単位
		フランス語Ⅱ	4 単位				
	選択	フランス語Ⅱ・Ⅲ(閉講)、フランス語原典講読、フランス語会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(閉講)から選択	8 単位	選択	フランス語Ⅱ、フランス語原典講読、フランス語会話Ⅰ・Ⅱから選択	4 単位	合計 12 単位
中国語	必修	中国語Ⅰ文法、中国語Ⅰ読本	8 単位	中国語	必修	中国語Ⅰ文法、中国語Ⅰ読本	8 単位
		中国語Ⅱ	4 単位				
	選択	中国語Ⅱ・Ⅲ(閉講)、中国語原典講読、中国語会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(閉講)から選択	8 単位	選択	中国語Ⅱ、中国語原典講読、中国語会話Ⅰ・Ⅱから選択	4 単位	合計 12 単位
イタリア語	必修	イタリア語Ⅰ文法、イタリア語Ⅰ実用	8 単位	イタリア語	必修	イタリア語Ⅰ文法、イタリア語Ⅰ実用	8 単位
	選択	イタリア語Ⅱ、イタリア語原典講読から選択	12 単位	選択	イタリア語Ⅱ、イタリア語原典講読から選択	4 単位	合計 12 単位
韓国語	必修	韓国語Ⅰ文法、韓国語Ⅰ実用	8 単位	韓国語	必修	韓国語Ⅰ文法、韓国語Ⅰ実用	8 単位
	選択	韓国語Ⅱ、韓国語原典講読から選択	12 単位	選択	韓国語Ⅱ、韓国語原典講読から選択	4 単位	合計 12 単位

*留学生については、英語（英語・会話・作文・ビジネス英語・資格英語（集中）1・資格英語（集中）2・資格英語（集中）3・ポピュラー・カルチャーで学ぶ英語（旧映像メディアで学ぶ英語）・英語プレゼンテーションを含む）、ドイツ語（集中ドイツ語は除く）、フランス語（集中フランス語は除く）、中国語（集中中国語は除く）、イタリア語、韓国語から母国語を除いて自由に32単位を選択必修

*ドイツ語Ⅲ、ドイツ語会話Ⅱ、ドイツ語会話Ⅲ、フランス語会話Ⅲ、中国語会話Ⅲ、英語プレゼンテーションは2016年度より、フランス語Ⅲ、中国語Ⅲは2017年度より、ポピュラー・カルチャーで学ぶ英語は2019年度より閉講のため、以降は開講科目より履修すること。

2

科目の概要及び履修にあたっての注意

2015年度入学者まで

初回の授業で人数調整を行う場合があるため、初回の授業には必ず出席すること。

○英語について

	科目	内容	履修にあたっての注意
英語	英語	中級～上級。文学、映画、ドキュメンタリー、ニュース、新聞など、様々なテーマやテキストを扱う。 1～8、12～19（2015年度までの履修は、1～8、30～37）は キャリア女性学専攻の国際活動コース指定クラス 。より実践的なレベルで、国際活動に必要な英語力を総合的に養成するクラス。 9～11、20～22（2015年度までの履修は、9～29、38～58）は文法力・語彙力の強化を基本とし、読解力や表現力の強化、資格取得対策など、クラスによって養成重点が異なる。 *各クラスのテーマ、レベルなどは講義概要を参照。	単位は前期・後期でそれぞれ2単位ずつ与えられるが、 原則として前期に履修したものと同一開講時限・同じ担当者の授業を、後期も続けて履修すること 。前期の当該の授業を受けていないと後期の受講を認められない場合がある。また、すべてのクラスは、1年次から自由に選択して履修できる。講義概要をよく読み、自分の興味や目的にあったクラスを選択すること。
	英語会話	オーラル・コミュニケーションの訓練を中心としたクラス。初級のⅠでは正確な発音の習熟、基本表現のパターンや会話の訓練をする。中級のⅡは運用力、表現力をさらに向上させるためのクラス。	単位は前期・後期でそれぞれ2単位ずつ与えられる。英語会話Ⅰは1年次から履修可能。英語会話Ⅱは2年次以上の学生を対象とするが、英語、英語会話Ⅰを修得済みである必要はない。
	英語作文	ライティング力を養成するクラス。	単位は前期・後期でそれぞれ2単位ずつ与えられる。
	ビジネス英語	ビジネスの場面におけるコミュニケーションに必要な聞く力、話す力を養成するクラス。電話、会議、提案、交渉などを想定してのロールプレイやグループディスカッションで訓練する。	いずれも2年次以上の学生を対象とするが、英語、英語会話Ⅰを修得済みである必要はない。
	資格英語(集中)1 資格英語(集中)2 資格英語(集中)3 ポピュラー・カルチャーで学ぶ英語（閉講） 英語プレゼンテーション（閉講）	目白キャンパスで開講される夏期集中授業。 *詳細は講義概要で確認すること。 *英語プレゼンテーションは2016年度より閉講。 *ポピュラー・カルチャーで学ぶ英語は2019年度より閉講。	単位はいずれも前期2単位で与えられる。いずれも2年次以上の学生を対象とするが、英語、英語会話Ⅰを修得済みである必要はない。

○初修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・イタリア語・韓国語）について

	科目	内容	履修にあたっての注意
<div>初修外国語</div> <div> <div>ドイツ語</div> <div>フランス語</div> <div>中国語</div> <div>イタリア語</div> <div>韓国語</div> </div>	I 文法	入門として、発音や書字体系から始め、文法・構造の理解を中心とする初級クラス。	単位は通年でそれぞれ 4 単位ずつ与えられる。1 年次から履修可能。「I 文法」「I 読本」（イタリア語・韓国語は「I 文法」「I 実用」）を同年度に両方履修すること。「I 文法」と「I 読本」（イタリア語・韓国語は「I 文法」と「I 実用」）のどちらか一方の単位しか修得できなかった場合は、次年度以降に未修得の科目を再履修すること（前年度とは異なるクラスでも可）。 「I 文法」「I 読本」（イタリア語・韓国語は「I 文法」「I 実用」）の両方の単位を修得しない限り、修得した外国語の単位は現代社会学科・心理学科・文化学科で基本科目として履修するように定められた外国語科目の単位としては認められず、自由選択科目の単位としてのみ認められる。 （韓国語 I 文法・I 実用は 2011 年度以降入学者より履修可）
	（ドイツ語・フランス語・中国語） I 読本	文法力や語彙力を強化しながら、文章読解を中心とする初級クラス。	
	（イタリア語・韓国語） I 実用	文法力や語彙力を強化しながら、文章読解や基礎的な会話表現を養成する初級クラス。	
	II	初級の I で学んだことを応用、発展させる中級クラス。文章読解、作文、オーラル・コミュニケーションなど、総合的に学習する。	単位は前期・後期でそれぞれ 2 単位ずつ与えられる。「I 文法」「I 読本」（イタリア語・韓国語は「I 文法」「I 実用」）の単位を修得した者、および初級学力認定試験により学力を認定された者を対象とする。反復履修可。同年度に複数クラスを履修可。 また、前年度以前に「I 文法」「I 読本」（イタリア語・韓国語は「I 文法」「I 実用」）のいずれか一方の単位しか修得できず、一方を再履修中の場合、同時に履修可。
	（ドイツ語・フランス語・中国語） III（閉講）	*ドイツ語IIIは2016年度より、フランス語III、中国語IIIは2017年度より閉講。	
	原典講読	中級～上級レベル。外国語学習テキストではなく、各言語で表現された書籍、雑誌、映像など様々な媒体をテキストとして使用し、日本語の表現との比較や文化的背景の理解をしながら、その言語が使用される地域の文化を理解するための読解力を養成するクラス。	単位は前期・後期でそれぞれ 2 単位ずつ与えられる。「I 文法」「I 読本」（イタリア語・韓国語は「I 文法」「I 実用」）の単位を修得した者、および初級学力認定試験により、学力を認定された者を対象とする。II を履修中または単位を修得した者が望ましい。反復履修可。
	（ドイツ語・フランス語・中国語） 会話	オーラル・コミュニケーションの訓練を中心としたクラス。初級の I では正確な発音の習熟、基本表現のパターンや会話の訓練をする。中級の II は運用力、表現力をさらに向上させるためのクラス。 *ドイツ語会話 II・III、フランス語会話 III・中国語会話IIIは、2016 年度より閉講。	単位は前期・後期でそれぞれ 2 単位ずつ与えられる。「会話 I」は、「I 文法」「I 読本」を履修中あるいは単位を修得した者、および初級学力認定試験により学力を認定された者を対象とする。 「会話 II」は、「I 文法」「I 読本」の単位を修得した者、および初級学力認定試験により、学力を認定された者を対象とする。 また、前年度以前に「I 文法」「I 読本」のいずれか一方の単位しか修得できず、一方を再履修中の場合、同時に履修可。
	集中ドイツ語（旧資格ドイツ語） 集中フランス語（旧資格フランス語） 集中中国語（旧資格中国語）	目白キャンパスで開講される夏期集中授業。 *詳細は講義概要で確認すること。	単位はいずれも前期 2 単位で与えられる。いずれも 2 年次以上の学生を対象とし、原則として「I 文法」「I 読本」または「会話 I」の計 8 単位を修得した者。 基本科目の外国語科目として卒業要件単位数には数えられない。自由選択科目として数えられる。

外国語

3

初 級 学 力 認 定

2015年度入学者まで

国内または海外においてすでにドイツ語、フランス語、中国語、イタリア語または韓国語を相当程度学習した者（単位取得の有無を問わず本学で当該語学を履修した者を除く）については、その初級修了程度の学力の認定を経てドイツ語Ⅱ・Ⅲ、ドイツ語原典講読、フランス語Ⅱ・Ⅲ、フランス語原典講読、中国語Ⅱ・Ⅲ、中国語原典講読、およびドイツ語会話Ⅱ・Ⅲ、フランス語会話Ⅱ・Ⅲ、中国語会話Ⅱ・Ⅲ、イタリア語Ⅱ、イタリア語原典講読、韓国語Ⅱ、韓国語原典講読を履修することができる。ただし、学力を認定された者は、各言語のⅠを履修することはできない。（それぞれの会話は履修可能）。また、初級学力認定試験に合格した場合、学科により、外国語の履修方法が以下のように緩和される。

なお、認定を希望する者は所定の申込期間内に、西生田学務課教務・資格係に申し出ること。

初級学力認定試験合格後の履修方法変更点

学科	履修方法変更点
現代社会学科	それぞれの語学のⅡ・Ⅲ、原典講読、および会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから同一言語を自由に組み合わせて8単位。
社会福祉学科	変更なし。
教育学科	変更なし。
心理学科	〔B〕の履修方法について、それぞれの語学のⅡ・Ⅲ、原典講読、および会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから同一言語を自由に組み合わせて8単位。
文化学科	・初級学力認定試験に合格した外国語を〔A〕として選択 それぞれの語学Ⅱ・Ⅲ、原典講読、および会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから同一言語を自由に組み合わせて20単位以上選択必修。 ・初級学力認定試験に合格した外国語を〔B〕として選択 それぞれの語学Ⅱ・Ⅲ、原典講読、および会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから同一言語を自由に組み合わせて12単位以上選択必修。

2020 年度 外国語 授業科目表(2015 年度入学者まで適用)

授 業 科 目 名	担 当 者 名	単位数	期	年次	備考
英語	杉山 直子 佐藤 千佳 佐野 陽子 三田 良平 瀬戸 沙央里 山岡 眞希子 加藤 典子 ジェイン・バーダシヤス 但馬 香里 山本 満登香	選必2	前(後)	1～	△ ☆ ○
英語会話Ⅰ		選必4		1～	閉講
英語会話Ⅰ(前期)	大島 有子 佐野 陽子 山本 満登香 山岡 眞希子	選必2	前期	1～	△ ○ 「英語会話Ⅰ」の単位取得者は履修不可
英語会話Ⅰ(後期)	大島 有子 佐野 陽子 山本 満登香 山岡 眞希子	選必2	後期	1～	△ ○ 「英語会話Ⅰ」の単位取得者は履修不可
英語会話Ⅱ		選必4		2～	閉講
英語会話Ⅱ(前期)	ニール・アディソン 山下 芳典	選必2	前期	2～	△ ☆ ○
英語会話Ⅱ(後期)	ニール・アディソン 山下 芳典	選必2	後期	2～	△ ☆ ○
英語作文		選必4		2～	閉講
英語作文(前期)	庄子 ひとみ	選必2	前期	2～	△ ○ 「英語作文」の単位取得者は履修不可
英語作文(後期)	庄子 ひとみ	選必2	後期	2～	△ ○ 「英語作文」の単位取得者は履修不可
ビジネス英語		選必4		2～	閉講
ビジネス英語(前期)	ニール・アディソン	選必2	前期	2～	△ ○ 「ビジネス英語」の単位取得者は履修不可
ビジネス英語(後期)	ニール・アディソン	選必2	後期	2～	△ ○ 「ビジネス英語」の単位取得者は履修不可
資格英語(集中) 1		選必2	前期	2～	△ ☆ ○ 集中 目白地区開講 2020 年度休講
資格英語(集中) 2		選必2	前期	2～	△ ☆ ○ 集中 目白地区開講 2020 年度休講
資格英語(集中) 3		選必2	前期	2～	△ ☆ ○ 集中 目白地区開講 2020 年度休講
ポピュラー・カルチャーで学 ぶ英語		選必2		2～	閉講 旧「映像メディアで学ぶ英語」
英語プレゼンテーション		選必2		2～	閉講
ドイツ語Ⅰ 文法	泉谷 千尋 織田 晶子 早崎 えりな	選必4	通年	1	△ ○ 「ドイツ語Ⅰ 読本」と同年度に履修すること
ドイツ語Ⅰ 読本	泉谷 千尋 織田 晶子 早崎 えりな	選必4	通年	1	△ ○ 「ドイツ語Ⅰ 文法」と同年度に履修すること
ドイツ語Ⅱ(前期)	泉谷 千尋	選必2	前期	2～	△ ☆
ドイツ語Ⅱ(後期)	泉谷 千尋	選必2	後期	2～	△ ☆
ドイツ語Ⅲ(前期)		選必2		3～	閉講
ドイツ語Ⅲ(後期)		選必2		3～	閉講
ドイツ語原典講読(前期)	織田 晶子	選必2	前期	2～	△ ☆ ○
ドイツ語原典講読(後期)	早崎 えりな	選必2	後期	2～	△ ☆ ○
ドイツ語会話Ⅰ		選必4		1～	閉講
ドイツ語会話Ⅰ(前期)	(未定)	選必2	前期	1～	△ ☆ ○ 2016 年度入学者より適用の外国語科目「ドイツ語会話(前 期)」と合同授業
ドイツ語会話Ⅰ(後期)	(未定)	選必2	後期	1～	△ ☆ ○ 2016 年度入学者より適用の外国語科目「ドイツ語会話(後 期)」と合同授業
ドイツ語会話Ⅱ		選必4		2～	閉講
ドイツ語会話Ⅲ		選必4		3・4	閉講

授 業 科 目 名	担 当 者 名	単位数	期	年次	備考
集中ドイツ語	田中 洋	選2	前期	2～	△ ☆ ○ 集中 目白地区開講 8月17日～19日、21日、22日
フランス語Ⅰ文法	畠山 香奈 宮川 慎也 加倉井 仁	選必4	通年	1	△ ○ 「フランス語Ⅰ読本」と同年度に履修すること
フランス語Ⅰ読本	高井 奈緒 宮川 慎也 小幡 一雄	選必4	通年	1	△ ○ 「フランス語Ⅰ文法」と同年度に履修すること
フランス語Ⅱ(前期)	小幡 一雄 加倉井 仁	選必2	前期	2～	△ ☆
フランス語Ⅱ(後期)	小幡 一雄 加倉井 仁	選必2	後期	2～	△ ☆
フランス語Ⅲ(前期)		選必2		3～	閉講
フランス語Ⅲ(後期)		選必2		3～	閉講
フランス語原典講読(前期)	高井 奈緒	選必2	前期	2～	△ ☆ ○
フランス語原典講読(後期)	高井 奈緒	選必2	後期	2～	△ ☆ ○
フランス語会話Ⅰ		選必4		1～	閉講
フランス語会話Ⅰ(前期)	B.P.レウルス 畠山 香奈	選必2	前期	1～	△ ○ 「フランス語会話Ⅰ」の単位取得者は履修不可
フランス語会話Ⅰ(後期)	B.P.レウルス 畠山 香奈	選必2	後期	1～	△ ○ 「フランス語会話Ⅰ」の単位取得者は履修不可
フランス語会話Ⅱ		選必4		2～	閉講
フランス語会話Ⅱ(前期)	B.P.レウルス	選必2	前期	2～	△ ☆
フランス語会話Ⅱ(後期)	B.P.レウルス	選必2	後期	2～	△ ☆
フランス語会話Ⅲ		選必4		3・4	閉講
集中フランス語	三宅 京子	選2	前期	2～	△ ☆ ○ 集中 目白地区開講 8月14日、15日、17日～20日
中国語Ⅰ文法	張 培華 黄 昱 田中 千寿	選必4	通年	1	△ ○ 「中国語Ⅰ読本」と同年度に履修すること
中国語Ⅰ読本	鄒 越凌 陸 樹芳	選必4	通年	1	△ ○ 「中国語Ⅰ文法」と同年度に履修すること
中国語Ⅱ(前期)	三田 明弘 張 培華	選必2	前期	2～	△ ☆
中国語Ⅱ(後期)	三田 明弘 張 培華	選必2	後期	2～	△ ☆
中国語Ⅲ(前期)		選必2		3～	閉講
中国語Ⅲ(後期)		選必2		3～	閉講
中国語原典講読(前期)	三田 明弘	選必2	前期	2～	△ ☆ ○
中国語原典講読(後期)	三田 明弘	選必2	後期	2～	△ ☆ ○
中国語会話Ⅰ		選必4		1～	閉講
中国語会話Ⅰ(前期)	鄒 越凌	選必2	前期	1～	△ ○ 「中国語会話Ⅰ」の単位取得者は履修不可
中国語会話Ⅰ(後期)	鄒 越凌	選必2	後期	1～	△ ○ 「中国語会話Ⅰ」の単位取得者は履修不可
中国語会話Ⅱ		選必4		2～	閉講
中国語会話Ⅱ(前期)	黄 昱	選必2	前期	2～	△ ☆ ○
中国語会話Ⅱ(後期)	黄 昱	選必2	後期	2～	△ ☆ ○
中国語会話Ⅲ		選必4		3・4	閉講
集中中国語	蘆 尤	選2	前期	2～	△ ☆ ○ 集中 目白地区開講 8月11日～14日、17日
イタリア語Ⅰ文法	山手 昌樹	選必4	通年	1	△ ○ 「イタリア語Ⅰ実用」と同年度に履修すること
イタリア語Ⅰ実用	ジョヴァニ・シモーネ	選必4	通年	1	△ ○ 「イタリア語Ⅰ文法」と同年度に履修すること
イタリア語Ⅱ(前期)	山手 昌樹	選必2	前期	2～	△ ☆
イタリア語Ⅱ(後期)	山手 昌樹	選必2	後期	2～	△ ☆
イタリア語原典講読(前期)	佐々木 雄大	選必2	前期	2～	△ ☆ ○
イタリア語原典講読(後期)	佐々木 雄大	選必2	後期	2～	△ ☆ ○
韓国語Ⅰ文法	朴 倍暎 金 福子	選必4	通年	1	△ ○ 「韓国語Ⅰ実用」と同年度に履修すること

授 業 科 目 名	担 当 者 名	単位数	期	年次	備考
韓国語Ⅰ 実用	李 垠松 吳 世蓮	選必4	通年	1	△ ○ 「韓国語Ⅰ 文法」と同年度に履修すること
韓国語Ⅱ (前期)	朴 美京 李 垠松	選必2	前期	2～	△ ☆
韓国語Ⅱ (後期)	朴 美京 李 垠松	選必2	後期	2～	△ ☆
韓国語原典講読(前期)	朴 倍暎	選必2	前期	2～	△ ☆ ○
韓国語原典講読(後期)	朴 倍暎	選必2	後期	2～	△ ☆ ○

現代社会学科

1 学 科 の 方 針

現代社会学科の理念は、激動する現代社会を人間の視点から総合的かつ系統的に理解し、現代社会がもたらむ諸問題を的確に把握することです。さらにその解決方法を構想できる、豊かな実践的能力の習得を目指しています。

この目的に即して、教育上の重点は以下の通りです。

- (1)社会学、社会史、経済学、文化人類学、歴史学、スポーツ社会学などの社会諸科学の理論と方法を学習し、現代社会を多角的に理解する。
- (2)個人、家族、企業というミクロな存在から、地域、民族、国家、環境、国際関係、グローバリズムなどのより広い領域に至るまで、社会内の諸問題を総合的な視座から学習する。
- (3)社会調査や情報処理などのデータの収集と分析の技法を学習する。
- (4)以上の学習を踏まえて、自らのテーマを設定し、高度の専門的な研究を行う。

2 カリキュラムの構成と特徴

本学科のカリキュラムは、基本科目、学科専門科目、展開科目、自由選択科目の授業科目区分によって構成されています。また4年間の学習は、ジュニア段階（低学年）とシニア段階（高学年）の二段階に大別できます。

- (1)基本科目は、専門的な学習のための基礎的な科目群である。2015 年度入学者までは、外国語演習Ⅰ・Ⅱ、外国語科目と、基礎演習によって構成される。2016 年度入学者よりは、外国語演習Ⅱ、外国語科目と、基礎演習によって構成される。外国語科目の詳細については、2015 年度入学者まではP41、2016 年度入学者よりはP35 を参照のこと。
- (2)学科専門科目は、専門的な学習の中核的科目群である。「演習・卒業論文」を中心に、「情報処理・調査技術」、「メディアと社会」、「現代社会論」、「日本社会論」、「比較社会論」、「家族と生活」、「女性と労働」、「国際社会とグローバリズム」、「スポーツ・健康・社会」といった主題別科目群によって構成される。
- (3)展開科目は教養のための科目群である。（P109～を参照すること）
- (4)自由選択科目は、本学科または本学科以外の開講科目から自由に選択し、卒業に必要な単位に算入する（なお、一部の授業科目は履修が制限されている）。

4年間の学習内容の重点は以下の通りです。

まずジュニア段階では、

- (1)基礎演習（基本科目）を中心に、現代社会への問題関心を養うとともに、基礎的な理論と研究技術を学習する。
- (2)外国語演習、外国語（ともに基本科目）を学習することによって、専門的な学習に必要な外国語能力を習得する。
- (3)教養特別講義、展開科目を学習することによって、豊かな教養を習得し、心身の健康を獲得する。
- (4)学科専門科目を学習することによって、専門的な理論や技術の習得に着手する。

さらにシニア段階では、

- (1)自らの問題関心に即して、学科専門科目の主題別科目群から選択し、多角的・系統的に、さらに専門的・応用的な学習を深める。また展開科目で指定した科目群を学習し、専門的な知識を異なる視点から多角的に考察することによって、自己の教養を深める。
- (2)専門の演習に参加し、卒業論文を作成することにより、自らの問題関心にもとづいて研究を行い、人間性を尊ぶ実践的・専門的能力の向上を図る。

3 履 修 に お い て 望 む こ と

学生諸君は自らの学習目標にしたがい、4年間の履修計画を立てることが大切です。

4 履修の方法

[卒業するために履修すべき最低修得単位数]

(2016年度入学者より適用)

科目区分		単位数	履修内容等
教養特別講義（必修）		2	
基本科目	必修	28	外国語科目(16)〈ベーシック・イングリッシュ(8)、ドイツ語・フランス語・中国語・イタリア語・韓国語より同一言語を選択必修(8)〉P.35～を参照、基礎演習(8)、外国語演習Ⅱ(4)
学科専門科目	必修	14	演習Ⅰ(4)、演習Ⅱ(4)、卒業論文(6)
	選択	46	
展開科目	必修	2	社会スポーツ実習(2) P.115を参照
	選択	24	P.109を参照
自由選択		8	所属学科又は所属学科以外の科目 ※
合計		124	

※ 所属学科又は所属学科以外の科目（自由選択）の単位について

「基本科目（外国語科目を含む）」、「学科専門科目（選択）」、「展開科目」において、卒業するために必要な単位数以上の単位を修得した場合は、超えた単位数を自由選択として算入することができます。また、「資格等に関する科目」、「他学部他学科の開講科目」、「キャリア形成科目」、「本学の定めるところにより他の大学等において履修した授業科目」も自由選択として算入することができます。ただし、卒業するために必要な単位に含めない授業科目（授業科目表の備考欄に◆印のある科目、教育学科以外に◇印のある科目も含む）の単位は除きます。

(2015年度入学者まで適用)

科目区分		単位数	履修内容等
教養特別講義（必修）		2	
基本科目	必修	24	外国語科目(8)P.41～を参照、基礎演習(8)、外国語演習Ⅰ(4) 外国語演習Ⅱ(4)
学科専門科目	必修	14	演習Ⅰ(4)、演習Ⅱ(4)、卒業論文(6)
	選択	46	
展開科目	必修	2	社会スポーツ実習(2) P.115を参照
	選択	24	P.109を参照
自由選択		12	所属学科又は所属学科以外の科目 ※
合計		124	

※ 所属学科又は所属学科以外の科目（自由選択）の単位について

「基本科目（外国語科目を含む）」、「学科専門科目（選択）」、「展開科目」において、卒業するために必要な単位数以上の単位を修得した場合は、超えた単位数を自由選択として算入することができます。また、「資格等に関する科目」、「他学部他学科の開講科目」、「キャリア形成科目」、「本学の定めるところにより他の大学等において履修した授業科目」も自由選択として算入することができます。ただし、卒業するために必要な単位に含めない授業科目（授業科目表の備考欄に◆印のある科目、教育学科以外に◇印のある科目も含む）の単位は除きます。

2020 年度 現代社会学科 授業科目表 基本科目

授 業 科 目 名	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
基礎演習ⅠA	マニユエル・ヤン 大沢 真知子 渋谷 望 西村 一之 高橋 順子	必2	前期	1	▲
基礎演習ⅠB	尾中 文哉 池田 和弘 遠藤 知巳 田中 大介 上田 誠二	必2	後期	1	▲
基礎演習ⅡA	尾中 文哉 池田 和弘 遠藤 知巳 田中 大介 上田 誠二	必2	前期	2	▲
基礎演習ⅡB	マニユエル・ヤン 和泉 広恵 大沢 真知子 渋谷 望 西村 一之	必2	後期	2	▲
外国語演習ⅠA		必2		1	閉講 2015 年度入学者まで必修 単位未修得者は欄外を参照
外国語演習ⅠB		必2		1	閉講 2015 年度入学者まで必修 単位未修得者は欄外を参照
外国語演習ⅡA	和泉 広恵 遠藤 知巳 マニユエル・ヤン 三原 武司	必2	前期	2	▲ ○ 2020 年度 和泉広恵クラス休講
外国語演習ⅡB	和泉 広恵 マニユエル・ヤン 木村 絵里子 三原 武司	必2	後期	2	▲ ○ 2020 年度 和泉広恵クラス休講

2020 年度 現代社会学科 授業科目表 学科専門科目

授 業 科 目 名	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
演習Ⅰ	池田 和弘 和泉 広恵 遠藤 知巳 大沢 真知子 大沼 義彦 尾中 文哉 マニユエル・ヤン 渋谷 望 田中 大介 上田 誠二 西村 一之 平田 由紀江	必4	通年	3	▲ ○ 2020 年度 平田由紀江クラス休講 2020 年度 和泉広恵クラス休講
演習Ⅱ	池田 和弘 和泉 広恵 遠藤 知巳 大沢 真知子 大沼 義彦 尾中 文哉 マニユエル・ヤン 渋谷 望 田中 大介 上田 誠二 西村 一之 平田 由紀江	必4	通年	4	▲ ○ 2020 年度 平田由紀江クラス休講 2020 年度 和泉広恵クラス休講
卒業論文	池田 和弘 和泉 広恵 遠藤 知巳 大沢 真知子 大沼 義彦 尾中 文哉 マニユエル・ヤン 渋谷 望 田中 大介 上田 誠二 西村 一之 平田 由紀江	必6		4	▲ 2020 年度 平田由紀江クラス休講 2020 年度 和泉広恵クラス休講

授 業 科 目 名 ＜サブタイトル＞	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
社会調査・統計論Ⅰ		選2		2～	閉講
社会調査・統計論Ⅱ		選2		2～	閉講
社会統計基礎Ⅰ ＜社会調査の基本的な考え方を学ぶ＞	明戸 隆浩	選2	前期	2～	○
社会統計基礎Ⅱ ＜社会調査を設計すること＞	明戸 隆浩	選2	後期	2～	○
社会データ分析ⅠA ＜Excel で調査データをみる＞	明戸 隆浩	選2	前期	2～	○
社会データ分析ⅠB ＜統計ソフトで学ぶ統計の基礎＞	明戸 隆浩	選2	後期	2～	○
社会データ分析ⅡA ＜アンケート調査のクロス表分析＞	池田 和弘	選2	前期	2～	○
社会データ分析ⅡB ＜アンケート調査の多変量解析＞	池田 和弘	選2	後期	2～	○
ライフストーリー／ライフヒストリー (質的調査Ⅰ) ＜「人々」と「生活」への接近＞	門林 道子	選2	前期	2～	社会福祉学科との連携科目
テキストを「調査」する(質的調査Ⅱ)	曹 慶鎬	選2	後期	2～	社会福祉学科との連携科目
社会調査演習Ⅰ		選4		2～	閉講
社会調査基礎演習	西村 一之	選4	通年	2～	☆ 校外集中あり
外国語演習ⅢA		選2		3・4	閉講
外国語文献演習A		選2		3・4	閉講
英語文献演習A	遠藤 知巳	選2	前期	2～	2020 年度休講
外国語演習ⅢB		選2		3・4	閉講
外国語文献演習B		選2		3・4	閉講
英語文献演習B		選2	後期	2～	2020 年度休講
現代社会論Ⅰ ＜インターネット時代のマス・メディア＞	遠藤 知巳	選2	前期	2～	文化学科「メディア論」と共通 ㊦
現代社会論Ⅱ ＜「平成」から考える＞	遠藤 知巳	選2	後期	2～	
現代社会論Ⅲ ＜都市とメディアの社会学＞	田中 大介	選2	前期	2～	㊦
現代社会論Ⅳ ＜モビリティ論＞	田中 大介	選2	後期	2～	㊦
現代社会論Ⅴ ＜ボブ・ディランと1970～2010 年代の 現代アメリカ社会＞	マニエル・ヤン	選2	後期	2～	(展)
現代社会論Ⅵ ＜カンボジアの社会構造と文化＞	朝日 由実子	選2	前期	2～	隔年 (展)
現代社会論Ⅶ ＜情報社会論＞	阿部 勘一	選2	前期	2～	㊦(展)
現代社会論Ⅷ		選2		2～	閉講
現代社会論Ⅸ	木村 絵里子	選2	前期	2～	
社会学原論Ⅰ	田中 大介	選2	前期	2～	社会福祉学科・教育学科・文化学科「社会学原論Ⅰ」と共通
社会学原論Ⅱ	田中 大介	選2	後期	2～	社会福祉学科・教育学科・文化学科「社会学原論Ⅱ」と共通
社会学理論 ＜未成年状態からの脱出ー思春期とし ての情報メディア時代ー＞	秋元 健太郎	選2	前期	2～	
ジェンダー論 ＜ジェンダーとセクシュアリティ＞	飯野 由里子	選2	後期	2～	

授 業 科 目 名 ＜サブタイトル＞	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
社会学史 ＜アニメ・文学でたどる「学」の流れ＞	尾中 文哉	選2	前期	2～	隔年
社会学の方法	遠藤 知巳	選2	後期	2～	隔年 2020 年度休講
日本社会論Ⅰ		選2		1～	閉講
日本社会論Ⅱ		選2		1～	閉講
日本社会論Ⅲ	上田 誠二	選2	前期	2～	文化学科「日本社会史Ⅰ」と共通
日本社会論Ⅳ	上田 誠二	選2	後期	2～	文化学科「日本社会史Ⅱ」と共通
日本社会論Ⅴ		選2		1～	閉講 (展)
日本社会論Ⅵ		選2		1～	閉講 (展)
日本社会論Ⅶ ＜沖縄学＞	高橋 順子	選2	後期	2～	
日本社会論Ⅷ ＜近代日本の女性史＞	大久保 由理	選2	後期	2～	
地域社会論Ⅰ(都市)	渋谷 望	選2	前期	2～	(展)
地域社会論Ⅱ(都市) ＜コモンスとしての都市＞	渋谷 望	選2	後期	2～	(展)
地域社会論Ⅲ(農村)	尾中 文哉	選2	前期	1～	隔年 2020 年度休講 (展)
地域社会論Ⅳ(農村)	尾中 文哉	選2	後期	1～	隔年 2020 年度休講 (展)
社会階層論Ⅰ	大沢 真知子	選2	前期	2～	㊦
労働経済論Ⅰ		選2	前期	2～	隔年 2020 年度休講 (展)
社会階層論Ⅱ		選2		2～	閉講
労働経済論Ⅱ	大沢 真知子	選2	後期	2～	隔年 2020 年度休講 (展)
日本史学論	上田 誠二	選2	前期	2～	社会福祉学科・教育学科・文化学科「日本史学論」と共通
日本史学方法論	上田 誠二	選2	後期	2～	社会福祉学科・教育学科・文化学科「日本史学方法論」と共通
日本政治思想Ⅰ ＜近代日本の「南方」観?東南アジアとミクロネシア＞	大久保 由理	選2	前期	2～	
日本政治思想Ⅱ		選2		2～	閉講
現代家族論Ⅰ	高橋 幸	選2	前期	2～	(展)
現代家族論Ⅱ	和泉 広恵	選2	後期	2～	
現代生活論Ⅰ ＜女性が働き続ける社会とは?＞	中野 裕美子	選2	前期	2～	隔年
現代生活論Ⅱ ＜女性の役割革命は起こせるか＞	大沢 真知子	選2	後期	2～	隔年
現代生活論Ⅲ ＜消費社会と生活＞	渋谷 望	選2	前期	2～	㊦
現代生活論Ⅳ ＜現代生活と労働＞	渋谷 望	選2	後期	1～	㊦
現代経済論Ⅰ	込江 雅彦	選2	前期	2～	教育学科・文化学科「現代経済論Ⅰ」と共通
現代経済論Ⅱ	込江 雅彦	選2	後期	2～	教育学科・文化学科「現代経済論Ⅱ」と共通
環境の社会学Ⅰ	池田 和弘	選2	前期	2～	㊦
環境の社会学Ⅱ	池田 和弘	選2	後期	2～	㊦
グローバリズムの社会学Ⅰ	羅 一等	選2	前期	2～	
グローバリズムの社会学Ⅱ	平田 由紀江	選2	後期	2～	隔年 2020 年度休講
女性と産業労働		選2		1～	閉講

授 業 科 目 名 ＜サブタイトル＞	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
労働移住の社会史		選2		1～	閉講
社会政策Ⅰ		選2		2～	閉講 (展)
社会政策Ⅱ		選2		2～	閉講 (展)
経営学	工藤 悟志	選2	後期	2～	
経済学概論	金 明中	選2	前期	1～	
会計学	岸田 隆行	選2	前期	2～	
現代法体系Ⅰ	樋口 雄人	選2	前期	2～	(展)
現代法体系Ⅱ ＜法へのアクセスと裁判＞	田中 佑季	選2	後期	2～	(展)
行政学Ⅰ	牛山 久仁彦	選2	前期	2～	
行政学Ⅱ ＜日本の政官関係と地方分権＞	牛山 久仁彦	選2	後期	2～	
行政法	武田 真一郎	選2	前期	2～	
文化人類学Ⅰ	西村 一之	選2	前期	1～	文化学科「文化人類学Ⅰ」と共通 ①(展)
文化人類学Ⅱ	西村 一之	選2	後期	2～	☆ 文化学科「文化人類学Ⅱ」と共通 ①(展)
人口学Ⅰ ＜日本の少子高齢・人口減少社会を読み解く＞	福田 節也	選2	前期	2～	(展)
人口学Ⅱ		選2		2～	閉講 (展)
地理学の方法 ＜学問としての地理学の見方＞	三浦 尚子	選2	前期	2～	社会福祉学科・教育学科・文化学科「地理学の方法」と共通
人文地理学 ＜地理学からみた現代都市＞	三浦 尚子	選2	後期	2～	社会福祉学科・教育学科・文化学科「人文地理学」と共通
自然地理学	青木 かおり	選2	後期	2～	(展)
政治学概論Ⅰ	片岡 大右	選2	前期	2～	社会福祉学科・教育学科・文化学科「政治学概論Ⅰ」と共通
政治学概論Ⅱ		選2		2～	閉講
法学概論	篠原 亘	選2	前期	1～	社会福祉学科・教育学科・文化学科「法学概論」と共通
比較社会論Ⅰ ＜タイ/日本における関係と身体＞	尾中 文哉	選2	前期	2～	隔年 ①(展)
比較社会論Ⅱ ＜イギリス/日本/タイにおける関係と身体＞	尾中 文哉	選2	後期	2～	隔年 ①(展)
比較社会論Ⅲ	遠藤 知巳	選2	後期	1～	隔年 (展)
比較社会論Ⅳ ＜韓国社会のハードウェア＞	尾中 文哉	選2	後期	1～	隔年 (展)
比較社会論Ⅴ ＜音楽と結婚を通してアフリカ社会を理解する。＞	鈴木 裕之	選2	前期	1～	(展)
比較社会論Ⅵ	西村 一之	選2	後期	2～	隔年 2020 年度休講 (展)
比較社会論Ⅶ ＜ボブ・ディランと 1950～60 年代の現代アメリカ史＞	マニエル・ヤン	選2	前期	1～	①(展)
比較社会論Ⅷ ＜現代中東社会論＞	井堂 有子	選2	後期	1～	(展)
比較社会論Ⅸ ＜台湾の日本認識と植民地経験＞	西村 一之	選2	前期	2～	2014 年度入学者より展開科目に該当 (展)
比較社会論Ⅹ		選2		1～	閉講
社会スポーツ・レジャー論Ⅰ	大沼 義彦	選2	前期	2～	
社会スポーツ・レジャー論Ⅱ	大沼 義彦	選2	後期	2～	

授 業 科 目 名 ＜サブタイトル＞	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
東洋史学論	三王 昌代	選2	前期	2	社会福祉学科・教育学科・文化学科「東洋史学論」と共通
東洋史学方法論	三王 昌代	選2	後期	2	社会福祉学科・教育学科・文化学科「東洋史学方法論」と共通
西洋史学論	佐藤 育子	選2	前期	2	社会福祉学科・教育学科・文化学科「西洋史学論」と共通
西洋史学方法論	佐藤 育子	選2	後期	2	社会福祉学科・教育学科・文化学科「西洋史学方法論」と共通
地誌学Ⅰ	池 俊介	選2	前期	2	社会福祉学科・教育学科・文化学科「地誌学Ⅰ」と共通
地誌学Ⅱ	池 俊介	選2	後期	2	社会福祉学科・教育学科・文化学科「地誌学Ⅱ」と共通 「地誌学Ⅰ」の単位取得者が望ましい
哲学概説Ⅰ	佐々木 雄大	選2	前期	2	社会福祉学科・教育学科・文化学科「哲学概説Ⅰ」と共通
哲学概説Ⅱ ＜人間・動物・物の哲学＞	佐々木 雄大	選2	後期	2	社会福祉学科・教育学科・文化学科「哲学概説Ⅱ」と共通 「哲学概説Ⅰ」の単位取得者が望ましい
倫理学Ⅰ ＜倫理はどのように成立するか？＞	田中 久文	選2	前期	1～	○ 社会福祉学科・教育学科・文化学科「倫理学Ⅰ」と共通 2019年度入学者より学科専門科目 履修については欄外を参照
倫理学Ⅱ ＜恋愛・家族・国家、応用倫理を考える＞	田中 久文	選2	後期	1～	○ 社会福祉学科・教育学科・文化学科「倫理学Ⅱ」と共通 2019年度入学者より学科専門科目 履修については欄外を参照
外国大学社会科学関連科目		選1		2～	▲ ☆ 学則による留学をした学生の単位認定にのみ適用

「外国語演習ⅠA」について

2015年度以前の入学者で「外国語演習ⅠA」の単位未修得者は、2016年度以降に外国語科目「英語」を1科目2単位履修すること。なお、履修については学科の指示に従うこと。

「外国語演習ⅠB」について

2015年度以前の入学者で「外国語演習ⅠB」の単位未修得者は、2016年度以降に外国語科目「英語」を1科目2単位履修すること。なお、履修については学科の指示に従うこと。

「倫理学Ⅰ」「倫理学Ⅱ」について

2019年度入学者より学科専門科目の単位数に含める。

2018年度入学者までは、学科専門科目の単位数に含まれず、自由選択科目の単位数となる。

2020年度 現代社会学科 開講授業科目一覧

基本科目（外国語科目については 2016 年度入学者よりは P. 35、2015 年度入学者までは P. 41 を参照）

必 修 科 目				
年次	前 期	単位	後 期	単位
1 年次	基礎演習ⅠA	2	基礎演習ⅠB	2
2 年次	基礎演習ⅡA 外国語演習ⅡA	2 2	基礎演習ⅡB 外国語演習ⅡB	2 2

学科専門科目

必 修 科 目					選 択 科 目			
年次	前 期	単位	後 期	単位	前 期	単位	後 期	単位
1 年次～					経済学概論	2	現代生活論Ⅳ	2
					文化人類学Ⅰ	2	比較社会論Ⅲ	2
					法学概論	2	比較社会論Ⅳ	2
					比較社会論Ⅴ	2	比較社会論Ⅶ	2
					比較社会論Ⅶ	2	倫理学Ⅱ □	2
					倫理学Ⅰ □	2		
2 年次					東洋史学論	2	東洋史学方法論	2
					西洋史学論	2	西洋史学方法論	2
					地誌学Ⅰ	2	地誌学Ⅱ	2
					哲学概説Ⅰ	2	哲学概説Ⅱ	2
2 年次～					社会統計基礎Ⅰ	2	社会統計基礎Ⅱ	2
					社会データ分析ⅠA	2	社会データ分析ⅠB	2
					社会データ分析ⅡA	2	社会データ分析ⅡB	2
					ライフストーリー/ライフヒストリー （質的調査Ⅰ）	2	テキストを「調査」する （質的調査Ⅱ）	2
					現代社会論Ⅰ	2	現代社会論Ⅱ	2
					現代社会論Ⅲ	2	現代社会論Ⅳ	2
					現代社会論Ⅵ	2	現代社会論Ⅴ	2
					現代社会論Ⅶ	2	社会学原論Ⅱ	2
					現代社会論Ⅸ	2	ジェンダー論	2
					社会学原論Ⅰ	2	日本社会論Ⅳ	2
					社会学理論	2	日本社会論Ⅶ	2
					社会学史	2	日本社会論Ⅷ	2
					日本社会論Ⅲ	2	地域社会論Ⅱ（都市）	2
					地域社会論Ⅰ（都市）	2	日本史学方法論	2
					社会階層論Ⅰ	2	現代家族論Ⅱ	2
					日本史学論	2	現代生活論Ⅱ	2
					日本政治思想Ⅰ	2	現代経済論Ⅱ	2
					現代家族論Ⅰ	2	環境の社会学Ⅱ	2
					現代生活論Ⅰ	2	経営学	2
					現代生活論Ⅲ	2	現代法体系Ⅱ	2
					現代経済論Ⅰ	2	行政学Ⅱ	2
					環境の社会学Ⅰ	2	文化人類学Ⅱ	2
					グローバリズムの社会学Ⅰ	2	人文地理学	2
					会計学	2	自然地理学	2
					現代法体系Ⅰ	2	比較社会論Ⅱ	2
					行政学Ⅰ	2	社会スポーツ・レジャー論Ⅱ	2
					行政法	2		
					人口学Ⅰ	2		
					地理学の方法	2		
					政治学概論Ⅰ	2		
					比較社会論Ⅰ	2		
					比較社会論Ⅸ	2		
					社会スポーツ・レジャー論Ⅰ	2		
					社会調査基礎演習			4
					外国大学社会科学関連科目			1
3 年次	演習Ⅰ			4				
4 年次	演習Ⅱ 卒業論文			4 6				

赤字は必修 □は2018年度入学者までは学科専門科目の単位数に含めない授業科目

各開講科目の履修要件等については、授業科目表とその履修方法を確認してください。

年次欄は、授業科目を何年次から履修できるかを示します。（詳細は P.29 を参照）

現
社

社会福祉学科

1 学科の方針

日本で最初にできた社会福祉学科で、この 90 年余の歴史の中で 5,000 人に達する卒業生を送り出しています。人間尊重の精神と社会・文化に関する深い教養を培うとともに、多様化する社会問題に対して新しい福祉の創造に意欲を燃やす人材の育成に努めています。

所定の科目を履修すると「社会福祉士」、「精神保健福祉士」の国家試験受験資格が得られますが、本学科の教育は単に資格取得だけを目的としたものではなく、現代的な社会問題をきめ細かく検証し、それらを解決へと導く能力の育成を目指しています。

2 カリキュラムの構成と特徴

社会福祉学科の科目は、社会福祉学科が提供する科目と他学科が提供する科目からなります。

社会福祉学科提供の専門科目は大別すると、(A) 社会福祉の問題についての歴史的・科学的な認識、(B) それに関する法や制度・政策の体系的理解、(C) それらの具体的応用、すなわち問題解決のための専門技術・方法の習得という三本柱、プラス (D) それらの総理解・学習、(E) 個別領域群別の学習という 5 群から構成されています。これと並行して、他学科の科目を履修できます。

学生の興味と関心に従い自主的に学習できるよう、必修科目を他大学、他学科に比べきわめて少なく、限定しています。

3 履修において望むこと

1. バランスよく履修し、学年毎にとりすぎないこと。
2. 資格の取得は科目履修の方向性に大きな影響を与えます。取得計画を立てる場合はその必要性を十分吟味し、個人の勉学計画の中に無理なくおさまるか検討すること。
3. 実習を希望する際は、その動機や自己の課題を明確にして臨むこと。

4 履修方法

[卒業するために履修すべき最低修得単位数]

(2016年度入学者より適用)

科目区分		単位数	履修内容等
教養特別講義（必修）		2	
基本科目	必修	16	外国語科目(8)〈ベーシック・イングリッシュ〉P.35～を参照、基礎演習Ⅰ(2)、基礎演習Ⅱ(2)、労働法(2)、社会問題(2)
学科専門科目	必修	26	社会福祉演習Ⅰ(4)、社会福祉演習Ⅱ(4) 卒業研究(6)、社会福祉原理論Ⅰ・Ⅱ(4)、社会福祉行政論(2) 社会福祉援助技術総論(2)、社会福祉発達史(2)、地域福祉論(2)
	選択	28	
展開科目		22	P.109を参照
自由選択		30	所属学科又は所属学科以外の科目 ※
合計		124	

※ 所属学科又は所属学科以外の科目（自由選択）の単位について

「基本科目（外国語科目を含む）」、「学科専門科目（選択）」、「展開科目」において、卒業するために必要な単位数以上の単位を修得した場合は、超えた単位数を自由選択として算入することができます。また、「資格等に関する科目」、「他学部他学科の開講科目」、「キャリア形成科目」、「本学の定めるところにより他の大学等において履修した授業科目」も自由選択として算入することができます。ただし、卒業するために必要な単位に含めない授業科目（授業科目表の備考欄に◆印のある科目、教育学科以外に◇印のある科目も含む）の単位は除きます。

(2009年度入学者より2015年度入学者まで適用)

科目区分		単位数	履修内容等
教養特別講義（必修）		2	
基本科目	必修	16	基礎演習Ⅰ(2)、基礎演習Ⅱ(2) 社会福祉研究（外国語）(8)、労働法(2)、社会問題(2)
学科専門科目	必修	26	社会福祉演習Ⅰ(4)、社会福祉演習Ⅱ(4) 卒業研究(6)、社会福祉原理論Ⅰ・Ⅱ(4)、社会福祉行政論(2) 社会福祉援助技術総論(2)、社会福祉発達史(2)、地域福祉論(2)
	選択	28	
展開科目		22	P.109を参照
自由選択		30	所属学科又は所属学科以外の科目 ※
合計		124	

※ 所属学科又は所属学科以外の科目（自由選択）の単位について

「基本科目（外国語科目を含む）」、「学科専門科目（選択）」、「展開科目」において、卒業するために必要な単位数以上の単位を修得した場合は、超えた単位数を自由選択として算入することができます。また、「資格等に関する科目」、「他学部他学科の開講科目」、「キャリア形成科目」、「本学の定めるところにより他の大学等において履修した授業科目」も自由選択として算入することができます。ただし、卒業するために必要な単位に含めない授業科目（授業科目表の備考欄に◆印のある科目、教育学科以外は◇印のある科目も含む）の単位は除きます。

2020 年度 社会福祉学科 授業科目表 基本科目

系列	授 業 科 目 名 ＜サブタイトル＞	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
問題・認識	基礎演習Ⅰ	赤澤 輝和 黒岩 亮子 小山 聡子 渡部 律子 沈 潔 林 浩康 久田 則夫 増田 幸弘 引土 絵未	必2	後期	1	▲
	基礎演習Ⅱ	黒岩 亮子 増田 幸弘 永井 暁子 沈 潔 大部 令絵	必2	前期	1	▲
	社会福祉研究(外国語)Ⅰ		必2		1	閉講 単位未修得者は欄外を参照 2015 年度入学者まで必修
	社会福祉研究(外国語)Ⅱ		必2		1	閉講 単位未修得者は欄外を参照 2015 年度入学者まで必修
	社会福祉研究(外国語)Ⅲ	永井 暁子	必2	前期	2	▲ 2015 年度入学者まで必修 2015 年度入学者まで履修可
	社会福祉研究(外国語)Ⅳ	永井 暁子	必2	後期	2	▲ 2015 年度入学者まで必修 2015 年度入学者まで履修可
	社会問題	黒岩 亮子	必2	前期	1	▲
制度・政策	労働法 ＜雇用社会のルール＞	増田 幸弘	必2	前期	2	「法学概論」を履修済または履修中が望ましい

2020 年度 社会福祉学科 授業科目表 学科専門科目

系列	授 業 科 目 名 ＜サブタイトル＞	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
問題・認識	社会福祉発達史	沈 潔	必2	前期	1	
	社会思想論	相澤 哲	選2	後期	1～	
	福祉国家論(社会保障史)	坪 洋一	選2	前期	2～	
	社会福祉原理論Ⅰ	坪 洋一	必2	前期	3	(展)
	社会福祉原理論Ⅱ	坪 洋一	必2	後期	3	
制度・政策	法学概論	篠原 亘	選2	前期	1～	現代社会学科・教育学科・文化学科「法学概論」と共通
	社会学概論	永井 暁子	選2	前期	1～	
	児童福祉論	林 浩康	選2	後期	1～	(展)
	障害福祉論	下尾 直子	選2	前期	1～	
	老人福祉論	渡部 律子	選2	後期	1～	
	司法福祉制度論	幾代 聡	選2	前期	2～	
	財政学		選2	前期	2～	隔年 2020 年度休講
	社会保障論	増田 幸弘	選2	後期	2～	(展)
	社会福祉法制	増田 幸弘	選2	後期	2～	
	医療法制 ＜生命倫理と法＞	増田 幸弘	選2	前期	2～	①
	社会福祉行政論	坪 洋一	必2	後期	1～	
	社会政策Ⅰ		選2		2～	閉講 (展)
	社会政策Ⅱ		選2		2～	閉講 (展)
	社会政策	村田 文世	選2	後期	2～	
方法	社会福祉援助技術総論	久田 則夫	必2	後期	1	
	社会福祉とキャリア	黒岩 亮子 辻村 あずさ	選2	後期	1	▲ 旧「社会福祉実習論」 原則として1年次履修

系列	授 業 科 目 名 ＜サブタイトル＞	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
方 法	社会福祉援助技術論Ⅰ	中條 共子	選2	前期	2～	
	社会福祉援助技術論Ⅱ	黒岩 亮子	選2	後期	2～	
	社会福祉調査	永井 暁子	選2	前期	2～	
	社会福祉援助技術演習Ⅰ	小山 聡子 林 浩康 大澤 朋子	選2	前期	2～	▲
	社会福祉援助技術演習Ⅱ	久田 則夫 岩垣 穂大 今井 美之	選2	後期	2～	▲
	社会福祉援助技術演習Ⅲ	渡部 律子 岩垣 穂大 小原 眞知子	選2	前期	3～	▲
	社会福祉援助技術演習Ⅳ	増田 幸弘 川上 るり子 前廣 美保	選2	後期	3	▲
	社会福祉援助技術演習Ⅴ	赤澤 輝和 大澤 朋子 高山 直樹	選2	前期	4	▲
	社会福祉援助技術特論(グループワーク論)		選2		2～	閉講
	精神保健福祉論Ⅰ		選2		2～	閉講
	精神保健福祉論Ⅱ		選2		2～	閉講
	精神保健福祉に関する制度とサービス	引土 絵未	選2	後期	2～	
	精神障害者の生活支援システム	立脇 恵子	選2	後期	2～	
	介護概論	浅野 いずみ	選2	後期	2～	
	介護技術	浦尾 和江	選2	前期	2～	▲
	精神保健福祉援助技術各論		選2		3～	閉講
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	引土 絵未	選2	前期	2～	▲
	精神保健福祉援助演習		選2		3～	閉講
	精神保健福祉援助演習Ⅰ	前廣 美保	選2	後期	3	▲ ○ 「精神保健福祉相談援助の基盤(専門)」を履修済のこと
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	引土 絵未	選2	前期	4	▲ ○ 「精神保健福祉相談援助の基盤(専門)」を履修済のこと
	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ	赤澤 輝和 小山 聡子 林 浩康 久田 則夫 渡部 律子	選2	後期	2～	▲ ◆ 社会福祉士指定科目
	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ	赤澤 輝和 林 浩康 久田 則夫 小山 聡子 渡部 律子 大部 令絵 中條 共子	選2	前期	3	▲ ◆ 社会福祉士指定科目
	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ	赤澤 輝和 林 浩康 久田 則夫 小山 聡子 渡部 律子 大部 令絵 中條 共子	選2	後期	3	▲ ◆ 社会福祉士指定科目
	社会福祉援助技術現場実習Ⅰ	赤澤 輝和 林 浩康 久田 則夫 小山 聡子 渡部 律子 中條 共子	選2	通年	3	▲ ◆集中 社会福祉士指定科目

系列	授 業 科 目 名 ＜サブタイトル＞	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
方 法	社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	赤澤 輝和 林 浩康 久田 則夫 小山 聡子 渡部 律子 中條 共子	選 2	通年	3	▲ ◆ 集中 社会福祉士指定科目
	社会福祉現場実習		選 2		2～	閉講
	フィールドワーク		選 2		2～	閉講
	フィールドスタディ	黒岩 亮子	選 1	通年	2～	▲ ☆ 集中 【事前学習】未定 【学外授業】未定 【事後学習】未定
	社会調査実習	永井 暁子	選 2	後期	2～	「社会福祉調査」の単位取得者が望ましい
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	引土 絵未	選 2	後期	3	▲ ◆ 精神保健福祉士指定科目
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	引土 絵未 前廣 美保	選 2	前期	4	▲ ◆ 精神保健福祉士指定科目
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	引土 絵未 前廣 美保	選 2	後期	4	▲ ◆ 精神保健福祉士指定科目
	精神保健福祉援助実習Ⅰ	引土 絵未	選 2	通年	4	▲ ◆ 集中 精神保健福祉士指定科目
	精神保健福祉援助実習Ⅱ	引土 絵未	選 2	通年	4	▲ ◆ 集中 精神保健福祉士指定科目
	精神保健福祉援助実習Ⅲ	引土 絵未	選 1	通年	3～	▲ ◆ 集中 2020 年度休講 精神保健福祉士指定科目
	海外ソーシャルワーク研究		選 2		2～	▲ ☆ 学科が提供する海外研修の単位認定にのみ適用 2020 年度休講
	ライフストーリー／ライフヒストリー (質的調査Ⅰ) ＜「人々」と「生活」への接近＞	門林 道子	選 2	前期	2～	現代社会学科との連携科目
	テキストを「調査」する(質的調査Ⅱ)	曹 慶鎬	選 2	後期	2～	現代社会学科との連携科目
	コミュニケーション論		選 2	後期	1～	2020 年度休講
総 合	社会福祉演習Ⅰ	赤澤 輝和 岩永 理恵 小山 聡子 黒岩 亮子 沈 潔 永井 暁子 林 浩康 久田 則夫 増田 幸弘 渡部 律子 引土 絵未	必 4	通年	3	▲ 2020 年度岩永クラス休講 2020 年度小山クラス休講
	社会福祉演習Ⅱ	赤澤 輝和 岩永 理恵 小山 聡子 黒岩 亮子 沈 潔 永井 暁子 林 浩康 久田 則夫 増田 幸弘 渡部 律子 引土 絵未 坪 洋一	必 4	通年	4	▲ 2020 年度岩永クラス休講 2020 年度小山クラス休講

系列	授 業 科 目 名 ＜サブタイトル＞	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
総 合	卒業研究	赤澤 輝和 岩永 理恵 小山 聡子 黒岩 亮子 沈 潔 永井 暁子 林 浩康 久田 則夫 増田 幸弘 渡部 律子 引土 絵未	必6		4	▲ 2020 年度岩永クラス休講 2020 年度小山クラス休講
個 別 領 域	精神保健学 ＜心の健康を考える＞	蔵野 ともみ	選2	前期	1～	(展)
	精神医学 ＜～ やさしく学ぼう「脳と心」～＞	池田 健	選2	後期	2～	(展)
	労働問題論	跡部 千慧	選2	後期	1～	
	地方自治論	村田 文世	選2	後期	2～	①
	地域組織論 ＜福祉コミュニティ形成と地域組織＞	和田 清美	選2	後期	2～	①(展)
	地域福祉論	黒岩 亮子	必2	後期	1～	
	公的扶助論 ＜現代社会の貧困と生活保護制度＞	櫻井 真一	選2	後期	2～	
	家族福祉政策論	永井 暁子	選2	後期	2～	①
	児童福祉実践論	林 浩康	選2	前期	2～	①
	福祉サービスの組織と経営	久田 則夫	選2	前期	2～	①
	リハビリテーション論 ＜人が主体的に生きること、豊かに生活することを支える実践！＞	佐々木 葉子	選2	後期	2～	①
	老年社会学	涌井 智子	選2	後期	2～	
	社会福祉計画論	黒岩 亮子	選2	前期	2～	「地域福祉論」の単位取得者に限る
	福祉財政論	関口 浩	選2	前期	2～	隔年
	女性福祉論	沈 潔	選2	後期	2～	(展)
	医療福祉論	赤澤 輝和	選2	前期	2～	①
	労働者福祉と就労支援	増田 幸弘	選2	後期	2～	旧「労働者福祉論」 ①(展)
	国際社会福祉論Ⅰ	沈 潔	選2	前期	2～	①
	国際社会福祉論Ⅱ ＜東アジアの社会福祉＞	沈 潔	選2	後期	2～	
	精神科リハビリテーション学		選2		2～	閉講
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	赤畑 淳	選2	前期	2～	
	心理学理論と心理的支援	渡部 律子	選2	前期	1～	
	医療ソーシャルワーク論	赤澤 輝和	選2	前期	2～	旧「医療対人関係論」
	介護福祉論(こころからだのしくみ)		選2		2～	閉講
	加齢と障がいの理解		選2		2～	閉講
そ の 他	社会学原論Ⅰ	田中 大介	選2	前期	2～	現代社会学科・教育学科・文化学科「社会学原論Ⅰ」と共通
	社会学原論Ⅱ	田中 大介	選2	後期	2～	現代社会学科・教育学科・文化学科「社会学原論Ⅱ」と共通
	政治学概論Ⅰ	片岡 大右	選2	前期	2～	現代社会学科・教育学科・文化学科「政治学概論Ⅰ」と共通
	政治学概論Ⅱ		選2		2～	閉講
	日本史学論	上田 誠二	選2	前期	2～	現代社会学科・教育学科・文化学科「日本史学論」と共通 ◎
	日本史学方法論	上田 誠二	選2	後期	2～	現代社会学科・教育学科・文化学科「日本史学方法論」と共通 ◎
	東洋史学論	三王 昌代	選2	前期	2	現代社会学科・教育学科・文化学科「東洋史学論」と共通 ◎

系列	授 業 科 目 名 ＜サブタイトル＞	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
そ の 他	東洋史学方法論	三王 昌代	選2	後期	2	現代社会学科・教育学科・文化学科「東洋史学方法論」と共通 ◎
	西洋史学論	佐藤 育子	選2	前期	2	現代社会学科・教育学科・文化学科「西洋史学論」と共通 ◎
	西洋史学方法論	佐藤 育子	選2	後期	2	現代社会学科・教育学科・文化学科「西洋史学方法論」と共通 ◎
	地理学の方法 ＜学問としての地理学の見方＞	三浦 尚子	選2	前期	2	現代社会学科・教育学科・文化学科「地理学の方法」と共通 ◎
	人文地理学 ＜地理学からみた現代都市＞	三浦 尚子	選2	後期	2	現代社会学科・教育学科・文化学科「人文地理学」と共通 ◎
	地誌学Ⅰ	池 俊介	選2	前期	2	現代社会学科・教育学科・文化学科「地誌学Ⅰ」と共通 ◎
	地誌学Ⅱ	池 俊介	選2	後期	2	現代社会学科・教育学科・文化学科「地誌学Ⅱ」と共通 「地誌学Ⅰ」の単位取得者が望ましい ◎
	哲学概説Ⅰ	佐々木 雄大	選2	前期	2	現代社会学科・教育学科・文化学科「哲学概説Ⅰ」と共通 ◎
	哲学概説Ⅱ ＜人間・動物・物の哲学＞	佐々木 雄大	選2	後期	2	現代社会学科・教育学科・文化学科「哲学概説Ⅱ」と共通 「哲学概説Ⅰ」の単位取得者が望ましい ◎
	倫理学Ⅰ ＜倫理どのように成立するか？＞	田中 久文	選2	前期	1～	○ 現代社会学科・教育学科・文化学科「倫理学Ⅰ」と共通 ◎
	倫理学Ⅱ ＜恋愛・家族・国家、応用倫理を考える＞	田中 久文	選2	後期	1～	○ 現代社会学科・教育学科・文化学科「倫理学Ⅱ」と共通 ◎
	海外社会福祉研究		選1		2～	▲ ☆ 学則による留学をした学生の単位認定にのみ適用

◎………学科専門科目に含めない授業科目

「社会福祉研究（外国語）Ⅰ」について

2015 年度以前の入学者で、「社会福祉研究（外国語）Ⅰ」の単位未修得者は、2016 年度以降に外国語科目「英語」を1 科目2 単位履修すること。なお、履修については学科の指示に従うこと。

「社会福祉研究（外国語）Ⅱ」について

2015 年度以前の入学者で、「社会福祉研究（外国語）Ⅱ」の単位未修得者は、2016 年度以降に外国語科目「英語」を1 科目2 単位履修すること。なお、履修については学科の指示に従うこと。

社会福祉援助技術現場実習 について

- ① 社会福祉援助技術演習Ⅰを履修する者は、1 年次必修科目および1 年次に取得可能な国家試験受験指定科目を1 年次終了時点で履修済であり、かつ1 年次後期に 社会福祉とキャリア（同科目の課題である現場体験を所定の時間終了すること）を履修済であること。社会福祉援助技術演習Ⅰは、原則として標準履修年次である2 年前期でしか履修することができない。
- ② 社会福祉援助現場実習指導Ⅰを履修する者は、原則として社会福祉とキャリア、社会福祉援助技術演習Ⅰを履修済かつ社会福祉援助技術演習Ⅱを履修中であること。
- ③ 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱを履修する者は、原則として社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱおよび社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰを履修済かつ社会福祉援助技術演習Ⅲを履修中であること。
- ④ 社会福祉援助技術現場実習Ⅰ・Ⅱを履修する者は、社会福祉士国家資格取得の意志が強固であり、社会福祉分野で社会福祉士として働くことを希望する者が履修することが望ましく、1・2 年必修科目を履修済、また原則として1・2 年で履修可能な社会福祉士の指定科目を履修済で実習に必要な学力、意欲を十分に有すること。また、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱおよび社会福祉援助技術演習Ⅳを履修中であること。
- ⑤ 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲを履修する者は、原則として社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ・Ⅱを履修済かつ社会福祉援助技術演習Ⅳを履修中であること。
- ⑥ 社会福祉援助技術演習Ⅴを履修する者は、原則として社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび社会福祉援助技術現場実習Ⅰ・Ⅱを履修済であること。

※履修にあたっては、この「履修の手引き」の他、学科オリエンテーションで配布される「社会福祉士・精神保健福祉士受験資格取得について」、「社会福祉援助技術演習の受講について」、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰで配布される「社会福祉援助技術現場実習手引き」も必ず熟読すること。社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ・Ⅱについては全回必ず出席すること。

精神保健福祉援助実習 について

- ① 精神保健福祉援助演習Ⅰ・Ⅱを履修する者は、必ず、精神保健福祉相談援助の基盤（専門）を履修済であること。
- ② 精神保健福祉援助実習指導Ⅰを履修する者は、原則として社会福祉とキャリアを履修済、精神保健福祉援助演習Ⅰを履修中であること。
- ③ 精神保健福祉援助実習指導Ⅱを履修する者は、原則として精神保健福祉援助演習Ⅰおよび精神保健福祉援助実習指導Ⅰを履修済であること。
- ④ 精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修する者は、精神保健福祉士国家資格取得の意志が強固であり、精神保健分野で精神保健福祉士として働くことを希望する者が履修することが望ましく、1・2 年必修科目を履修済、また原則として1・2 年で履修可能な精神保健福祉士の指定科目を履修済、精神保健福祉援助演習Ⅰ、精神保健福祉援助実習指導Ⅰを履修済で実習に必要な学力、意欲を十分に有すること。また、精神保健福祉援助演習Ⅱおよび精神保健福祉援助実習指導Ⅱを履修中であること。

⑤ 精神保健福祉援助実習指導Ⅲを履修する者は、原則として精神保健福祉援助演習Ⅰ・Ⅱおよび精神保健福祉援助演習および精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱを履修済であること。

※履修にあたっては、この「履修の手引き」の他、学科オリエンテーションで配布される「社会福祉士・精神保健福祉士受験資格取得について」「社会福祉援助技術演習の受講について」、精神保健福祉援助実習指導Ⅰで配布される「精神保健福祉援助実習手引き」も必ず熟読すること。精神保健福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ、精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱについては全回必ず出席すること。精神保健福祉士が持つ本来の趣旨から、社会福祉士の受験資格取得を前提とする。

2020年度 社会福祉学科 開講授業科目一覽

基本科目（外国語科目については 2016 年度入学者よりは P. 35、2015 年度入学者までは P. 41 を参照）

必修科目				
年次	前 期	単位	後 期	単位
1年次	基礎演習Ⅱ	2	基礎演習Ⅰ	2
	社会問題	2		
2年次	社会福祉研究(外国語)Ⅲ (2015 年度入学者まで必修)	2	社会福祉研究(外国語)Ⅳ (2015 年度入学者まで必修)	2
	労働法	2		

学科專門科目

必修科目					選択科目					
年次	前 期	単位	後 期	単位	前 期		単位	後 期	単位	
1年次	社会福祉発達史	2	社会福祉援助技術総論	2				社会福祉とキャリア	2	
1年次～			社会福祉行政論 地域福祉論	2 2	法学概論 社会学概論 障害福祉論 精神保健学 心理学理論と心理的支援 倫理学Ⅰ ◎		2 2 2 2 2 2	労働問題論 社会思想論 児童福祉論 老人福祉論 倫理学Ⅱ ◎	2 2 2 2 2	
					東洋史学論 ◎ 西洋史学論 ◎ 地理学の方法 ◎ 地誌学Ⅰ ◎ 哲学概説Ⅰ ◎		2 2 2 2 2	東洋史学方法論 ◎ 西洋史学方法論 ◎ 人文地理学 ◎ 地誌学Ⅱ ◎ 哲学概説Ⅱ ◎	2 2 2 2 2	
	2年次～					司法福祉制度論 福祉国家論(社会保障史) 医療法制 社会福祉援助技術論Ⅰ 社会福祉調査 社会福祉援助技術演習Ⅰ 介護技術 精神保健福祉相談援助の基盤(専門) ライフストーリー/ライフヒストリー (質的調査Ⅰ)		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	社会福祉法制 社会保障論 社会政策 社会福祉援助技術論Ⅱ 社会福祉援助技術演習Ⅱ 精神保健福祉に関する制度とサービス 精神障害者の生活支援システム 介護概論 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ◆ 社会調査実習 テキストを「調査」する(質的調査Ⅱ)	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
						児童福祉実践論 福祉サービスの組織と経営 社会福祉計画論 福祉財政論 医療福祉論 国際社会福祉論Ⅰ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 医療ソーシャルワーク論 社会学原論Ⅰ 政治学概論Ⅰ 日本史学論 ◎		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	精神医学 地方自治論 地域組織論 公的扶助論 家族福祉政策論 リハビリテーション論 老年社会学 女性福祉論 労働者福祉と就労支援 国際社会福祉論Ⅱ 社会学原論Ⅱ 日本史学方法論 ◎	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
						フィールドスタディ 海外社会福祉研究				1 1
		3年次	社会福祉演習Ⅰ			4	社会福祉援助技術現場実習Ⅰ◆ 社会福祉援助技術現場実習Ⅱ◆			2 2
社会福祉原理論Ⅰ			2	社会福祉原理論Ⅱ	2	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ◆	2	社会福祉援助技術演習Ⅳ 精神保健福祉援助演習Ⅰ 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ◆ 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ◆	2 2 2 2	
						社会福祉援助技術演習Ⅲ	2			
4年次			社会福祉演習Ⅱ 卒業研究			4 6	精神保健福祉援助実習Ⅰ◆ 精神保健福祉援助実習Ⅱ◆			2 2
							社会福祉援助技術演習Ⅴ 精神保健福祉援助演習Ⅱ 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ◆	2 2 2	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ◆	2

赤字は必修 ◆……卒業するために必要な単位に含めない授業科目 ◎……学科専門科目の単位数に含めない授業科目

各開講科目の履修要件等については、授業科目表とその履修方法を確認してください。

年次欄は、授業科目を何年次から履修できるかを示します。(詳細は P.29 を参照)

本学の社会福祉学科に在籍する4年次学生が、本学大学院人間社会研究科社会福祉学専攻の授業科目を履修（先取り履修）し修得した単位は、卒業後、本学大学院人間社会研究科社会福祉学専攻に進学した場合に限り、大学院博士課程前期課程の「修了に必要な単位（32単位）」に含めることができます。（2019年4月より実施）

1 履修対象者

本学大学院人間社会研究科社会福祉学専攻へ入学を志望する社会福祉学科に在籍中の4年次生で、社会福祉学科が定める4年次必修以外の卒業要件を満たしていることが条件です。

2 先取り履修が可能な科目

本項末の「社会福祉学専攻 先取り履修可能授業科目」の表を参照してください。

3 学力判定

社会福祉学科で行います。履修希望者は詳細について履修登録期間までに社会福祉学科に問い合わせてください。

4 履修登録

授業科目の履修について社会福祉学科で許可された後、自動的に履修登録されます。

履修を許可された場合、登録の取り消しは一切認められません。

5 修得単位数の上限

修得単位数の上限は、6単位とします。

6 修得単位の取扱い

先取り履修で修得した単位は、学部の修得単位（卒業要件単位）に含めることはできません。本学大学院人間社会研究科社会福祉学専攻に入学しなかった場合、大学院の単位としても無効となります。

7 成績評価

学部の成績とは別に、大学院の先取り履修科目として成績が通知されます。本学大学院人間社会研究科社会福祉学専攻に入学後、博士課程前期1年次において定められた期間内に申請することにより認定されます。成績評価は大学院の学則によることとします。

社会福祉学専攻 先取り履修可能授業科目

博士課程前期

授業科目名		単位数		講義・演習・実習の別	期	担当者名	備考	
開講	授業科目名	必修	選択					
	社会福祉原理特論Ⅰ		2	演習	前期	准教授 岩永 理恵	△	☆
	社会福祉原理特論Ⅱ		2	演習	後期	准教授 岩永 理恵	△	☆
○	社会福祉法制特論Ⅰ		2	演習	前期	教 授 増田 幸弘	△	☆
○	社会福祉法制特論Ⅱ		2	演習	後期	教 授 増田 幸弘	△	☆
○	社会福祉政策特論AⅠ		2	演習	前期		□	☆
○	社会福祉政策特論AⅡ		2	演習	後期		□	☆
○	社会福祉政策特論BⅠ		2	演習	前期	教 授 沈 潔	△	☆
○	社会福祉政策特論BⅡ		2	演習	後期	教 授 沈 潔	△	☆
○	社会福祉政策特論CⅠ		2	演習	前期	准教授 永井 暁子	◇	☆
○	社会福祉政策特論CⅡ		2	演習	後期	准教授 永井 暁子	◇	☆
○	社会福祉政策特論DⅠ		2	演習	前期	准教授 黒岩 亮子	△	☆
○	社会福祉政策特論DⅡ		2	演習	後期	准教授 黒岩 亮子	△	☆
○	社会福祉方法特論AⅠ		2	演習	前期	教 授 小山 聡子	□	☆
○	社会福祉方法特論AⅡ		2	演習	後期	教 授 小山 聡子	□	☆
○	社会福祉方法特論BⅠ		2	演習	前期	教 授 久田 則夫	□	☆
○	社会福祉方法特論BⅡ		2	演習	後期	教 授 久田 則夫	□	☆
○	社会福祉方法特論CⅠ		2	演習	前期	教 授 渡部 律子	□	☆
○	社会福祉方法特論CⅡ		2	演習	後期	教 授 渡部 律子	□	☆
○	社会福祉方法特論DⅠ		2	演習	前期	准教授 赤澤 輝和	■	☆
○	社会福祉方法特論DⅡ		2	演習	後期	准教授 赤澤 輝和	■	☆
	社会福祉方法特論EⅠ		2	演習	前期		■	☆
	社会福祉方法特論EⅡ		2	演習	後期		■	☆
○	社会福祉方法特論FⅠ		2	演習	前期	教 授 林 浩康	■	☆
○	社会福祉方法特論FⅡ		2	演習	後期	教 授 林 浩康	■	☆
	社会福祉特殊講義Ⅰ（家族福祉）		4	講義	通年	准教授 永井 暁子	□	
○	社会福祉特殊講義Ⅱ（NGO／NPO論）		2	講義	後期	講師（兼任）村田 文世	□	
○	社会福祉特殊講義Ⅲ（地域保健）		2	講義	前期集中	講師（兼任）福本 正勝	□	
	社会福祉特殊講義Ⅳ（社会リハビリテーション論）		4	講義	通年			
○	社会福祉特殊講義Ⅴ（社会福祉情報・計画論）		2	講義	前期	講師（兼任）和田 清美	□	
○	社会福祉特殊講義Ⅵ（社会福祉調査論Ⅰ）		2	講義	後期	准教授 永井 暁子	□	
○	社会福祉特殊講義Ⅶ（社会福祉調査論Ⅲ）		2	講義	前期	講師（兼任）林 葉子	△	
	社会福祉特殊講義Ⅸ（社会福祉調査論Ⅳ）		2	講義	後期		△	
	社会福祉特殊講義Ⅹ（労働者福祉論）		4	講義	通年		△	
○	社会福祉特殊講義Ⅻ（医療福祉）		2	講義	後期	教 授 増田 幸弘	□	
○	社会福祉倫理特講		2	講義	後期	講師（兼任）大島隆代	□	

○印は2020年度開講科目
☆印は反復履修可
△印は教職専修免許状中学校『社会』・高校『公民』に、□印は高校『福祉』の規定科目に該当する。
◇は2012年度以降履修の場合に限り、教職専修免許状中学校『社会』・高校『公民』の規定科目に該当する。
■は2014年度以降履修の場合に限り、教職専修免許状高校『福祉』の規定科目に該当する。

社会福祉士受験資格取得について

表 1 「社会福祉士」国家試験受験資格指定科目と本学該当科目（2020年度）

厚生労働省の定める指定科目	本学開講科目	単位	備考
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病（2018年度より） 医学一般（2017年度まで）	2	うち 1科目選択 （注4）
心理学理論と心理的支援	心理学概論Ⅰ○（2018年度より） 心理学概論○（2017年度まで） 心理学理論と心理的支援	2 4 2	
社会理論と社会システム	社会学概論	2	
現代社会と福祉	社会福祉原理論Ⅰ 社会福祉原理論Ⅱ	2 2	
社会調査の基礎	社会福祉調査	2	
相談援助の基盤と専門職	社会福祉援助技術総論	2	
相談援助の理論と方法	社会福祉援助技術論Ⅰ 社会福祉援助技術論Ⅱ	2 2	
地域福祉の理論と方法	地域福祉論	2	
福祉行財政と福祉計画	社会福祉行政論	2	
福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営	2	
社会保障	社会保障論	2	
高齢者に対する支援と介護保険制度	老人福祉論 および 介護概論	2 2	
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害福祉論	2	
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童福祉論	2	
低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	2	
保健医療サービス	医療福祉論	2	
就労支援サービス	労働者福祉と就労支援（2014年度より）	2	うち 1科目選択 （注5）
権利擁護と成年後見制度	社会福祉法制	2	
更生保護制度	司法福祉制度論	2	
相談援助演習	社会福祉援助技術演習Ⅰ 社会福祉援助技術演習Ⅱ 社会福祉援助技術演習Ⅲ 社会福祉援助技術演習Ⅳ 社会福祉援助技術演習Ⅴ	2 2 2 2 2	
相談援助実習指導	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ	2 2 2	
相談援助実習	社会福祉援助技術現場実習Ⅰ 社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	2 2	

（注1）赤字は必修科目（注2）○は、他学科開講科目（注3）指定科目に対応する「本学開講科目」を全て（選択科目を除く）履修すること。
（注4）人体の構造と機能及び疾病、心理学理論と心理的支援、社会理論と社会システム は、1科目選択で受験資格を取得できるが、出題は上記3科目にわたってなされている。
（注5）就労支援サービス、権利擁護と成年後見制度、更生保護制度 は、1科目選択で受験資格を取得できるが、出題は3科目にわたってなされている。
（注6）指定科目に対応する本学開講科目がⅠ・Ⅱ（・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ）に分かれている場合は、その全ての履修が必要である。

精神保健福祉士受験資格取得について

2013年度入学者より適用

表2「精神保健福祉士」国家試験受験資格指定科目と本学該当科目（2020年度）

厚生労働省の定める指定科目	本学開講科目	単位	備考
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病（2018年度より） 医学一般（2017年度まで）	2	うち 1科目選択 （注3）
心理学理論と心理的支援	心理学理論と心理的支援	2	
社会理論と社会システム	社会学概論	2	
現代社会と福祉	社会福祉原理論Ⅰ 社会福祉原理論Ⅱ	2 2	
地域福祉の理論と方法	地域福祉論	2	
社会保障	社会保障論	2	
低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	2	
福祉行財政と福祉計画	社会福祉行政論	2	
保健医療サービス	医療福祉論	2	
権利擁護と成年後見制度	社会福祉法制	2	
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害福祉論	2	
精神疾患とその治療	精神医学	2	
精神保健の課題と支援	精神保健学	2	
精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	社会福祉援助技術総論	2	
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	2	
精神保健福祉の理論と相談援助の展開	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	2	
精神保健福祉に関する制度とサービス	精神保健福祉に関する制度とサービス	2	
精神障害者の生活支援システム	精神障害者の生活支援システム	2	
精神保健福祉援助演習（基礎）	社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	
	社会福祉援助技術演習Ⅱ	2	
	社会福祉援助技術演習Ⅲ	2	
精神保健福祉援助演習（専門）	精神保健福祉援助演習Ⅰ	2	
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	2	
精神保健福祉援助実習指導	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	2	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	2	
精神保健福祉援助実習	精神保健福祉援助実習Ⅰ	2	
	精神保健福祉援助実習Ⅱ	2	
	精神保健福祉援助実習Ⅲ	1	（注5）

（注1）赤字は必修科目

（注2）指定科目に対応する「本学開講科目」を全て（選択科目を除く）履修すること。

（注3）人体の構造と機能及び疾病、心理学理論と心理的支援、社会理論と社会システム は、1科目選択で受験資格を取得できるが、出題は上記3科目にわたってなされている。

（注4）指定科目に対応する本学開講科目がⅠ・Ⅱ（・Ⅲ）に分かれている場合は、その全ての履修が必要である。

（注5）社会福祉援助技術現場実習Ⅰ・Ⅱを履修済みの者は 精神保健福祉援助実習Ⅲ を履修しなくてもよい。

（「大学等において開講する精神障害者の保健及び福祉に関する科目の確認に係る指針」7－（6）適用）

教育学科

1 学科の方針

教育学科では、学生の皆さんが教育に関する理論的・実践的な専門性を身につけ、卒業後に、教育の側面から新たなフロンティアを切り拓く力を発揮できることをめざし、教育を行っています。具体的な教育の目標は以下の通りです。

1. 教育に関する専門的知識や方法論を習得し、家庭、学校、社会における教育の営みについて分析し理解することができる。
2. 現代の教育問題に関心を持ち、教育学的知識に基づきながら解決の方向性を探究し、判断を行うことができる。
3. 自発的・能動的に学習を進める方法を習得し、変化する社会に対応して専門性を発揮していくことができる。
4. 人が育つ、人を育てるという教育的営みに必要な相互対話的コミュニケーションを、多様な他者に応じて行うことができる。

2 カリキュラムの構成と特徴

教育に関する基本的な学問分野や研究方法をしっかりと学ぶことができるようにカリキュラムを編成すると同時に、現代の教育や人間形成上の問題にも多様な観点から学べるように、豊富な科目を置いているところにカリキュラムの特徴があります。学科の教育科目は、基本科目、学科専門科目、展開科目、自由選択科目に分かれています。

また、2016 年度入学者より、基本科目には、教育学研究法に関する科目と教育実践法に関する科目があります。学科専門科目には、基礎理論に関する科目と教育実践理論に関する科目があります。教職科目との関連では、教員免許状取得希望者の卒業に必要な単位に配慮して、「教科に関する科目」「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」の一部を入学年度に応じて卒業単位に算入できるようにしました。また、少人数のゼミと卒業論文の作成、研究法や情報処理の技術を重視し、必修または選択必修としています。

3 履修において望むこと

1. 今日の社会では、大学卒の学力や能力が問われています。語学力や情報処理能力を身につけることは当然ですが、できるだけ教養と専門性を高める努力をしてください。大学時代にもっと勉強しておけばよかったと後悔しないためには、安易に流されず意欲的に学習に取り組む必要があります。
2. 1年次の学生は、資格取得については早期に方針を決め、各人の自己責任において充実した学習計画を立ててください。また、2年次以上の学生も卒業のための単位履修に支障がないように自分で十分チェックしてください。
3. 教員免許状の取得には、多くの単位取得が必要となるので、将来教職に就くかどうかをよく熟慮して取得するかどうかを決めてください。

4履修の方法

[卒業するために履修すべき最低修得単位数]

(2016年度入学者より適用)

科目区分		単位数	履修内容等
教養特別講義（必修）		2	
基本科目	必修	22	外国語科目(8)〈ベーシック・イングリッシュ〉P.35～を参照、教育学基礎演習(2)、文献研究基礎演習(2)、量的研究基礎演習(2)、質的研究基礎演習(2)、その他選択必修科目(6)
学科専門科目	必修	18	教育学演習Ⅰ(4)、教育学演習Ⅱ(4)、卒業論文(6) その他選択必修科目(4)
	選択	40	選択必修科目と選択科目
展開科目	必修	2	社会スポーツ実習(2) P.115を参照
	選択	20	P.109を参照
自由選択		24	所属学科又は所属学科以外の科目 ※
合計		128	

※ 所属学科又は所属学科以外の科目（自由選択）の単位について

「基本科目（外国語科目を含む）」、「学科専門科目（選択）」、「展開科目」において、卒業するために必要な単位数以上の単位を修得した場合は、超えた単位数を自由選択として算入することができます。また、「資格等に関する科目」、「他学部他学科の開講科目」、「キャリア形成科目」、「本学の定めるところにより他の大学等において履修した授業科目」も自由選択として算入することができます。ただし、卒業するために必要な単位に含めない授業科目（授業科目表の備考欄に◆印のある科目、教育学科以外に◇印のある科目も含む）の単位は除きます。

(2009年度入学者より2015年度入学者まで適用)

科目区分		単位数	履修内容等
教養特別講義（必修）		2	
基本科目	必修	12	教育学基礎演習Ⅰ(2)、教育学基礎演習Ⅱ(2)、教育学研究法Ⅰ（英語講読）(2)、教育学研究法Ⅱ（英語講読）(2) 英語コミュニケーション(2)、その他選択必修科目(2)
学科専門科目	必修	18	教育学演習Ⅰ(4)、教育学演習Ⅱ(4)、卒業論文(6) その他の選択必修科目(4)
	選択	40	教育学演習を除く選択必修科目と選択科目
展開科目	必修	2	社会スポーツ実習(2) P.115を参照
	選択	20	P.109を参照
自由選択		30	所属学科又は所属学科以外の科目 ※
合計		124	

※ 所属学科又は所属学科以外の科目（自由選択）の単位について

「基本科目（外国語科目を含む）」、「学科専門科目（選択）」、「展開科目」において、卒業するために必要な単位数以上の単位を修得した場合は、超えた単位数を自由選択として算入することができます。また、「資格等に関する科目」、「他学部他学科の開講科目」、「キャリア形成科目」、「本学の定めるところにより他の大学等において履修した授業科目」も自由選択として算入することができます。ただし、卒業するために必要な単位に含めない授業科目（授業科目表の備考欄に◆印のある科目、教育学科以外に◇印のある科目も含む）の単位は除きます。

2020 年度 教育学科 授業科目表 基本科目(2019 年度入学者より適用)

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
教育学 研究 法	教育学基礎演習	田中 雅文 荒牧 草平 清水 睦美 五十嵐 敏文	必2	前期	1	▲
	文献研究基礎演習	今井 康雄 田部 俊充 丸林 実千代 齋藤 慶子	必2	後期	1	▲
	量的研究基礎演習	(前)山下 絢 (前)大谷 洋貴 (後)荒牧 草平 (後)瀬尾 美紀子	必2	前(後)	2	▲
	質的研究基礎演習	(前)清水 睦美 (前)井上 信子 (後)田中 雅文 (後)山崎 晶子	必2	前(後)	2	▲
教育 実 践 法	学校インターンシップⅠ	宮井 和恵 野田 不二夫 小宮山 郁子 宇津木 孝充 府津羅 裕子	選必1	通年	1	▲ 集中 教員免許(小)の取得希望者に限る 2020 年度 1 クラス休講
	学校インターンシップⅡ	宮井 和恵 野田 不二夫 小宮山 郁子 宇津木 孝充 府津羅 裕子	選必1	通年	2	▲ 集中 教員免許(小)の取得希望者に限る 2020 年度 1 クラス休講
	学校インターンシップ		選必2	通年	3～	▲☆○ 集中 2020 年度休講
	プロジェクト実践演習Ⅰ 〈「次世代の教育プラン」をデザインする〉	山下 絢	選必2	後期	1～	▲☆○
	プロジェクト実践演習Ⅱ	齋藤 慶子	選必4	通年	2～	▲☆○
	プロジェクト実践演習Ⅲ		選必2	後期	2～	▲☆○ 2020 年度休講
	プロジェクト実践演習Ⅳ	清水 睦美	選必2	前期	2～	▲☆○ 2020 年度休講
	社会教育実習 〈地域での学びの最前線を体験する〉	田中 雅文 小笠原 東生	選必1	通年	2～	○ 集中 旧「社会教育インターンシップ」
	社会教育演習 〈社会教育実習での体験をふり返る〉	田中 雅文	選必1	通年	2～	○ 集中
	教育フィールドワーク実践演習Ⅰ	田部 俊充	選必2	後期	2～	☆ ○
	教育フィールドワーク実践演習Ⅱ	井上 信子	選必2	後期	3～	☆ ○ 2020 年度休講
	教育フィールドワーク実践演習Ⅲ	瀬尾 美紀子	選必2	前期	2～	☆ ○

教
育

2020 年度 教育学科 授業科目表 学科専門科目(2019 年度入学者より適用)

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
専修 科目	教育学演習Ⅰ		必4	通年	3	▲ ○ 2020 年度休講
	教育学演習Ⅱ		必4	通年	4	▲ ○ 2020 年度休講
理 基 論 礎	量的データ分析法	荒牧 草平	選必2	後期	2～	○ ☆
	教育心理学研究法	瀬尾 美紀子	選2	前期	2～	☆

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
基 礎 理 論	卒業論文		必6		4	▲ 2020 年度休講
	教育学概論Ⅰ(小)	(前)今井 康雄 (後)渡辺 典子	選必2	前(後)	1～	▲
	教職基礎論(小)	宮井 和恵 野田 不二夫	選2	前期	1	▲
	教育人間学	小谷 由美	選必2	後期	1～	☆
	教育哲学Ⅰ ＜哲学者たちは「教育」をどう見てきたか＞	今井 康雄	選必2	前期	1～	☆
	教育哲学Ⅱ ＜問いから始める教育哲学＞	今井 康雄	選必2	後期	1～	☆ ①
	教育思想史Ⅰ	北詰 裕子	選必2	前期	1～	☆
	教育思想史Ⅱ		選必2	後期	1～	☆ 2020 年度休講
	日本教育史Ⅰ	齋藤 慶子	選必2	前期	1～	(展)
	日本教育史Ⅱ	李 垠松	選必2	後期	1～	(展)
	外国教育史Ⅰ		選必2	前期	2～	☆ 2020 年度休講 (展)
	外国教育史Ⅱ ＜アジア地域の教育の成立と展開＞	日暮 トモ子	選必2	後期	2～	☆ (展)
	教育社会学Ⅰ(小)	(前)藤村 朝子 (後)荒牧 草平	選必2	前(後)	1～	▲ ①
	量的調査研究法		選必2	前期	3～	○☆ 2020 年度休講
	教育社会学方法論	有海 拓巳	選必2	前期	1～	
	国際教育学Ⅰ	清水 睦美	選2	前期	1～	
	国際教育学Ⅱ	清水 睦美	選2	後期	1～	
	教育心理学Ⅰ(小)	(前)瀬尾 美紀子 (後)魚崎 祐子	選必2	前(後)	1～	▲
	学習支援の心理学	瀬尾 美紀子	選必2	後期	1～	☆
	生涯発達と臨床心理学	井上 信子	選必2	前期	1～	①
教 育 実 践 理 論	異文化相互理解実地研究	清水 睦美	選1	後期	1・2・3	▲ 集中 1～3 年次の履修に限る 「国際教育学Ⅰ」又は「国際教育学Ⅱ」の単位取得者が望ましい 登録については学科の指導に従うこと 2021 年 2 月 28 日～3 月 7 日
	教育方法学	石井 恭子	選2	前期	1～	
	教育方法・技術(小)	今野 貴之	選必2	前期	1～	▲
	授業研究		選2	後期	3・4	☆ 2020 年度休講
	教育工学演習	石井 恭子	選2	後期	2～	○
	教育行政学 ＜誰が権限とお金を渡すべきか？＞	山下 絢	選2	後期	1～	☆
	教育制度論	山下 絢	選必2	前期	1～	☆
	教育経済学	山下 絢	選2	後期	1～	☆
	教育法規	竹原 幸太	選2	後期	1～	☆
	人間形成の社会学	藤田 武志	選2	後期	1～	2020 年度休講
	家庭教育論	奥村 典子	選2	後期	1～	(展)
	生徒指導・進路指導(小)	仲野 由佳理	選必2	前期	1～	▲ ①
	生涯学習概論Ⅰ ＜人生の花を咲かせる「学び」の不思議！＞	田中 雅文	選必2	前期	1～	① (展)
	生涯学習概論Ⅱ ＜「学び」がひらく明日の社会～ローカルとグローバルの視点から～＞	田中 雅文	選2	後期	1～	① (展)

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
教育実践理論	社会教育経営Ⅰ	田中 雅文	選2	前期	2～	旧「生涯教育計画Ⅰ」 2020年度、2021年度に限り☆
	社会教育経営Ⅱ ＜社会教育行政の経営と地域人材の育成＞	中曽根 聡	選2	後期	2～	旧「生涯教育計画Ⅱ」 2020年度、2021年度に限り☆
	生涯学習支援法Ⅰ	田中 雅文	選2	前期	2～	2020年度休講
	生涯学習支援法Ⅱ		選2	後期	2～	2020年度休講
	社会教育課題研究	山口 香苗	選2	後期	2～	
	特別支援教育(小)	平田 正吾	選2	後期	1～	(展)
	自己実現の心理学	井上 信子	選2	後期	2～	
	学級経営論 ＜学校や教員の実際を身近に感じてみませんか！＞	宇津木 孝充	選2	後期	1～	☆
	地理教育・観光教育学	郭 明	選2	前期	1～	①
	女性教育史論	齋藤 慶子	選2	後期	1～	① (展)
	現代女性教育論	渡辺 典子	選2	後期	1～	(展)
	国語科概論(書写を含む。)	宮井 和恵	選必2	前期	2	△ ◇
	算数科概論	野田 不二夫 大谷 洋貴	選必2	前期	2	△ ◇
	生活科概論	芳賀 亮作	選2	前期	2	△ ◇
	社会科概論	田部 俊充 齋藤 慶子	選必2	前期	2	△ ◇
	理科概論	五十嵐 敏文 勝地 美奈子	選2	前期	2	△ ◇
	家庭科概論 ＜家庭科教育論＞	増茂 智子	選2	後期	2	△ ◇
	音楽科概論	丸林 実千代	選必2	後期	2	△ ◇
	音楽実技	丸林 実千代 土屋 有里 佐藤 千佳	選2	通年	2～	▲ ☆ ○ 同一年度に複数クラスを同時に履修することはできない
	児童造形	橋本 文恵	選2	後期	2	△ ◇
	児童体育 ＜体育の授業作りで必要な基礎知識を学ぶ＞	柴寄 淳	選2	後期	2	△ ◇ ○
	体育実技Ⅰ		選1	前期	3～	▲ ☆ 2020年度休講
	体育実技Ⅱ		選1	後期	3～	▲ ☆ 2020年度休講
	外国語科概論	海崎 百合子 林 祐子	選2	前期	2～	△ ◇
	教育学外書講読	山下 絢	選2	前期	1～	☆ ①
	教育の諸問題 ＜「学び」についての理論を学ぶ＞	今井 康雄	選2	後期	1～	☆ ①
	社会学原論Ⅰ	田中 大介	選2	前期	2～	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「社会学原論Ⅰ」と共通
	社会学原論Ⅱ	田中 大介	選2	後期	2～	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「社会学原論Ⅱ」と共通
	政治学概論Ⅰ	片岡 大右	選2	前期	2～	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「政治学概論Ⅰ」と共通
	現代経済論Ⅰ	込江 雅彦	選2	前期	2～	現代社会学科・文化学科「現代経済論Ⅰ」と共通
	現代経済論Ⅱ	込江 雅彦	選2	後期	2～	現代社会学科・文化学科「現代経済論Ⅱ」と共通
	法学概論	篠原 亘	選2	前期	1～	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「法学概論」と共通
	日本史学論	上田 誠二	選2	前期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「日本史学論」と共通
	日本史学方法論	上田 誠二	選2	後期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「日本史学方法論」と共通
	東洋史学論	三王 昌代	選2	前期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「東洋史学論」と共通
	東洋史学方法論	三王 昌代	選2	後期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「東洋史学方法論」と共通

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
教育 実 践 理 論	西洋史学論	佐藤 育子	選2	前期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「西洋史学論」と共通
	西洋史学方法論	佐藤 育子	選2	後期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「西洋史学方法論」と共通
	地理学の方法 〈学問としての地理学の見方〉	三浦 尚子	選2	前期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「地理学の方法」と共通
	人文地理学 〈地理学からみた現代都市〉	三浦 尚子	選2	後期	2～	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「人文地理学」と共通
	地誌学Ⅰ	池 俊介	選2	前期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「地誌学Ⅰ」と共通
	地誌学Ⅱ	池 俊介	選2	後期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「地誌学Ⅱ」と共通 「地誌学Ⅰ」の単位取得者が望ましい
	哲学概説Ⅰ	佐々木 雄大	選2	前期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「哲学概説Ⅰ」と共通
	哲学概説Ⅱ 〈人間・動物・物の哲学〉	佐々木 雄大	選2	後期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「哲学概説Ⅱ」と共通 「哲学概説Ⅰ」の単位取得者が望ましい
	倫理学Ⅰ 〈倫理はどのように成立するか?〉	田中 久文	選2	前期	1～	○ 現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「倫理学Ⅰ」と共通
	倫理学Ⅱ 〈恋愛・家族・国家、応用倫理を考える〉	田中 久文	選2	後期	1～	○ 現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「倫理学Ⅱ」と共通
	カリキュラム論(小)	阿部 藤子	選2	後期	1	▲
	特別活動・総合的な学習の時間 の指導法(小)	(未定)	選2	後期	1	▲
	道德教育の指導法(小)	小笠原 優子	選2	前期	2	▲
	学校カウンセリング基礎論(小)	井上 信子	選2	前期	2	▲ ○
	初等国語科教育法	宮井 和恵	選2	後期	2	△ ◇
	初等社会科教育法	田部 俊充	選2	後期	2	△ ◇
	初等算数科教育法	野田 不二夫 大谷 洋貴	選2	後期	2	△ ◇
	初等理科教育法	五十嵐 敏文 森田 和良 勝地 美奈子	選2	後期	2	△ ◇
	初等生活科教育法	芳賀 亮作	選2	後期	2	△ ◇
	初等音楽科教育法		選2	前期	3	△ ◇ 2020年度休講
	初等図工科教育法		選2	前期	3	△ ◇ 2020年度休講
	初等家庭科教育法		選2	前期	3	△ ◇ 2020年度休講
	初等体育科教育法		選2	前期	3	△ ◇ 2020年度休講
	初等外国語科教育法	海崎 百合子 林 祐子	選2	後期	2	△ ◇
	海外教育研究		選1		2～	▲ ☆ 学期による留学をした学生の単位認定にのみ適用

◇…教育学科学生を除き、卒業するために必要な単位に含めない授業科目。

2020 年度 教育学科 授業科目表 基本科目(2016 年度入学者より 2018 年度入学者まで適用)

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
教育学研究法	教育学基礎演習	田中 雅文 荒牧 草平 清水 睦美 五十嵐 敏文	必 2	前期	1	▲
	文献研究基礎演習	今井 康雄 田部 俊充 丸林 実千代 齋藤 慶子	必 2	後期	1	▲
	量的研究基礎演習	(前)山下 絢 (前)大谷 洋貴 (後)荒牧 草平 (後)瀬尾 美紀子	必 2	前(後)	2	▲
	質的研究基礎演習	(前)清水 睦美 (前)井上 信子 (後)田中 雅文 (後)山崎 晶子	必 2	前(後)	2	▲
教育実践法	学校インターンシップⅠ	宮井 和恵 野田 不二夫 小宮山 郁子 宇津木 孝充 府津羅 裕子	選必 1	通年	1	▲ 集中 教員免許(幼、幼小、小、小中)の取得希望者に限る 2020 年度 1 クラス休講
	学校インターンシップⅡ	宮井 和恵 野田 不二夫 小宮山 郁子 宇津木 孝充 府津羅 裕子	選必 1	通年	2	▲ 集中 教員免許(幼、幼小、小、小中)の取得希望者に限る 2020 年度 1 クラス休講
	学校インターンシップ	宮井 和恵 野田 不二夫	選必 2	通年	3～	▲☆○ 集中 旧「学校インターンシップⅢ」
	プロジェクト実践演習Ⅰ 〈「次世代の教育プラン」をデザインする〉	山下 絢	選必 2	後期	1～	▲☆○
	プロジェクト実践演習Ⅱ	齋藤 慶子	選必 4	通年	2～	▲☆○ 2019 年度履修者より選択必修 4 単位 2018 年度履修者まで選択必修 2 単位
	プロジェクト実践演習Ⅲ		選必 2	後期	2～	▲☆○ 2020 年度休講
	プロジェクト実践演習Ⅳ	清水 睦美	選必 2	前期	2～	▲☆○ 2020 年度休講
	社会教育実習 〈地域での学びの最前線を体験する〉	田中 雅文 小笠原 東生	選必 1	通年	2～	○ 集中 旧「社会教育インターンシップ」 2020 年度履修者より選択必修 1 単位 2019 年度履修者まで選択必修 2 単位
	社会教育演習 〈社会教育実習での体験をふり返る〉	田中 雅文	選必 1	通年	2～	○ 集中
	教育フィールドワーク実践演習Ⅰ	田部 俊充	選必 2	後期	2～	☆ ○
	教育フィールドワーク実践演習Ⅱ	井上 信子	選必 2	後期	3～	☆ ○
	教育フィールドワーク実践演習Ⅲ	瀬尾 美紀子	選必 2	前期	2～	☆ ○

教
育

2020 年度 教育学科 授業科目表 学科専門科目(2016 年度入学者より 2018 年度入学者まで適用)

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
専修科目	教育学演習Ⅰ	荒牧 草平 井上 信子 今井 康雄 齋藤 慶子 清水 睦美 瀬尾 美紀子 田中 雅文 田部 俊充 藤田 武志 丸林 実千代 山下 絢	必 4	通年	3	▲ ○ 2020 年度藤田クラス休講

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
専修科目	教育学演習Ⅱ	荒牧 草平 井上 信子 今井 康雄 齋藤 慶子 清水 睦美 瀬尾 美紀子 田中 雅文 田部 俊充 藤田 武志 丸林 実千代 山下 絢	必 4	通年	4	▲ ○ 2020 年度藤田クラス休講
基礎理論	量的データ分析法	荒牧 草平	選必 2	後期	2～	○ ☆ 旧「教育社会情報処理」
	教育心理学研究法	瀬尾 美紀子	選 2	前期	2～	☆ 旧「教育心理学実験演習Ⅰ」
	教育心理学実験演習Ⅱ		選 2		2～	閉講
	卒業論文	荒牧 草平 井上 信子 今井 康雄 齋藤 慶子 清水 睦美 瀬尾 美紀子 田中 雅文 田部 俊充 藤田 武志 丸林 実千代 山下 絢	必 6		4	▲ 2020 年度藤田クラス休講
	教育学概論Ⅰ(幼小中高)	(前)今井 康雄 (後)渡辺 典子	選必 2	前(後)	1～	▲ 2019 年度入学者より適用の「教育学概論Ⅰ(小)」および 2018 年度入学者のみ適用の「教育学概論Ⅰ(小中高)」と合同授業 2017 年度入学者まで履修可
	教育学概論Ⅰ(小中高)	(前)今井 康雄 (後)渡辺 典子	選必 2	前(後)	1～	▲ 2019 年度入学者より適用の「教育学概論Ⅰ(小)」と合同授業 2018 年度入学者のみ履修可
	教育学概論Ⅰ(中高)	日暮 トモ子	選必 2	後期	1～	「教育学概論Ⅰ(幼小中高)」または「教育学概論Ⅰ(小中高)」を履修中または単位取得者は履修不可
	教育人間学	小谷 由美	選必 2	後期	1～	☆
	教育哲学Ⅰ ＜哲学者たちは「教育」をどう見てきたか＞	今井 康雄	選必 2	前期	1～	☆
	教育哲学Ⅱ ＜問いから始める教育哲学＞	今井 康雄	選必 2	後期	1～	☆ ㊦
	教育思想史Ⅰ	北詰 裕子	選必 2	前期	1～	☆
	教育思想史Ⅱ		選必 2	後期	1～	☆ 2020 年度休講
	日本教育史Ⅰ	齋藤 慶子	選必 2	前期	1～	(展)
	日本教育史Ⅱ	李 垠松	選必 2	後期	1～	(展)
	外国教育史Ⅰ		選必 2	前期	2～	☆ 2020 年度休講 (展)
	外国教育史Ⅱ ＜アジア地域の教育の成立と展開＞	日暮 トモ子	選必 2	後期	2～	☆ (展)
	教育社会学Ⅰ(幼小中高)	(前)藤村 朝子 (後)荒牧 草平	選必 2	前(後)	1～	▲ 2019 年度入学者より適用の「教育社会学Ⅰ(小)」および 2018 年度入学者のみ適用の「教育社会学Ⅰ(小中高)」と合同授業 2017 年度入学者まで履修可 ㊦
	教育社会学Ⅰ(小中高)	(前)藤村 朝子 (後)荒牧 草平	選必 2	前(後)	1～	▲ 2019 年度入学者より適用の「教育社会学Ⅰ(小)」と合同授業 2018 年度入学者のみ履修可 ㊦
	教育社会学Ⅰ(中高) ＜子どもの幼少期の家庭環境の影響の大きさを考える＞	中西 啓喜	選必 2	前期	1～	「教育社会学Ⅰ(幼小中高)」または「教育社会学Ⅰ(小中高)」を履修中または単位取得者は履修不可
	教育社会学Ⅱ		選必 2		1～	閉講
	量的調査研究法	荒牧 草平	選必 2	前期	3～	○ ☆

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
基 礎 理 論	教育社会学方法論	有海 拓巳	選必2	前期	1～	
	国際教育学Ⅰ	清水 睦美	選2	前期	1～	
	国際教育学Ⅱ	清水 睦美	選2	後期	1～	
	教育心理学Ⅰ(幼小中高)	(前)瀬尾 美紀子 (後)魚崎 祐子	選必2	前(後)	1～	▲2019年度入学者より適用の「教育心理学Ⅰ(小)」および 2018年度入学者のみ適用の「教育心理学Ⅰ(小中高)」と合同授業 2017年度入学者まで履修可
	教育心理学Ⅰ(小中高)	(前)瀬尾 美紀子 (後)魚崎 祐子	選必2	前(後)	1～	▲2019年度入学者より適用の「教育心理学Ⅰ(小)」と合同授業 2018年度入学者のみ履修可
	教育心理学Ⅰ(中高)	(未定)	選必2	後期	1～	「教育心理学Ⅰ(幼小中高)」または「教育心理学Ⅰ(小中高)」を履修 中または単位取得者は履修不可
	学習支援の心理学	瀬尾 美紀子	選必2	後期	1～	☆ 旧「教育心理学Ⅱ」
	生涯発達と臨床心理学	井上 信子	選必2	前期	1～	旧「児童心理学」 ㊦
教 育 実 践 理 論	異文化相互理解実地研究	清水 睦美	選1	後期	1・2・3	▲ 集中 1～3年次の履修に限る 「国際教育学Ⅰ」又は「国際教育学Ⅱ」の単位取得者が望ましい 登録については学科の指導に従うこと 2021年2月28日～3月7日
	教育方法学	石井 恭子	選2	前期	1～	
	教育方法・技術(小)	今野 貴之	選必2	前期	1～	▲ 旧「教育工学(小)」
	教育方法・技術(中高)	辻 靖彦	選必2	後期	1～	旧「教育工学(中高)」
	授業研究	野田 不二夫	選2	後期	3・4	☆
	教育工学演習	石井 恭子	選2	後期	2～	○
	教育行政学 ＜誰に権限とお金を渡すべき か？＞	山下 絢	選2	後期	1～	☆
	教育制度論	山下 絢	選必2	前期	1～	☆
	教育経済学	山下 絢	選2	後期	1～	☆ 旧「教育経営学」
	教育法規	竹原 幸太	選2	後期	1～	☆
	発達社会学		選2		1～	閉講
	人間形成の社会学	藤田 武志	選2	後期	1～	2020年度休講
	家庭教育論	奥村 典子	選2	後期	1～	(展)
	生徒指導・進路指導(小)	仲野 由佳理	選必2	前期	1～	▲ 旧「青少年指導論(小)」 ㊦
	生徒指導・進路指導(中高)	林 明子	選必2	後期	1～	旧「青少年指導論(中高)」
	生涯学習概論Ⅰ ＜人生の花を咲かせる「学び」の不思議！＞	田中 雅文	選必2	前期	1～	㊦ (展)
	生涯学習概論Ⅱ ＜「学び」がひらく明日の社会-ローカルと グローバルの視点から＞	田中 雅文	選2	後期	1～	㊦ (展)
	社会教育経営Ⅰ	田中 雅文	選2	前期	2～	旧「生涯教育計画Ⅰ」 2020年度、2021年度に限り☆
	社会教育経営Ⅱ ＜社会教育行政の経営と地域人材の育 成＞	中曽根 聡	選2	後期	2～	旧「生涯教育計画Ⅱ」 2020年度、2021年度に限り☆
	生涯学習支援法Ⅰ	田中 雅文	選2	前期	2～	2020年度休講
	生涯学習支援法Ⅱ		選2	後期	2～	2020年度休講
	社会教育課題研究	山口 香苗	選2	後期	2～	
	特別支援教育概論	平田 正吾	選2	後期	1～	2019年度入学者より適用の「特別支援教育(小)」と合 同授業 (展)
	自己実現の心理学	井上 信子	選2	後期	2～	
	現代教育論Ⅰ(現代学校論)		選2		1～	閉講
	学級経営論 ＜学校や教員の実態を身近に感じて みませんか！＞	宇津木 孝充	選2	後期	1～	☆ 旧「現代教育論Ⅱ(学級論)」

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
教 育 実 践 理 論	現代教育論Ⅲ(大学論)		選2		1～	閉講
	地理教育・観光教育学	郭 明	選2	前期	1～	旧「現代教育論Ⅴ(国際理解教育)」①
	現代教育論Ⅵ(キャリア形成論)		選必2		1～	閉講 (展)
	女性教育史論	齋藤 慶子	選2	後期	1～	旧「現代教育論Ⅶ(女性教育史論)」① (展)
	現代女性教育論	渡辺 典子	選2	後期	1～	旧「現代教育論Ⅷ(現代女性教育論)」(展)
	国語科概論(書写を含む。)	宮井 和恵	選必2	前期	2	△ ◇
	算数科概論	野田 不二夫 大谷 洋貴	選必2	前期	2	△ ◇
	生活科概論	芳賀 亮作	選2	前期	2	△ ◇
	社会科概論	田部 俊充 齋藤 慶子	選必2	前期	2	△ ◇
	理科概論	五十嵐 敏文 勝地 美奈子	選2	前期	2	△ ◇
	家庭科概論 〈家庭科教育論〉	増茂 智子	選2	後期	2	△ ◇
	音楽科概論	丸林 実千代	選必2	後期	2	△ ◇
	音楽実技	丸林 実千代 土屋 有里 佐藤 千佳	選2	通年	2～	▲ ☆ ○ 同一年度に複数クラスを同時に履修することはできない
	児童造形	橋本 文恵	選2	後期	2	△ ◇
	児童体育 〈体育の授業作りで必要な基礎知識を学ぶ〉	柴寄 淳	選2	後期	2	△ ◇ ○
	体育実技Ⅰ 〈運動の楽しさを味わえる体育学習〉	柴寄 淳	選1	前期	3～	▲ ☆
	体育実技Ⅱ 〈運動の楽しさを味わえる体育学習〉	柴寄 淳	選1	後期	3～	▲ ☆
	児童英語基礎	海崎 百合子 林 祐子	選2	前期	2～	☆ ○ 2019年度入学者より適用の「外国語科概論」と合同授業
	児童英語実践	海崎 百合子 林 祐子	選2	後期	2～	☆ ○ 2019年度入学者より適用の「初等外国語科教育法」と合同授業
	教育学外書講読	山下 絢	選2	前期	1～	☆ 旧「教育学外書講読Ⅰ」①
	教育学外書講読Ⅱ		選2		1～	閉講
	教育の諸問題 〈「学び」についての理論を学ぶ〉	今井 康雄	選2	後期	1～	☆ ①
	社会学原論Ⅰ	田中 大介	選2	前期	2～	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「社会学原論Ⅰ」と共通
	社会学原論Ⅱ	田中 大介	選2	後期	2～	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「社会学原論Ⅱ」と共通
	政治学概論Ⅰ	片岡 大右	選2	前期	2～	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「政治学概論Ⅰ」と共通
	現代経済論Ⅰ	込江 雅彦	選2	前期	2～	現代社会学科・文化学科「現代経済論Ⅰ」と共通
	現代経済論Ⅱ	込江 雅彦	選2	後期	2～	現代社会学科・文化学科「現代経済論Ⅱ」と共通
	法学概論	篠原 亘	選2	前期	1～	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「法学概論」と共通
	日本史学論	上田 誠二	選2	前期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「日本史学論」と共通
	日本史学方法論	上田 誠二	選2	後期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「日本史学方法論」と共通
	東洋史学論	三王 昌代	選2	前期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「東洋史学論」と共通
	東洋史学方法論	三王 昌代	選2	後期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「東洋史学方法論」と共通
	西洋史学論	佐藤 育子	選2	前期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「西洋史学論」と共通
	西洋史学方法論	佐藤 育子	選2	後期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「西洋史学方法論」と共通
	地理学の方法 〈学問としての地理学の見方〉	三浦 尚子	選2	前期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「地理学の方法」と共通

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
教 育 実 践 論	地誌学Ⅰ	池 俊介	選2	前期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「地誌学Ⅰ」と共通
	地誌学Ⅱ	池 俊介	選2	後期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「地誌学Ⅱ」と共通 「地誌学Ⅰ」の単位取得者が望ましい
	哲学概説Ⅰ	佐々木 雄大	選2	前期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「哲学概説Ⅰ」と共通
	哲学概説Ⅱ 〈人間・動物・物の哲学〉	佐々木 雄大	選2	後期	2	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科「哲学概説Ⅱ」と共通 「哲学概説Ⅰ」の単位取得者が望ましい
	幼児造形		選2		2	閉講
	幼児体育		選2		2	閉講
	カリキュラム論(小)	阿部 藤子	選2	後期	1	▲ 2020年度履修者より選択2単位、2019年度履修者まで選 択1単位
	カリキュラム論(中高)	阿部 藤子	選2	後期	1	△ ◇ 2020年度履修者より選択2単位、2019年度履修者ま で選択1単位
	カリキュラム論(幼稚園)		選2		1	閉講
	保育方法論		選2		1	閉講
	学校カウンセリング基礎論(小)	井上 信子	選2	前期	2	▲ ○
	学校カウンセリング基礎論(中 高)	井上 信子	選2	後期	2	△ ○ ◇
	学校カウンセリング基礎論(幼稚 園)		選2		2	閉講
	初等国語科教育法	宮井 和恵	選2	後期	2	△ ◇ 旧「国語科教材研究」
	初等社会科教育法	田部 俊充	選2	後期	2	△ ◇ 旧「社会科教材研究」
	初等算数科教育法	野田 不二夫 大谷 洋貴	選2	後期	2	△ ◇ 旧「算数科教材研究」
	初等理科教育法	五十嵐 敏文 森田 和良 勝地 美奈子	選2	後期	2	△ ◇ 旧「理科教材研究」
	初等生活科教育法	芳賀 亮作	選2	後期	2	△ ◇ 旧「生活科教材研究」
	初等音楽科教育法	丸林 実千代	選2	前期	3	△ ◇ 旧「音楽科教材研究」
	初等図工科教育法	橋本 文恵	選2	前期	3	△ ◇ 旧「図工科教材研究」
	初等家庭科教育法	齋藤 美重子	選2	前期	3	△ ◇ 旧「家庭科教材研究」
	初等体育科教育法 〈小学校における体育科教育の目標と 内容を理解し、各領域に合わせた楽し い授業づくり〉	柴 崙 淳	選2	前期	3	△ ◇ 旧「体育科教材研究」
	幼児健康教育論		選2		2	閉講
	幼児人間関係教育論		選2		3	閉講
	幼児環境教育論		選2		3	閉講
	幼児言語教育論		選2		3	閉講
	表現教育論		選2		2	閉講
	保育内容総論Ⅰ		選2		1	閉講
	保育内容総論Ⅱ		選2		1	閉講
	海外教育研究		選1		2～	▲ ☆ 学則による留学をした学生の単位認定にのみ適用

◇…教育学科学生を除き、卒業するために必要な単位に含めない授業科目。

教
育

2020年度 教育学科 開講授業科目一覧(2019 年度入学者より適用)

基本科目（外国語科目についてはP. 35 を参照） 赤字は必修科目 ※は選択必修科目

必修科目・選択必修科目				
年次	前 期	単位	後 期	単位
1年次	教育学基礎演習	2	文献研究基礎演習	2
	学校インターンシップⅠ			※1
1年次～			プロジェクト実践演習Ⅰ	※2
2年次	量的研究基礎演習	2	量的研究基礎演習	(2)
	質的研究基礎演習	2	質的研究基礎演習	(2)
	学校インターンシップⅡ			※1
2年次～	教育フィールドワーク実践演習Ⅲ	※2	教育フィールドワーク実践演習Ⅰ	※2
	プロジェクト実践演習Ⅱ			※4
	社会教育実習			※1
3年次～	社会教育演習			※1
			教育フィールドワーク実践演習Ⅱ	※2
	学校インターンシップ			※2

学科専門科目

必修科目・選択必修科目					選択科目			
年次	前 期	単位	後 期	単位	前 期	単位	後 期	単位
1年次					教職基礎論(小)	2	カリキュラム論(小)	2
1年次～							特別活動・総合的な学習の時間の指導法(小)	2
	教育学概論Ⅰ(小)	※2	教育学概論Ⅰ(小)	(※2)	国際教育学Ⅰ	2	異文化相互理解実地研究	1
	教育哲学Ⅰ	※2	教育人間学	※2	教育方法学	2	国際教育学Ⅱ	2
	教育思想史Ⅰ	※2	教育哲学Ⅱ	※2	地理教育・観光教育学	2	教育行政学	2
	日本教育史Ⅰ	※2	日本教育史Ⅱ	※2	教育学外書講読	2	教育経済学	2
	教育社会学Ⅰ(小)	※2	教育社会学Ⅰ(小)	(※2)	法学概論	2	教育法規	2
	教育社会学方法論	※2	教育心理学Ⅰ(小)	(※2)	倫理学Ⅰ	2	家庭教育論	2
	教育心理学Ⅰ(小)	※2	学習支援の心理学	※2			生涯学習概論Ⅱ	2
	生涯発達と臨床心理学	※2					特別支援教育(小)	2
	教育方法・技術(小)	※2					学級経営論	2
	教育制度論	※2					女性教育史論	2
	生徒指導・進路指導(小)	※2					現代女性教育論	2
	生涯学習概論Ⅰ	※2					教育の諸問題	2
							倫理学Ⅱ	2
2年次	国語科概論(書写を含む。)	※2	音楽科概論	※2	生活科概論	2	家庭科概論	2
	算数科概論	※2			理科概論	2	児童造形	2
	社会科概論	※2			日本史学論	2	児童体育	2
					東洋史学論	2	日本史学方法論	2
					西洋史学論	2	東洋史学方法論	2
					地理学の方法	2	西洋史学方法論	2
					地誌学Ⅰ	2	地誌学Ⅱ	2
					哲学概説Ⅰ	2	哲学概説Ⅱ	2
					道徳教育の指導法(小)	2	初等国語科教育法	2
					学校カウンセリング基礎論(小)	2	初等社会科教育法	2
							初等算数科教育法	2
							初等理科教育法	2
							初等生活科教育法	2
							初等外国語科教育法	2
2年次～			量的データ分析法	※2	音楽実技			2
			外国教育史Ⅱ	※2	海外教育研究			1
					教育心理学研究法	2	教育工学演習	2
					社会教育経営Ⅰ	2	社会教育経営Ⅱ	2
					外国語科概論	2	社会教育課題研究	2
					社会学原論Ⅰ	2	自己実現の心理学	2
					政治学概論Ⅰ	2	社会学原論Ⅱ	2
					現代経済論Ⅰ	2	現代経済論Ⅱ	2
3年次	教育学演習Ⅰ			4	初等音楽科教育法	2		
3年次～	量的調査研究法	※2			初等図工科教育法	2		
					初等家庭科教育法	2		
					初等体育科教育法	2		
					体育実技Ⅰ	1	授業研究	2
4年次	教育学演習Ⅱ			4			授業実技Ⅱ	1
	卒業論文			6				

各開講科目の履修要件等については、授業科目表とその履修方法を確認してください。

年次欄は、授業科目を何年次から履修できるかを示します。(詳細はP.29を参照)

2020年度 教育学科 開講授業科目一覧(2016 年度入学者～2018 年度入学者まで適用)

基本科目 (外国語科目についてはP. 35 を参照) 赤字は必修科目 ※は選択必修科目

必修科目・選択必修科目				
年次	前 期	単位	後 期	単位
1年次	教育学基礎演習	2	文献研究基礎演習	2
	学校インターンシップⅠ			※1
1年次～			プロジェクト実践演習Ⅰ	※2
2年次	量的研究基礎演習	2	量的研究基礎演習	(2)
	質的研究基礎演習	2	質的研究基礎演習	(2)
	学校インターンシップⅡ			※1
2年次～	教育フィールドワーク実践演習Ⅲ	※2	教育フィールドワーク実践演習Ⅰ	※2
	プロジェクト実践演習Ⅱ			※4
	社会教育実習 社会教育演習			※1 ※1
3年次～			教育フィールドワーク実践演習Ⅱ	※2
	学校インターンシップ			※2

学科専門科目

必修科目・選択必修科目					選択科目			
年次	前 期	単位	後 期	単位	前 期	単位	後 期	単位
1年次							カリキュラム論(小) カリキュラム論(中高)	2 2
1年次～	教育学概論Ⅰ(幼小中高) ('17年度入学者まで)	※2	教育学概論Ⅰ(幼小中高) ('17年度入学者まで)	(※2)	国際教育学Ⅰ	2	異文化相互理解実地研究	1
	教育学概論Ⅰ(小中高) ('18年度入学者のみ)	※2	教育学概論Ⅰ(小中高) ('18年度入学者のみ)	(※2)	教育方法学	2	国際教育学Ⅱ	2
	教育哲学Ⅰ	※2	教育学概論Ⅰ(中高)	※2	地理教育・観光教育学	2	教育行政学	2
	教育思想史Ⅰ	※2	教育人間学	※2	教育学外書講読	2	教育経済学	2
	日本教育史Ⅰ	※2	教育哲学Ⅱ	※2	法学概論	2	教育法規	2
	教育社会学Ⅰ(幼小中高) ('17年度入学者まで)	※2	日本教育史Ⅱ	※2			家庭教育論	2
	教育社会学Ⅰ(小中高) ('18年度入学者のみ)	※2	教育社会学Ⅰ(幼小中高) ('17年度入学者まで)	(※2)			生涯学習概論Ⅱ	2
	教育社会学Ⅰ(中高)	※2	教育社会学Ⅰ(小中高) ('18年度入学者のみ)	(※2)			特別支援教育概論	2
	教育社会学方法論	※2	教育心理学Ⅰ(幼小中高) ('17年度入学者まで)	(※2)			学級経営論	2
	教育心理学Ⅰ(幼小中高) ('17年度入学者まで)	※2	教育心理学Ⅰ(小中高) ('18年度入学者のみ)	(※2)			女性教育史論	2
	教育心理学Ⅰ(小中高) ('18年度入学者のみ)	※2	教育心理学Ⅰ(中高)	※2			現代女性教育論	2
	生涯発達と臨床心理学	※2	学習支援の心理学	※2			教育の諸問題	2
	教育方法・技術(小)	※2	教育方法・技術(中高)	※2				
	教育制度論	※2	生徒指導・進路指導(小)	※2				
	生徒指導・進路指導(小)	※2						
	生涯学習概論Ⅰ	※2						
2年次	国語科概論(書写を含む。)	※2	音楽科概論	※2	生活科概論	2	家庭科概論	2
	算数科概論	※2			理科概論	2	児童造形	2
	社会科概論	※2			日本史学論	2	児童体育	2
					東洋史学論	2	日本史学方法論	2
					西洋史学論	2	東洋史学方法論	2
					地理学の方法	2	西洋史学方法論	2
					地誌学Ⅰ	2	地誌学Ⅱ	2
					哲学概説Ⅰ	2	哲学概説Ⅱ	2
					学校カウンセリング基礎論(小)	2	学校カウンセリング基礎論(中高)	2
							初等国語科教育法	2
2年次～			量的データ分析法	※2	音楽実技			2
			外国教育史Ⅱ	※2	海外教育研究			1
					教育心理学研究法	2	教育工学演習	2
					社会教育経営Ⅰ	2	社会教育経営Ⅱ	2
					児童英語基礎	2	社会教育課題研究	2
					社会学原論Ⅰ	2	自己実現の心理学	2
					政治学概論Ⅰ	2	児童英語実践	2
					現代経済論Ⅰ	2	社会学原論Ⅱ	2
							現代経済論Ⅱ	2

教
育

必修科目・選択必修科目					選択科目			
年次	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
3年次	教育学演習Ⅰ			4	初等音楽科教育法 初等図工科教育法 初等家庭科教育法 初等体育科教育法	2 2 2 2		
3年次～	量的調査研究法	※2			体育実技Ⅰ	1	授業研究 体育実技Ⅱ	2 1
4年次	教育学演習Ⅱ 卒業論文			4 6				

各開講科目の履修要件等については、授業科目表とその履修方法を確認してください。
年次欄は、授業科目を何年次から履修できるかを示します。(詳細はP.29を参照)

心 理 学 科

1 学 科 の 方 針

本学科は、心理学を大きく「基礎心理学の領域」と「人間関係の心理学領域」に分けて教育、研究を行います。人間関係の心理学領域では、人格心理学、臨床心理学、社会心理学など、対人的な心理学の問題を中心におき、現代社会がもたらす人間の心の問題を深く掘り下げます。さらにその応用の分野として、家族、コミュニティ、産業、犯罪などの心理学も含まれます。ところで学問の世界では、応用部門の発展のためには基礎部門をしっかりと構築しておく必要があります。そこで本学科では、もう一つ、基礎心理学の領域をおき、知覚、認知、感情、比較、進化、発達、神経、生理などの心理学を教育しています。このような伝統的な基礎心理学の他に、情報科学やコンピュータ利用など技術的な分野の習得を目指すことも、心理学科のもう一つの特徴となっています。本学科は、人間の精神の働きに関する基礎的、応用的研究に取り組むとともに、実践的な能力を身につけた有為な人材を養成することを目指すものです。将来の公認心理師や臨床心理士のための基礎教育としても十分な教育内容を提供します。

2 カリキュラムの構成と特徴

1 年次必修科目に演習科目、実験演習科目を置き、基礎的な心理実験を少人数グループで体験できる仕組みになっています。実験演習のレポート作成と添削を受けるフィードバック経験を通じ、資料の解析と学術的な報告書作成の技能が習得できます。2 年次必修科目である実験演習を通じ、心理学の研究法をさらに深く体験します。3 年・4 年次の演習（ゼミ）では、専門性の高い学術研究の講読や実習を行い、特定テーマにおける心理現象を深く理解していきます。また各学年では基礎心理学および人間関係心理学の双方の領域において、さまざまな心理学分野をより専門的に学修できる科目（概説、特講など）を履修します。そして、4 年間の学修の集大成となる卒業論文が 4 年次の必修科目となります。

なお卒業後、大学院において公認心理師や臨床心理士取得を希望する者のために役立つ科目を設置しています。さらに展開科目として、情報科学を含めた自然系科目や他学科が提供する学科専門科目を履修することができます。

3 履 修 において望 む こと

心理学科の学科目編成は上記説明の通り、必修科目、選択必修科目が多く、最初は忙しいと感じるかもしれません。履修の基本的枠組みは 1 年、2 年次において基礎的な心理学を学び、3 年次になってそれぞれの関心領域に分かれ、4 年次では 4 年間の学習成果として卒業論文を提出します。必修科目では入学年度により多少の変更があるので、履修の手引きをよく読み、また年度初めのガイダンスに注意してください。卒業単位として 126 単位以上の履修が必要であるが、学年毎にバランスよく履修してください。また当学部は学科間の壁が低いので展開科目、自由選択科目などで他学科の興味のある科目があれば大いに受講してください。

4 履 修 の 方 法

[卒業するために履修すべき最低修得単位数]

(2018 年度入学者より適用)

科 目 区 分		単位数	履 修 内 容 等
教養特別講義（必修）		2	
基 本 科 目	必修	18	外国語科目 (8) 〈ベーシック・イングリッシュ〉 P.35～を参照、心理学研究法 (4)、心理学実験Ⅰ (4)、心理学実験Ⅱ (2)
学科専門科目	必修	26	心理学中級演習 (4)、特別演習 (4)、卒業論文 (6)、心理学統計法Ⅰ又は心理学統計法Ⅱ (2)、基礎心理学概説より (6)、人間関係心理学概説より (4)
	選択	34	選択必修科目と選択科目
展 開 科 目	必修	2	社会スポーツ実習 (2) P.115 を参照
	選択	28	P.109 を参照
自 由 選 択		16	所属学科又は所属学科以外の科目 ※
合 計		126	

学科専門科目の選択必修履修の方法

学科専修科目の心理学中級演習・1～11、特別演習・1～11 から 4 単位ずつ 8 単位を選択必修。

基礎心理学概説から 8 単位（うち 2 単位は「心理学統計法Ⅰ又は心理学統計法Ⅱ」を履修すること。）、人間関係心理学概説から 4 単位を選択必修。

※ 所属学科又は所属学科以外の科目（自由選択）の単位について

「基本科目（外国語科目を含む）」、「学科専門科目（選択）」、「展開科目」において、卒業するために必要な単位数以上の単位を修得した場合は、超えた単位数を自由選択として算入することができます。また、「資格等に関する科目」、「他学部他学科の開講科目」、「キャリア形成科目」、「本学の定めるところにより他の大学等において履修した授業科目」も自由選択として算入することができます。ただし、卒業するために必要な単位に含めない授業科目（授業科目表の備考欄に◆印のある科目、教育学科以外は◇印のある科目も含む）の単位は除きます。

(2016 年度入学者・2017 年度入学者適用)

科 目 区 分		単位数	履 修 内 容 等
教養特別講義（必修）		2	
基 本 科 目	必修	22	外国語科目⑧〈ベーシック・イングリッシュ〉P35～を参照、心理学初級演習（4）、心理学実験演習・1（4）、心理学実験演習・2（2）、心理学通論（4）
学科専門科目	必修	28	心理学中級演習（4）、特別演習（4）、卒業論文（6）、基礎心理学概説・7－Ⅰ又は7－Ⅱ（2）、基礎心理学概説より（6）、人間関係心理学概説より（4）、基礎心理学特講・4又は基礎心理学特講・5又は人間関係心理学特講・2（2）
	選択	28	選択必修科目と選択科目
展 開 科 目	必修	2	社会スポーツ実習（2）P115を参照
	選択	28	P109を参照
自 由 選 択		16	所属学科又は所属学科以外の科目 ※
合 計		126	

学科専門科目の選択必修履修の方法

学科専修科目の心理学中級演習・1～11、特別演習・1～11 から4単位ずつ8単位を選択必修。
基礎心理学概説から8単位（うち2単位は「基礎心理学概説・7－Ⅰ又は7－Ⅱ」を履修すること。）、人間関係心理学概説から4単位を選択必修。
基礎心理学特講・4又は基礎心理学特講・5又は人間関係心理学特講・2から2単位を選択必修。
※ 所属学科又は所属学科以外の科目（自由選択）の単位について
「**基本科目（外国語科目を含む）**」、「**学科専門科目（選択）**」、「**展開科目**」において、卒業するために必要な単位数以上の単位を修得した場合は、超えた単位数を自由選択として算入することができます。また、「**資格等に関する科目**」、「**他学部他学科の開講科目**」、「**キャリア形成科目**」、「**本学の定めるところにより他の大学等において履修した授業科目**」も自由選択として算入することができます。ただし、卒業するために必要な単位に含めない授業科目（授業科目表の備考欄に◆印のある科目、教育学科以外は◇印のある科目も含む）の単位は除きます。

(2011 年度入学者より 2015 年度入学者まで適用)

科 目 区 分		単位数	履 修 内 容 等
教養特別講義（必修）		2	
基 本 科 目	必修	38	外国語科目（24）P41～を参照、心理学初級演習（4）、心理学実験演習・1（4）、心理学実験演習・2（2）、心理学通論（4）
学科専門科目	必修	28	心理学中級演習（4）、特別演習（4）、卒業論文（6）、基礎心理学概説・7－Ⅰ又は7－Ⅱ（2）、基礎心理学概説より（6）、人間関係心理学概説より（4）、基礎心理学特講・4又は基礎心理学特講・5又は人間関係心理学特講・2（2）
	選択	12	選択必修科目と選択科目
展 開 科 目	必修	2	社会スポーツ実習（2）P115を参照
	選択	28	P109参照
自 由 選 択		16	所属学科又は所属学科以外の科目 ※
合 計		126	

学科専門科目の選択必修履修の方法

学科専修科目の心理学中級演習・1～11、特別演習・1～11 から4単位ずつ8単位を選択必修。
基礎心理学概説から8単位（うち2単位は「基礎心理学概説・7－Ⅰ又は7－Ⅱ」を履修すること。）、人間関係心理学概説から4単位を選択必修。
基礎心理学特講・4又は基礎心理学特講・5又は人間関係心理学特講・2から2単位を選択必修。
※ 所属学科又は所属学科以外の科目（自由選択）の単位について
「**基本科目（外国語科目を含む）**」、「**学科専門科目（選択）**」、「**展開科目**」において、卒業するために必要な単位数以上の単位を修得した場合は、超えた単位数を自由選択として算入することができます。また、「**資格等に関する科目**」、「**他学部他学科の開講科目**」、「**キャリア形成科目**」、「**本学の定めるところにより他の大学等において履修した授業科目**」も自由選択として算入することができます。ただし、卒業するために必要な単位に含めない授業科目（授業科目表の備考欄に◆印のある科目、教育学科以外は◇印のある科目も含む）の単位は除きます。

2020 年度 心理学科 授業科目表 基本科目(2018 年度入学者より適用)

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
	心理学研究法	藤崎 和香 堀江 桂吾(0:1) 塩崎 尚美(1:0) 麦谷 綾子 栗木 礼子	必 4	通年	1	▲
	心理学実験Ⅰ	金沢 創 伊村 知子 中神 明子 梶原 直樹 田淵 朋香	必 4	通年	1	▲
	心理学実験Ⅱ	麦谷 綾子 福島 円 盧 回男 北村 美穂	必 2	前期	2	▲

2020 年度 心理学科 授業科目表 学科専門科目(2018 年度入学者より適用)

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
学 科 専 修 科 目	心理学中級演習・1 〈認知心理学〉	藤崎 和香	選必 4	通年	3	▲ ○
	心理学中級演習・2 〈知覚・認知心理学演習〉	竹内 龍人	選必 4	通年	3	▲ ○
	心理学中級演習・3 〈比較発達心理学演習〉	伊村 知子	選必 4	通年	3	▲ ○
	心理学中級演習・4 〈プロジェクト・問題解決中級演習〉	久東 光代	選必 4	通年	3	▲ ○
	心理学中級演習・5 〈生涯発達心理学演習〉	麦谷 綾子	選必 4	通年	3	▲ ○
	心理学中級演習・6 〈脳と発達〉	金沢 創	選必 4	通年	3	▲ ○
	心理学中級演習・7		選必 4	通年	3	▲ ○ 2020 年度休講
	心理学中級演習・8	堀江 桂吾	選必 4	通年	3	▲ ○
	心理学中級演習・9 〈臨床心理学演習〉	川崎 直樹	選必 4	通年	3	▲ ○
	心理学中級演習・10 〈臨床心理学演習〉	塩崎 尚美	選必 4	通年	3	▲ ○
	心理学中級演習・11	青木 みのり	選必 4	通年	3	▲ ○
	特別演習・1		選必 4	通年	4	▲ ○ 2020 年度休講
	特別演習・2		選必 4	通年	4	▲ ○ 2020 年度休講
	特別演習・3		選必 4	通年	4	▲ ○ 2020 年度休講
	特別演習・4		選必 4	通年	4	▲ ○ 2020 年度休講
	特別演習・5		選必 4	通年	4	▲ ○ 2020 年度休講
	特別演習・6		選必 4	通年	4	▲ ○ 2020 年度休講
	特別演習・7		選必 4	通年	4	▲ ○ 2020 年度休講
	特別演習・8		選必 4	通年	4	▲ ○ 2020 年度休講
	特別演習・9		選必 4	通年	4	▲ ○ 2020 年度休講
	特別演習・10		選必 4	通年	4	▲ ○ 2020 年度休講
	特別演習・11		選必 4	通年	4	▲ ○ 2020 年度休講
	卒業論文		必 6		4	▲ 2020 年度休講

心
理

系列	授 業 科 目 名 ＜サブタイトル＞	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考	
概 論	心理学概論Ⅰ	藤崎 和香	選2	後期	1～		
	健康・医療心理学	堀江 桂吾	選2	後期	1～		
	人間関係心理学	中山 友則	選2	後期	1～		
	公認心理師の職責	川崎 直樹	選2	後期	2～	▲	
基 礎 心 理 学 概 説	心理学統計法Ⅰ	中神 明子	選必2	後期	1～	▲ ○	「心理学統計法Ⅰ」もしくは 「心理学統計法Ⅱ」を必ず履 修すること
	心理学統計法Ⅱ	中神 明子	選必2	後期	1～	▲ ○	
	知覚・認知心理学Ⅰ ＜公認心理師科目＞	竹内 龍人	選必2	前期	2～	(展)	
	知覚・認知心理学Ⅱ	藤崎 和香	選必2	前期	2～		
	学習・言語心理学Ⅰ	伊村 知子	選必2	前期	2～	(展)	
	学習・言語心理学Ⅱ ＜言語習得のメカニズム＞	麦谷 綾子	選必2	後期	2～	①(展)	
	神経・生理心理学Ⅰ	川崎 勝義	選必2	後期	2～		
	神経・生理心理学Ⅱ ＜脳と心の科学:顔認知を中心に＞	金沢 創	選必2	後期	2～	①(展)	
	発達心理学Ⅰ	麦谷 綾子	選必2	前期	2～	①(展)	
	発達心理学Ⅱ ＜脳と心の発達:顔認知とコミュニケ ーションの発達を手掛かりに＞	金沢 創	選必2	前期	2～	①	
	視覚心理学 ＜色彩の心理学＞	竹内 龍人	選必2	後期	2～	①(展)	
	進化心理学	伊村 知子	選必2	後期	2～		
	プロジェクト・問題解決の心理学Ⅰ	久東 光代	選必2	前期	2～	2020 年度休講	
	プロジェクト・問題解決の心理学Ⅱ	久東 光代	選必2	後期	2～	2020 年度休講	
	行動分析学	梶原 直樹	選必2	前期	2～		
	比較発達心理学	伊村 知子	選必2	後期	2～	(展)	
	生涯発達の心理学 ＜こどもの育ちに大人はなにができる のか？＞	麦谷 綾子	選必2	後期	2～	旧「生涯発達心理学」 (展)	
	多感覚心理学	藤崎 和香	選必2	後期	2～		
	応用心理学 ＜購買活動と意思決定の心理学と 行動経済学＞	竹内 龍人	選必2	前期	2～		
	基 礎 心 理 学 特 講	基礎心理学特講・2	久東 光代	選2	後期	2～	隔年 2020 年度休講
基礎心理学特講・3 ＜PsychoPy 心理学実験のためのプロ グラミング入門＞		佐藤 夏月	選2	後期	2～	○	
基礎心理学特講・4			選2	前期	3～	○ 2020 年度休講	
基礎心理学特講・6			選2	後期	2～	○ 2020 年度休講	
基礎心理学特講・8 ＜インター ネット技術とLinux 入門＞		久東 光代	選2	後期	2～	隔年	
基礎心理学特講・10			選2	前期	2～	2020 年度休講	
基礎心理学特講・11			選2	前期	2～	2020 年度休講	
質問紙調査実習Ⅰ			選2	前期	3～	2020 年度休講	
質問紙調査実習Ⅱ			選2	後期	3～	2020 年度休講	

系列	授 業 科 目 名 ＜サブタイトル＞	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
人間関係心理学概説	臨床心理学概論	青木 みのり	選必2	後期	1～	①
	社会心理学		選必2	後期	2～	2020年度休講 ①
	関係行政論	塩崎 尚美	選必2	後期	2～	▲
	感情・人格心理学Ⅰ ＜公認心理師科目＞	竹内 龍人	選必2	後期	2～	▲
	感情・人格心理学Ⅱ ＜パーソナリティ心理学＞	川崎 直樹	選必2	前期	2～	
	心理学的支援法Ⅰ ＜カウンセリング理論＞	川崎 直樹	選必2	後期	2～	(展)
	心理学的支援法Ⅱ	福島 円	選必2	後期	2～	▲
	教育・学校心理学	青木 みのり	選必2	前期	3・4	①(展)
	カウンセリング技法	塩崎 尚美	選必2	後期	2～	▲
人間関係心理学特講	社会・集団・家族心理学Ⅰ	鈴木 敦命	選2	後期	2～	①
	社会・集団・家族心理学Ⅱ	青木 みのり	選2	後期	2～	①(展)
	多変量解析Ⅰ ＜分散分析と多変量解析入門＞	椎名 久美子	選2	後期	2～	▲ ○ 「心理学統計法Ⅰ」、「心理学統計法Ⅱ」いずれかの単位取得者に 限り履修可
	多変量解析Ⅱ ＜様々な統計ソフトウェアを用いた 多変量解析の実践＞	渋谷 進	選2	後期	2～	○
	福祉心理学	福島 里美	選2	後期	2～	①
	心理的アセスメント ＜臨床心理検査法＞	堀江 桂吾	選2	前期	2～	▲
	障害者・障害児心理学Ⅰ	金沢 創	選2	前期	2～	
	障害者・障害児心理学Ⅱ	熊 仁美	選2	後期	2～	
	精神疾患とその治療 ＜異常心理学(精神医学)＞	坂寄 健	選2	前期	2～	
	司法・犯罪心理学	市村 彰英	選2	前期	3・4	(展)
	青年期臨床心理学	市村 彰英	選2	後期	3・4	(展)
	産業・組織心理学 ＜産業や組織における人間の心理と 行動とは＞	原 恵子	選2	後期	2～	(展)
	人間工学 ＜人間工学・安全心理学＞	吉村 健志	選2	後期	2～	(展)
	心理演習	川崎 直樹 青木 みのり 塩崎 尚美 堀江 桂吾 福島 円	選2	前期	3	▲
	心理実習		選2	通年	4	▲ 集中 2020年度休講
	外国大学心理学関連科目		選1		2～	▲ ☆ 学則による留学をした学生の単位認定にのみ適用

2020 年度 心理学科 授業科目表 基本科目(2017 年度入学者まで適用)

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
	心理学初級演習	藤崎 和香 堀江 桂吾(0:1) 塩崎 尚美(1:0) 麦谷 綾子 栗木 礼子	必 4	通年	1	▲ 2018 年度入学者より適用の「心理学研究法」と合同授業
	心理学実験演習・1	金沢 創 伊村 知子 中神 明子 梶原 直樹 田淵 朋香	必 4	通年	1	▲ 2018 年度入学者より適用の「心理学実験Ⅰ」と合同授業
	心理学実験演習・2	麦谷 綾子 福島 円 盧 回男 北村 美穂	必 2	前期	2	▲ 2018 年度入学者より適用の「心理学実験Ⅱ」と合同授業
	心理学通論	竹内 龍人	必 4	通年	3・4	▲ 2018 年度入学者より適用の「感情・人格心理学Ⅰ」「応用心理学」と合同授業

2020 年度 心理学科 授業科目表 学科専門科目(2017 年度入学者まで適用)

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
学 科 専 修 科 目	臨床実践演習・1		選 2		2～	閉講
	関係行政論	塩崎 尚美	選 2	後期	2～	▲ 「臨床実践演習・1」の単位取得者は履修不可
	臨床実践演習・2		選 2		2～	閉講
	心理学的支援法Ⅱ	福島 円	選 2	後期	2～	▲ 「臨床実践演習・2」の単位取得者は履修不可
	臨床実践演習・3		選 2		3・4	閉講
	臨床実践演習・4		選 2		3・4	閉講
	カウンセリング技法	塩崎 尚美	選 2	後期	2～	▲
	心理学中級演習・1 〈認知心理学〉	藤崎 和香	選必 4	通年	3	▲ ○
	心理学中級演習・2 〈知覚・認知心理学演習〉	竹内 龍人	選必 4	通年	3	▲ ○
	心理学中級演習・3 〈比較発達心理学演習〉	伊村 知子	選必 4	通年	3	▲ ○
	心理学中級演習・4 〈プロジェクト・問題解決中級演習〉	久東 光代	選必 4	通年	3	▲ ○
	心理学中級演習・5 〈生涯発達心理学演習〉	麦谷 綾子	選必 4	通年	3	▲ ○
	心理学中級演習・6 〈脳と発達〉	金沢 創	選必 4	通年	3	▲ ○
	心理学中級演習・7		選必 4	通年	3	▲ ○ 2020 年度休講
	心理学中級演習・8	堀江 桂吾	選必 4	通年	3	▲ ○
	心理学中級演習・9 〈臨床心理学演習〉	川崎 直樹	選必 4	通年	3	▲ ○
	心理学中級演習・10 〈臨床心理学演習〉	塩崎 尚美	選必 4	通年	3	▲ ○
	心理学中級演習・11	青木 みのり	選必 4	通年	3	▲ ○
	特別演習・1 〈認知心理学特別演習〉	藤崎 和香	選必 4	通年	4	▲ ○
	特別演習・2 〈知覚心理学演習〉	竹内 龍人	選必 4	通年	4	▲ ○

系列	授 業 科 目 名 ＜サブタイトル＞	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
学 科 専 修 科 目	特別演習・3 ＜比較発達心理学演習＞	伊村 知子	選必4	通年	4	▲ ○
	特別演習・4 ＜プロジェクト・問題解決の心理学特別演習＞	久東 光代	選必4	通年	4	▲ ○
	特別演習・5 ＜生涯発達心理学＞	麦谷 綾子	選必4	通年	4	▲ ○
	特別演習・6 ＜認知発達科学演習＞	金沢 創	選必4	通年	4	▲ ○
	特別演習・7 ＜社会心理学演習＞	石黒 格	選必4	通年	4	▲ ○
	特別演習・8	堀江 桂吾	選必4	通年	4	▲ ○
	特別演習・9 ＜臨床心理学演習＞	川崎 直樹	選必4	通年	4	▲ ○
	特別演習・10 ＜臨床心理学特別演習＞	塩崎 尚美	選必4	通年	4	▲ ○
	特別演習・11	青木 みのり	選必4	通年	4	▲ ○
	卒業論文	青木 みのり 伊村 知子 麦谷 綾子 藤崎 和香 金沢 創 川崎 直樹 久東 光代 塩崎 尚美 竹内 龍人 堀江 桂吾	必6		4	▲
概 論	心理学概論		選4		1～	閉講
	心理学概論Ⅰ	藤崎 和香	選2	後期	1～	「心理学概論」の単位取得者は履修不可
	公認心理師の職責	川崎 直樹	選2	後期	2～	▲ 「心理学概論」の単位取得者は履修不可
	人間関係学概論		選4		1～	閉講
	健康・医療心理学	堀江 桂吾	選2	後期	1～	「人間関係学概論」の単位取得者は履修不可
	人間関係心理学	中山 友則	選2	後期	1～	「人間関係学概論」の単位取得者は履修不可
基 礎 心 理 学 概 説	基礎心理学概説・1－Ⅰ ＜脳と心の発達：顔認知とコミュニケーションの発達を手掛かりに＞	金沢 創	選必2	前期	2～	2018 年度入学者より適用の「発達心理学Ⅱ」と合同授業 ①
	基礎心理学概説・1－Ⅱ ＜脳と心の科学：顔認知を中心＞	金沢 創	選必2	後期	2～	2018 年度入学者より適用の「神経・生理心理学Ⅱ」と合同授業 ① (展)
	基礎心理学概説・2－Ⅰ ＜知覚心理学＞	竹内 龍人	選必2	前期	2～	2018 年度入学者より適用の「知覚・認知心理学Ⅰ」と合同授業 (展)
	基礎心理学概説・2－Ⅱ ＜色彩の心理学＞	竹内 龍人	選必2	後期	2～	2018 年度入学者より適用の「視覚心理学」と合同授業 ① (展)
	基礎心理学概説・3－Ⅰ ＜学習・言語心理学＞	伊村 知子	選必2	前期	2～	2018 年度入学者より適用の「学習・言語心理学Ⅰ」と合同授業 (展)
	基礎心理学概説・3－Ⅱ ＜進化心理学＞	伊村 知子	選必2	後期	2～	2018 年度入学者より適用の「進化心理学」と合同授業
	基礎心理学概説・4		選必2		2～	閉講
	プロジェクト・問題解決の心理学Ⅰ	久東 光代	選必2	前期	2～	2020 年度休講
	プロジェクト・問題解決の心理学Ⅱ	久東 光代	選必2	後期	2～	2020 年度休講
	基礎心理学概説・5－Ⅰ ＜行動分析学＞	梶原 直樹	選必2	前期	2～	2018 年度入学者より適用の「行動分析学」と合同授業
	基礎心理学概説・5－Ⅱ ＜比較発達心理学＞	伊村 知子	選必2	後期	2～	2018 年度入学者より適用の「比較発達心理学」と合同授業 (展)

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考	
基礎心理学概説	基礎心理学概説・6－Ⅰ	麦谷 綾子	選必2	前期	2～	2018 年度入学者より適用の「発達心理学Ⅰ」と合同授業 ①(展)	
	基礎心理学概説・6－Ⅱ 〈こどもの育ちに大人はなにができるのか?〉	麦谷 綾子	選必2	後期	2～	「基礎心理学概説・6－Ⅰ」を受講していることが望ましい 2018 年度入学者より適用の「生涯発達の心理学」と合同授業 (展)	
	基礎心理学概説・7－Ⅰ 〈統計学入門〉	中神 明子	選必2	後期	1～	▲ ○ 2018 年度入学者より適用の「心理学統計法Ⅰ」と合同授業	「基礎心理学概説・7－Ⅰ」もしくは「基礎心理学概説・7－Ⅱ」を必ず履修すること
	基礎心理学概説・7－Ⅱ	中神 明子	選必2	後期	1～	▲ ○ 2018 年度入学者より適用の「心理学統計法Ⅱ」と合同授業	
	基礎心理学概説・8 〈言語習得のメカニズム〉	麦谷 綾子	選必2	後期	2～	2018 年度入学者より適用の「学習・言語心理学Ⅱ」と合同授業 ①(展)	
	基礎心理学概説・9		選必4		3・4	閉講	
	多感覚心理学	藤崎 和香	選必2	後期	2～		
	知覚・認知心理学Ⅱ	藤崎 和香	選必2	前期	2～		
	基礎心理学概説・10		選必2		3～	閉講	
	データ分析法概説		選必2		2～	閉講	
	神経・生理心理学Ⅰ	川崎 勝義	選必2	後期	2～	「基礎心理学概説・4」の単位取得者は履修不可	
基礎心理学特講	基礎心理学特講・2	久東 光代	選2	後期	2～	隔年 2020 年度休講 「情報処理基礎Ⅰ」または「情報処理基礎Ⅱ」の単位取得者が望ましい	
	基礎心理学特講・3 〈PsychoPy 心理学実験のためのプログラミング入門〉	佐藤 夏月	選2	後期	2～	○	
	基礎心理学特講・4		選必2	前期	3～	○ 2020 年度休講	「基礎心理学特講・4」もしくは「基礎心理学特講・5」もしくは「人間関係心理学特講・2」を必ず履修すること
	基礎心理学特講・5 〈分散分析と多変量解析入門〉	椎名 久美子	選必2	後期	2～	▲ ○ 「基礎心理学概説・7－Ⅰ」、「基礎心理学概説・7－Ⅱ」いずれかの単位取得者に限り履修可 2018 年度入学者より適用の「多変量解析Ⅰ」と合同授業	
	基礎心理学特講・6		選2	後期	2～	○ 「情報処理基礎Ⅰ」または「情報処理基礎Ⅱ」の単位取得者が望ましい 2020 年度休講	
	基礎心理学特講・8 〈インターネット技術とLinux 入門〉	久東 光代	選2	後期	2～	隔年 「情報処理基礎Ⅰ」または「情報処理基礎Ⅱ」の単位取得者が望ましい	
	基礎心理学特講・9		選2		2～	閉講	
	障害者・障害児心理学Ⅱ	熊 仁美	選2	後期	2～		
	基礎心理学特講・10		選2	前期	2～	「情報処理基礎Ⅰ」または「情報処理基礎Ⅱ」の単位取得者が望ましい 2020 年度休講	
	基礎心理学特講・11		選2	前期	1～	2020 年度休講	
	心理学調査実習		選4		3～	閉講	
	質問紙調査実習Ⅰ		選2	前期	3～	旧「質問紙調査実習」前期 「心理学調査実習」「質問紙調査実習」の単位取得者は履修不可 2020 年度休講	
	質問紙調査実習Ⅱ		選2	後期	3～	旧「質問紙調査実習」後期 「心理学調査実習」「質問紙調査実習」の単位取得者は履修不可 2020 年度休講	
人間関係心理学概説	社会心理学Ⅰ	鈴木 敦命	選必2	後期	2～	2018 年度入学者より適用の「社会・集団・家族心理学Ⅰ」と合同授業 ①	
	社会心理学Ⅱ		選必2	後期	2～	2018 年度入学者より適用の「社会心理学」と合同授業 2020 年度休講 ①	
	臨床心理学・Ⅰ 〈臨床心理学基礎論〉	青木 みのり	選必2	後期	1～	2018 年度入学者より適用の「臨床心理学概論」と合同授業 ①	
	臨床心理学・Ⅱ 〈パーソナリティ心理学〉	川崎 直樹	選必2	前期	2～	2018 年度入学者より適用の「感情・人格心理学Ⅱ」と合同授業	
	臨床心理学・Ⅲ 〈カウンセリング理論〉	川崎 直樹	選必2	後期	2～	2018 年度入学者より適用の「心理学的支援法Ⅰ」と合同授業 (展)	
	臨床心理学・Ⅳ 〈教育・学校心理学〉	青木 みのり	選必2	前期	3・4	2018 年度入学者より適用の「教育・学校心理学」と合同授業 ①(展)	

系列	授 業 科 目 名 ＜サブタイトル＞	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
人 間 関 係 心 理 学 特 講	人間関係心理学特講・1	青木 みのり	選2	後期	2～	2018年度入学者より適用の「社会・集団・家族心理学Ⅱ」と合同授業 ①(展)
	人間関係心理学特講・2 ＜様々な統計ソフトウェアを用いた多変量解析の実践＞	渋谷 進	選必2	後期	2～	○ 「基礎心理学特講・4」もしくは「基礎心理学特講・5」もしくは「人間関係心理学特講・2」を必ず履修すること 2018年度入学者より適用の「多変量解析Ⅱ」と合同授業
	人間関係心理学特講・3	福島 里美	選2	後期	2～	2018年度入学者より適用の「福祉心理学」と合同授業 ①
	人間関係心理学特講・4 ＜臨床心理検査法＞	堀江 桂吾	選2	前期	2～	▲ 2018年度入学者より適用の「心理的アセスメント」と合同授業
	人間関係心理学特講・5 ＜発達障害を考える＞	金沢 創	選2	前期	2～	2018年度入学者より適用の「障害者・障害児心理学Ⅰ」と合同授業
	人間関係心理学特講・6 ＜異常心理学(精神医学)＞	坂寄 健	選2	前期	2～	2018年度入学者より適用の「精神疾患とその治療」と合同授業
	人間関係心理学特講・7		選2		3・4	閉講 (展)
	人間関係心理学特講・8		選2		2～	閉講 (展)
	人間関係心理学特講・9 ＜非行(犯罪)の理論と心理＞	市村 彰英	選2	前期	3・4	2018年度入学者より適用の「司法・犯罪心理学」と合同授業 (展)
	人間関係心理学特講・10 ＜非行臨床の実際＞	市村 彰英	選2	後期	3・4	2018年度入学者より適用の「青年期臨床心理学」と合同授業 (展)
	人間関係心理学特講・11 ＜産業や組織における人間の心理と行動とは＞	原 恵子	選2	後期	2～	2018年度入学者より適用の「産業・組織心理学」と合同授業 (展)
	人間関係心理学特講・12 ＜人間工学・安全心理学＞	吉村 健志	選2	後期	2～	2018年度入学者より適用の「人間工学」と合同授業 (展)
	外国大学心理学関連科目		選1		2～	▲ ☆ 学則による留学をした学生の単位認定にのみ適用

心
理

2020年度 心理学科 開講授業科目一覧(2018年度入学者より適用)

基本科目 (外国語科目についてはP. 35 を参照)

必修科目				
年次	前 期	単 位	後 期	単 位
1 年次	心理学研究法 心理学実験 I			4 4
2 年次	心理学実験 II	2		

学科専門科目

必修科目・選択必修科目					選 択 科 目			
年次	前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位
1 年次～			心理学統計法 I 心理学統計法 II 臨床心理学概論	※2 ※2 ※2			健康・医療心理学 人間関係心理学 心理学概論 I	2 2 2
2 年次～	知覚・認知心理学 I 知覚・認知心理学 II 学習・言語心理学 I 発達心理学 I 発達心理学 II 行動分析学 応用心理学 感情・人格心理学 II	※2 ※2 ※2 ※2 ※2 ※2 ※2 ※2	学習・言語心理学 II 神経・生理心理学 I 神経・生理心理学 II 視覚心理学 進化心理学 比較発達心理学 生涯発達の心理学 多感覚心理学 関係行政論 感情・人格心理学 I 心理学的支援法 I 心理学的支援法 II カウンセリング技法	※2 ※2 ※2 ※2 ※2 ※2 ※2 ※2 ※2 ※2 ※2 ※2	障害者・障害児心理学 I 精神疾患とその治療 心理的アセスメント	2 2 2	公認心理師の職責 基礎心理学特講・3 基礎心理学特講・8 社会・集団・家族心理学 I 社会・集団・家族心理学 II 障害者・障害児心理学 II 多変量解析 I 多変量解析 II 福祉心理学 産業・組織心理学 人間工学	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
3 年次	心理学中級演習			※4	心理演習	2		
3 年次～	教育・学校心理学	※2			司法・犯罪心理学	2	青年期臨床心理学	2
4 年次	特別演習 卒業論文			※4 6				

赤字は必修 ※は選択必修

「心理学統計法 I」もしくは「心理学統計法 II」のいずれか選択必修

各開講科目の履修要件等については、授業科目表とその履修方法を確認してください。

年次欄は、授業科目を何年次から履修できるかを示します。(詳細はP. 29を参照)

2020年度 心理学科 開講授業科目一覧(2017年度入学者まで適用)

基本科目（外国語科目については 2016 年度入学者よりは P. 35、2015 年度入学者までは P. 41 を参照）

必修科目				
年次	前 期	単位	後 期	単位
1 年次	心理学初級演習 心理学実験演習・1			4 4
2 年次	心理学実験演習・2	2		
3 年次～	心理学通論			4

学科専門科目

必修科目・選択必修科目					選 択 科 目			
年次	前 期	単位	後 期	単位	前 期	単位	後 期	単位
1 年次～			基礎心理学概説・7-Ⅰ 基礎心理学概説・7-Ⅱ 臨床心理学・Ⅰ	※2 ※2 ※2			健康・医療心理学 人間関係心理学 心理学概論Ⅰ	2 2 2
2 年次～	基礎心理学概説・1-Ⅰ 基礎心理学概説・2-Ⅰ 基礎心理学概説・3-Ⅰ 基礎心理学概説・5-Ⅰ 基礎心理学概説・6-Ⅰ 知覚・認知心理学Ⅱ 臨床心理学・Ⅱ	※2 ※2 ※2 ※2 ※2 ※2 ※2	基礎心理学特講・5 人間関係心理学特講・2 基礎心理学概説・1-Ⅱ 基礎心理学概説・2-Ⅱ 基礎心理学概説・3-Ⅱ 基礎心理学概説・5-Ⅱ 基礎心理学概説・6-Ⅱ 基礎心理学概説・8 多感覚心理学 神経・生理心理学Ⅰ 社会心理学Ⅰ 臨床心理学・Ⅲ	※2 ※2 ※2 ※2 ※2 ※2 ※2 ※2 ※2 ※2 ※2	人間関係心理学特講・4 人間関係心理学特講・5 人間関係心理学特講・6	2 2 2	障害者・障害児心理学Ⅱ 関係行政論 心理学的支援法Ⅱ カウンセリング技法 公認心理師の職責 基礎心理学特講・3 基礎心理学特講・8 人間関係心理学特講・1 人間関係心理学特講・3 人間関係心理学特講・11 人間関係心理学特講・12	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
3 年次	心理学中級演習			※4	外国大学心理学関連科目			1
3 年次～	臨床心理学・Ⅳ	※2			人間関係心理学特講・9	2	人間関係心理学特講・10	2
4 年次	特別演習 卒業論文			※4 6				

赤字は必修 ※は選択必修

「基礎心理学特講・4」もしくは「基礎心理学特講・5」もしくは「人間関係心理学特講・2」のいずれか選択必修

「基礎心理学概説7-Ⅰ」もしくは「基礎心理学概説7-Ⅱ」のいずれか選択必修

各開講科目の履修要件等については、授業科目表とその履修方法を確認してください。

年次欄は、授業科目を何年次から履修できるかを示します。（詳細は P. 29を参照）

6

大学院の授業科目の先取り履修について

本学の心理学科に在籍する4年次学生が、本学大学院人間社会研究科心理学専攻の授業科目を履修（先取り履修）し修得した単位は、卒業後本学大学院人間社会研究科心理学専攻に進学した場合に限り、大学院博士課程前期課程の「修了に必要な単位（32単位）」に含めることができます。（2015年4月より実施）

1 履修対象者

本学大学院人間社会研究科心理学専攻へ入学を志望する心理学科に在籍中の4年次生で、心理学科が定める4年次必修以外の卒業要件を満たしていることが条件です。

2 先取り履修が可能な科目

本項末の「心理学専攻 先取り履修可能授業科目」の表を参照してください。

3 学力判定

心理学科で行います。履修希望者は詳細について履修登録期間までに心理学科に問い合わせてください。

4 履修登録

授業科目の履修について心理学科で許可された後、自動的に履修登録されます。

履修を許可された場合、登録の取り消しは一切認められません。

5 修得単位数の上限

修得単位数の上限は、6単位とします。

6 修得単位の取扱い

先取り履修で修得した単位は、学部の修得単位（卒業要件単位）に含めることはできません。本学大学院人間社会研究科心理学専攻に入学しなかった場合、大学院の単位としても無効となります。

7 成績評価

学部の成績とは別に、大学院の先取り履修科目として成績が通知されます。本学大学院人間社会研究科心理学専攻に入学後、博士課程前期1年次において定められた期間内に申請することにより認定されます。成績評価は大学院の学則によることとします。

心理学専攻 先取り履修可能授業科目

博士課程前期

授 業 科 目			単位数		講義 演習・ 実習の別	期	担当者名	備考
領域	開講	授 業 科 目 名	必修	選択				
心理学基礎領域	○	心理学研究基礎論講義		4	講義	通年	青木、麦谷、藤崎、 金沢、川崎、伊村、塩崎、 竹内、堀江	隔年
		心理学研究基礎論演習		4	演習	通年	青木、麦谷、藤崎、 金沢、川崎、伊村、塩崎、 竹内、堀江	隔年
		基礎心理学特論Ⅰ講義（認知心理学）		4	講義	通年	准教授 藤崎 和香	隔年
	○	基礎心理学特論Ⅰ演習（認知心理学）		4	演習	通年	准教授 藤崎 和香	隔年
	○	基礎心理学特論Ⅱ講義（知覚心理学）		4	講義	通年	教 授 竹内 龍人	隔年
		基礎心理学特論Ⅱ演習（知覚心理学）		4	演習	通年	教 授 竹内 龍人	隔年
		基礎心理学特論Ⅲ講義（発生論的認知心理学）		4	講義	通年	教 授 金沢 創	隔年
	○	基礎心理学特論Ⅲ演習（発生論的認知心理学）		4	演習	通年	教 授 金沢 創	隔年
		基礎心理学特論Ⅳ講義（比較発達心理学）		4	講義	通年	准教授 伊村 知子	隔年
	○	基礎心理学特論Ⅳ演習（比較発達心理学）		4	演習	通年	准教授 伊村 知子	隔年
		心理学特別講義Ⅰ－１（生理心理学）		2	講義	前期		
		心理学特別講義Ⅰ－２（比較神経生理学）		2	講義	前期		
		心理学特別研究Ⅰ講義（認知神経科学１）		2	講義	後期		
	○	心理学特別研究Ⅰ講義（認知神経科学２）		2	講義	前期	講師(兼任) 松元 健二	
		心理学特別研究Ⅱ講義（心理学と社会）		2	講義	後期		
	○	発達障害心理学（福祉分野に関する理論と支援の展開）		2	講義	前期	講師(兼任) 山本 淳一	
基礎関連領域	○	発達心理学特論講義１		2	講義	前期	准教授 麦谷 綾子	隔年
	○	発達心理学特論講義２		2	講義	後期	准教授 麦谷 綾子	隔年
		発達心理学特論演習１		2	演習	前期	准教授 麦谷 綾子	隔年
		発達心理学特論演習２		2	演習	後期	准教授 麦谷 綾子	隔年
		社会心理学特論講義		4	講義	通年		隔年
		社会心理学特論演習		4	演習	通年		隔年
	○	青年期精神医学（保健医療分野に関する理論と支援の展開）		2	講義	前期	講師(兼任) 高橋 雄一	集中
臨床領域	○	家族療法（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）		2	演習	前期	教 授 青木 みのり	
	○	精神医学（保健医療分野に関する理論と支援の展開）		2	演習	前期	講師(兼任) 生地 新	集中
	○	臨床心理関連行政論（福祉分野に関する理論と支援の展開）		2	演習	後期	福島 里美	隔年
	○	健康心理学（心の健康教育に関する理論と実践）		2	演習	前期	講師(兼任)	集中
	○	質的研究法		2	講義	前期	講師(兼任) 林 葉子	

○印は2020年度開講

全科目反復履修可

心
理

公認心理師となるために大学で修めるべき科目について

2018 年度入学者より

心理学科では、これまでの心理学の学びを発展させ、2018 年度入学者より、保健医療、福祉、教育などの領域で、心理学に関する専門的知識および技術をもって活躍する公認心理師の資格に対応したカリキュラムを設置しました。これにより、幅広い知識と、豊かな専門性を身につけた質の高い公認心理師の養成を目指します。

公認心理師の受験資格取得を希望する学生は、大学で所定の科目を履修し、規定科目の単位を修得すること、さらに大学院において所定の科目を修めるか、文部科学大臣・厚生労働大臣が認めるプログラムにのっとって業務が実施されている施設における 2 年以上の実務経験を積むことが必要です。

本学における開設科目

公認心理師となるために大学で修めるべき科目で、本学において該当する開講科目は下記の表の通りです。また、「心理実習」の履修は人数に制限があり選考によって決定します。履修登録や、履修科目の詳細については、1 年次入学オリエンテーション、および学科の履修ガイダンスで説明します。

(別表) 公認心理師資格取得に係る告示による教科目と本学開講科目 (学部)

大学における必要な科目		本学開講科目				備考
		本学開講科目	単位数	授業形態	授業時間	
1	公認心理師の職責	公認心理師の職責	2	講義	30	
2	心理学概論	心理学概論Ⅰ	2	講義	30	
3	臨床心理学概論	臨床心理学概論	2	講義	30	
4	心理学研究法	心理学研究法	4	演習	60	
5	心理学統計法	心理学統計法Ⅰ 心理学統計法Ⅱ	2 2	講義 演習	30 30	1 科目 2 単位以上選択必修
6	心理学実験	心理学実験Ⅰ	4	演習・実験	60	
7	知覚・認知心理学	知覚・認知心理学Ⅰ 知覚・認知心理学Ⅱ	2 2	講義 講義	30 30	
8	学習・言語心理学	学習・言語心理学Ⅰ 学習・言語心理学Ⅱ	2 2	講義 講義	30 30	
9	感情・人格心理学	感情・人格心理学Ⅰ 感情・人格心理学Ⅱ	2 2	講義 講義	30 30	
10	神経・生理心理学	神経・生理心理学Ⅰ 神経・生理心理学Ⅱ	2 2	講義 講義	30 30	
11	社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学Ⅰ 社会・集団・家族心理学Ⅱ	2 2	講義 講義	30 30	
12	発達心理学	発達心理学Ⅰ 発達心理学Ⅱ	2 2	講義 講義	30 30	
13	障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学Ⅰ 障害者・障害児心理学Ⅱ	2 2	講義 演習	30 30	
14	心理的アセスメント	心理的アセスメント	2	講義	30	
15	心理学的支援法	心理学的支援法Ⅰ 心理学的支援法Ⅱ	2 2	講義 演習	30 30	
16	健康・医療心理学	健康・医療心理学	2	講義	30	
17	福祉心理学	福祉心理学	2	講義	30	
18	教育・学校心理学	教育・学校心理学	2	講義	30	
19	司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2	講義	30	
20	産業・組織心理学	産業・組織心理学	2	講義	30	
21	人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2	講義	30	
22	精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	2	講義	30	
23	関係行政論	関係行政論	2	演習	30	
24	心理演習	心理演習	2	演習	30	
25	心理実習	心理実習	2	演習	80	

赤字は必修科目

2017 年度までの入学者について

法施行日前に大学に入学した 2017 年度までの入学者について、経過措置期間内は受験資格の特例として、2017 年度までの開講科目から読み替えが可能です。詳細は心理学科に問い合わせてください。

心
理

文化学科

1 学 科 の 方 針

文化学科は、単なる知識の収集にとどまらず、異なる文化が生まれてくる背景を考えながら、他民族、他国、他者の文化を掘り下げて理解し、併せて自分の国や地域の文化に対する認識も深めることを目標にしています。すなわち学生が、文化の諸現象や諸問題について総合的に理解する能力を習得し、知性と感性に磨きをかけ、国際的な視野をもって社会で活躍できる能力、ユニークなものへチャレンジする創造的能力を養成することを目的にしています。

1年次では外国語とともに文化学の基礎を様々な分野から広く学び、2年次以降、地域文化コース、視覚文化コース、比較文化コースに分かれて、授業の専門性を一層高めていきます。

2 カリキュラムの構成と特徴

1. 上記の方針のもとに、文化学の基礎を構成する基本科目と各分野にわたる学科専門科目および関連選択科目が開設されています。カリキュラムは、1～2年次で基本科目（外国語科目、「文化論」、「基礎演習」、「文化学演習Ⅰ」など）および関連選択科目を履修し、3年次から「文化学演習Ⅱ」を中心に、その他の専門科目などを履修しながら卒業研究を準備できるように構成されています。
2. カリキュラムの特徴は、学生がそれぞれの関心と目的に応じてコース（地域文化、視覚文化、比較文化の3コース）を選択し、主体的にカリキュラムを作成できることです。
3. 学生は、1年次において文化学の基礎となる科目と大学生として必要な知識・教養・判断力を養う科目を学びながら、コースを選ぶ準備をします。2年次以降、「文化学演習Ⅰ・Ⅱ」などの授業で教員の指導を得ながら、そのコースを中心に各自の関心と目的に合わせて履修カリキュラムを作成します。（詳しくはP.99【5. 履修の方法】を参照）

3 各 コース の 特 徴

○地域文化コース

地域文化コースでは、それぞれ特有の歴史と文化を持つ地域（英米文化圏、ドイツ文化圏、フランス文化圏、イタリア文化圏、中国文化圏、韓国文化圏、東南アジア文化圏、日本文化圏）の様々な文化（文学、思想、歴史、社会）を学ぶことができます。学生はこれらの地域から学んでみたい文化圏を選び、それに関する科目（「地域文化論」、「言葉と文化」、「社会と文化」など）を履修し、その地域の文化について学びながら、各自が関心のある領域、研究したいテーマを見つけていきます。また、関連する他の文化圏の科目や他のコースの科目をいくつか選択履修して、研究したいテーマをより広く深めて、卒業研究を準備します。最後に、研究可能なテーマを参考として挙げておきます：文学（小説、詩、童話、民話、旅行記など）、思想、宗教、都市の歴史、演劇、オペラ、映画、教育、家族、ジェンダー、エスニシティ、生活風俗、旅、観光、モード、食文化。

○視覚文化コース

視覚文化コースは、視覚的に表現されたものや、その概念について学ぶコースで、美学、芸術学、日本美術史、西洋美術史、芸術史、民俗学、考古学などのほか、建築や映画、あるいは消費社会のなかの表象、つまりファッション、商業写真、漫画、アニメなども研究の対象として取り上げます。それらが歴史や社会のなかでどのように機能してきたか、なぜそのような表象が登場し、どのような意味をもつのか、などを考えます。各国の文化も多く取り上げるので、外国語にも積極的に取り組みましょう。面白い現象だけを見るのではなく、歴史や思想をきちんと把握して体系づけることを目指しています。

○比較文化コース

文化とは諸外国からの様々な影響を受けて形成されるものです。日本は古くから中国の文化の影響を受け、中世にはキリシタン文化、鎖国時代にはオランダ文化などが移入されました。そのような諸文化の混交から日本の文化は形成されてきました。現代の日本にも様々な文化現象があり、日本独自の文化と思っていたものが実は意外な国の影響下に生まれたものも少なくありません。比較文化コースの特徴は、そのような国境を越えた諸文化のぶつかり合いを学ぶことです。文学や思想、芸術、映画、ファッション、あらゆる場面に現出する国際的な関わりが、比較文化と言えます。具体的には日本文化に基礎を置き、その日本文化と様々な文化圏（英米文化圏、ドイツ文化圏、フランス文化圏、イタリア文化圏、中国文化圏、韓国文化圏、東南アジア文化圏）との相互の関わりを研究することになります。

4 履修において望むこと

1. 自分の興味ある問題を広く深く追究すべく、基本科目、学科専門科目、展開科目の中から必要な科目を選択することが望ましいです。
2. 1年次においては、外国語および文化論と基礎演習などをしっかり履修し、自分の関心がどこにあるのか、2年次以降の履修カリキュラムをどのように作成していくのかをよく考えてください。
3. 履修する科目の予習が十分できるように、無理のない時間割を作成することが望ましいです。(単位取得だけを考えて無理に時間割を埋めるようなことはしないこと。)
4. 資格科目の選択にあたっては、それなりの時間と努力が要求されるので、よく考えてから選択することが望ましいです。
5. 1年次の外国語選択にあたっては、関心のある文化圏を考慮することが望ましいです。

5 履修の方法

1. 文化学演習Ⅰ・Ⅱの履修について

いずれのコースを専攻する場合も、2年次において文化学演習Ⅰをa～rから4単位以上選択必修する。3年次からは学科専門科目の文化学演習Ⅱをa～rから8単位(3年次、4年次で1クラスずつ。同一クラスの反復履修可)以上選択必修。

2. 各コースの履修方法

所属コースによって学科専門科目(選択)の履修方法が異なる。コースごとに、以下の[a]と[b]を合わせて**32単位以上**。

なお、P.102～の「2020年度 文化学科 授業科目表 学科専門科目」では、下記[a]の科目がA～Fの系列別にまとめて掲載されている。

コース推奨科目…学科専門科目以外の科目で、コースの内容に合致し、そのコースが目的とする学修の基礎力を高めるために効果的な科目です。卒業要件単位には変更はありませんが、履修を強く推奨します。

○地域文化コース

[a] 以下の科目から**20単位以上**。

A系列：地域文化論(イギリス・アメリカ・ドイツ・フランス・中国・イタリア・韓国・東南アジア)、
地域文化史Ⅰ～Ⅴ、古典ギリシア語、ラテン語、地域文化研究Ⅰ・Ⅱ

D系列：文化思想史Ⅰ：西洋・Ⅱ：日本

E系列：言葉と文化(イギリス・アメリカ・ドイツ・フランス・中国・日本・イタリア・イスラム・韓国)、
社会と文化(イギリス・アメリカ・ドイツ・フランス・中国・イタリア・イスラム・韓国)、
現代アジア文化論

[b] H系列を除くすべての文化学科専門科目から**12単位以上**。

コース推奨科目…【基本科目(外国語科目)】各外国語の原典講読(前期・後期)

○視覚文化コース

[a] 以下の科目から**20単位以上**。

B系列：芸術思想史Ⅰ：日本・Ⅱ：西洋、芸術文化史Ⅰ：西洋・Ⅱ：日本、情報グラフィック論Ⅱ、現代芸術論Ⅰ・Ⅱ、
視覚芸術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、視覚文化史Ⅰ・Ⅱ、音楽文化史Ⅰ・Ⅱ、芸術資料フィールドワークa・b・c・d・e、
表象文化論a・b・c、映像文化論Ⅰ・Ⅱ、映像文化史

D系列：文化思想史Ⅰ：西洋・Ⅱ：日本

F系列：比較芸術、比較文化史Ⅰ・Ⅱ

[b] H系列を除くすべての文化学科専門科目から**12単位以上**。

コース推奨科目…【展開科目】日本美術史(Ⅰ・Ⅱ)、西洋美術史(Ⅰ・Ⅱ)、美学(Ⅰ・Ⅱ)、映像と文化(Ⅰ・Ⅱ)

○比較文化コース

[a] 以下の科目から**20単位以上**。

C系列：比較文化論Ⅰ・Ⅱ、比較演劇Ⅰ・Ⅱ、文化交流史Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、日本学Ⅰ・Ⅱ、観光と文化Ⅰ・Ⅱ

E系列：言葉と文化(イギリス・アメリカ・ドイツ・フランス・中国・日本・イタリア・イスラム・韓国)、
社会と文化(イギリス・アメリカ・ドイツ・フランス・中国・イタリア・イスラム・韓国)、
現代アジア文化論

F系列：比較芸術、比較文化史Ⅰ・Ⅱ

[b] H系列を除くすべての文化学科専門科目から**12単位以上**。

コース推奨科目…【基本科目(外国語科目)】各外国語の原典講読(前期・後期)

*学科専門科目(選択)に関する注意事項

H系列は、いずれも学科専門科目の単位数および展開科目の単位数には含まれず、自由選択科目の単位数となる。

[卒業するために履修すべき最低修得単位数]

(2016 年度入学者より適用)

科 目 区 分		単位数	履 修 内 容 等
教養特別講義（必修）		2	
基 本 科 目	必修	44	外国語科目(32)〈ベーシック・イングリッシュ(8)、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・イタリア語・韓国語より選択必修 (24)〉P.35～を参照、文化論(4)、基礎演習(4)、文化学演習Ⅰ(4)
学科専門科目	必修	14	文化学演習Ⅱ(8)、卒業研究(6)
	選択	32	
展 開 科 目		22	P.109 を参照
自 由 選 択		12	所属学科又は所属学科以外の科目 ※
合 計		126	

※ 所属学科又は所属学科以外の科目（自由選択）の単位について

「基本科目（外国語科目を含む）」、「学科専門科目（選択）」、「展開科目」において、卒業するために必要な単位数以上の単位を修得した場合は、超えた単位数を自由選択として算入することができます。また、「資格等に関する科目」、「他学部他学科の開講科目」、「キャリア形成科目」、「本学の定めるところにより他の大学等において履修した授業科目」も自由選択として算入することができます。ただし、卒業するために必要な単位に含めない授業科目（授業科目表の備考欄に◆印のある科目、教育学科以外に◇印のある科目も含む）の単位は除きます。

(2015 年度入学者まで適用)

科 目 区 分		単位数	履 修 内 容 等
教養特別講義（必修）		2	
基 本 科 目	必修	44	文化論(4)、基礎演習(4)、外国語科目(32) P.41～を参照 文化学演習Ⅰ(4)
学科専門科目	必修	14	文化学演習Ⅱ(8)、卒業研究(6)
	選択	32	
展 開 科 目		22	P.109 を参照
自 由 選 択		12	所属学科又は所属学科以外の科目 ※
合 計		126	

※ 所属学科又は所属学科以外の科目（自由選択）の単位について

「基本科目（外国語科目を含む）」、「学科専門科目（選択）」、「展開科目」において、卒業するために必要な単位数以上の単位を修得した場合は、超えた単位数を自由選択として算入することができます。また、「資格等に関する科目」、「他学部他学科の開講科目」、「キャリア形成科目」、「本学の定めるところにより他の大学等において履修した授業科目」も自由選択として算入することができます。ただし、卒業するために必要な単位に含めない授業科目（授業科目表の備考欄に◆印のある科目、教育学科以外に◇印のある科目も含む）の単位は除きます。

2020 年度 文化学科 授業科目表 基本科目

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考	
	文化論Ⅰ：地域	朴 倍暎	選必2	前期	1		▲☆ 文化論は6科目のうち2科目4単位を履修すること
	文化論Ⅱ：地域 〈観光文化 と グローバル化〉	B. P. レウルス	選必2	後期	1		
	文化論Ⅲ：視覚 〈滑稽さの美学: 美学入門〉	木村 覚	選必2	前期	1		
	文化論Ⅳ：視覚 〈視覚文化分析入門——名作日本映画を題材に〉	川崎 公平	選必2	後期	1		
	文化論Ⅴ：比較 〈絵本からイギリス文化を考える〉	坂井 妙子	選必2	前期	1		
	文化論Ⅵ：比較	奥波 一秀	選必2	後期	1		
	基礎演習 a	奥波 一秀	選必2	後期	1		▲○ 基礎演習は2科目4単位を履修すること 原則として前期・後期それぞれ1クラスずつ履修すること
	基礎演習 b 〈『ティファニーで朝食を』をめぐって: テキスト、映画、翻訳、そして受容〉	田中 有美	選必2	後期	1		
	基礎演習 c 〈映画作品分析の基礎〉	川崎 公平	選必2	後期	1		
	基礎演習 d 〈アメリカ研究の基礎を学ぶ〉	杉山 直子	選必2	後期	1		
	基礎演習 e 〈楽しく学ぶ西洋美術史入門〉	河本 真理	選必2	前期	1		
	基礎演習 f	田中 久文	選必2	前期	1	2020 年度休講	
	基礎演習 g 〈レポート・発表の基礎〉	佐々木 雄大	選必2	後期	1		
	基礎演習 h 〈Basic Research Skills〉	ニール・アディソン	選必2	前期	1		
	基礎演習 i 〈説話文学の世界〉	三田 明弘	選必2	前期	1		
	基礎演習 j	中西 裕二	選必2	前期	1	2020 年度休講	
	基礎演習 k 〈四年の12月に立派な卒論を書くために今獲得しておくべき技術〉	木村 覚	選必2	前期	1		
	基礎演習 l	水野 僚子	選必2	後期	1	2020 年度休講	
	基礎演習 m		選必2	後期	1	2020 年度休講	
	基礎演習 n 〈フランス文学・文化研究入門〉	高井 奈緒	選必2	前期	1		
	基礎演習 o	坂井 妙子	選必2	前期	1	2020 年度休講	
	基礎演習 p		選必2	後期	1	2020 年度休講	
	基礎演習 q	朴 倍暎	選必2	前期	1	2020 年度休講	
	基礎演習 r	B. P. レウルス	選必2	後期	1	2020 年度休講	
	文化学演習Ⅰa	水野 僚子	選必2	前期	2	2020 年度休講	▲○ 文化学演習Ⅰは2科目4単位を履修すること 原則として前期・後期それぞれ1クラスずつ履修すること
	文化学演習Ⅰb		選必2	前期	2	2020 年度休講	
	文化学演習Ⅰc 〈文化問題を考える〉	奥波 一秀	選必2	前期	2		
	文化学演習Ⅰd 〈優美と演劇性について〉	木村 覚	選必2	後期	2		
	文化学演習Ⅰe 〈『グレート・ギャツビー』をめぐって: テキスト、映画、翻訳、そして受容〉	田中 有美	選必2	前期	2		
	文化学演習Ⅰf 〈フランス文化研究〉	高井 奈緒	選必2	後期	2		
	文化学演習Ⅰg		選必2	前期	2	2020 年度休講	
	文化学演習Ⅰh 〈応用倫理学(生命・環境)について考える〉	田中 久文	選必2	後期	2		

文
化

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考	
	文化学演習 I i	杉山 直子	選必2	前期	2		▲ ○ 文化学演習 I は2科目4単位を履修すること 原則として前期・後期それぞれ1クラスずつ履修すること
	文化学演習 I j	中西 裕二	選必2	前期	2	2020 年度休講	
	文化学演習 I k 〈映画作品分析の実践——アルフレッド・ヒッチコックを題材に〉	川崎 公平	選必2	前期	2		
	文化学演習 I l 〈説話文学の中の女性像〉	三田 明弘	選必2	後期	2		
	文化学演習 I m 〈20 世紀のファッション〉	坂井 妙子	選必2	後期	2		
	文化学演習 I n 〈イギリス文化とフェミニズム [Feminism in British Culture]〉	ニール・アディソン	選必2	後期	2		
	文化学演習 I o 〈楽しく学ぶ西洋美術史〉	河本 真理	選必2	後期	2		
	文化学演習 I p 〈映像と韓国社会〉	朴 倍暎	選必2	後期	2		
	文化学演習 I q 〈文章を読むということ〉	佐々木 雄大	選必2	前期	2		
	文化学演習 I r 〈グローバル時代における多様性、グローバル時代の成功のカギは「ダイバーシティ」〉	B. P. レウルス	選必2	前期	2		

2020 年度 文化学科 授業科目表 学科専門科目

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考	
	文化学演習 II a	水野 僚子	選必4	通年	3・4	2020 年度休講	▲ ☆ ○ 文化学演習 II は3年次、4年次各学年で1科目ずつ、2科目8単位履修すること
	文化学演習 II b		選必4	通年	3・4	2020 年度休講	
	文化学演習 II c 〈文化の歴史的・理論的な考察〉	奥波 一秀	選必4	通年	3・4		
	文化学演習 II d 〈美学とポップカルチャー研究〉	木村 覚	選必4	通年	3・4		
	文化学演習 II e 〈卒業研究に向けて〉	田中 有美	選必4	通年	3・4		
	文化学演習 II f 〈フランス文化・文学研究〉	高井 奈緒	選必4	通年	3・4		
	文化学演習 II g		選必4	通年	3・4	2020 年度休講	
	文化学演習 II h 〈日本の文化・思想・宗教 / 生命倫理・環境倫理〉	田中 久文	選必4	通年	3・4		
	文化学演習 II i 〈ジェンダーで学ぶアメリカ文化〉	杉山 直子	選必4	通年	3・4		
	文化学演習 II j 〈日本と東南アジアの文化、日本の観光文化を考える〉	中西 裕二	選必4	通年	3・4		
	文化学演習 II k	川崎 公平	選必4	通年	3・4		
	文化学演習 II l 〈日中比較文化論〉	三田 明弘	選必4	通年	3・4		
	文化学演習 II m 〈イギリス研究と現代のイギリス〉	坂井 妙子	選必4	通年	3・4		
	文化学演習 II n 〈British Narrative: Literature and Film〉	ニール・アディソン	選必4	通年	3・4		
	文化学演習 II o	河本 真理	選必4	通年	3・4		
	文化学演習 II p	朴 倍暎	選必4	通年	3・4		

系列	授 業 科 目 名 ＜サブタイトル＞	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考	
	文化学演習Ⅱq ＜西洋哲学・倫理学＞	佐々木 雄大	選必4	通年	3・4		▲ ☆ ○ 文化学演習Ⅱは3年次、4年次各学年 で1科目ずつ、2科目8単位履修する こと
	文化学演習Ⅱr ＜(前期)「グローバル化とフランス社会の変貌」 (日仏比較) (後期)「フランス、多様性ゆえに 国が豊か」(日仏比較)＞	B. P. レウルス	選必4	通年	3・4		
	卒業研究	ニール・アディソン 奥波 一秀 川崎 公平 木村 寛 河本 真理 坂井 妙子 佐々木 雄大 杉山 直子 高井 奈緒 田中 久文 田中 有美 中西 裕二 朴 倍暎 水野 僚子 三田 明弘 B. P. レウルス	必6		4	▲ 2020年度水野クラス休講	
A	地域文化論:イギリス ＜ヴィクトリア朝イギリスにおける顔、ファッション、そして化粧＞	坂井 妙子	選2	後期	2～		(展)
	地域文化論:アメリカ ＜セレブリティ・シェフという現象とアメリカ食文化の行方＞	田中 有美	選2	前期	2～		(展)
	地域文化論:ドイツ ＜恋愛と人類愛 ドイツの理想主義＞	満留 伸一郎	選2	後期	2～		(展)
	地域文化論:フランス ＜France が世界一の観光大国になれた 主な理由、地域からなるフランスの多様 性・地方性＞	B. P. レウルス	選2	前期	2～		(展)
	地域文化論:中国 ＜日本文化とのつながりと差異を考える＞	相田 満	選2	前期	2～		(展)
	地域文化論:日本		選2		2～	閉講	(展)
	地域文化論:イタリア	永井 裕子	選2	後期	2～		
	地域文化論:韓国	朴 倍暎	選2	後期	2～		(展)
	地域文化論:東南アジア	松井 生子	選2	後期	2～		(展)
	地域文化史Ⅰ ＜イギリスの全体像を探る＞	佐藤 千佳	選2	前期	2～	☆	
	地域文化史Ⅱ ＜イギリス生活の彩＞	佐藤 千佳	選2	後期	2～	☆	
	地域文化史Ⅲ ＜ヴェネツィア・ルネサンス＞	細野 喜代	選2	前期	2～	☆	
	地域文化史Ⅳ ＜ヴェネツィア・ルネサンス＞	細野 喜代	選2	後期	2～	☆	
	地域文化史Ⅴ	杉山 直子	選2	後期	2～	☆	
	古典ギリシア語		選4	通年	2～	隔年 2020年度休講	
	ラテン語	水島 陽子	選4	通年	2～	隔年	
	地域文化研究Ⅰ ＜絵本の魅力再発見！＞	坂井 妙子	選2	前期	2～	☆	
	地域文化研究Ⅱ ＜フランスにおける宗教、モード(ファッション)＞	高井 奈緒	選2	前期	2～	☆	
B	芸術思想史Ⅰ:日本 ＜日本人の美意識を考える＞	田中 久文	選2	前期	2～	隔年	

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
B	芸術思想史Ⅱ：西洋	佐々木 雄大	選2	後期	2～	隔年 2020 年度休講
	芸術文化史Ⅰ：西洋 ＜ダンスと身体を考える：物理的な身体と 仮想的な身体とが踊る時代のダンス論＞	木村 覚	選2	後期	2～	
	芸術文化史Ⅱ：日本 ＜女性像から日本の絵巻を読み解く＞	成原 有貴	選2	前期	2～	
	情報グラフィック論Ⅱ ＜3次元グラフィックス＞	鳥海 有紀	選2	前期	2～	○ 2017 年度入学者までは「情報処理基礎Ⅰ」の単位取得者が望ましい
	現代芸術論Ⅰ ＜（現代）戦争の表象―第一次世界大戦 と美術＞	河本 真理	選2	前期	2～	
	現代芸術論Ⅱ ＜（美術史とジェンダー）（絵画と写真）＞	河本 真理	選2	後期	2～	
	視覚芸術論Ⅰ ＜日本彫刻史入門＞	神野 祐太	選2	前期	2～	☆
	視覚芸術論Ⅱ	利根川 由奈	選2	後期	2～	☆
	視覚芸術論Ⅲ	水野 僚子	選2	前期	2～	2020 年度休講
	視覚文化史Ⅰ ＜江戸時代の絵画をみる・知る・考える＞	森下 佳菜	選2	前期	2～	
	視覚文化史Ⅱ ＜描かれた日本の名所絵＞	森下 佳菜	選2	後期	2～	
	音楽文化史Ⅰ ＜ヴァーグナーとその楽劇の考察＞	奥波 一秀	選2	前期	2～	
	音楽文化史Ⅱ ＜ヴァーグナーとその楽劇の考察＞	奥波 一秀	選2	後期	2～	
	芸術資料フィールドワーク		選2		3～	閉講
	芸術資料フィールドワーク a	川崎 公平	選2	通年	2～	☆ ○ 集中(校外授業あり) 履修希望者は、前期の履修登録期間前に行う登録説明会(掲示にて通知)に必ず出席し、名簿に氏名を記入すること 実施日が重複するクラスは、同一年度に履修することはできない 【校外授業】 a：5月9日～5月10日、8月28日～8月29日 b：5月9日～5月10日、8月28日～8月29日 c：9月14日～9月16日 d：2020 年度休講 e：9月15日～9月18日
	芸術資料フィールドワーク b	木村 覚	選2	通年	2～	
	芸術資料フィールドワーク c	河本 真理	選2	通年	2～	
	芸術資料フィールドワーク d	水野 僚子	選2	通年	2～	
	芸術資料フィールドワーク e ＜地域の文化資源と観光資源について考える＞	中西 裕二	選2	通年	2～	
	表象文化論 a ＜日本絵画にみる生と死＞	成原 有貴	選2	後期	2～	
	表象文化論 b ＜ミュージカル映画研究＞	木村 覚	選2	後期	2～	
	表象文化論 c ＜西洋美術と「他者」＞	味岡 京子	選2	後期	2～	
	映像文化論Ⅰ ＜イメージと表象の基礎＞	川崎 公平	選2	前期	2～	
	映像文化論Ⅱ ＜イメージと表象を間メディア的に考える ――映画・マンガ・アニメーション＞	川崎 公平	選2	後期	2～	
	映像文化史 ＜日本映画史のなかの「子ども」＞	川崎 公平	選2	前期	2～	
C	比較文化論Ⅰ ＜『ドン・キホーテ』と世界の文化＞	田中 有美	選2	前期	2～	
	比較文化論Ⅱ ＜「アメリカン・ウーマン」＞	田中 有美	選2	後期	2～	
	比較演劇Ⅰ	高橋 宏幸	選2	前期	2～	
	比較演劇Ⅱ	高橋 宏幸	選2	後期	2～	

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
C	文化交流史Ⅰ 〈ジャポニスム〉	糸 和沙	選2	後期	2～	(展)
	文化交流史Ⅱ 〈近代日本の都市・建築・美術〉	手塚 恵美子	選2	後期	2～	(展)
	文化交流史Ⅲ 〈世紀末都市文化ーロンドン〉	坂井 妙子	選2	後期	2～	①
	日本学Ⅰ	長谷川 秀子	選2	前期	2～	グローバル科目 (展)
	日本学Ⅱ	長谷川 秀子	選2	後期	2～	グローバル科目 (展)
	観光と文化Ⅰ 〈日本を例に観光と文化の関係について、宗教／経済という軸で考える〉	中西 裕二	選2	前期	2～	(展)
	観光と文化Ⅱ 〈現代観光の諸相を考える〉	中西 裕二	選2	後期	1～	(展)
D	文化思想史Ⅰ：西洋 〈「エコノミー」の文化思想史〉	佐々木 雄大	選2	後期	2～	隔年
	文化思想史Ⅱ：日本	田中 久文	選2	後期	2～	隔年 2020 年度休講
E	言葉と文化：イギリス 〈イギリスの物語文化 [British Narrative Culture]〉	ニール・アディソン	選2	前期	2～	(展)
	言葉と文化：アメリカ 〈食と物語：エドナ・ルイスの『田舎料理の味』と「ソウル・フード」の言説〉	田中 有美	選2	後期	2～	☆ (展)
	言葉と文化：ドイツ	満留 伸一郎	選2	後期	2～	☆ (展)
	言葉と文化：フランス 〈19 世紀フランス文学に親しむ〉	高井 奈緒	選2	後期	2～	(展)
	言葉と文化：中国 〈唐代の鬼神説話を読む〉	三田 明弘	選2	後期	2～	隔年 ①(展)
	言葉と文化：日本 〈日本文学史の女たち〉	三村 友希	選2	後期	2～	(展)
	言葉と文化：イタリア 〈パスタとアモーレ〉	佐々木 雄大	選2	前期	2～	隔年 (展)
	言葉と文化：イスラム 〈イスラームの理解を深める〉	須永 恵美子	選2	後期	2～	(展)
	言葉と文化：韓国 〈東洋哲学と韓国〉	朴 倍暎	選2	前期	2～	隔年 (展)
	社会と文化：イギリス 〈ブリティッシュ・ファッションのルーツを探る！〉	坂井 妙子	選2	前期	2～	①(展)
	社会と文化：アメリカ 〈アメリカ合衆国の黒人文化〉	杉山 直子	選2	前期	2～	①(展)
	社会と文化：ドイツ	早崎 えりな	選2	前期	2～	☆ ①(展)
	社会と文化：フランス 〈「グローバル化」が進むフランスはどう変わる？〉	B. P. レウルス	選2	後期	2～	①(展)
	社会と文化：中国	三田 明弘	選2	後期	2～	隔年 2020 年度休講 (展)
	社会と文化：日本		選2		2～	閉講 (展)
	社会と文化：イタリア	佐々木 雄大	選2	前期	2～	隔年 2020 年度休講 (展)
	社会と文化：イスラム 〈イスラーム世界入門〉	須永 恵美子	選2	前期	2～	(展)
	社会と文化：韓国	朴 倍暎	選2	前期	2～	隔年 2020 年度休講 (展)
	現代アジア文化論 〈中国・台湾・香港と日本〉	三田 明弘	選2	前期	2～	
F	比較芸術 〈〈イメージと文字〉〈芸術とモード〉〉	河本 真理	選2	前期	3～	①

系列	授 業 科 目 名 ＜サブタイトル＞	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
F	比較文化史Ⅰ ＜美・崇高・エロティシズム＞	佐々木 雄大	選2	前期	2～	
	比較文化史Ⅱ ＜視覚とイメージ＞	佐々木 雄大	選2	後期	2～	
G	日本文学Ⅰ ＜平安文学作品の車の場面を読み解く＞	鈴木 貴子	選2	前期	2～	
	日本文学Ⅱ ＜平安文学作品の揺り動かされる女＞	鈴木 貴子	選2	後期	2～	
	日本思想史 ＜西田幾多郎、九鬼周造、和辻哲郎、西谷啓治、鈴木大拙、三木清の哲学思想＞	熊谷 征一郎	選2	後期	2～	
	倫理学Ⅰ ＜倫理はどのように成立するか？＞	田中 久文	選2	前期	1～	○ 現代社会学科・社会福祉学科・教育学科「倫理学Ⅰ」と共通
	倫理学Ⅱ ＜恋愛・家族・国家、応用倫理を考える＞	田中 久文	選2	後期	1～	○ 現代社会学科・社会福祉学科・教育学科「倫理学Ⅱ」と共通
	情報と文化Ⅰ	調 文明	選2	前期	2～	
	情報と文化Ⅱ	調 文明	選2	後期	2～	
	情報と文化演習Ⅰ：画像処理		選4		1～	閉講
	情報と文化演習Ⅱ：画像処理		選4		2～	閉講
	情報と文化演習Ⅰ ＜デジタル画像処理 Photoshop/Powerpoint/Adobe Creative Cloud＞	久保 進次	選2	前期	1～	○ 2016年度以前開講の「情報と文化演習Ⅰ：画像処理」の単位取得者は履修不可
	情報と文化演習Ⅱ ＜デジタルパブリッシング入門 Illustrator/Dreamweaver/Adobe Creative Cloud＞	久保 進次	選2	後期	1～	○ 2016年度以前開講の「情報と文化演習Ⅱ：画像処理」の単位取得者は履修不可 「情報と文化演習Ⅰ」の単位取得者が望ましい
	情報と文化演習Ⅲ ＜webアニメーション＞	久保 進次	選2	後期	2～	○ 旧「情報と文化演習：Webアニメーション」 「情報と文化演習Ⅰ」または2016年度以前開講の「情報と文化演習Ⅰ：画像処理」の単位取得者が望ましい
	情報と文化演習Ⅳ ＜情報の生成、編集、発信の方法を学ぶ＞	中西 裕二 杵村 史朗	選2	前期	2～	○ 旧「情報と文化演習：プレゼンテーション技法」
	情報グラフィック論Ⅰ ＜色彩学の基礎と演習＞	天野 豊久	選2	前期	1～	
	民俗学Ⅰ ＜日本民俗学の創始者・柳田国男の思想と方法＞	室井 康成	選2	前期	2～	(展)
	民俗学Ⅱ ＜「事大主義」から見た日本人の他者像と自画像＞	室井 康成	選2	後期	2～	
	音楽論Ⅰ ＜《君が代》のメロディーは「日本的」か？＞	奥波 一秀	選2	前期	2～	①(展)
	音楽論Ⅱ ＜音楽の「本質」への問い＞	奥波 一秀	選2	後期	2～	①(展)
	シナリオ論Ⅰ		選2		2～	閉講
	シナリオ論Ⅱ		選2		2～	閉講
	イタリア芸術文化史	永井 裕子	選2	前期	1～	☆ ①
	異文化アウェアネス		選2		2～	閉講
	文化人類学Ⅰ	西村 一之	選2	前期	1～	現代社会学科「文化人類学Ⅰ」と共通 (展)
	文化人類学Ⅱ	西村 一之	選2	後期	2～	☆ 現代社会学科「文化人類学Ⅱ」と共通 (展)
	日本社会史Ⅰ	上田 誠二	選2	前期	2～	▲ 現代社会学科「日本社会論Ⅲ」と共通
	日本社会史Ⅱ	上田 誠二	選2	後期	2～	▲ 現代社会学科「日本社会論Ⅳ」と共通
	メディア論 ＜インターネット時代のマス・メディア＞	遠藤 知己	選2	前期	2～	▲ 現代社会学科「現代社会論Ⅰ」と共通
	日本史学論	上田 誠二	選2	前期	2～	現代社会学科・社会福祉学科・教育学科「日本史学論」と共通 履修については欄外を参照

系列	授 業 科 目 名 〈サブタイトル〉	担 当 者 名	単位数	期	年次	備 考
G	日本史学方法論	上田 誠二	選 2	後期	2～	現代社会学科・社会福祉学科・教育学科「日本史学方法論」と共通 履修については欄外を参照
	東洋史学論	三王 昌代	選 2	前期	2	現代社会学科・社会福祉学科・教育学科「東洋史学論」と共通
	東洋史学方法論	三王 昌代	選 2	後期	2	現代社会学科・社会福祉学科・教育学科「東洋史学方法論」と共通
	西洋史学論	佐藤 育子	選 2	前期	2	現代社会学科・社会福祉学科・教育学科「西洋史学論」と共通
	西洋史学方法論	佐藤 育子	選 2	後期	2	現代社会学科・社会福祉学科・教育学科「西洋史学方法論」と共通
	地誌学Ⅰ	池 俊介	選 2	前期	2	現代社会学科・社会福祉学科・教育学科「地誌学Ⅰ」と共通
	地誌学Ⅱ	池 俊介	選 2	後期	2	現代社会学科・社会福祉学科・教育学科「地誌学Ⅱ」と共通 「地誌学Ⅰ」の単位取得者が望ましい
	哲学概説Ⅰ	佐々木 雄大	選 2	前期	2	現代社会学科・社会福祉学科・教育学科「哲学概説Ⅰ」と共通
	哲学概説Ⅱ 〈人間・動物・物の哲学〉	佐々木 雄大	選 2	後期	2	現代社会学科・社会福祉学科・教育学科「哲学概説Ⅱ」と共通 「哲学概説Ⅰ」の単位取得者が望ましい
	外国大学文化学演習		選 1		2～	▲ ☆ 学則による留学をした学生の単位認定にのみ適用 認定単位数は12 単位を上限とする
H	社会学原論Ⅰ	田中 大介	選 2	前期	2～	現代社会学科・社会福祉学科・教育学科「社会学原論Ⅰ」と共通 ◎
	社会学原論Ⅱ	田中 大介	選 2	後期	2～	現代社会学科・社会福祉学科・教育学科「社会学原論Ⅱ」と共通 ◎
	政治学概論Ⅰ	片岡 大右	選 2	前期	2～	現代社会学科・社会福祉学科・教育学科「政治学概論Ⅰ」と共通 ◎
	政治学概論Ⅱ		選 2		2～	閉講 ◎
	現代経済論Ⅰ	込江 雅彦	選 2	前期	2～	現代社会学科・教育学科「現代経済論Ⅰ」と共通 ◎
	現代経済論Ⅱ	込江 雅彦	選 2	後期	2～	現代社会学科・教育学科「現代経済論Ⅱ」と共通 ◎
	法学概論	篠原 亘	選 2	前期	1～	現代社会学科・社会福祉学科・教育学科「法学概論」と共通 ◎
	地理学の方法 〈学問としての地理学の見方〉	三浦 尚子	選 2	前期	2	現代社会学科・社会福祉学科・教育学科「地理学の方法」と共通 ◎
	人文地理学 〈地理学からみた現代都市〉	三浦 尚子	選 2	後期	2	現代社会学科・社会福祉学科・教育学科「人文地理学」と共通 ◎

◎……………学科専門科目に含めない授業科目

「日本史学論」「日本史学方法論」について

2019 年度入学者より学科専門科目の単位数に含める。

2018 年度入学者までは、学科専門科目の単位数に含まれず、自由選択科目の単位数となる。

※学科専門科目(選択)に関する注意事項

H 系列は、いずれも学科専門科目の単位数および展開科目の単位数には含まれず、自由選択科目の単位数となる。

2020年度 文化学科 開講授業科目一覧

基本科目（外国語科目については 2016 年度入学者よりは P. 35、2015 年度入学者までは P. 41 を参照）

必修科目・選択必修科目				
年次	前 期	単位	後 期	単位
1 年次	基礎演習	※2	基礎演習	※2
	文化論	※2	文化論	※2
2 年次	文化学演習 I	※2	文化学演習 I	※2

学科専門科目

必修科目					選択科目				
年次	前 期	単位	後 期	単位	前 期	単位	後 期	単位	
1 年次～					倫理学Ⅰ	2	倫理学Ⅱ	2	
					情報と文化演習Ⅰ	2	情報と文化演習Ⅱ	2	
					情報グラフィック論Ⅰ	2	観光と文化Ⅱ	2	
					イタリア芸術文化史	2			
					文化人類学Ⅰ	2			
					法学概論 ◎	2			
2 年次					東洋史学論	2	東洋史学方法論	2	
					西洋史学論	2	西洋史学方法論	2	
					地誌学Ⅰ	2	地誌学Ⅱ	2	
					哲学概説Ⅰ	2	哲学概説Ⅱ	2	
					地理学の方法 ◎	2	人文地理学 ◎	2	
2 年次～					ラテン語			4	
					地域文化論:アメリカ	2	地域文化論:イギリス	2	
					地域文化論:フランス	2	地域文化論:ドイツ	2	
					地域文化論:中国	2	地域文化論:イタリア	2	
					地域文化史Ⅰ	2	地域文化論:韓国	2	
					地域文化史Ⅲ	2	地域文化論:東南アジア	2	
					地域文化研究Ⅰ	2	地域文化史Ⅱ	2	
					地域文化研究Ⅱ	2	地域文化史Ⅳ	2	
					芸術思想史Ⅰ:日本	2	地域文化史Ⅴ	2	
					芸術文化史Ⅱ:日本	2	芸術文化史Ⅰ:西洋	2	
					情報グラフィック論Ⅱ	2	現代芸術論Ⅱ	2	
					現代芸術論Ⅰ	2	視覚芸術論Ⅱ	2	
					視覚芸術論Ⅰ	2	視覚文化史Ⅱ	2	
					視覚文化史Ⅰ	2	音楽文化史Ⅱ	2	
					音楽文化史Ⅰ	2	表象文化論a	2	
					映像文化論Ⅰ	2	表象文化論b	2	
					映像文化史	2	表象文化論c	2	
					比較文化論Ⅰ	2	映像文化論Ⅱ	2	
					比較演劇Ⅰ	2	比較文化論Ⅱ	2	
					日本学Ⅰ	2	比較演劇Ⅱ	2	
					観光と文化Ⅰ	2	文化交流史Ⅰ	2	
					言葉と文化:イギリス	2	文化交流史Ⅱ	2	
					言葉と文化:イタリア	2	文化交流史Ⅲ	2	
					言葉と文化:韓国	2	日本学Ⅱ	2	
					社会と文化:イギリス	2	文化思想史Ⅰ:西洋	2	
					社会と文化:アメリカ	2	言葉と文化:アメリカ	2	
					社会と文化:ドイツ	2	言葉と文化:ドイツ	2	
					社会と文化:イスラム	2	言葉と文化:フランス	2	
					現代アジア文化論	2	言葉と文化:中国	2	
					比較文化史Ⅰ	2	言葉と文化:日本	2	
					日本文学Ⅰ	2	言葉と文化:イスラム	2	
					情報と文化Ⅰ	2	社会と文化:フランス	2	
					情報と文化演習Ⅳ	2	比較文化史Ⅱ	2	
					民俗学Ⅰ	2	日本文学Ⅱ	2	
					音楽論Ⅰ	2	日本思想史	2	
					日本社会史Ⅰ	2	情報と文化Ⅱ	2	
					メディア論	2	情報と文化演習Ⅲ	2	
					日本史学論 □	2	民俗学Ⅱ	2	
					社会学原論Ⅰ ◎	2	音楽論Ⅱ	2	
					政治学概論Ⅰ ◎	2	文化人類学Ⅱ	2	
					現代経済論Ⅰ ◎	2	日本社会史Ⅱ	2	
							日本史学方法論 □	2	
							社会学原論Ⅱ ◎	2	
							現代経済論Ⅱ ◎	2	
						芸術資料フィールドワーク a～c、e			2
						外国大学文化学演習			1
3 年次	文化学演習Ⅱ			※4					
3 年次～					比較芸術	2			
4 年次	文化学演習Ⅱ 卒業研究			※4 6					

赤字は必修 ※は選択必修 ◎は学科専門科目に含めない科目 □は 2018 年度入学者までは学科専門科目に含めない授業科目
各開講科目の履修要件等については、授業科目表とその履修方法を確認してください。年次欄は、授業科目を何年次から履修できるかを示します。（詳細は P. 29 を参照）

展開科目

1 ねらい

人間社会学部における学びの特徴は、5つの学科が有機的にむすびついていることにより、人間・社会・文化を総合的に学べるところにあります。その特徴を最大限にいかすためには、入学時点から学部学生共通の基盤となるような基本的知識や技術を身につける必要があります。展開科目はそのような共通基盤を身につけると共に、自己の教養をさらに深め発展させることを目的とした科目です。この科目の修得を通じて、「人間社会学部で学ぶとは何か」を感じとってもらえればと思います。

2 特徴

人間社会学部の展開科目は学部で学ぶ特徴を最大限にいかすため、入門的位置づけにとどまることなく、今日的话题について、専門領域から複眼的に見つめることができるよう整えられています。ここでは、グローバルな見方を身につける一方で、生活に密着した知識の展開も要求されます。また、学問を理性的枠組みだけからとらえるのではなく、自己の感性を磨くことで、まったく新しい「知」の確立を目指してもらいたいという願いがあります。そのために、3つの領域に実践的な科目が設けられているのが特徴です。

3 3つの領域

展開科目は以下の3つの領域に分かれ、人文科学、社会科学、自然科学にまたがる最近の学問領域をバランスよく学べるように構成されています。また、それぞれの領域には講義科目だけでなく、領域で得られた知識をさらに深めるための体験的な科目が設けられています。

＜地球市民をめざして-人間と社会＞

政治・経済・宗教・教育・環境・文化・歴史、これらの人間と社会の営みを考えるとき、地球規模で出来事が進む現代という次元においては、自分の周りを眺めるというよりは、時間的にも空間的にも俯瞰できるような視点が必要となるでしょう。一市民であると同時に地球市民でありたいという自覚で学んでみたら見えることも変わってくるかもしれません。

＜よき生を求めて-人間と生活＞

私たちの知識は、生きる営みと無関係ではありえません。知識は単に集積されるだけではなく、生活と結びついてはじめて教養というものになります。法律、福祉、人権、こころとからだ、そしてその健康、あらゆる「知識」は「からだ」を通してさらに大きな生きる力になるでしょう。

＜知と感性を磨く-人間と知＞

人間はその歴史の中で、哲学と科学をとおして世界を論理的に組み立ててきました。そして、それを人間の「知」の対象としてきたのです。生命科学の進歩はヒトと動物の境界を取りはらい、コンピュータの精緻化と小型化は脳と機械の併存を可能にしました。人間中心の合理性を超えて理解しなければならなくなった現代の人間の知は、理性的、論理的な枠組みだけでなく、感性的、直感的な世界から組み直される必要が出てきたといえます。ここでは、科学も数学も文学も演劇も美学も音楽もフォークロアの世界も融合して、人間の知を探求します。

4 履修方法

各学科の履修方法はつぎのとおりです。

学 科	単位数	履 修 方 法
現代社会学科	26単位	3つの領域から自由に選択 ただし＜よき生を求めて－人間と生活＞領域の社会スポーツ実習2単位を必ず含めること。
社会福祉学科	22単位	3つの領域からそれぞれ3科目以上6単位を履修。残りの4単位はすべての領域から自由に選択。
教 育 学 科	22単位	＜よき生を求めて－人間と生活＞領域の社会スポーツ実習2単位を含め、3つの領域からそれぞれ6単位を履修。残りの4単位はすべての領域から自由に選択。
心 理 学 科	30単位	＜よき生を求めて－人間と生活＞領域の社会スポーツ実習2単位を含め、3つの領域からそれぞれ6単位を履修。残りの12単位はすべての領域から自由に選択。
文 化 学 科	22単位	体験科目を除き3つの領域からそれぞれ6単位を履修。 残りの4単位は3つの領域から自由に選択(体験科目を含めてもよい)。

注意点

“展開科目にならない学科欄”に学科名が入っている場合、その学科の学生は展開科目として履修できません。学科専門科目として履修することになります。

2020 年度 ＜地球市民をめざして-人間と社会＞授業科目表

提供 学科	展開科目	授業科目名	単位数		展開科目に ならない学科
	宗教と現代社会Ⅰ	宗教の諸相Ⅰ	2		
	宗教と現代社会Ⅱ	宗教の諸相Ⅱ	2		
	都市文明の将来Ⅰ	地域社会論Ⅰ(都市)	2		現代社会
	都市文明の将来Ⅱ	地域社会論Ⅱ(都市)	2		現代社会

(例)「地域社会論Ⅰ(都市)」を履修した場合

現代社会学科の学生……学科専門科目の単位

現代社会学科以外の学生…展開科目の単位

2020 年度 <地球市民をめざして－人間と社会>授業科目表

提供 学科	展開科目		授業科目名	単位 数	期	開講 年次	担当者名	備 考	展開科目に ならない学科
現代社会	講 義 科 目	人口問題Ⅰ	人口学Ⅰ	2	前期	2～	福田 節也		現代社会
		人口問題Ⅱ	人口学Ⅱ	2		2～		閉講	現代社会
		コンピュータと社会	現代社会論Ⅶ	2	前期	2～	阿部 勘一	①	現代社会
		文化人類学の世界Ⅰ	文化人類学Ⅰ	2	前期	1～	西村 一之	①	現代社会 文化
		文化人類学の世界Ⅱ	文化人類学Ⅱ	2	後期	2～	西村 一之	☆ ①	現代社会 文化
		地球環境の問題	自然地理学	2	後期	2～	青木 かおり		現代社会
		都市文明の将来Ⅰ	地域社会論Ⅰ(都市)	2	前期	2～	渋谷 望		現代社会
		都市文明の将来Ⅱ	地域社会論Ⅱ(都市)	2	後期	2～	渋谷 望		現代社会
		地域社会を考えるⅠ	地域社会論Ⅲ(農村)	2	前期	1～	尾中 文哉	隔年 2020 年度休講	現代社会
		地域社会を考えるⅡ	地域社会論Ⅳ(農村)	2	後期	1～	尾中 文哉	隔年 2020 年度休講	現代社会
		比較社会論Ⅰ	比較社会論Ⅰ	2	前期	2～	尾中 文哉	隔年 ①	現代社会
		比較社会論Ⅱ	比較社会論Ⅱ	2	後期	2～	尾中 文哉	隔年 ①	現代社会
		比較社会論Ⅲ	比較社会論Ⅲ	2	後期	1～	遠藤 知己	隔年	現代社会
		比較社会論Ⅳ	比較社会論Ⅳ	2	後期	1～	尾中 文哉	隔年	現代社会
		比較社会論Ⅴ	比較社会論Ⅴ	2	前期	1～	鈴木 裕之		現代社会
		比較社会論Ⅵ	比較社会論Ⅵ	2	後期	2～	西村 一之	隔年 2020 年度休講	現代社会
		比較社会論Ⅶ	比較社会論Ⅶ	2	前期	1～	マニユエル・ヤン	①	現代社会
		比較社会論Ⅷ	比較社会論Ⅷ	2	後期	1～	井堂 有子		現代社会
		比較社会論Ⅸ	比較社会論Ⅸ	2	前期	2～	西村 一之	2014 年度入学者より展開科目に該当	現代社会
		比較社会論Ⅹ	比較社会論Ⅹ	2		1～		閉講	現代社会
	日本国憲法	憲法(日本国憲法)	2	前期	1～	樋口 雄人	△		
	日本経済と世界Ⅰ	基礎経済学Ⅰ	2	前期	1～	込江 雅彦			
	日本経済と世界Ⅱ	基礎経済学Ⅱ	2	後期	1～	込江 雅彦			
	地域活動講座	地域活動講座	1	後期	1～	清水 睦美 沈 潔	☆		
		世界の社会と文化 (現代社会学科)	外国大学人間関係科学関連科目	1		2～		▲☆ 学則による留学をした現代社会科学学生の単位認定にのみ適用	社会福祉 教育 心理 文化
	社福	地域社会を考えるⅢ	地域組織論	2	後期	2～	和田 清美	①	社会福祉
教育	世界の教育Ⅲ	日本教育史Ⅰ	2	前期	1～	齋藤 慶子		教育	
	世界の教育Ⅳ	日本教育史Ⅱ	2	後期	1～	李 垠松		教育	
	世界の教育Ⅴ	外国教育史Ⅰ	2	前期	2～		☆ 2020 年度休講	教育	
	世界の教育Ⅵ	外国教育史Ⅱ	2	後期	2～	日暮 トモ子	☆	教育	
心理	組織の心理	人間関係心理学特講・7	2		3・4		閉講	心理	
		産業・組織心理学	2	後期	2～	原 恵子	2018 年度入学者より履修可	心理	
		人間関係心理学特講・11	2	後期	2～	原 恵子	2017 年度入学者まで履修可	心理	
	安全の心理	人間関係心理学特講・8	2		2～		閉講	心理	
		人間工学	2	後期	2～	吉村 健志	2018 年度入学者より履修可	心理	
		人間関係心理学特講・12	2	後期	2～	吉村 健志	2017 年度入学者まで履修可	心理	
	非行の心理	司法・犯罪心理学	2	前期	3・4	市村 彰英	2018 年度入学者より履修可	心理	
		人間関係心理学特講・9	2	前期	3・4	市村 彰英	2017 年度入学者まで履修可	心理	

展
開

提供 学科	展開科目		授業科目名	単 位 数	期	開講 年次	担当者名	備 考	展開科目に ならない学科
心 理		非行の臨床	青年期臨床心理学	2	後期	3・4	市村 彰英	2018 年度入学者より履修可	心理
			人間関係心理学特講・10	2	後期	3・4	市村 彰英	2017 年度入学者まで履修可	心理
		世界の社会と文化(心理)	外国大学人間関係科目	1		2～		学則による留学をした心理 学科学生が単位認定にのみ 適用 閉講	現代社会 社会福祉 教育 文化
文 化	講 義 科 目	地域文化論(イギリス)	地域文化論:イギリス	2	後期	2～	坂井 妙子		文化
		地域文化論(アメリカ)	地域文化論:アメリカ	2	前期	2～	田中 有美		文化
		地域文化論(ドイツ)	地域文化論:ドイツ	2	後期	2～	満留 伸一郎		文化
		地域文化論(フランス)	地域文化論:フランス	2	前期	2～	B. P. レウルス		文化
		地域文化論(中国)	地域文化論:中国	2	前期	2～	相田 満		文化
		地域文化論(日本)	地域文化論:日本	2		2～		閉講	文化
		地域文化論(韓国)	地域文化論:韓国	2	後期	2～	朴 倍暎		文化
		地域文化論(東南アジア)	地域文化論:東南アジア	2	後期	2～	松井 生子		文化
		日本学Ⅰ	日本学Ⅰ	2	前期	2～	長谷川 秀子	グローバル科目	文化
		日本学Ⅱ	日本学Ⅱ	2	後期	2～	長谷川 秀子	グローバル科目	文化
		言葉と文化(イギリス)	言葉と文化:イギリス	2	前期	2～	ニール・アディソン		文化
		言葉と文化(アメリカ)	言葉と文化:アメリカ	2	後期	2～	田中 有美	☆	文化
		言葉と文化(ドイツ)	言葉と文化:ドイツ	2	後期	2～	満留 伸一郎	☆	文化
		言葉と文化(フランス)	言葉と文化:フランス	2	後期	2～	高井 奈緒		文化
		言葉と文化(中国)	言葉と文化:中国	2	後期	2～	三田 明弘	隔年 ①	文化
		言葉と文化(日本)	言葉と文化:日本	2	後期	2～	三村 友希		文化
		言葉と文化(イタリア)	言葉と文化:イタリア	2	前期	2～	佐々木 雄大	隔年	文化
		言葉と文化(イスラム)	言葉と文化:イスラム	2	後期	2～	須永 恵美子		文化
		言葉と文化(韓国)	言葉と文化:韓国	2	前期	2～	朴 倍暎	隔年	文化
		社会と文化(イギリス)	社会と文化:イギリス	2	前期	2～	坂井 妙子	①	文化
		社会と文化(アメリカ)	社会と文化:アメリカ	2	前期	2～	杉山 直子	①	文化
		社会と文化(ドイツ)	社会と文化:ドイツ	2	前期	2～	早崎 えりな	☆ ①	文化
		社会と文化(フランス)	社会と文化:フランス	2	後期	2～	B. P. レウルス	①	文化
		社会と文化(中国)	社会と文化:中国	2	後期	2～	三田 明弘	隔年 2020 年度休講	文化
		社会と文化(日本)	社会と文化:日本	2		2～		閉講	文化
		社会と文化(イタリア)	社会と文化:イタリア	2	前期	2～	佐々木 雄大	隔年 2020 年度休講	文化
		社会と文化(イスラム)	社会と文化:イスラム	2	前期	2～	須永 恵美子		文化
		社会と文化(韓国)	社会と文化:韓国	2	前期	2～	朴 倍暎	隔年 2020 年度休講	文化
		宗教と現代社会Ⅰ	宗教の諸相Ⅰ	2	前期	1～	松下 みどり		
		宗教と現代社会Ⅱ	宗教の諸相Ⅱ	2	後期	1～	松下 みどり		
		西洋美術史Ⅰ	西洋美術史Ⅰ	2	前期	1～	河本 真理		
		西洋美術史Ⅱ	西洋美術史Ⅱ	2	後期	1～	河本 真理	「西洋美術史Ⅰ」を履修済の 者が望ましい	
		日本美術史Ⅰ	日本美術史Ⅰ	2	前期	1～	成原 有貴	○ ①	
		日本美術史Ⅱ	日本美術史Ⅱ	2	後期	1～	成原 有貴	○ 「日本美術史Ⅰ」を 履修済の者が望ましい ①	
		音楽史Ⅰ	音楽史Ⅰ	2	前期	1～	伊藤 るみ子		
		音楽史Ⅱ	音楽史Ⅱ	2	後期	1～	伊藤 るみ子		
		国際活動講座	国際活動講座	1	後期	1～	尾中 文哉 杉山 直子	☆	

提供 学科	展開科目		授業科目名	単位 数	期	開講 年次	担当者名	備 考		展開科目に ならない学科
文化	体験科目	異文化体験学習	異文化体験学習	2	通年	1～	B. P. レウルス	△ 30時間のうち事前 事後学習は8時間、 海外体験学習は22 時間で夏休み集中 で行う	履修すること 同一年度に	
		言語コミュニケーション	言語コミュニケーション	2	通年	1～	B. P. レウルス	△ 夏休み集中(海外 体験学習)		
		韓国語韓国文化体験 学習	韓国語韓国文化体験 学習	2		1～		☆「韓国語学・文化 研修」に参加した学生 の単位認定にのみ適用		

展
開

2020 年度 <よき生を求めて－人間と生活>授業科目表

提供 学科	展開科目	授業科目名	単位 数	期	開講 年次	担当者名	備 考	展開科目に ならない学科
現代社会	講義科目	人間と生活Ⅰ	2	後期	1～	大沼 義彦	①	
		人間と生活Ⅱ	2	前期	1～	野上 玲子		
		福祉の思想と原理Ⅰ	2		2～		閉講	現代社会 社会福祉
		福祉の思想と原理Ⅱ	2		2～		閉講	現代社会 社会福祉
		法と法学Ⅱ	2	前期	2～	樋口 雄人		現代社会
		法と法学Ⅲ	2	後期	2～	田中 佑季		現代社会
		現代の家族Ⅰ	2	前期	2～	高橋 幸		現代社会
		現代社会を考えるⅠ	2	後期	2～	マニユエル・ヤン		現代社会
		現代社会を考えるⅡ	2	前期	2～	朝日 由実子	隔年	現代社会
		人権を考えるⅢ	2		1～		閉講	現代社会
		人権を考えるⅣ	2		1～		閉講	現代社会
		労働と生活Ⅰ	2	前期	2～		隔年 2020 年度休講	現代社会
		労働と生活Ⅱ	2	後期	2～	大沢 真知子	隔年 2020 年度休講	現代社会
	体験科目	社会スポーツ実習A	1	前期	1～	野上 玲子 古泉 一久 青木 通 平塚 和也 平野 泰宏 八木沢 誠 野中 雄大	△ ☆同一年度に複数クラスを同時に履修することはできない 社会福祉学科、文化学科は選択	
		社会スポーツ実習B	1	後期	1～	大沼 義彦 平塚 和也 青木 通 古泉 一久 平野 泰宏 八木沢 誠 野中 雄大	△ ☆同一年度に複数クラスを同時に履修することはできない 社会福祉学科、文化学科は選択	
		社会スポーツ実習C	1	前(後)	1～	(前)大沼 義彦 (後)野上 玲子	△ ☆ 制限クラス	
		シーズン・スポーツ	1	後期	1～	大沼 義彦 野上 玲子 青木 通 沖 和砂 小川 宏 山内 武巳 平野 泰宏 関口 晃子 安田 俊広	△ ☆ ○ 集中 2021 年 2 月 16 日(火) ～ 2 月 19 日(金) 2015 年度入学者までは 1～4 年次まで履修可 2016 年度入学者より 1～3 年次まで履修可	
社会福祉	講義科目	医学の基礎	2	後期	1～	本田 学	旧「医学一般」	
		福祉の思想と原理Ⅲ	2	前期	3	坪 洋一		社会福祉
		福祉の思想と原理Ⅳ	2	後期	2～	増田 幸弘		社会福祉
		こころの健康Ⅲ	2	後期	2～	池田 健		社会福祉
		こころの健康Ⅳ	2	前期	1～	藏野 ともみ		社会福祉
		こどもの幸せを考える	2	後期	1～	林 浩康		社会福祉
		ジェンダー論Ⅰ	2	後期	2～	沈 潔		社会福祉
		労働と生活Ⅲ	2	後期	2～	増田 幸弘	旧「労働者福祉論」 ①	社会福祉
	教育	現代の社会学Ⅰ	2	前期	1～	藤田 武志	2020 年度休講	
		現代の社会学Ⅱ	2	後期	1～	藤田 武志	○ 2020 年度休講	
		家族と教育	2	後期	1～	奥村 典子		教育
		ジェンダー論Ⅲ	2	後期	1～	齋藤 慶子	旧「現代教育論Ⅶ(女性教育史論)」 ①	教育
		ジェンダー論Ⅳ	2	後期	1～	渡辺 典子	旧「現代教育論Ⅷ(現代女性教育論)」	教育

提供 学科	展開科目		授業科目名	単 位 数	期	開講 年次	担当者名	備 考	展開科目に ならない学科
教育		生涯学習論Ⅰ	生涯学習概論Ⅰ	2	前期	1～	田中 雅文	①	教育
		生涯学習論Ⅱ	生涯学習概論Ⅱ	2	後期	1～	田中 雅文	①	教育
		労働と生活Ⅳ	現代教育論Ⅵ(キャリア形成論)	2		1～		閉講	教育
		障害とは何かⅢ	特別支援教育(小)	2	後期	1～	平田 正吾	2019 年度入学者より履修可	教育
			特別支援教育概論	2	後期	1～	平田 正吾	2018 年度入学者まで履修可	教育
心理	講義科目	こころの健康Ⅰ	こころの科学Ⅰ	2	前期	1～	坪井 さとみ		
		こころの健康Ⅱ	こころの科学Ⅱ	2	後期	1～	坪井 さとみ		
		食物・栄養の科学	身体の科学(食物・健康の科学)	2	前期	1～	塚原 典子		
		家族の中の発達	生涯発達の心理学	2	後期	2～	麦谷 綾子	2018 年度入学者より履修可 旧「生涯発達心理学」	心理
			基礎心理学概説・6－Ⅱ	2	後期	2～	麦谷 綾子	2017 年度入学者まで履修可 「基礎心理学概説・6－Ⅰ」を受講していることが望ましい	心理
		カウンセリング理論	心理学的支援法Ⅰ	2	後期	2～	川崎 直樹	2018 年度入学者より履修可	心理
			臨床心理学・Ⅲ	2	後期	2～	川崎 直樹	2017 年度入学者まで履修可	心理
		現代の家族Ⅱ	社会・集団・家族心理学Ⅱ	2	後期	2～	青木 みのり	2018 年度入学者より履修可 ①	心理
			人間関係心理学特講・1	2	後期	2～	青木 みのり	2017 年度入学者まで履修可 ①	心理
		観光と文化Ⅰ	観光と文化Ⅰ	2	前期	2～	中西 裕二		文化
文化		観光と文化Ⅱ	観光と文化Ⅱ	2	後期	1～	中西 裕二		文化

■「社会スポーツ実習A」(前期1単位)「社会スポーツ実習B」(後期1単位)について

1年次の現代社会学科、教育学科、心理学科の学生は前期(A)、後期(B)に亘り2単位必修であり、社会福祉学科、文化学科の学生は選択です。必ず指定された曜日・時限で受講するようにしてください。必修クラスと選択クラスが同時限に設定されているため、人数調整が必要になった場合は、必修として履修する学生が優先されます。

登録は自動登録となっています。必ず、Web 登録画面上にて登録されていることを確認してください。

■「社会スポーツ実習C」について(前期または後期1単位)

医師の診断、あるいはその他の理由により身体運動が制限されている学生は、「社会スポーツ実習C」の前期単位を取得することにより「社会スポーツ実習A」、後期単位を取得することにより「社会スポーツ実習B」に相当する単位を取得したとみなします。

■「シーズン・スポーツ」(スキー・スノーボード)

春季休暇中に集中の形態で実施される選択科目であり、上記の「社会スポーツ実習A、B、C」以外に取得できます。1年次から履修可能ですが、「社会スポーツ実習A」「社会スポーツ実習B」に換算することはできません。

なお、受講者数に制限があるために前期の所定期間内に予備調査・人数調整を行います。但し、定員に満たなかった場合は、再調査を行うので、掲示に注意してください。予備調査を行った結果、登録を許可された者は自動登録されます。必ず、Web 登録画面上にて登録されていることを確認してください。

■再履修について

現代社会学科・教育学科・心理学科の学生で、必修としての「社会スポーツ実習A、B、C」の単位を取得できなかった者は、「社会スポーツ実習A、B、C」の中からいずれかを再履修しなければなりません。その際、前期、後期の区別はありません。

展
開

2020 年度 <知と感性を磨くー人間と知>授業科目表

提供 学科		展開科目	授業科目名	単位 数	期	開講 年次	担当者名	備 考	展開科目に ならない学科
心理	講義科目	科学の歴史Ⅰ	科学Ⅰ	2	前期	1～	関根崇泰 茂木健一郎 石川 哲朗		
		科学の歴史Ⅱ	科学Ⅱ	2	後期	1～	恩蔵絢子 茂木健一郎 小俣圭		
		生命を科学するⅠ	生命科学Ⅰ	2	前期	1～	齋藤 理佳		
		生命を科学するⅡ	生命科学Ⅱ	2	後期	1～	齋藤 理佳		
		コンピュータと人間	情報と倫理	2	前期	1～	久東 光代	隔年 2020 年度休講	
		コンピュータのしくみ	情報科学基礎Ⅰ	2	後期	1～	鳥海 有紀		
		コンピュータライゼイションと現代の諸問題	コンピュータライゼイションと現代の諸問題	1	後期	1～	久東 光代	☆	
		色の世界・形の世界Ⅰ	知覚・認知心理学Ⅰ	2	前期	2～	竹内 龍人	2018 年度入学者より履修可	心理
			基礎心理学概説・2ーⅠ	2	前期	2～	竹内 龍人	2017 年度入学者まで履修可	心理
		色の世界・形の世界Ⅱ	視覚心理学	2	後期	2～	竹内 龍人	2018 年度入学者より履修可 ①	心理
			基礎心理学概説・2ーⅡ	2	後期	2～	竹内 龍人	2017 年度入学者まで履修可 ①	心理
		こころの行動学	学習・言語心理学Ⅰ	2	前期	2～	伊村 知子	2018 年度入学者より履修可	心理
			基礎心理学概説・3ーⅠ	2	前期	2～	伊村 知子	2017 年度入学者まで履修可	心理
		こころの進化	比較発達心理学	2	後期	2～	伊村 知子	2018 年度入学者より履修可	心理
			基礎心理学概説・5ーⅡ	2	後期	2～	伊村 知子	2017 年度入学者まで履修可	心理
		子どもの発達	発達心理学Ⅰ	2	前期	2～	麦谷 綾子	2018 年度入学者より履修可 ①	心理
			基礎心理学概説・6ーⅠ	2	前期	2～	麦谷 綾子	2017 年度入学者まで履修可 ①	心理
		子どものことば	学習・言語心理学Ⅱ	2	後期	2～	麦谷 綾子	2018 年度入学者より履修可 ①	心理
			基礎心理学概説・8	2	後期	2～	麦谷 綾子	2017 年度入学者まで履修可 ①	心理
		精神分析学	教育・学校心理学	2	前期	3・4	青木 みのり	2018 年度入学者より履修可 ①	心理
			臨床心理学・Ⅳ	2	前期	3・4	青木 みのり	2017 年度入学者まで履修可 ①	心理
		ことばとひと	神経・生理心理学Ⅱ	2	後期	2～	金沢 創	2018 年度入学者より履修可 ①	心理
			基礎心理学概説・1ーⅡ	2	後期	2～	金沢 創	2017 年度入学者まで履修可 ①	心理
	体験科目	パソコンの基礎・基本	情報処理基礎Ⅰ	2		1～		閉講	
			基礎情報処理	2	前(後)	1～	前期: 久東 光代 佐藤 夏月 高橋 まどか 星名 由美 後期: 久東 光代 渡辺 美紀 高橋 まどか	△ ○ 「情報処理基礎Ⅰ」または「情報処理基礎Ⅱ」の単位取得者は履修不可	
		コンピュータと情報活用	情報処理基礎Ⅱ	2		1～		閉講	
		プレゼン理論と実際	情報科学基礎Ⅱ	2	後期	2～	佐藤 夏月	△ 2017 年度入学者までは「情報処理基礎Ⅰ」または「情報処理基礎Ⅱ」の単位取得者が望ましい	
		データ分析とレポート表現	情報科学基礎Ⅲ	2	前期	2～	久東 光代	△ 2017 年度入学者までは「情報処理基礎Ⅰ」または「情報処理基礎Ⅱ」の単位取得者が望ましい	

提供 学科		展開科目	授業科目名	単位 数	期	開講 年次	担当者名	備 考	展開科目に ならない学科
心 理	体 験 科 目	Web と CGI	情報科学基礎Ⅳ	2	前期	2～	久保 進次	△ 2017 年度入学者までは「情 報処理基礎Ⅰ」または「情報 処理基礎Ⅱ」の単位取得者が 望ましい	
		ICT活用とプロジェクト 演習	ICT活用とプロジェクト 演習	4	通年	1～	久東 光代 星名 由美	△	
		教養実践演習	教養実践演習	2	後期	1～	清水 将吾	○ 目白地区開講	
文 化	講 義 科 目	人間と知Ⅰ	哲学の探求Ⅰ	2	前期	1～	田中 久文	☆ ○	
		人間と知Ⅱ	哲学の探求Ⅱ	2	後期	1～	田中 久文	☆ ○	
		文学を楽しむⅠ	文学を楽しむⅠ	2	前期	1～	鈴木 貴子		
		文学を楽しむⅡ	文学を楽しむⅡ	2	後期	1～	鈴木 貴子		
		文学を考えるⅠ	文芸論Ⅰ	2	前期	1～		隔年 2020 年度休講	
		文学を考えるⅡ	文芸論Ⅱ	2	後期	1～	武藤 純子	☆ 隔年	
		美学Ⅰ	美学Ⅰ	2	前期	1～	木村 覚		
		美学Ⅱ	美学Ⅱ	2	後期	1～	木村 覚		
		映像と文化Ⅰ	映像と文化Ⅰ	2	前期	1～	川崎 公平		
		映像と文化Ⅱ	映像と文化Ⅱ	2	後期	1～	川崎 公平		
		フォークロアの世界	民俗学Ⅰ	2	前期	2～	室井 康成		文化
		音楽とは何かⅠ	音楽論Ⅰ	2	前期	2～	奥波 一秀	①	文化
		音楽とは何かⅡ	音楽論Ⅱ	2	後期	2～	奥波 一秀	①	文化
		文化交流史Ⅰ	文化交流史Ⅰ	2	後期	2～	桑 和沙		文化
		文化交流史Ⅱ	文化交流史Ⅱ	2	後期	2～	手塚 恵美子		文化

展
開

外国人留学生科目

外国人留学生科目は、学則に定める外国人留学生のための必修科目で、系列「日本語」と「日本事情」からなっています。

1 2020年度外国人留学生科目 授業科目表

系列	授業科目名	担当者名	単位数	期	年次	備 考
日本語	日本語Ⅰa-1	高橋 純子	必2	前期	1	
	日本語Ⅰa-2	高橋 純子	必2	後期	1	「日本語Ⅰa-1」履修後でなければ履修不可
	日本語Ⅰb-1	田辺 和子	必2	前期	1	
	日本語Ⅰb-2	田辺 和子	必2	後期	1	「日本語Ⅰb-1」履修後でなければ履修不可
	日本語Ⅰc-1	横田 亜朱紗	必2	前期	1	
	日本語Ⅰc-2	横田 亜朱紗	必2	後期	1	「日本語Ⅰc-1」履修後でなければ履修不可
	日本語Ⅱa-1		必2	前期	2	2020年度休講
	日本語Ⅱa-2		必2	後期	2	「日本語Ⅱa-1」履修後でなければ履修不可 2020年度休講
	日本語Ⅱb-1		必2	前期	2	2020年度休講
	日本語Ⅱb-2		必2	後期	2	「日本語Ⅱb-1」履修後でなければ履修不可 2020年度休講
日本事情	日本事情Ⅰ		必2	前期	2	校外見学あり、2020年度休講
	日本事情Ⅱ		必2	後期	2	校外見学あり、2020年度休講

2 外国語ならびに展開科目への振り替え

【外国語への振り替え】

系列「日本語」の合計20単位のうち8単位は、各学科ごとに以下の単位に代えることができます。

現代社会学科、社会福祉学科、教育学科、心理学科、文化学科いずれも、基本科目必修の外国語科目「ベーシック・イングリッシュa」、「ベーシック・イングリッシュb」、「ベーシック・イングリッシュc」、「ベーシック・イングリッシュd」（必修英語）の8単位分。

【展開科目への振り替え】

系列「日本事情」の合計4単位は、展開科目＜地球市民をめざして－人間と社会＞領域4単位分に代えることができる。

外国人留学生科目は、上の振り替えを除き、基本科目、学科専門科目、展開科目、所属学科又は所属学科以外の科目（自由選択）のいずれの単位数にも算入することはできません。

※交換留学生も外国人留学生科目を履修することができます。

交換留学生科目

留学生

交換留学生科目は、学則に定める交換留学生に適用される科目で、「日本語」、「日本研究」、「日本語冬期集中」からなっています。
履修科目については、習熟度別の科目編成のため、プレースメントテストの結果が考慮されます。
留学生科目中央研究室の許可を得れば、外国人留学生も交換留学生科目を履修することができます。ただし、卒業するために必要な単位としては数えられません。
「日本語」、「日本研究」、「日本語冬期集中」の履修については、登録する前に留学生科目中央研究室まで問い合わせてください。

1 2020年度交換留学生科目 授業科目表

授業科目名	担当者名	単位数	期	年次	備 考
日本語1－a 中級	田辺和子 他	選14	後期	1～	注1
日本語2－a 中上級	田辺和子 他	選14	後期	1～	注2
日本語1－b 中級		選14	前期	1～	2020年度休講 注1
日本語2－b 中上級		選14	前期	1～	2020年度休講 注2
日本研究1		選2	前期	1～	2013年度より目白地区開講の教養科目「Social and International Relations of Japan」と共通 2020年度休講
日本研究2	アレクサンドラ・ムスタツェア	選2	後期	1～	2013年度より目白地区開講の教養科目「Introduction to Japanese Culture and Society」と共通
日本語冬期集中－1 中級	田辺和子 他	選5	後期	1～	集中授業 1～3月中に行う 注3
日本語冬期集中－2 中上級	田辺和子 他	選5	後期	1～	集中授業 1～3月中に行う 注4

注1) 日本語1－a 中級および日本語1－b 中級を履修する者は、日本語2－a 中上級および日本語2－b 中上級を履修することは出来ません。
注2) 日本語2－a 中上級および日本語2－b 中上級を履修する者は、日本語1－a 中級および日本語1－b 中級を履修することは出来ません。
注3) 日本語冬期集中－1 中級を履修する者は、日本語冬期集中－2 中上級を履修することは出来ません。
注4) 日本語冬期集中－2 中上級を履修する者は、日本語冬期集中－1 中級を履修することは出来ません。

キャリア形成科目

1 理念・目的

日本女子大学は「生涯教育」をその教育活動の重要な柱として掲げ、在学生・卒業生を問わず、皆さんの長い人生を様々な形でサポートしたいと考えています。そして実社会への入り口を前にして、どのように自らの人生計画を設計し、どのような道を選べばよいかを考える場面で皆さんを支えるため開講しているのが、キャリア形成科目です。最終的な選択は皆さん自身の課題であるとしても、その判断に有益な情報を提供するために、本学は様々な場を設けています。就職ガイダンス、インターンシップ、大学からの情報提供とアドバイス、そしてキャリア形成科目もその一つなのです。

学生生活の向こうにどのような人生を設計するか、早くから意識していくことが大切です。日常生活のなかで見出した自分の特性を活かして、実りある人生を送るためには、現代社会に生きる女性の生き方、働き方について考え、先人に学び、幅広い知識や、思考力、実践する力を身につけ、生涯にわたる大きな希望を忘れないと同時に、常に自分を社会人の立場に置いて、自分に適する職業は何か、働きやすい職場とはどこかを考える態度が必要です。皆さんが意識的にキャリア形成科目を履修し、現代女性が大学を卒業して職業につき、結婚や子育て、あるいは介護や老後等、多様なライフコースを辿ることを理解し、その場を利用して自分の特性を活かせる生き方を見出し、また自分に適したスキルをみがくという、意欲的な姿勢を大いに期待しています。

【カリキュラムポリシー】

キャリア形成科目は、入学した年から、社会的・職業的自立に向けて必要な知識、技能、態度を身につける科目です。自分自身や将来を広い視野で捉えられるように、体系的・総合的に展開されています。また、学科専門領域との関連性や、今後社会で生かしたいとする分野、自己の適性について、課題を見つめながらそれぞれにふさわしい形で見出します。

実社会に役立つ法律や社会情勢など、また各分野で活躍する職業人との対話を通して、多様な社会との関わり方を主体的に学ぶことで職業観を養います。

演習科目では、社会へ発信する意思伝達力・表現力と柔軟な思考力を身につけます。さらに、インターンシップをすることにより、今後の目標をより明確にすることができます。

2 インターンシップⅠ・Ⅱについて

インターンシップとは、在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うことです。本学のインターンシップの目的は、大学教育と就業体験を結びつけることによって教育の質の向上をはかること、また、将来のキャリアデザイン設計に向けて、職業観の育成を促し、自己の適性や可能性を探るきっかけとすることとしています。

本学で実施する全ての事前・事後指導に出席し、本学が募集する、または一定の基準を満たす企業・団体等が公募するインターンシップに参加し修了した場合、一定の条件に基づき、単位として認定されます。

ただし、本学が募集するインターンシップ先は限られたものとなっています。また、各自で探すインターンシップ先はキャリア委員会の審査を必要とします。単位の認定を希望しないインターンシップについては、従来通り、キャリア支援課でお知らせするものと、各自インターンシップ先を探すものがあります。その際、上記と同様の事前・事後指導に出席することが望まれます。

単位認定までの流れ	担当部署	提出物
インターンシップ履修事前指導①に出席	キャリア支援課	出席票
インターンシップ事前指導②～④に出席	キャリア支援課	出席票
指定期間に履修登録(期間については別途お知らせ)	キャリア支援課	インターンシップ実施概要(公募の場合)、履修科目登録票等
インターンシップ参加(夏季休暇期間中)	キャリア支援課	終了後:報告書(大学所定書式。一部分インターンシップ先指定書式で代用可)、日誌(インターンシップ先指定書式があれば代用可)、出勤簿等
インターンシップ事後指導に出席	キャリア支援課	出席票
提出書類、インターンシップ先からの報告・評価書を基に成績審査(評価は「合格」「不合格」「評価なし」とする)		

3 事前・事後指導日程

名称	内容	日時（変更の場合別途お知らせ）
インターンシップ履修事前指導①	インターンシップの理念・目的、履修登録について	4／16(木) 13:30～14:30
インターンシップ事前指導②	インターンシップを通してキャリアについて考える	5／14(木) 13:30～15:30
インターンシップ事前指導③	ビジネスマナー	6／11(木) 14:30～16:30
インターンシップ事前指導④	直前指導	7／2(木) 14:30～16:00
インターンシップ事後指導	参加報告会	10／1(木) 13:30～15:30

注意事項

- ・ 本学が募集する、または企業・団体等が公募するインターンシップ先は、本学ホームページ上と掲示板にてお知らせします。本学ホームページ上に掲載されないインターンシップ先も、審査の対象とします。
- ・ 申込時の選考が必要な際、教員により面接をすることもあります。また、インターンシップ中必要が生じた際、教員がインターンシップ先を訪問します。
- ・ 夏季休暇期間中の実習のみを対象とします。
- ・ 経費および報酬については受け取らないものとします。食費、宿舍等の経費も原則として自己負担とします。
- ・ 業務上の災害や学生の行為による傷害・損害等に備え、本学学部生は入学時「学生教育研究災害傷害保険」「学生教育研究賠償責任保険」に加入しています。
- ・ 資格取得に関わる実習（教育実習等）のために事前指導・事後指導に欠席した場合に限り、欠席分の補講を受けたうえで単位取得が認められますので、申し出てください。

4 キャリア形成科目 授業科目表

授 業 科 目 名	単位数	期	開講 年次	担 当 者	備 考	
ライフプランとキャリアデザイン	選2	後期	1～	高橋 美紀		
労働法	選2	前期	2	増田 幸弘	社会福祉学科と共通 「法学概論」を履修済または履修中が望ましい	
社会に出るための自己表現	選2	前(後)	2～	尾方 僚	○	
インターンシップⅠ	選 1	通年	2・3	澤田 美砂子 川澄 俊之 細井 昭憲 小川 哲也 秋元 健治 石井 倫子 馬場 聡 黒子 康弘 尾中 文哉 増田 幸弘 田中 雅文 麦谷 綾子 中西 裕二 林 忠一郎 (前) 宮本 武典 (後) 永田 典子	集中授業（夏季休暇中） 実習期間は5日間～9日間（1日7時間）とする 事前・事後指導を含む 事前・事後指導に全出席しなければ、単位は与えられない 4年次履修不可	◆ ○
インターンシップⅡ	選2	通年	2・3	澤田 美砂子 川澄 俊之 細井 昭憲 小川 哲也 秋元 健治 石井 倫子 馬場 聡 黒子 康弘 尾中 文哉 増田 幸弘 田中 雅文 麦谷 綾子 中西 裕二 林 忠一郎 (前) 宮本 武典 (後) 永田 典子	集中授業（夏季休暇中） 実習期間は10日間(1日7時間)以上とする 事前・事後指導を含む 事前・事後指導に全出席しなければ、単位は与えられない 4年次履修不可	◆ ○
人間関係心理学特講・7	選2		3・4		閉講	
産業・組織心理学	選2	後期	2～	原 恵子	心理学科と共通 2018年度入学者より履修可	
人間関係心理学特講・11	選2	後期	2～	原 恵子	心理学科と共通 2017年度入学者まで履修可	

授 業 科 目 名	単位数	期	開講 年次	担 当 者	備 考
					2017 年度入学者まで履修可
課題解決型ワークショップを用いた企画開発	選2	前期	2～		○ 集中 目白地区開講 2020 年度休講 (寄)
地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト演習 A	選2	前期	2～	平田 京子	○ 目白地区開講 50 名を上限とした演習クラス
地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト演習 B	選2	前期	2～	中西 裕二 田井中 慎	○ 集中授業 西生田地区開講 30 名を上限とした演習クラス 事前指導：4 月 9 日、7 月 22 日 校外学習：9 月 15 日～18 日

履修上の注意

1. 全科目反復履修不可。
 2. ◆印は卒業するために必要な単位に含めない授業科目。
 3. ○印は人数制限を行うこともあります。
 4. 「インターンシップⅠ・Ⅱ」について
「インターンシップⅠ」または「インターンシップⅡ」のいずれか1科目しか履修できません。授業第1回目のインターンシップ履修事前指導①に必ず出席し、履修登録期間に所定の手続きを済ませてください。なお、通常の履修登録期間とは異なるので注意してください。
 5. 「労働法」は、社会福祉学科の学生は基本科目として、その他の学科の学生は自由選択科目として成績証明書に記載されます。
 6. 「人間関係心理学特講・7」は心理学科の学生は学科専門科目として、その他の学科の学生は展開科目として成績証明書に記載されます。
 7. 「産業・組織心理学」は心理学科の学生は学科専門科目として、その他の学科の学生は展開科目として成績証明書に記載されます。
 8. 「人間関係心理学特講・11」は心理学科の学生は学科専門科目として、その他の学科の学生は展開科目として成績証明書に記載されます。
- ※キャリア形成科目の一部を「キャリア女性学副専攻（2018 年度入学者まで適用）」に提供しています。P.123～を参照してください。

キャリア女性学副専攻について【2018 年度入学者まで適用】

副
専
攻

1 履修することができる入学年度

- ・ 2019年度以降の入学者
2019年度以降の入学者は、キャリア女性学副専攻を履修することができません。
- ・ 2018年度までの入学者
2018年度までの入学者は、キャリア女性学副専攻を履修することができます。

2 履修上の注意

キャリア女性学副専攻の履修については、以下のとおり注意してください。

2021 年度の目白地区へのキャンパス移転に伴い、カリキュラム変更が予定されています。2021 年度はキャリア女性学副専攻対象科目が閉講・休講になる可能性があります。2018 年度入学者でキャリア女性学副専攻希望者は、2020 年度のうちに、キャリア女性学副専攻対象科目をできるかぎり履修してください。

また、地域・行政コース必修科目「地域活動講座」、国際活動コース必修科目「国際活動講座」、情報メディアコース必修科目「コンピュータライゼーションと現代の諸問題」は、2021 年度以降は開講しません。2020 年度までに必ず履修してください。

3 特徴

人間社会学部の各学科では主専攻として学科専門科目を学び、卒業のために必要な 124～128 単位を取得することになります。副専攻は、人間社会学部が開いているさまざまな授業科目のなかからあらたに＜キャリア女性学＞という観点で組立て授業科目を履修することにより、生涯のキャリアを考える基礎的な知識を得られるように提供する専攻です。卒業時には、学士の学位とは別に、キャリア女性学副専攻修了証書を得ることができます。

人間社会学部の＜キャリア女性学＞は、現代女性の生涯を視野にいれたキャリアを形成するために必要な知識や現状を学ぶことをめざしています。女性たちのさまざまな職業を知り、結婚や子育てを含めたライフコースの多様性を理解し、現代女性が生き生きとした人生を設計することを応援します。

4 キャリア女性学コア科目と3コースについて

キャリア女性学コア科目は、現代女性のさまざまなキャリアのあり方、問題解決の方法、職業について生き方、働き方を考えるための科目をおいています。キャリア女性学副専攻をとる人は、必ずコア科目を構成する四つの科目群それぞれから一科目以上を履修することになります。キャリア女性学コア科目で、キャリア女性学の基礎を学びます。

地域・行政コースは、公務員になりたい人、将来NGOやNPOなどを組織運営したい人に向けたコースです。

国際活動コースは、国際機関で働いてみたい人、企業の海外関係部署や外資系企業で働くことを考えている人、旅行業務を担当したい人、留学を目指す人、翻訳家になりたい人などの基礎的な知識が得られるコースです。

情報メディアコースは、コンピュータ関連会社に入って基本情報処理技術者を目指す人、コンピュータ・グラフィックス関係の資格がほしい人に向けたコースです。

5 履修方法

各コースの履修方法はつぎのとおりです。但し、履修できるコースはいずれかの1コースに限りします。

コース名	単位数	履 修 方 法
地域・行政 コース	29 単位	①キャリア女性学コア科目の各群から 8 単位 ②規範領域から 4 単位 ③経営領域から 4 単位 ④公共領域から 8 単位 ⑤関連領域から 4 単位 ⑥「地域活動講座」必修 1 単位
国際活動 コース	31 単位	①キャリア女性学コア科目の各群から 8 単位 ②語学領域から同一言語を計 12 単位…＊ ③関連領域から計 8 単位（組織・地域・歴史・文化の分野から各 2 単位） ④国際・情報領域から 2 単位 ⑤「国際活動講座」必修 1 単位

情報メディア コース	29 単位	①キャリア女性学コア科目の各群から 8 単位 ②情報基礎領域から 4 単位 ③システム・メディア領域から 12 単位 ④情報社会領域から 4 単位 ⑤「コンピュータ化と現代の諸問題」必修 1 単位
---------------	-------	--

外国語の単位免除について…*

- ①「異文化体験学習」「言語コミュニケーション」の4単位を修得した学生はフランス語4単位分を免除する。したがって、残り8単位で語学領域の条件を満たす。
- ②ドイツ語・フランス語・中国語・イタリア語・韓国語の初級学力認定に合格した学生は、語学領域のうち、合格した言語の4単位分を免除する。したがって、残り8単位で語学領域の条件を満たす。
- ③「韓国語学・文化研修」に参加し、「韓国語韓国文化体験学習」として2単位が認定された学生は、韓国語2単位分を免除される。

単位認定について

- 副専攻での単位修得にあたっては、以下の本学での認定された単位を含めることができます。この場合、科目ごとに認定されている単位に限ります。（一括で認定されている単位は除きます。）
- ・編入学および学士入学による認定単位(「英語」除く) ・1年次入学者の入学前既修得単位の認定単位(「英語」除く)
 - ・協定大学又は認定大学への留学による認定単位(「英語」は除く)・同志社女子大学との学生交流による認定単位(「英語」は除く)
 - ・海外短期研修による認定単位
 (「日本女子大学・学習院大学のアジア短期研修(グローバル・キャンパス・アジア)」 「ドイツ・ミュンヘン夏期語学・文化研修」)
 - ・技能審査等(英検・TOEIC等)の合格による「英語」の認定単位

6 キャリア女性学副専攻履修希望者の手続方法

時期	手続内容									
3～4 年次 3～4 月	<p>■副専攻履修ガイダンス 出席</p> <p>4 月初旬に 3 年次以上を対象とした、「副専攻履修ガイダンス」を行います。ガイダンスでは、キャリア女性学副専攻の単位等について説明します。3～4 年次のキャリア女性学副専攻の履修を希望する学生は出席してください。</p> <p>■キャリア女性学副専攻履修希望予備調査</p> <p>3 年次の学生を対象に、キャリア女性学副専攻の履修希望予備調査を行います。キャリア女性学副専攻科目履修希望者は、前期履修登録時に JASMINE-Navi 上のアンケートにて、履修するコースを 1 コース選択して回答してください。</p>									
4 年次 3～4 月	<p>■「キャリア女性学副専攻修得単位調べ用紙」提出</p> <p>卒業時に「キャリア女性学副専攻修了書」を発行します。希望する場合は、「キャリア女性学副専攻修得単位調べ用紙」を提出してください。提出できる「キャリア女性学副専攻修得単位調べ用紙」は 1 コースのみです。</p> <p><u>「キャリア女性学副専攻修得単位調べ用紙」を提出しない場合、卒業時の修了証は発行されません。</u></p> <p>■「キャリア女性学副専攻単位修得証明書」、「キャリア女性学副専攻単位修得見込証明書」の発行について</p> <p>「キャリア女性学副専攻修得単位調べ用紙」を提出し、3 年次終了時までに所定の単位を充足した学生は、単位取得状況に応じ、4 年次前期に以下の証明書の発行が可能です。証明書の発行を希望する学生は「証明書申込用紙」を提出してください。</p> <table><tr><th>単位修得状況</th><th>証明書の種類</th><th>発行時期</th></tr><tr><td>3 年次終了時に定められた単位数を<u>すべて修得済</u>の場合</td><td>キャリア女性学副専攻単位修得証明書</td><td>4 年次 4 月</td></tr><tr><td>3 年次終了時に定められた単位数の <u>3 分の 2 以上</u>を修得済で、かつ 4 年次（今年度）履修登録時に残りの単位数を登録している場合</td><td>キャリア女性学副専攻単位修得見込証明書</td><td>4 年次 5 月</td></tr></table> <p>※「キャリア女性学副専攻単位修得証明書」、「キャリア女性学副専攻単位修得見込証明書」の発行は、1 通までは無料、2 通目以降は有料（1 通につき 300 円）です。申し込みから発行までに 1 週間程度かかります。</p>	単位修得状況	証明書の種類	発行時期	3 年次終了時に定められた単位数を <u>すべて修得済</u> の場合	キャリア女性学副専攻単位修得証明書	4 年次 4 月	3 年次終了時に定められた単位数の <u>3 分の 2 以上</u> を修得済で、かつ 4 年次（今年度）履修登録時に残りの単位数を登録している場合	キャリア女性学副専攻単位修得見込証明書	4 年次 5 月
単位修得状況	証明書の種類	発行時期								
3 年次終了時に定められた単位数を <u>すべて修得済</u> の場合	キャリア女性学副専攻単位修得証明書	4 年次 4 月								
3 年次終了時に定められた単位数の <u>3 分の 2 以上</u> を修得済で、かつ 4 年次（今年度）履修登録時に残りの単位数を登録している場合	キャリア女性学副専攻単位修得見込証明書	4 年次 5 月								
4 年次 9 月	<p>■「キャリア女性学副専攻修得単位調べ用紙提出」（該当者のみ）</p> <p>以下に該当する学生は、必ず提出してください。</p> <ul style="list-style-type: none">・4 年次前期に提出しなかった学生・すでに提出していても、4 年次前期までに所定の単位を全て充足できなかった学生									
4 年次 3 月 （卒業時）	<p>■キャリア女性学副専攻修了書 授与</p> <p>「キャリア女性学副専攻修得単位調べ用紙」を提出済みで、卒業までに所定の単位を全て修得した学生に対して授与されます。</p>									

7

キャリア女性学コア科目

※該当授業科目の履修条件等は授業科目一覧で確認すること。

領域	分野	副専攻科目名	単位数	各学科の該当授業科目	単位数	履修方法
キャリア形成科目群		ライフプランとキャリアデザイン	2	ライフプランとキャリアデザイン	2	2単位
		キャリア形成論	2	現代教育論Ⅵ(キャリア形成論) (2018年度まで開講)	2	
		組織とキャリアデザイン	2	多変量解析Ⅱ (2018年度入学者より履修可)	2	
				人間関係心理学特講・2 (2017年度入学者まで履修可)	2	
		キャリアのための自己表現	2	社会に出るための自己表現	2	
		インターンシップⅠ	1	インターンシップⅠ	1	
		インターンシップⅡ	2	インターンシップⅡ	2	
		女性と職業	2	女性と職業	2	
キャリア制度科目群		キャリアと法	2	労働法	2	2単位
		働くことの諸問題	2	労働者福祉と就労支援 (旧「労働者福祉論」)	2	
		企業とひと	2	社会階層論Ⅰ (2015年度からの履修に限る)	2	
				労働問題論	2	
		社会保障制度を知る	2	社会保障論	2	
ビジネス系科目群		現代ビジネス事情	2	労働経済論Ⅱ (2013年度からの履修に限る)	2	2単位
		ジェンダーと経済	2	労働経済論Ⅰ	2	
		現代企業のしくみ	2	経営学	2	
		NPO・NGO論	2	生涯学習概論Ⅱ	2	
		ICT活用とプロジェクト演習	4	ICT活用とプロジェクト演習	4	
ライフコース系科目群		ワークバランス社会論	2	現代生活論Ⅱ	2	2単位
		現代女性と家族Ⅰ	2	現代家族論Ⅰ	2	
		現代女性と家族Ⅱ	2	現代家族論Ⅱ	2	
		現代社会とジェンダー	2	ジェンダー論	2	
		現代女性とライフコース	2	現代生活論Ⅳ	2	
		女性と生活問題	2	女性福祉論	2	
		現代女性と子育て	2	家庭教育論	2	
		現代女性論	2	現代女性論	2	
		現代男性論	2	現代男性論	2	
		日本の女性史	2	日本の女性史	2	
		世界の女性史	2	世界の女性史	2	
		女性と身体	2	女性と身体	2	
				合計		8単位

副専攻

2020 年度 キャリア女性学コア科目授業科目一覧

領域	分野	各学科の該当授業科目	担当者名	単位数	期	年次	提供学科	科目区分	備 考
キャリア形成科目群		ライフプランとキャリアデザイン	高橋 美紀	2	後期	1～	キャリア委員会	キャリア形成科目	
		現代教育論Ⅵ(キャリア形成論)		2		1～	教育学科	学科専門科目	閉講
		多変量解析Ⅱ	渋井 進	2	後期	2～	心理学科	学科専門科目	○ 2018 年度入学者より履修可
		人間関係心理学特講・2	渋井 進	2	後期	2～	心理学科	学科専門科目	○ 2017 年度入学者まで履修可
		社会に出るための自己表現	尾方 僚	2	前後	2～	キャリア委員会	キャリア形成科目	○
		インターンシップⅠ		1	通年	2・3	キャリア委員会	キャリア形成科目	◆ ○ 集中授業(夏季休暇中) 実習期間は 5 日間～9 日間(1 日 7 時間)とする 事前・事後指導を含む 事前・事後指導に全出席しなければ、単位は与えられない 4 年次履修不可
		インターンシップⅡ		2	通年	2・3	キャリア委員会	キャリア形成科目	◆ ○ 集中授業(夏季休暇中) 実習期間は 10 日間(1 日 7 時間)以上とする 事前・事後指導を含む 事前・事後指導に全出席しなければ、単位は与えられない 4 年次履修不可
		女性と職業	鈴木 陽子	2	前期	1～	キャリア委員会	現代女性とキャリア連携専攻	目白地区開講
キャリア制度科目群		労働法	増田 幸弘	2	前期	2	社会福祉学科	基本科目	「法学概論」を履修済または履修中が望ましい
		労働者福祉と就労支援	増田 幸弘	2	後期	2～	社会福祉学科	学科専門科目	旧「労働者福祉論」
		社会階層論Ⅰ	大沢 真知子	2	前期	2～	現代社会学科	学科専門科目	2015 年度からの履修に限る
		労働問題論	跡部 千慧	2	後期	1～	社会福祉学科	学科専門科目	
		社会保障論	増田 幸弘	2	後期	2～	社会福祉学科	学科専門科目	
ビジネス系科目群		労働経済論Ⅱ	大沢 真知子	2	後期	2～	現代社会学科	学科専門科目	隔年 2020 年度休講 2013 年度からの履修に限る
		労働経済論Ⅰ		2	前期	2～	現代社会学科	学科専門科目	隔年 2020 年度休講
		経営学	工藤 悟志	2	後期	2～	現代社会学科	学科専門科目	
		生涯学習概論Ⅱ	田中 雅文	2	後期	1～	教育学科	学科専門科目	
		ICT 活用とプロジェクト演習	久東 光代 星名 由美	4	通年	1～	心理学科	展開科目	△
ライフコース系科目群		現代生活論Ⅱ	大沢 真知子	2	後期	2～	現代社会学科	学科専門科目	隔年
		現代家族論Ⅰ	高橋 幸	2	前期	2～	現代社会学科	学科専門科目	
		現代家族論Ⅱ	和泉 広恵	2	後期	2～	現代社会学科	学科専門科目	
		ジェンダー論	飯野 由里子	2	後期	2～	現代社会学科	学科専門科目	
		現代生活論Ⅳ	渋谷 望	2	後期	1～	現代社会学科	学科専門科目	
		女性福祉論	沈 潔	2	後期	2～	社会福祉学科	学科専門科目	
		家庭教育論	奥村 典子	2	後期	1～	教育学科	学科専門科目	
		現代女性論	野田 潤	2	後期	1～	キャリア委員会	現代女性とキャリア連携専攻	目白地区開講
		現代男性論	須長 史生	2	前期	1～	キャリア委員会	現代女性とキャリア連携専攻	目白地区開講
		日本の女性史	差波 亜紀子	2	前期	1～	キャリア委員会	現代女性とキャリア連携専攻	目白地区開講
		世界の女性史	磯山 久美子	2	後期	1～	キャリア委員会	現代女性とキャリア連携専攻	目白地区開講
		女性と身体	小笹 由香 辻 美千子 新田 真弓	2	後期	1～	キャリア委員会	現代女性とキャリア連携専攻	目白地区開講

8

地域・行政コース

※該当授業科目の履修条件等は授業科目一覧で確認すること。

領域	分野	副専攻科目名	単位数	各学科の該当授業科目	単位数	履修方法
(法学・法律) 規範領域		法学	2	法学概論	2	4 単 位
		憲法	2	憲法(日本国憲法)	2	
		司法福祉制度論	2	司法福祉制度論	2	
		現代法体系Ⅰ	2	現代法体系Ⅰ	2	
		現代法体系Ⅱ	2	現代法体系Ⅱ	2	
(財政・経営) 経営領域		財政学	2	財政学	2	4 単 位
		会計学	2	会計学	2	
		経済学概論	2	経済学概論	2	
		基礎経済学Ⅰ	2	基礎経済学Ⅰ	2	
		基礎経済学Ⅱ	2	基礎経済学Ⅱ	2	
		現代経済論	2	現代経済論Ⅰ	2	
(行政・政策) 公共領域		ソーシャル・アドミニストレーション論	2	社会福祉行政論	2	8 単 位
		地方自治論	2	地方自治論	2	
		地域組織論	2	地域組織論	2	
		社会政策Ⅰ	2	社会政策	2	
				社会政策Ⅰ(2014年度まで開講)	2	
		社会政策Ⅱ	2	福祉国家論(社会保障史) (2015年度からの履修に限る)	2	
				社会政策Ⅱ(2014年度まで開講)	2	
		行政学	2	行政学Ⅰ	2	
(情報・その他) 関連領域		統計学	2	基礎心理学概説・7-Ⅰ (2014年度までの履修に限る)	2	4 単 位
		社会情報処理論Ⅰ	2	社会データ分析ⅠA	2	
		社会情報処理論Ⅱ	2	社会データ分析ⅠB	2	
		社会情報処理論Ⅲ	2	社会データ分析ⅡA	2	
		社会情報処理論Ⅳ	2	社会データ分析ⅡB	2	
		社会調査・統計論Ⅰ	2	社会統計基礎Ⅰ	2	
				社会調査・統計論Ⅰ(2016年度まで開講)	2	
		社会調査・統計論Ⅱ	2	社会統計基礎Ⅱ	2	
				社会調査・統計論Ⅱ(2016年度まで開講)	2	
		国際社会福祉論	2	国際社会福祉論Ⅰ	2	
		生涯学習概論	2	生涯学習概論Ⅰ	2	
		地域活動講座	必1	地域活動講座	1	必修1単位
				合計		21単位

副専攻

2020 年度 地域・行政コース授業科目一覧

領域	分野	各学科の該当授業科目	担当者名	単位数	期	年次	提供学科	科目区分	備 考
(法学・法律) 規範領域		法学概論	篠原 亘	2	前期	1～	現代社会学科 社会福祉学科 教育学科 文化学科	学科専門科目	
		憲法(日本国憲法)	樋口 雄人	2	前期	1～	現代社会学科	展開科目	△
		司法福祉制度論	幾代 聡	2	前期	2～	社会福祉学科	学科専門科目	
		現代法体系Ⅰ	樋口 雄人	2	前期	2～	現代社会学科	学科専門科目	
		現代法体系Ⅱ	田中 佑季	2	後期	2～	現代社会学科	学科専門科目	
(財政・経営) 経営領域		財政学		2	前期	2～	社会福祉学科	学科専門科目	隔年 2020 年度休講
		会計学	岸田 隆行	2	前期	2～	現代社会学科	学科専門科目	
		経済学概論	金 明中	2	前期	1～	現代社会学科	学科専門科目	
		基礎経済学Ⅰ	込江 雅彦	2	前期	1～	現代社会学科	展開科目	
		基礎経済学Ⅱ	込江 雅彦	2	後期	1～	現代社会学科	展開科目	
		現代経済論Ⅰ	込江 雅彦	2	前期	2～	現代社会学科 教育学科 文化学科	学科専門科目	
(行政・政策) 公共領域		社会福祉行政論	坪 洋一	2	後期	1～	社会福祉学科	学科専門科目	
		地方自治論	村田 文世	2	後期	2～	社会福祉学科	学科専門科目	
		地域組織論	和田 清美	2	後期	2～	社会福祉学科	学科専門科目	
		社会政策	村田 文代	2	後期	2～	社会福祉学科	学科専門科目	
		社会政策Ⅰ		2		2～	現代社会学科 社会福祉学科	学科専門科目	閉講
		福祉国家論(社会保障史)	坪 洋一	2	前期	2～	社会福祉学科	学科専門科目	2015 年度からの履修に限る
		社会政策Ⅱ		2		2～	現代社会学科 社会福祉学科	学科専門科目	閉講
		行政学Ⅰ	牛山 久仁彦	2	前期	2～	現代社会学科	学科専門科目	
(情報・その他) 関連領域		基礎心理学概説・7-I		2		1～	心理学科	学科専門科目	○ 2014 年度までの履修に限る
		社会データ分析ⅠA	明戸 隆浩	2	前期	2～	現代社会学科	学科専門科目	○
		社会データ分析ⅠB	明戸 隆浩	2	後期	2～	現代社会学科	学科専門科目	○
		社会データ分析ⅡA	池田 和弘	2	前期	2～	現代社会学科	学科専門科目	○
		社会データ分析ⅡB	池田 和弘	2	後期	2～	現代社会学科	学科専門科目	○
		社会統計基礎Ⅰ	明戸 隆浩	2	前期	2～	現代社会学科	学科専門科目	○
		社会調査・統計論Ⅰ		2		2～	現代社会学科	学科専門科目	閉講
		社会統計基礎Ⅱ	明戸 隆浩	2	後期	2～	現代社会学科	学科専門科目	○
		社会調査・統計論Ⅱ		2		2～	現代社会学科	学科専門科目	閉講
		国際社会福祉論Ⅰ	沈 潔	2	前期	2～	社会福祉学科	学科専門科目	
		生涯学習概論Ⅰ	田中 雅文	2	前期	1～	教育学科	学科専門科目	
		地域活動講座	清水 睦美 沈 潔	1	後期	1～	現代社会学科	展開科目	☆

9 国際活動コース

※該当授業科目の履修条件等は授業科目一覧で確認すること。

領域	分野	副 専 攻 科 目	単位数	各学科の該当授業科目	単位数	履修方法
語 学 領 域	英 語	英語	2	英語 (2020 年度以降の履修は英語1～8、英語 12～19 のみ 2016 年度～2019 年度までの履修は 英語1～8、英語20～27のみ。 2015 年度までの履修は 英語1～8、英語30～37のみ)	2	同 一 言 語 を 12 単 位 (履 修 方 法 を 参 照 の こ と)
		英語会話Ⅰ	2	英語会話Ⅰ(前期)	2	
			2	英語会話Ⅰ(後期)	2	
			4	英語会話Ⅰ(2016 年度まで開講)	4	
		英語会話Ⅱ	2	英語会話Ⅱ(前期)	2	
			2	英語会話Ⅱ(後期)	2	
			4	英語会話Ⅱ(2016 年度まで開講)	4	
		英語作文	2	英語作文(前期)	2	
			2	英語作文(後期)	2	
			4	英語作文(2016 年度まで開講)	4	
		ビジネス英語	2	ビジネス英語(前期)	2	
			2	ビジネス英語(後期)	2	
			4	ビジネス英語(2016 年度まで開講)	4	
	ド イ ツ 語	ドイツ語Ⅰ文法	4	ドイツ語Ⅰ文法	4	
		ドイツ語Ⅰ読本	4	ドイツ語Ⅰ読本	4	
		ドイツ語Ⅱ(前期)	2	ドイツ語Ⅱ(前期)	2	
		ドイツ語Ⅱ(後期)	2	ドイツ語Ⅱ(後期)	2	
		ドイツ語Ⅲ(前期)	2	ドイツ語Ⅲ(前期)(2015 年度まで開講)	2	
		ドイツ語Ⅲ(後期)	2	ドイツ語Ⅲ(後期)(2015 年度まで開講)	2	
		ドイツ語原典講読(前期)	2	ドイツ語原典講読(前期)	2	
		ドイツ語原典講読(後期)	2	ドイツ語原典講読(後期)	2	
		ドイツ語会話	2	ドイツ語会話(前期)(2016 年度入学者より履修可)	2	
			2	ドイツ語会話(後期)(2016 年度入学者より履修可)	2	
			4	ドイツ語会話(2016 年度まで開講)	4	
		ドイツ語会話Ⅰ	2	ドイツ語会話Ⅰ(前期)(2015 年度入学者まで履修可)	2	
			2	ドイツ語会話Ⅰ(後期)(2015 年度入学者まで履修可)	2	
			4	ドイツ語会話Ⅰ(2016 年度まで開講)	4	
		ドイツ語会話Ⅱ	4	ドイツ語会話Ⅱ(2015 年度まで開講)	4	
		ドイツ語会話Ⅲ	4	ドイツ語会話Ⅲ(2015 年度まで開講)	4	
	フ ラ ン ス 語	フランス語Ⅰ文法	4	フランス語Ⅰ文法	4	
		フランス語Ⅰ読本	4	フランス語Ⅰ読本	4	
		フランス語Ⅱ(前期)	2	フランス語Ⅱ(前期)	2	
		フランス語Ⅱ(後期)	2	フランス語Ⅱ(後期)	2	
		フランス語Ⅲ(前期)	2	フランス語Ⅲ(前期)(2016 年度まで開講)	2	
		フランス語Ⅲ(後期)	2	フランス語Ⅲ(後期)(2016 年度まで開講)	2	
		フランス語原典講読(前期)	2	フランス語原典講読(前期)	2	
		フランス語原典講読(後期)	2	フランス語原典講読(後期)	2	
		フランス語会話Ⅰ	2	フランス語会話Ⅰ(前期)	2	
			2	フランス語会話Ⅰ(後期)	2	
			4	フランス語会話Ⅰ(2016 年度まで開講)	4	
		フランス語会話Ⅱ	2	フランス語会話Ⅱ(前期)	2	
			2	フランス語会話Ⅱ(後期)	2	
			4	フランス語会話Ⅱ(2016 年度まで開講)	4	
		フランス語会話Ⅲ	4	フランス語会話Ⅲ(2015 年度まで開講)	4	

副
専
攻

領域	分野	副 専 攻 科 目	単位数	各学科の該当授業科目	単位数	履修方法
語 学 領 域	中 国 語	中国語Ⅰ 文法	4	中国語Ⅰ 文法	4	同 一 言 語 を 12 単 位 (履 修 方 法 を 参 照 の こ と)
		中国語Ⅰ 読本	4	中国語Ⅰ 読本	4	
		中国語Ⅱ (前期)	2	中国語Ⅱ (前期)	2	
		中国語Ⅱ (後期)	2	中国語Ⅱ (後期)	2	
		中国語Ⅲ (前期)	2	中国語Ⅲ (前期) (2016 年度まで開講)	2	
		中国語Ⅲ (後期)	2	中国語Ⅲ (後期) (2016 年度まで開講)	2	
		中国語原典講読 (前期)	2	中国語原典講読 (前期)	2	
		中国語原典講読 (後期)	2	中国語原典講読 (後期)	2	
		中国語会話Ⅰ	2	中国語会話Ⅰ (前期)	2	
			2	中国語会話Ⅰ (後期)	2	
			4	中国語会話Ⅰ (2016 年度まで開講)	4	
		中国語会話Ⅱ	2	中国語会話Ⅱ (前期)	2	
			2	中国語会話Ⅱ (後期)	2	
			4	中国語会話Ⅱ (2016 年度まで開講)	4	
		中国語会話Ⅲ	4	中国語会話Ⅲ (2015 年度まで開講)	4	
	イ タ リ ア 語	イタリア語Ⅰ 文法	4	イタリア語Ⅰ 文法	4	
		イタリア語Ⅰ 実用	4	イタリア語Ⅰ 実用	4	
		イタリア語Ⅱ (前期)	2	イタリア語Ⅱ (前期)	2	
		イタリア語Ⅱ (後期)	2	イタリア語Ⅱ (後期)	2	
		イタリア語原典講読 (前期)	2	イタリア語原典講読 (前期)	2	
		イタリア語原典講読 (後期)	2	イタリア語原典講読 (後期)	2	
	韓 国 語	韓国語Ⅰ 文法	4	韓国語Ⅰ 文法	4	
		韓国語Ⅰ 実用	4	韓国語Ⅰ 実用	4	
		韓国語Ⅱ (前期)	2	韓国語Ⅱ (前期)	2	
		韓国語Ⅱ (後期)	2	韓国語Ⅱ (後期)	2	
		韓国語原典講読 (前期)	2	韓国語原典講読 (前期)	2	
		韓国語原典講読 (後期)	2	韓国語原典講読 (後期)	2	

領域	分野	副 専 攻 科 目	単位数	各学科の該当授業科目	単位数	履修方法
関 連 領 域	組 織	ソーシャル・アドミニストレーション論	2	社会福祉行政論	2	2単位
		地方自治論	2	地方自治論	2	
		地域組織論	2	地域組織論	2	
		社会政策Ⅰ	2	社会政策	2	
				社会政策Ⅰ（2014年度まで開講）	2	
		社会政策Ⅱ	2	福祉国家論（社会保障史） （2015年度からの履修に限る）	2	
				社会政策Ⅱ（2014年度まで開講）	2	
		行政学	2	行政学Ⅰ	2	
	地 域	比較社会論Ⅲ	2	比較社会論Ⅲ	2	2単位
		比較社会論Ⅳ	2	比較社会論Ⅳ	2	
		比較社会論Ⅴ	2	比較社会論Ⅴ	2	
		比較社会論Ⅵ	2	比較社会論Ⅵ	2	
		比較社会論Ⅶ	2	比較社会論Ⅶ	2	
		比較社会論Ⅷ	2	比較社会論Ⅷ	2	
		地域社会論Ⅲ（農村）	2	地域社会論Ⅲ（農村）	2	
		地域社会論Ⅳ（農村）	2	地域社会論Ⅳ（農村）	2	
		文化人類学Ⅰ	2	文化人類学Ⅰ	2	
		文化人類学Ⅱ	2	文化人類学Ⅱ	2	
		国際社会福祉論Ⅰ	2	国際社会福祉論Ⅰ	2	
		国際社会福祉論Ⅱ	2	国際社会福祉論Ⅱ	2	
	歴 史	社会思想論Ⅰ	2	社会思想論Ⅰ（2011年度まで開講）	2	2単位
		社会思想論Ⅱ	2	社会思想論Ⅱ（2011年度まで開講）	2	
		東洋史学論	2	東洋史学論	2	
		東洋史学方法論	2	東洋史学方法論	2	
		西洋史学論	2	西洋史学論	2	
		西洋史学方法論	2	西洋史学方法論	2	
	文 化	言葉と文化：イギリス	2	言葉と文化：イギリス	2	2単位
		言葉と文化：アメリカ	2	言葉と文化：アメリカ	2	
		言葉と文化：ドイツ	2	言葉と文化：ドイツ	2	
		言葉と文化：フランス	2	言葉と文化：フランス	2	
		言葉と文化：中国	2	言葉と文化：中国	2	
		言葉と文化：日本	2	言葉と文化：日本	2	
		言葉と文化：イタリア	2	言葉と文化：イタリア	2	
		言葉と文化：イスラム	2	言葉と文化：イスラム	2	
		言葉と文化：韓国	2	言葉と文化：韓国	2	
		地域文化史Ⅰ	2	地域文化史Ⅰ	2	
		地域文化史Ⅱ	2	地域文化史Ⅱ	2	
		地域文化史Ⅲ	2	地域文化史Ⅲ	2	
		地域文化史Ⅳ	2	地域文化史Ⅳ	2	
		視覚文化史Ⅰ	2	視覚文化史Ⅰ	2	
		視覚文化史Ⅱ	2	視覚文化史Ⅱ	2	
国際・情報		国際理解教育	2	地理教育・観光教育学（旧「現代教育論Ⅴ（国際理解教育）」）	2	2単位
		異文化アウェアネス	2	異文化アウェアネス（2017年度まで開講）	2	
		統計学	2	基礎心理学概説・7-I（2014年度までの履修に限る）	2	
		国際活動講座	必1	国際活動講座	1	必修1単位
				合計		23単位

「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「イタリア語」「韓国語」について
 外国語科目の履修条件を参照すること。（2015年度入学者まではP. 41、2016年度入学者よりはP. 35を参照）

副
専
攻

2020 年度 国際活動コース授業科目一覧

領域	分野	各学科の該当授業科目	担当者名	単位数	期	年次	提供学科	科目区分	備 考
語 学 領 域	英 語	英語 1～8 12～19	佐藤 千佳 三田 良平 佐野 陽子 山岡 眞希子 杉山 直子 山本 満登香 瀬戸 沙央里	2	前(後)	1～	文化学科	基本科目	△ ☆ ○ クラスは 2020 年度以降の履修は 英語1～8、英語 12～19 のみ 2016 年度～2019 年度までの 履修は 英語1～8、英語20～27のみ 2015 年度までの履修は 英語1～8、英語30～37のみ
		英語会話Ⅰ（前期）	大島 有子 佐野 陽子 山本 満登香 山岡 眞希子	2	前期	1～	文化学科	基本科目	△ ○ 「英語会話Ⅰ」の単位取得 者は履修不可
		英語会話Ⅰ（後期）	大島 有子 佐野 陽子 山本 満登香 山岡 眞希子	2	後期	1～	文化学科	基本科目	△ ○ 「英語会話Ⅰ」の単位取得 者は履修不可
		英語会話Ⅰ		4		1～	文化学科	基本科目	閉講
		英語会話Ⅱ（前期）	N.Mアディソン 山下 芳典	2	前期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆ ○
		英語会話Ⅱ（後期）	N.M・アディソン 山下 芳典	2	後期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆ ○
		英語会話Ⅱ		4		2～	文化学科	基本科目	閉講
		英語作文(前期)	庄子 ひとみ	2	前期	2～	文化学科	基本科目	△ ○ 「英語作文」の単位取得者 は履修不可
		英語作文(後期)	庄子 ひとみ	2	後期	2～	文化学科	基本科目	△ ○ 「英語作文」の単位取得者 は履修不可
		英語作文		4		2～	文化学科	基本科目	閉講
		ビジネス英語(前期)	N.Mアディソン	2	前期	2～	文化学科	基本科目	△ ○ 「ビジネス英語」の単位取 得者は履修不可
		ビジネス英語(後期)	N.Mアディソン	2	後期	2～	文化学科	基本科目	△ ○ 「ビジネス英語」の単位取 得者は履修不可
		ビジネス英語		4		2～	文化学科	基本科目	閉講
	ド イ ツ 語	ドイツ語Ⅰ文法	泉谷 千尋 織田 晶子 早崎 えりな	4	通年	1	文化学科	基本科目	△ ○ 「ドイツ語Ⅰ読本」と同年度 に履修すること
		ドイツ語Ⅰ読本	泉谷 千尋 織田 晶子 早崎 えりな	4	通年	1	文化学科	基本科目	△ ○ 「ドイツ語Ⅰ文法」と同年度 に履修すること
		ドイツ語Ⅱ（前期）	泉谷 千尋	2	前期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆
		ドイツ語Ⅱ（後期）	泉谷 千尋	2	後期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆
		ドイツ語Ⅲ（前期）		2		3～	文化学科	基本科目	閉講
		ドイツ語Ⅲ（後期）		2		3～	文化学科	基本科目	閉講
		ドイツ語原典講読(前期)	織田 晶子	2	前期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆ ○
		ドイツ語原典講読(後期)	早崎 えりな	2	後期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆ ○
		ドイツ語会話(前期)	(未定)	2	前期	1～	文化学科	基本科目	△ ☆ ○ 2016 年度入学者より履修可
		ドイツ語会話(後期)	(未定)	2	後期	1～	文化学科	基本科目	△ ☆ ○ 2016 年度入学者より履修可
		ドイツ語会話		4		1～	文化学科	基本科目	閉講
		ドイツ語会話Ⅰ（前期）	(未定)	2	前期	1～	文化学科	基本科目	△ ☆ ○ 2015 年度入学者まで履修 可

領域	分野	各学科の該当授業科目	担当者名	単位数	期	年次	提供学科	科目区分	備 考
語 学 領 域	ド イ ツ 語	ドイツ語会話Ⅰ（後期）	（ 未定 ）	2	後期	1～	文化学科	基本科目	△ ☆ ○ 2015 年度入学者まで履修可
		ドイツ語会話Ⅰ		4		1～	文化学科	基本科目	閉講
		ドイツ語会話Ⅱ		4		2～	文化学科	基本科目	閉講
		ドイツ語会話Ⅲ		4		3・4	文化学科	基本科目	閉講
	フ ラ ン ス 語	フランス語Ⅰ 文法	畠山香奈 宮川慎也 加倉井 仁	4	通年	1	文化学科	基本科目	△ ○ 「フランス語Ⅰ 読本」と同年度に履修すること
		フランス語Ⅰ 読本	宮川 慎也 小幡 一雄 高井 奈緒	4	通年	1	文化学科	基本科目	△ ○ 「フランス語Ⅰ 文法」と同年度に履修すること
		フランス語Ⅱ（前期）	小幡 一雄 加倉井 仁	2	前期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆
		フランス語Ⅱ（後期）	小幡 一雄 加倉井 仁	2	後期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆
		フランス語Ⅲ（前期）		2		3～	文化学科	基本科目	閉講
		フランス語Ⅲ（後期）		2		3～	文化学科	基本科目	閉講
		フランス語原典講読（前期）	高井 奈緒	2	前期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆ ○
		フランス語原典講読（後期）	高井 奈緒	2	後期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆ ○
		フランス語会話Ⅰ（前期）	B. P. レウルス 畠山香奈	2	前期	1～	文化学科	基本科目	△ ○ 「フランス語会話Ⅰ」の単位取得者は履修不可
		フランス語会話Ⅰ（後期）	B. P. レウルス 畠山香奈	2	後期	1～	文化学科	基本科目	△ ○ 「フランス語会話Ⅰ」の単位取得者は履修不可
		フランス語会話Ⅰ		4		1～	文化学科	基本科目	閉講
		フランス語会話Ⅱ（前期）	B. P. レウルス	2	前期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆
		フランス語会話Ⅱ（後期）	B. P. レウルス	2	後期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆
		フランス語会話Ⅱ		4		2～	文化学科	基本科目	閉講
		フランス語会話Ⅲ		4		3・4	文化学科	基本科目	閉講
	中 国 語	中国語Ⅰ 文法	張 培華 黄 昱 田中 千寿	4	通年	1	文化学科	基本科目	△ ○ 「中国語Ⅰ 読本」と同年度に履修すること
		中国語Ⅰ 読本	鄔 越凌 陸 樹芳	4	通年	1	文化学科	基本科目	△ ○ 「中国語Ⅰ 文法」と同年度に履修すること
		中国語Ⅱ（前期）	三田 明弘 張 培華	2	前期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆
		中国語Ⅱ（後期）	三田 明弘 張 培華	2	後期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆
		中国語Ⅲ（前期）		2		3～	文化学科	基本科目	閉講
		中国語Ⅲ（後期）		2		3～	文化学科	基本科目	閉講
		中国語原典講読（前期）	三田 明弘	2	前期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆ ○
		中国語原典講読（後期）	三田 明弘	2	後期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆ ○
		中国語会話Ⅰ（前期）	鄔 越凌	2	前期	1～	文化学科	基本科目	△ ○ 「中国語会話Ⅰ」の単位取得者は履修不可
		中国語会話Ⅰ（後期）	鄔 越凌	2	後期	1～	文化学科	基本科目	△ ○ 「中国語会話Ⅰ」の単位取得者は履修不可
		中国語会話Ⅰ		4		1～	文化学科	基本科目	閉講
		中国語会話Ⅱ（前期）	黄 昱	2	前期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆ ○
		中国語会話Ⅱ（後期）	黄 昱	2	後期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆ ○
		中国語会話Ⅱ		4		2～	文化学科	基本科目	閉講
		中国語会話Ⅲ		4		3・4	文化学科	基本科目	閉講

副
専
攻

領域	分野	各学科の該当授業科目	担当者名	単位数	期	年次	提供学科	科目区分	備 考
学 領 域	語	イタリア語Ⅰ 文法	山手 昌樹	4	通年	1	文化学科	基本科目	△ ○ 「イタリア語Ⅰ 実用」と同年度に履修すること
		イタリア語Ⅰ 実用	ジョヴァンニ・シモーネ	4	通年	1	文化学科	基本科目	△ ○ 「イタリア語Ⅰ 文法」と同年度に履修すること
		イタリア語Ⅱ (前期)	山手 昌樹	2	前期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆
		イタリア語Ⅱ (後期)	山手 昌樹	2	後期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆
		イタリア語原典講読(前期)	佐々木 雄大	2	前期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆ ○
		イタリア語原典講読(後期)	佐々木 雄大	2	後期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆ ○
	韓 国 語	韓国語Ⅰ 文法	朴 倍暎 金 福子	4	通年	1	文化学科	基本科目	△ ○ 「韓国語Ⅰ 実用」と同年度に履修すること
		韓国語Ⅰ 実用	李 垠松 呉 世蓮	4	通年	1	文化学科	基本科目	△ ○ 「韓国語Ⅰ 文法」と同年度に履修すること
		韓国語Ⅱ (前期)	朴 美京 李 垠松	2	前期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆
		韓国語Ⅱ (後期)	朴 美京 李 垠松	2	後期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆
		韓国語原典講読(前期)	朴 倍暎	2	前期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆ ○
		韓国語原典講読(後期)	朴 倍暎	2	後期	2～	文化学科	基本科目	△ ☆ ○
関 連 学 領 域	組 織	社会福祉行政論	坏 洋一	2	後期	1～	社会福祉学科	学科専門科目	
		地方自治論	村田 文世	2	後期	2～	社会福祉学科	学科専門科目	
		地域組織論	和田 清美	2	後期	2～	社会福祉学科	学科専門科目	
		社会政策	村田 文代	2	後期	2～	社会福祉学科	学科専門科目	
		社会政策Ⅰ		2		2～	現代社会学科 社会福祉学科	学科専門科目	閉講
		福祉国家論(社会保障史)	坏 洋一	2	前期	2～	社会福祉学科	学科専門科目	2015 年度からの履修に限る
		社会政策Ⅱ		2		2～	現代社会学科 社会福祉学科	学科専門科目	閉講
		行政学Ⅰ	牛山 久仁彦	2	前期	2～	現代社会学科	学科専門科目	
	地 域	比較社会論Ⅲ	遠藤 知巳	2	後期	1～	現代社会学科	学科専門科目	隔年
		比較社会論Ⅳ	尾中 文哉	2	後期	1～	現代社会学科	学科専門科目	隔年
		比較社会論Ⅴ	鈴木 裕之	2	前期	1～	現代社会学科	学科専門科目	
		比較社会論Ⅵ	西村 一之	2	後期	2～	現代社会学科	学科専門科目	隔年 2020 年度休講
		比較社会論Ⅶ	マニユエル・ヤン	2	前期	1～	現代社会学科	学科専門科目	
		比較社会論Ⅷ	井堂 有子	2	後期	1～	現代社会学科	学科専門科目	
		地域社会論Ⅲ(農村)	尾中 文哉	2	前期	1～	現代社会学科	学科専門科目	隔年 2020 年度休講
		地域社会論Ⅳ(農村)	尾中 文哉	2	後期	1～	現代社会学科	学科専門科目	隔年 2020 年度休講
		文化人類学Ⅰ	西村 一之	2	前期	1～	現代社会学科 文化学科	学科専門科目	
		文化人類学Ⅱ	西村 一之	2	後期	2～	現代社会学科 文化学科	学科専門科目	☆
		国際社会福祉論Ⅰ	沈 潔	2	前期	2～	社会福祉学科	学科専門科目	
		国際社会福祉論Ⅱ	沈 潔	2	後期	2～	社会福祉学科	学科専門科目	

領域	分野	各学科の該当授業科目	担当者名	単位数	期	年次	提供学科	科目区分	備 考
関 連 領 域	歴 史	社会思想論Ⅰ		2		1～	社会福祉学科	学科専門科目	閉講
		社会思想論Ⅱ		2		1～	社会福祉学科	学科専門科目	閉講
		東洋史学論	三王 昌代	2	前期	2	現代社会学科 社会福祉学科 教育学科 文化学科	学科専門科目	
		東洋史学方法論	三王 昌代	2	後期	2	現代社会学科 社会福祉学科 教育学科 文化学科	学科専門科目	
		西洋史学論	佐藤 育子	2	前期	2	現代社会学科 社会福祉学科 教育学科 文化学科	学科専門科目	
		西洋史学方法論	佐藤 育子	2	後期	2	現代社会学科 社会福祉学科 教育学科 文化学科	学科専門科目	
	文 化	言葉と文化: イギリス	N.M アディソン	2	前期	2～	文化学科	学科専門科目	
		言葉と文化: アメリカ	田中 有美	2	後期	2～	文化学科	学科専門科目	☆
		言葉と文化: ドイツ	満留 伸一郎	2	後期	2～	文化学科	学科専門科目	☆
		言葉と文化: フランス	高井 奈緒	2	後期	2～	文化学科	学科専門科目	
		言葉と文化: 中国	三田 明弘	2	後期	2～	文化学科	学科専門科目	隔年
		言葉と文化: 日本	三村 友希	2	後期	2～	文化学科	学科専門科目	
		言葉と文化: イタリア	佐々木 雄大	2	前期	2～	文化学科	学科専門科目	隔年
		言葉と文化: イスラム	須永 恵美子	2	後期	2～	文化学科	学科専門科目	
		言葉と文化: 韓国	朴 倍暎	2	前期	2～	文化学科	学科専門科目	隔年
		地域文化史Ⅰ	佐藤 千佳	2	前期	2～	文化学科	学科専門科目	☆
		地域文化史Ⅱ	佐藤 千佳	2	後期	2～	文化学科	学科専門科目	☆
		地域文化史Ⅲ	細野 喜代	2	前期	2～	文化学科	学科専門科目	☆
		地域文化史Ⅳ	細野 喜代	2	後期	2～	文化学科	学科専門科目	☆
		視覚文化史Ⅰ	森下 佳菜	2	前期	2～	文化学科	学科専門科目	
		視覚文化史Ⅱ	森下 佳菜	2	後期	2～	文化学科	学科専門科目	
国際・情報		地理教育・観光教育学	郭 明	2	前期	1～	教育学科	学科専門科目	旧「現代教育論Ⅴ(国際理解教育)」
		異文化アウェアネス		2		2～	文化学科	学科専門科目	閉講
		基礎心理学概説・7-Ⅰ		2		1～	心理学科	学科専門科目	○ 2014 年度までの履修に限る
		国際活動講座	尾中 文哉 杉山 直子	1	後期	1～	文化学科	展開科目	☆

副
専
攻

10 情報メディアコース

※該当授業科目の履修条件等は授業科目一覧で確認すること。

領域	分野	副 専 攻 科 目	単位数	各学科の該当授業科目	単位数	履修方法
情報基礎領域		情報メディア基礎	2	基礎情報処理	2	4 単 位
				情報処理基礎Ⅱ (2017年度まで開講)	2	
		情報科学基礎Ⅰ	2	情報科学基礎Ⅰ	2	
		情報科学基礎Ⅱ	2	情報科学基礎Ⅱ	2	
		情報科学基礎Ⅲ	2	情報科学基礎Ⅲ	2	
		情報科学基礎Ⅳ	2	情報科学基礎Ⅳ	2	
		統計技法	2	基礎心理学特講・4 (2017年度までの履修に限る)	2	
システム・メディア領域		情報処理応用Ⅰ	2	基礎心理学特講・6	2	12 単 位
		情報処理応用Ⅲ	2	基礎心理学特講・3 (2017年度までの履修に限る)	2	
		情報技術特論Ⅰ	2	基礎心理学特講・8	2	
		情報技術特論Ⅱ	2	基礎心理学特講・10	2	
		情報技術演習	2	基礎心理学特講・2 (2014年度からの履修に限る)	2	
		情報処理応用Ⅳ	2	情報と文化演習Ⅰ	2	
				情報と文化演習Ⅰ:画像処理 (2016年度まで開講)	4	
		情報処理応用Ⅴ	2	情報と文化演習Ⅱ	2	
				情報と文化演習Ⅱ:画像処理 (2016年度まで開講)	4	
		情報処理応用Ⅵ	2	基礎心理学特講・9 (2017年度まで開講)	2	
		情報処理応用Ⅶ	2	情報と文化演習Ⅲ (旧「情報と文化演習:Webアニメーション」)	2	
		情報処理応用Ⅷ	2	情報と文化演習Ⅳ (旧「情報と文化演習:プレゼンテーション技法」)	2	
		情報グラフィック論Ⅰ	2	情報グラフィック論Ⅰ	2	
		情報グラフィック論Ⅱ	2	情報グラフィック論Ⅱ	2	
情報社会領域		メディア論	2	現代社会論Ⅰ	2	4 単 位
				メディア論	2	
		コンピュータと社会	2	現代社会論Ⅶ	2	
		コンピュータと人間	2	情報と倫理	2	
		コンピュータと教育	2	教育方法・技術(小) (旧 教育学(小))	2	
				教育方法・技術(中高) (旧 教育学(中高))	2	
				教育学 (2014年度まで開講)	2	
		コンピュータと文化Ⅰ	2	情報と文化Ⅰ	2	
		コンピュータと文化Ⅱ	2	情報と文化Ⅱ	2	
		コンピュータライゼーションと現代の諸問題	必1	コンピュータライゼーションと現代の諸問題	1	必修1単位
				合 計		21単位

2020 年度 情報メディアコース授業科目一覧

領域	分野	各学科の該当授業科目	担当者名	単位数	期	年次	提供学科	科目区分	備 考
情報基礎領域		基礎情報処理	前期: 久東 光代 佐藤 夏月 高橋 まどか 星名 由美 後期: 久東 光代 渡辺 美紀 高橋 まどか	2	前(後)	1～	心理学科	展開科目	△ ○ 「情報処理基礎Ⅰ」または「情報処理基礎Ⅱ」の単位取得者は履修不可
		情報処理基礎Ⅱ		2		1～	心理学科	展開科目	閉講
		情報科学基礎Ⅰ	鳥海 有紀	2	後期	1～	心理学科	展開科目	
		情報科学基礎Ⅱ	佐藤 夏月	2	後期	2～	心理学科	展開科目	△ 2017 年度入学者までは「情報処理基礎Ⅰ」または「情報処理基礎Ⅱ」の単位取得者が望ましい
		情報科学基礎Ⅲ	久東 光代	2	前期	2～	心理学科	展開科目	△ 2017 年度入学者までは「情報処理基礎Ⅰ」または「情報処理基礎Ⅱ」の単位取得者が望ましい
		情報科学基礎Ⅳ	久保 進次	2	前期	2～	心理学科	展開科目	△ 2017 年度入学者までは「情報処理基礎Ⅰ」または「情報処理基礎Ⅱ」の単位取得者が望ましい
		基礎心理学特講・4		2		3～	心理学科	学科専門科目	○ 2017 年度までの履修に限る
システム・メディア領域		基礎心理学特講・6		2	後期	2～	心理学科	学科専門科目	○ 2020 年度休講 2017 年度入学者までは「情報処理基礎Ⅰ」または「情報処理基礎Ⅱ」の単位取得者が望ましい
		基礎心理学特講・3		2		2～	心理学科	学科専門科目	○ 2017 年度までの履修に限る
		基礎心理学特講・8	久東 光代	2	後期	2～	心理学科	学科専門科目	隔年 2017 年度入学者までは「情報処理基礎Ⅰ」または「情報処理基礎Ⅱ」の単位取得者が望ましい
		基礎心理学特講・10		2	前期	2～	心理学科	学科専門科目	2020 年度休講 2017 年度入学者までは「情報処理基礎Ⅰ」または「情報処理基礎Ⅱ」の単位取得者が望ましい
		基礎心理学特講・2	久東 光代	2	後期	2～	心理学科	学科専門科目	隔年 2020 年度休講 2014 年度からの履修に限る 2017 年度入学者までは「情報処理基礎Ⅰ」または「情報処理基礎Ⅱ」の単位取得者が望ましい
		情報と文化演習Ⅰ	久保 進次	2	前期	1～	文化学科	学科専門科目	○ 2016 年度以前開講の「情報と文化演習Ⅰ:画像処理」の単位修得者は履修不可
		情報と文化演習Ⅰ:画像処理		4		1～	文化学科	学科専門科目	閉講
		情報と文化演習Ⅱ	久保 進次	2	後期	1～	文化学科	学科専門科目	○ 2016 年度以前開講の「情報と文化演習Ⅱ:画像処理」の単位修得者は履修不可 「情報と文化演習Ⅰ」の単位取得者が望ましい
		情報と文化演習Ⅱ:画像処理		4		2～	文化学科	学科専門科目	閉講
		基礎心理学特講・9		2		2～	心理学科	学科専門科目	閉講
		情報と文化演習Ⅲ	久保 進次	2	後期	2～	文化学科	学科専門科目	○ 旧「情報と文化演習:Webアニメーション」 「情報と文化演習Ⅰ」または 2016 年度以前開講の「情報と文化演習Ⅰ:画像処理」の単位取得者が望ましい
		情報と文化演習Ⅳ	中西 裕二 杵村 史郎	2	前期	2～	文化学科	学科専門科目	○ 旧「情報と文化演習:プレゼンテーション技法」
		情報グラフィック論Ⅰ	天野 豊久	2	前期	1～	文化学科	学科専門科目	
		情報グラフィック論Ⅱ	鳥海 有紀	2	前期	2～	文化学科	学科専門科目	○ 「情報処理基礎Ⅰ」の単位取得者が望ましい

副専攻

領域	分野	各学科の該当授業科目	担当者名	単位数	期	年次	提供学科	科目区分	備 考
情報社会領域		現代社会論Ⅰ	遠藤 知巳	2	前期	2～	現代社会学科	学科専門科目	文化学科「メディア論」と共通
		メディア論	遠藤 知巳	2	前期	2～	文化学科	学科専門科目	▲ 現代社会学科「現代社会論Ⅰ」と共通
		現代社会論Ⅶ	阿部 勘一	2	前期	2～	現代社会学科	学科専門科目	
		情報と倫理	久東 光代	2	前期	1～	心理学科	展開科目	隔年 2020 年度休講
		教育方法・技術(小)	今野 貴之	2	前期	1～	教育学科	学科専門科目	▲ 「教育学」の単位取得者は履修不可 旧「教育学(小)」
		教育方法・技術(中高)	辻 靖彦	2	後期	1～	教育学科	学科専門科目	「教育学」の単位取得者は履修不可 旧「教育学(中高)」
		教育学		2		1～	教育学科	学科専門科目	閉講
		情報と文化Ⅰ	調 文明	2	前期	2～	文化学科	学科専門科目	
		情報と文化Ⅱ	調 文明	2	後期	2～	文化学科	学科専門科目	
		コンピュータライゼイションと現代の諸問題	久東 光代	1	後期	1～	心理学科	展開科目	☆

資格関係の履修について

教 職 課 程	・ ・ ・ ・ ・	1 4 1
司 書 課 程	・ ・ ・ ・ ・	2 0 1
司 書 教 諭 課 程	・ ・ ・ ・ ・	2 0 4
博 物 館 学 芸 員 課 程	・ ・ ・ ・ ・	2 0 6
社 会 教 育 主 事	・ ・ ・ ・ ・	2 1 4
日 本 語 教 員 養 成 講 座	・ ・ ・ ・ ・	2 1 9
そ の 他 の 資 格	・ ・ ・ ・ ・	2 2 5

1 教職課程を履修するにあたって

1. はじめに

教職課程は、教員免許状取得のための専門教育のカリキュラムです。「学校教育法」で定められた「学校」、つまり幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教員は、法律に定められた課程を修了し、各都道府県教育委員会の認定によりそれぞれの校園種別に免許状を授与されます。この課程は、文部科学省の認定を受けた教育機関で履修することができます。日本女子大学は女性教員養成に永い歴史と実績を持ち、教員養成教育を特に重視し、日々教職課程の充実を図り、最善の教育環境を整備するよう努めています。しかし、学生の努力なしにはよい教育環境も生かされません。教職課程履修の学生は、自分の専門とする分野について深く学び、基礎をしっかりと身につけると同時に、教育方法その他教職にかかわる授業科目の十分な理解と履修を心がけてください。

教職課程のカリキュラムは、法律に拠って編成します。教員養成に関わる答申等において、教員に対する揺るぎない信頼を確立するための総合的な改革の推進が求められています。こうした動向は、最近の学校教育や子どもをめぐる深刻な問題と無縁ではありません。人間社会学部ではこのような時代の要請も踏まえ、優れた教師の育成を目指して、教育の実践・理論両面からの教職課程の充実に取り組んでいます。幸いその成果は、毎年の教員採用試験結果や、採用後の実態にも反映されています。

教職課程には、学校参観実習、介護等体験や教育実習など、多くの学外での学習の機会があります。これらは、学長名で教育委員会や校長会、施設・教育機関などに時間をかけてお願いして実施しているものです。そうした場所での学習に際しては、当該施設・機関の善意により学習させていただくことを忘れることなく、誠意をもって学習に取り組む覚悟と努力が必要です。教職は子どもを育む尊い仕事と考え、真剣に学ぶ決意の下に履修してほしいと考えます。

教職課程の履修開始にあたっては、まずこの手引きを熟読し、履修のための諸規則等を十分に理解して、必要な単位を計画的に漏れなく履修することが大切です。

教職課程履修の総仕上げともいえる「教育実習」の履修には、「教職に就く意志が強固であり、教育実習に必要な学力を十分に有すること」や「本学の学則、その他の諸規則にそむく行為のないこと」が参加条件に含まれています。この手引きを熟読し、履修のための諸規則を十分に理解してください。また、事前指導で配付される「教育実習の手引き」、「教職課程年報」にも必ず目を通してください。

単に資格取得のためだけに履修を開始することなく、固い教員志望をもち、その目的達成のために真摯に勉学し、努力して教職課程履修の実をあげることを期待しています。

2. 教員養成の理念

本学創設者の成瀬仁蔵先生は、「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」を教育理念とし、教員養成もその理念に則して全人教育として構想され、その基盤を人格教育に置いています。

あらゆる面で男女の不平等がみられ、女子の高等教育に対する一般の理解もきわめて低い時代に、先生は「女子を人として教育する」という人格教育を教育方針のもと本学を開校しました。「人としての教育」とは、先入見や旧弊に囚われず、一人ひとりをかけがえのない個ととらえ、その個が自己に目覚め、自己を自由に伸ばすことへの様々な配慮であり援助をすることであり、各人の人格形成は、自発的な欲求による自己学習―自学自動を伴うことで、さらに優れたものになると考えていました。その上に、教職に関わる専門性や自分の専門とする分野について深く学び、基礎をしっかりと身につけることが大切であるとしています。

創設以来、「天性の良教師」を育てることを実践してきた本学は、その理念のもとに教職を希望する学生が自覚をもち、現代社会が抱える様々な課題の解決に役立つ高い専門的能力と、それを生かすことのできる思考力と表現力、時代の変化や多様な価値観に対応できるフレキシブルな感性を身につけた、実践的な指導力のある教員の育成を目指しています。

2

人間社会学部で取得できる免許状

本学部では、下記の教職課程認定を文部科学省より受けています。定められた科目を履修し、教育委員会へ申請することによって、教育職員免許状が取得できることになっています。

学 科		免許状の種類	免許教科
現 代 社 会 学 科		中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	公民
			地理歴史
社 会 福 祉 学 科		中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	公民
			福祉※
教 育 学 科	中 ・ 高	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	公民
	小 ・ 中	小学校教諭一種免許状	
		中学校教諭一種免許状	社会
	幼 ・ 小	幼稚園教諭一種免許状※	
		小学校教諭一種免許状	
文 化 学 科		中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	公民

※2017（平成29）年度入学者まで取得可能

本学では、文部科学省より上記のように教員養成の課程認定を受けており、定められた科目を履修すれば教育職員免許状が取得できることになっています。

教育職員免許法の一部改正により、2019 年度入学者より規定科目、本学該当科目が大きく変更します。「3 教育職員免許状取得のための基礎条件・最低修得単位数」「4 履修のしかた」については、2019 年度以降入学者の【新教職課程】と 2018 年度以前入学者の【旧教職課程】と分けて説明しています。それぞれ該当する教育職員免許状取得の規定に従って履修してください。

なお、教育学科では、隣接する2つの学校種（「中学校・高等学校」、「小学校・中学校」、「幼稚園（2017 年度入学者まで取得可能）・小学校」のいずれかを選択することによって、取得できる免許状の種類・教科が異なります。

いずれの場合も卒業に必要な要件および学科専門科目との両立を考えた4年間の履修計画を立ててください。

なお、教職課程科目の履修開始にあたっては、学生は各学科において充分指導を受けなければなりません。

特に編入学者・学士入学者は、出身大学で修得した教科に関する科目、教科又は教職に関する科目、ならびに教職に関する科目（旧教職課程）、教科及び教職に関する科目（新教職課程）が免許申請に使用できない場合がありますので、学科において充分履修上の指導を受ける必要があります。

卒業時に1免許状を取得した場合、卒業後に学士入学、科目等履修生、通信教育等によって他の免許状を取得する方法もあります。

なお、科目等履修生として教育実習（介護等体験を含む）を履修できるのは、本学卒業者、本学大学院修了者または本学大学院在學生に限ります。

法改正に伴う教職課程の履修について

教育職員免許法及び同法施行規則が改正され、2019年4月1日より施行されました。
これに伴い、「2019年度以降の入学者」と「2018年度までの入学者」とでは、免許状取得にかかる科目や単位数も異なっています。

そのため、

3 教育職員免許状取得のための基礎条件・最低修得単位数

及び、

4 履修のしかた

については、「2019年度以降の入学者」と「2018年度までの入学者」とで、それぞれ、別のページで説明しています。

免許状の取得を希望する場合は、自分の入学年度に注意して、それぞれ該当のページを参照のうえ、履修計画を立ててください。

2019 年度以降の入学者：144 ページ ～ 165 ページ

2018 年度までの入学者：166 ページ ～ 179 ページ

2019 年度入学者より適用

小学校・中学校・高等学校の免許状を取得するために必要な基礎資格条件及び最低修得単位数は、その免許状の種類によって定められています。

1. 基礎資格

小学校・中学校・高等学校の教員免許状を取得するためには、「学士」の学位が基礎資格として必要になります。この「学士」の学位は、4年制大学を卒業することにより取得できるものです。

2. 最低修得単位数

(表1) <小学校・中学校・高等学校>

教育職員免許法に定める科目	免許法に定める単位数		
	小学校教諭 一種免許状	中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状
教科及び教科の指導法に関する科目	30	28	24
教育の基礎的理解に関する科目	10	10	10
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10	10	8
教育実践に関する科目	7	7	5
大学が独自に設定する科目	2	4	12

(表2) <小学校・中学校・高等学校>

教育職員免許法施行規則 第66条の6に定める科目	免許法施行規則に定める単位数		
	小学校教諭 一種免許状	中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状
日本国憲法	2	2	2
体育	2	2	2
外国語コミュニケーション	2	2	2
情報機器の操作	2	2	2

(表3) <小学校・中学校・高等学校>

免許法施行規則に定める 科目及び単位数		現代社会学科	社会福祉学科	教育学科	文化学科
日本国憲法	2	「憲法（日本国憲法）」（展開科目）必修			
体育	2	「社会スポーツ実習A・B・C」(展開科目)の中から2単位必修			
外国語コミュニケーション	2	「ベーシック・イングリッシュd」(外国語科目) 「英語会話Ⅰ（前期）」「英語会話Ⅰ（後期）」(外国語科目) 「英語会話Ⅱ（前期）」「英語会話Ⅱ（後期）」(外国語科目) 「英語」(外国語科目)のうち、いずれか必修			
情報機器の操作	2	「基礎情報処理」(展開科目)必修			

① 「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位の修得

「教科及び教科の指導法に関する科目」の免許法に定める単位数は、表 1 のとおりです。本学該当科目は、「4 履修のしかた」に示すとおりです。それぞれの免許・校種・教科に応じ、表中のすべての必修科目の他に、所要最低単位を充たすように選択科目を履修してください。規定科目に該当する必修科目は、いずれか 1 科目必修となっている場合でも、すべて履修することが望まれます。

② 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の単位の修得

「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の免許法に定める単位数は、表 1 のとおりです。本学該当科目については、「4 履修のしかた」に示すとおりです。それぞれの免許・校種に応じて該当科目を履修してください。

③ 「大学が独自に設定する科目」の単位の修得

「大学が独自に設定する科目」について、人間社会学部では小学校のみ設定しています。本学該当科目については、「4 履修のしかた」に示すとおりです。中学校・高等学校については、教科科目の学力水準の向上を目的とするために、人間社会学部では「大学が独自に設定する科目」を設定していません。

よって、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の免許法に定める最低修得単位数を超過して修得した単位を、「大学が独自に設定する科目」の単位に充当します。

法規上の「大学が独自に設定する科目」の単位数は、表 1 のとおりです。

よって履修する学生は、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の単位を出来る限り多く修得し、「大学が独自に設定する科目」の規定単位数を超えるように履修計画を立ててください。

④ 「日本国憲法」、「体育」、「外国語コミュニケーション」及び「情報機器の操作」の単位の修得

上記の科目が特に単位の修得を必要とする科目として定められており、免許法に定められた単位数は表 2 のとおりです。（免許法第 5 条別表第 1 備考第 4 号及び免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目）

⑤ 「介護等体験」

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律（介護等体験法）」により、小学校及び中学校教諭の免許状を取得するために「介護等体験」が義務付けられています。

この体験は、教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性と教員の資質向上及び学校教育の充実を図ることを目的としています。

教職課程及び免許申請に関する連絡事項は、西生田学務課の掲示板または JASMINE-Navi で通知します。

2019 年度入学者より適用

現代社会学科

《中学(社会)》

教科及び教科の指導法に関する科目

各項目に含めることが 必要な事項		本学の該当科目及び単位数					備考
		必修		選択		最低修得単位数	
						中一種	
教科に 関する 専門的 事項	日本史・外国史	日本史学論 東洋史学論 西洋史学論	2 2 2	日本史学方法論 東洋史学方法論 西洋史学方法論	2 2 2	6 以上	
	地理学(地誌を含む。)	地理学の方法 地誌学Ⅰ	2 2	人文地理学 地誌学Ⅱ 比較社会論Ⅲ 比較社会論Ⅳ 比較社会論Ⅴ 比較社会論Ⅵ 比較社会論Ⅶ 比較社会論Ⅷ	2 2 2 2 2 2 2 2	4 以上	
	「法学、政治学」	法学概論 政治学概論Ⅰ	2 2			4	
	「社会学、経済学」	社会学原論Ⅰ	2	社会学原論Ⅱ 現代経済論Ⅰ 現代経済論Ⅱ 比較社会論Ⅰ 比較社会論Ⅱ	2 2 2 2 2	2 以上	
	「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概説Ⅰ 倫理学Ⅰ	2 2	哲学概説Ⅱ 倫理学Ⅱ	2 2	2 以上	※1科目 以上必修
	教科及び教科指導法に関する科目にお ける複数の事項を合わせた内容に係る科目						
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)		社会科教育法Ⅰ 社会科教育法Ⅱ 社会・公民科教育法 社会・地理歴史科教育法	2 2 2 2			8	◆ ◆ ◆ ◆
		本学所要最低単位数				36	

(注1) 編入学者・学士入学者・科目等履修生・転学科等、他学部・他大学・短期大学等で教職に関する科目を履修済みの者は、事前に西生田学務課教務・資格係に相談してください。

(注2) 教科教育法について

「中学社会」、「高校公民」、「高校地理歴史」の教科教育法の履修は、下記の表を参照してください。

	社会科教育法Ⅰ 及び 社会科教育法Ⅱ	社会・公民科教育法	社会・地理歴史科 教育法	公民科教育法	地理歴史科教育法
中学社会	○	○	○		
中学社会 高校公民	○	○	○	○	
中学社会 高校地理歴史	○	○	○		○
中学社会 高校公民・地理歴史	○	○	○	○	○
高校公民		○		○	
高校地理歴史			○		○

現代社会学科
《中学(社会)》

教
職

免許法規定の科目及び含めることが必要な事項		本学該当科目	単位数	年次	備考 ◆卒業単位外科目（卒業するために必要な単位に含めない授業科目）
規 定 科 目	右項の各科目に含めることが必要な事項				
教育の基礎的理解に関する科目 (第三欄)	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）	教職基礎論（中高）	必 2	1	◆
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育社会学Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育（中高）	必 2	1～	◆
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	カリキュラム論（中高）	必 2	1	◆
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 (第四欄)	・道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法（中）	必 2	2	◆ 中一種免必修／高一種免算入不可（「教科又は教職に関する科目」には充当されない）
	・総合的な学習の時間の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の指導法（中高）	必 2	1	◆
	・特別活動の指導法				
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法・技術（中高）	必 2	1～	◆
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導・進路指導（中高）	必 2	1～	◆
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	学校カウンセリング基礎論（中高）	必 2	2	◆
教育実践に関する科目 (第五欄)	・教育実習	教育実習事前事後指導 1	必 1	3・4	◆
		教育実習事前事後指導 2（介護等体験）	選必 1	2	◆
		教育実習（中学校） 教育実習（高校） 教育実習Ⅰ（高校）	選必 4 選必 4 選必 2	4	◆ ◆ ◆
	・学校体験活動 ・教職実践演習	教職実践演習（中高）	必 2	4	◆
大学が独自に設定する科目 (第六欄)					「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の免許法に定める最低修得単位数を超過して修得した単位を充当する
		本学所要最低単位数	中一種 30 高一種 25		

免許法第 5 条別表第 1 備考第 4 号及び免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

免許法施行規則に定める科目	本学該当科目			
	授業区分	授業科目	単位数	最低修得単位数
日本国憲法	展開科目	憲法（日本国憲法）	必 2	2
体育	展開科目	社会スポーツ実習 A・B・C	選必 2	2
外国語コミュニケーション	外国語科目	ベーシック・イングリッシュ d 英語会話Ⅰ（前期）、英語会話Ⅰ（後期） 英語会話Ⅱ（前期）、英語会話Ⅱ（後期） 英語	選必 2	2
情報機器の操作	基礎科目	基礎情報処理	必 2	2

2019 年度入学者より適用

現代社会学科
《高校(公民)》
教科及び教科の指導法に関する科目

各項目に含めることが 必要な事項		本学の該当科目及び単位数					備考
		必修		選択		最低修得単位数	
						高一種	
教科に 関する 専門的 事項	「法学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」	法学概論	2			4 以上	
		政治学概論Ⅰ	2				
	「社会学、経済学(国際経済を含む。)」	社会学原論Ⅰ	2	社会学原論Ⅱ	2	4 以上	
		現代経済論Ⅰ	2	現代経済論Ⅱ	2		
				社会学理論	2		
				ジェンダー論	2		
				労働経済論Ⅰ	2		
				労働経済論Ⅱ	2		
				現代社会論Ⅰ	2		
				現代社会論Ⅱ	2		
				現代社会論Ⅴ	2		
				現代社会論Ⅵ	2		
				比較社会論Ⅰ	2		
				比較社会論Ⅱ	2		
				社会スポーツ・レジャー論Ⅰ	2		
				社会スポーツ・レジャー論Ⅱ	2		
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	哲学概説Ⅰ	2	哲学概説Ⅱ	2	4 以上	
		倫理学Ⅰ	2	倫理学Ⅱ	2		
教科及び教科指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目							
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)		社会・公民科教育法	2			4	◆ ◆
		公民科教育法	2				
		本学所要最低単位数				40	

(注1) 編入学者・学士入学者・科目等履修生・転学科等、他学部・他大学・短期大学等で教職に関する科目を履修済みの者は、事前に西生田学務課教務・資格係に相談してください。

(注2) 教科教育法について
「中学社会」、「高校公民」、「高校地理歴史」の教科教育法の履修は、下記の表を参照してください。

	社会科教育法Ⅰ 及び 社会科教育法Ⅱ	社会・公民科教育法	社会・地理歴史科 教育法	公民科教育法	地理歴史科教育法
中学社会	○	○	○		
中学社会 高校公民	○	○	○	○	
中学社会 高校地理歴史	○	○	○		○
中学社会 高校公民・地理歴史	○	○	○	○	○
高校公民		○		○	
高校地理歴史			○		○

現代社会学科
《高校(公民)》

教
職

免許法規定の科目及び含めることが必要な事項		本学該当科目	単位数	年次	備考 ◆卒業単位外科目（卒業するために必要な単位に含めない授業科目）
規 定 科 目	右項の各科目に含めることが必要な事項				
教育の基礎的理解に関する科目 (第三欄)	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）	教職基礎論（中高）	必 2	1	◆
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育社会学Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育（中高）	必 2	1～	◆
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	カリキュラム論（中高）	必 2	1	◆
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 (第四欄)	・道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法（中）	必 2	2	◆ 中一種免必修／高一種免算入不可（「教科又は教職に関する科目」には充当されない）
	・総合的な学習の時間の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の指導法（中高）	必 2	1	◆
	・特別活動の指導法				
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法・技術（中高）	必 2	1～	◆
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導・進路指導（中高）	必 2	1～	◆
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	学校カウンセリング基礎論（中高）	必 2	2	◆
教育実践に関する科目 (第五欄)	・教育実習	教育実習事前事後指導 1	必 1	3・4	◆
		教育実習事前事後指導 2（介護等体験）	選必 1	2	◆
		教育実習（中学校） 教育実習（高校） 教育実習Ⅰ（高校）	選必 4 選必 4 選必 2	4	◆ ◆ ◆
	・学校体験活動				
	・教職実践演習	教職実践演習（中高）	必 2	4	◆
大学が独自に設定する科目 (第六欄)					「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の免許法に定める最低修得単位数を超過して修得した単位を充当する
		本学所要最低単位数	中一種 30 高一種 25		

免許法第 5 条別表第 1 備考第 4 号及び免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

免許法施行規則に定める科目	本学該当科目			
	授業区分	授業科目	単位数	最低修得単位数
日本国憲法	展開科目	憲法（日本国憲法）	必 2	2
体育	展開科目	社会スポーツ実習 A・B・C	選必 2	2
外国語コミュニケーション	外国語科目	ベーシック・イングリッシュ d 英語会話Ⅰ（前期）、英語会話Ⅰ（後期） 英語会話Ⅱ（前期）、英語会話Ⅱ（後期） 英語	選必 2	2
情報機器の操作	基礎科目	基礎情報処理	必 2	2

2019 年度入学者より適用

現代社会学科
《高校(地理歴史)》
教科及び教科の指導法に関する科目

各項目に含めることが 必要な事項		本学の該当科目及び単位数					備考
		必修		選択		最低修得単位数	
						高一種	
教科に 関する 専門的 事項	日本史	日本史学論	2	日本史学方法論 日本社会論Ⅲ 日本社会論Ⅳ 現代生活論Ⅲ 現代生活論Ⅳ	2 2 2 2 2	2 以上	
	外国史	東洋史学論 西洋史学論	2 2	東洋史学方法論 西洋史学方法論	2 2	4 以上	
	人文地理学・自然地理学	人文地理学 自然地理学	2 2	地理学の方法 人口学Ⅰ	2 2	4 以上	
	地誌	地誌学Ⅰ	2 2	地誌学Ⅱ 文化人類学Ⅰ 文化人類学Ⅱ 比較社会論Ⅲ 比較社会論Ⅳ 比較社会論Ⅴ 比較社会論Ⅵ 比較社会論Ⅶ 比較社会論Ⅷ	2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 以上	
教科及び教科指導法に関する科目における 複数の事項を合わせた内容に係る科目							
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)		社会・地理歴史科教育法 地理歴史科教育法	2 2			4	◆ ◆
		本学所要最低単位数				40	

(注1) 編入学者・学士入学者・科目等履修生・転学科等、他学部・他大学・短期大学等で教職に関する科目を履修済みの者は、事前に西生田学務課教務・資格係に相談してください。

(注2) 教科教育法について
「中学社会」、「高校公民」、「高校地理歴史」の教科教育法の履修は、下記の表を参照してください。

	社会科教育法Ⅰ 及び 社会科教育法Ⅱ	社会・公民科教育法	社会・地理歴史科 教育法	公民科教育法	地理歴史科教育法
中学社会	○	○	○		
中学社会 高校公民	○	○	○	○	
中学社会 高校地理歴史	○	○	○		○
中学社会 高校公民・地理歴史	○	○	○	○	○
高校公民		○		○	
高校地理歴史			○		○

現代社会学科
《高校(地理歴史)》

教
職

免許法規定の科目及び含めることが必要な事項		本学該当科目	単位数	年次	備考 ◆卒業単位外科目（卒業するために必要な単位に含めない授業科目）
規定科目	右項の各科目に含めることが必要な事項				
教育の基礎的理解に関する科目 (第三欄)	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）	教職基礎論（中高）	必 2	1	◆
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育社会学Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育（中高）	必 2	1～	◆
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	カリキュラム論（中高）	必 2	1	◆
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 (第四欄)	・道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法（中）	必 2	2	◆ 中一種免必修／高一種免算入不可（「教科又は教職に関する科目」には充当されない）
	・総合的な学習の時間の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の指導法（中高）	必 2	1	◆
	・特別活動の指導法				
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法・技術（中高）	必 2	1～	◆
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導・進路指導（中高）	必 2	1～	◆
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	学校カウンセリング基礎論（中高）	必 2	2	◆
教育実践に関する科目 (第五欄)	・教育実習	教育実習事前事後指導 1	必 1	3・4	◆
		教育実習事前事後指導 2（介護等体験）	選必 1	2	◆
		教育実習（中学校） 教育実習（高校） 教育実習Ⅰ（高校）	選必 4 選必 4 選必 2	4	◆ ◆ ◆
	・学校体験活動 ・教職実践演習	教職実践演習（中高）	必 2	4	◆
大学が独自に設定する科目 (第六欄)					「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の免許法に定める最低修得単位数を超過して修得した単位を充当する
		本学所要最低単位数	中一種 30 高一種 25		

免許法第 5 条別表第 1 備考第 4 号及び免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

免許法施行規則に定める科目	本学該当科目			
	授業区分	授業科目	単位数	最低修得単位数
日本国憲法	展開科目	憲法（日本国憲法）	必 2	2
体育	展開科目	社会スポーツ実習 A・B・C	選必 2	2
外国語コミュニケーション	外国語科目	ベーシック・イングリッシュ d 英語会話Ⅰ（前期）、英語会話Ⅰ（後期） 英語会話Ⅱ（前期）、英語会話Ⅱ（後期） 英語	選必 2	2
情報機器の操作	基礎科目	基礎情報処理	必 2	2

2019 年度入学者より適用

社会福祉学科

《中学(社会)》

教科及び教科の指導法に関する科目

各項目に含めることが 必要な事項		本学の該当科目及び単位数					備考
		必修		選択		最低修得単位数	
						中一種	
教科に 関する 専門的 事項	日本史・外国史	日本史学論 東洋史学論 西洋史学論	2 2 2	日本史学方法論 東洋史学方法論 西洋史学方法論	2 2 2	6 以上	
	地理学(地誌を含む。)	地理学の方法 地誌学Ⅰ	2 2	人文地理学 地誌学Ⅱ	2 2	4 以上	
	「法学、政治学」	法学概論 政治学概論Ⅰ 労働法	2 2 2	司法福祉制度論 社会保障論 福祉国家論(社会保障史)	2 2 2	6 以上	
	「社会学、経済学」	社会学原論Ⅰ 社会問題 社会福祉発達史	2 2 2	社会学原論Ⅱ 社会福祉計画論 労働者福祉と就労支援 地域福祉論 地域組織論 福祉財政論 国際社会福祉論Ⅰ 国際社会福祉論Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2	6 以上	
	「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概説Ⅰ 倫理学Ⅰ	2 2	哲学概説Ⅱ 倫理学Ⅱ 社会思想論	2 2 2	2 以上	※1科目 以上必修
教科及び教科指導法に関する科目におけ る複数の事項を合わせた内容に係る科目							
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)		社会科教育法Ⅰ 社会科教育法Ⅱ 社会・公民科教育法 社会・地理歴史科教育法	2 2 2 2			8	◆ ◆ ◆ ◆
		本学所要最低単位数				36	

(注1) 編入学者・学士入学者・科目等履修生・転学科等、他学部・他大学・短期大学等で教職に関する科目を履修済みの者は、事前に西生田学務課教務・資格係に相談してください。

(注2) 教科教育法について
「中学社会」、「高校公民」の教科教育法の履修は、下記の表を参照してください。

	社会科教育法Ⅰ 及び 社会科教育法Ⅱ	社会・公民科教育法	社会・地理歴史科教育法	公民科教育法
中学社会	○	○	○	
中学社会 高校公民	○	○	○	○
高校公民		○		○

2019 年度入学者より適用

社会福祉学科
《中学(社会)》

教
職

免許法規定の科目及び含めることが必要な事項		本学該当科目	単位数	年次	備考 ◆卒業単位外科目（卒業するために必要な単位に含めない授業科目）
規 定 科 目	右項の各科目に含めることが必要な事項				
教育の基礎的理解に関する科目 (第三欄)	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）	教職基礎論（中高）	必 2	1	◆
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育社会学Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育（中高）	必 2	1～	◆
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	カリキュラム論（中高）	必 2	1	◆
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 (第四欄)	・道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法（中）	必 2	2	◆ 中一種免必修／高一種免算入不可（「教科又は教職に関する科目」には充当されない）
	・総合的な学習の時間の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の指導法（中高）	必 2	1	◆
	・特別活動の指導法				
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法・技術（中高）	必 2	1～	◆
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導・進路指導（中高）	必 2	1～	◆
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	学校カウンセリング基礎論（中高）	必 2	2	◆
教育実践に関する科目 (第五欄)	・教育実習	教育実習事前事後指導 1	必 1	3・4	◆
		教育実習事前事後指導 2（介護等体験）	選必 1	2	◆
		教育実習（中学校） 教育実習（高校） 教育実習Ⅰ（高校）	選必 4 選必 4 選必 2	4	◆ ◆ ◆
	・学校体験活動 ・教職実践演習	教職実践演習（中高）	必 2	4	◆
大学が独自に設定する科目 (第六欄)					「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の免許法に定める最低修得単位数を超過して修得した単位を充当する
		本学所要最低単位数	中一種 30 高一種 25		

免許法第 5 条別表第 1 備考第 4 号及び免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

免許法施行規則に定める科目	本学該当科目			
	授業区分	授業科目	単位数	最低修得単位数
日本国憲法	展開科目	憲法（日本国憲法）	必 2	2
体育	展開科目	社会スポーツ実習 A・B・C	選必 2	2
外国語コミュニケーション	外国語科目	ベーシック・イングリッシュ d 英語会話Ⅰ（前期）、英語会話Ⅰ（後期） 英語会話Ⅱ（前期）、英語会話Ⅱ（後期） 英語	選必 2	2
情報機器の操作	基礎科目	基礎情報処理	必 2	2

2019 年度入学者より適用

社会福祉学科

《高校(公民)》

教科及び教科の指導法に関する科目

各項目に含めることが 必要な事項		本学の該当科目及び単位数					備考
		必修		選択		最低修得単位数	
						高一種	
教科に 関する 専門的 事項	「法律学(国際法を含む。)、 政治学(国際政治を含む。)」	法学概論	2	司法福祉制度論	2	6 以上	
		政治学概論Ⅰ	2	社会保障論	2		
		労働法	2	福祉国家論(社会保障史)	2		
	「社会学、経済学(国際経済を含 む。)」	社会学原論Ⅰ	2	社会学原論Ⅱ	2	6 以上	
		社会問題	2	社会福祉計画論	2		
		社会福祉発達史	2	労働者福祉と就労支援	2		
				地域福祉論	2		
				地域組織論	2		
				福祉財政論	2		
				国際社会福祉論Ⅰ	2		
				国際社会福祉論Ⅱ	2		
	「哲学、倫理学、宗教学、 心理学」	哲学概説Ⅰ	2	哲学概説Ⅱ	2	4 以上	
倫理学Ⅰ		2	倫理学Ⅱ	2			
			社会思想論	2			
教科及び教科指導法に関する科目における 複数の事項を合わせた内容に係る科目							
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)		社会・公民科教育法	2			4	◆
		公民科教育法	2				◆
		本学所要最低単位数				40	

(注1) 編入学者・学士入学者・科目等履修生・転学科等、他学部・他大学・短期大学等で教職に関する科目を履修済みの者は、事前に西生田学務課教務・資格係に相談してください。

(注2) 教科教育法について
「中学社会」、「高校公民」の教科教育法の履修は、下記の表を参照してください。

	社会科教育法Ⅰ 及び 社会科教育法Ⅱ	社会・公民科教育法	社会・地理歴史科教育法	公民科教育法
中学社会	○	○	○	
中学社会 高校公民	○	○	○	○
高校公民		○		○

2019 年度入学者より適用

社会福祉学科
《高校(公民)》

教
職

免許法規定の科目及び含めることが必要な事項		本学該当科目	単位数	年次	備考 ◆卒業単位外科目（卒業するために必要な単位に含めない授業科目）
規定科目	右項の各科目に含めることが必要な事項				
教育の基礎的理解に関する科目 (第三欄)	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）	教職基礎論（中高）	必 2	1	◆
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育社会学Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育（中高）	必 2	1～	◆
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	カリキュラム論（中高）	必 2	1	◆
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 (第四欄)	・道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法（中）	必 2	2	◆ 中一種免必修／高一種免算入不可（「教科又は教職に関する科目」には充当されない）
	・総合的な学習の時間の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の指導法（中高）	必 2	1	◆
	・特別活動の指導法				
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法・技術（中高）	必 2	1～	◆
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導・進路指導（中高）	必 2	1～	◆
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	学校カウンセリング基礎論（中高）	必 2	2	◆
教育実践に関する科目 (第五欄)	・教育実習	教育実習事前事後指導 1	必 1	3・4	◆
		教育実習事前事後指導 2（介護等体験）	選必 1	2	◆
		教育実習（中学校） 教育実習（高校） 教育実習Ⅰ（高校）	選必 4 選必 4 選必 2	4	◆ ◆ ◆
	・学校体験活動 ・教職実践演習	教職実践演習（中高）	必 2	4	◆
大学が独自に設定する科目 (第六欄)					「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の免許法に定める最低修得単位数を超過して修得した単位を充当する
		本学所要最低単位数	中一種 30 高一種 25		

免許法第 5 条別表第 1 備考第 4 号及び免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

免許法施行規則に定める科目	本学該当科目			
	授業区分	授業科目	単位数	最低修得単位数
日本国憲法	展開科目	憲法（日本国憲法）	必 2	2
体育	展開科目	社会スポーツ実習 A・B・C	選必 2	2
外国語コミュニケーション	外国語科目	ベーシック・イングリッシュ d 英語会話Ⅰ（前期）、英語会話Ⅰ（後期） 英語会話Ⅱ（前期）、英語会話Ⅱ（後期） 英語	選必 2	2
情報機器の操作	基礎科目	基礎情報処理	必 2	2

2019 年度入学者より適用

教育学科

《小学校》

教科及び教科の指導法に関する科目(教科に関する専門的事項)

各項目に含めることが 必要な事項		本学の該当科目及び単位数					備考
		必修		選択		最低修得単位数	
						小一種	
教科に関する専門的事項	国語（書写を含む。）	国語科概論(書写を含む。)	2			2	
	社会	社会科概論	2			2	
	算数	算数科概論	2			2	
	理科	理科概論	2			2	
	生活	生活科概論	2			2	
	音楽			音楽科概論 音楽実技	2 2	4 以上※	※各項目に含めることが必要な事項より2科目以上かつ4単位以上選択必修
	図画工作			児童造形	2		
	家庭			家庭科概論	※ 2		
	体育			児童体育 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	2 1 1		
	外国語	外国語科概論	2			2	
教科及び教科指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目							
		本学所要最低単位数				16	

《小学校》

教科及び教科の指導法に関する科目(各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。))

各項目に含めることが 必要な事項		本学の該当科目及び単位数					備考
		必修		選択		最低修得単位数	
						小一種	
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)	国語（書写を含む。）	初等国語科教育法	2			2	
	社会	初等社会科教育法	2			2	
	算数	初等算数科教育法	2			2	
	理科	初等理科教育法	2			2	
	生活	初等生活科教育法	2			2	
	音楽	初等音楽科教育法	2			2	
	図画工作	初等図工科教育法	2			2	
	家庭	初等家庭科教育法	2			2	
	体育	初等体育科教育法	2			2	
	外国語	初等外国語科教育法	2			2	
教科及び教科指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目							
		本学所要最低単位数				20	

免許法第 5 条別表第 1 備考第 4 号及び免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

免許法施行規則に定める科目	本学該当科目			
	授業区分	授業科目	単位数	最低修得単位数
日本国憲法	展開科目	憲法（日本国憲法）	必 2	2
体育	展開科目	社会スポーツ実習 A・B・C	選必 2	2
外国語コミュニケーション	外国語科目	ベーシック・イングリッシュ d 英語会話Ⅰ（前期）、英語会話Ⅰ（後期） 英語会話Ⅱ（前期）、英語会話Ⅱ（後期） 英語	選必 2	2
情報機器の操作	基礎科目	基礎情報処理	必 2	2

2019 年度入学者より適用

教育学科
《小学校》

教
職

免許法規定の科目及び含めることが 必要な事項		本学該当科目	単位数	年次	備考 ◆卒業単位外科目（卒業するために必要 な単位に含めない授業科目）
規 定 科 目	右項の各科目に含めることが 必要な事項				
教育の基礎的理解に関する科目 (第三欄)	・教育の理念並びに教育に関する歴史 及び思想	教育学概論Ⅰ（小）	必・2	1～	
	・教職の意義及び教員の役割・職務内 容（チーム学校への対応を含む。）	教職基礎論（小）	必・2	1	
	・教育に関する社会的、制度的又は経 営的事項（学校と地域との連携及び 学校安全への対応を含む。）	教育社会学Ⅰ（小）	必・2	1～	
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及 び学習の過程	教育心理学Ⅰ（小）	必・2	1～	
	・特別支援を必要とする幼児、児童及 び生徒に対する理解	特別支援教育（小）	必・2	1～	
	・教育課程の意義及び編成の方法（カ リキュラム・マネジメントを含む。）	カリキュラム論（小）	必・2	1	
道徳、総合的な学 習の時間等の指 導法及び生徒指 導、教育相談等 に関する科目 (第四欄)	・道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法（小）	必・2	2	
	・総合的な学習の時間の指導法	特別活動・総合的な学習の時間 の指導法（小）	必・2	1	
	・特別活動の指導法				
	・教育の方法及び技術（情報機器及び 教材の活用を含む。）	教育方法・技術（小）	必・2	1～	
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及 び方法	生徒指導・進路指導（小）	必・2	1～	
	・教育相談（カウンセリングに関する 基礎的な知識を含む。）の理論及び 方法	学校カウンセリング基礎論 （小）	必・2	2	
教育実践に関す る科目 (第五欄)	・教育実習	教育実習事前事後指導 1	必・1	2・3	◆
		教育実習事前事後指導 2 （介護等体験）	必・1	2	◆
		教育実習（小学校） 教育実習Ⅰ（小学校）	必・4 必・2	3 4	◆ ◆ ◆
	・学校体験活動				
	・教職実践演習	教職実践演習（小）	必・2	4	◆
大学が独自に設 定する科目 (第六欄)		学校インターンシップⅠ 学校インターンシップⅡ	必・1 必・1	1 2	「学校インターンシップⅠ」1 単位「学校 インターンシップⅡ」1 単位に加えて、 「教科及び教科の指導法に関する科 目」、「教育の基礎的理解に関する科 目」、「道徳、総合的な学習の時間等 の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目」、「教育実践に関する科 目」の免許法に定める最低修得単位数 を超過して修得した単位を充当する
		本学所要最低単位数	小一種 34		

（注 1）編入学者・学士入学者・科目等履修生・転学科等、他学部・他大学・短期大学等で教職に関する科目を履修済みの者は、事前に西生田学務課教務・資格係に相談してください。

2019 年度入学者より適用									
教育学科									
《中学(社会)》									
教科及び教科の指導法に関する科目									
各項目に含めることが 必要な事項		本学の該当科目及び単位数						備考	
		必修		選択		最低修得単位数			
						中一種			
教科に 関する 専門的 事項	日本史・外国史	日本史学論	2	日本史学方法論	2	6 以上			
		東洋史学論	2	東洋史学方法論	2				
		西洋史学論	2	西洋史学方法論	2				
				日本教育史Ⅰ	2				
				日本教育史Ⅱ	2				
				外国教育史Ⅱ	2				
	地理学(地誌を含む。)	地理学の方法	2	人文地理学	2	4 以上			
		地誌学Ⅰ	2	地誌学Ⅱ	2				
	「法学、政治学」	法学概論	2	教育行政学	2	4 以上			
		政治学概論Ⅰ	2						
	「社会学、経済学」	社会学原論Ⅰ	2	社会学原論Ⅱ	2	2 以上			
				人間形成の社会学	2				
				教育社会学方法論	2				
				国際教育学Ⅰ	2				
				国際教育学Ⅱ	2				
				生涯学習概論Ⅰ	2				
				生涯学習概論Ⅱ	2				
	「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概説Ⅰ	2	哲学概説Ⅱ	2	2 以上		※1科目 以上必修	
		倫理学Ⅰ	2	倫理学Ⅱ	2				
				教育思想史Ⅰ	2				
				教育哲学Ⅰ	2				
				教育哲学Ⅱ	2				
				社会と文化：韓国	2				
				言葉と文化：韓国	2				
教科及び教科指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目									
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)				社会科教育法Ⅰ	2			◆ ◆ ◆ ◆	
				社会科教育法Ⅱ	2				
				社会・公民科教育法	2				
				社会・地理歴史科教育法	2				
本学所要最低単位数						36			
(注1) 編入学者・学士入学者・科目等履修生・転学科等、他学部・他大学・短期大学等で教職に関する科目を履修済みの者は、事前に西生田学務課教務・資格係に相談してください。									
(注2) 教科教育法について 「中学社会」、「高校公民」の教科教育法の履修は、下記の表を参照してください。									

	社会科教育法Ⅰ 及び 社会科教育法Ⅱ	社会・公民科教育法	社会・地理歴史科教育法	公民科教育法
中学社会	○	○	○	
中学社会 高校公民	○	○	○	○
高校公民		○		○

2019 年度入学者より適用

教育学科
《中学(社会)》

教
職

免許法規定の科目及び含めることが必要な事項		本学該当科目	単位数	年次	備考 ◆卒業単位外科目（卒業するために必要な単位に含めない授業科目）
規 定 科 目	右項の各科目に含めることが必要な事項				
教育の基礎的理解に関する科目 (第三欄)	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）	教職基礎論（中高）	必 2	1	◆
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育社会学Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育（中高）	必 2	1～	◆
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	カリキュラム論（中高）	必 2	1	◆
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 (第四欄)	・道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法（中）	必 2	2	◆ 中一種免必修／高一種免算入不可（「教科又は教職に関する科目」には充当されない）
	・総合的な学習の時間の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の指導法（中高）	必 2	1	◆
	・特別活動の指導法				
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法・技術（中高）	必 2	1～	◆
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導・進路指導（中高）	必 2	1～	◆
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	学校カウンセリング基礎論（中高）	必 2	2	◆
教育実践に関する科目 (第五欄)	・教育実習	教育実習事前事後指導 1	必 1	3・4	◆
		教育実習事前事後指導 2（介護等体験）	選必 1	2	◆
		教育実習（中学校） 教育実習（高校） 教育実習Ⅰ（高校）	選必 4 選必 4 選必 2	4	◆ ◆ ◆
	・学校体験活動 ・教職実践演習	教職実践演習（中高）	必 2	4	◆
大学が独自に設定する科目 (第六欄)					「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の免許法に定める最低修得単位数を超過して修得した単位を充当する
本学所要最低単位数			中一種 30 高一種 25		

免許法第 5 条別表第 1 備考第 4 号及び免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

免許法施行規則に定める科目	本学該当科目			
	授業区分	授業科目	単位数	最低修得単位数
日本国憲法	展開科目	憲法（日本国憲法）	必 2	2
体育	展開科目	社会スポーツ実習 A・B・C	選必 2	2
外国語コミュニケーション	外国語科目	ベーシック・イングリッシュ d 英語会話Ⅰ（前期）、英語会話Ⅰ（後期） 英語会話Ⅱ（前期）、英語会話Ⅱ（後期） 英語	選必 2	2
情報機器の操作	基礎科目	基礎情報処理	必 2	2

2019 年度入学者より適用

教育学科
《高校(公民)》
教科及び教科の指導法に関する科目

各項目に含めることが 必要な事項		本学の該当科目及び単位数					備考
		必修		選択		最低修得単位数	
						高一種	
教科に関する専門的 事項	「法学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」	法学概論	2	教育行政学	2	4 以上	
		政治学概論Ⅰ	2				
	「社会学、経済学(国際経済を含む。)」	社会学原論Ⅰ	2	社会学原論Ⅱ	2	4 以上	
		現代経済論Ⅰ	2	現代経済論Ⅱ	2		
				人間形成の社会学	2		
				教育社会学方法論	2		
				国際教育学Ⅰ	2		
				国際教育学Ⅱ	2		
				生涯学習概論Ⅰ	2		
			生涯学習概論Ⅱ	2			
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	哲学概説Ⅰ	2	哲学概説Ⅱ	2	4 以上		
	倫理学Ⅰ	2	倫理学Ⅱ	2			
			教育思想史Ⅰ	2			
			教育哲学Ⅰ	2			
			教育哲学Ⅱ	2			
			社会と文化：韓国	2			
			言葉と文化：韓国	2			
教科及び教科指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目							
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	社会・公民科教育法	2			4	◆ ◆	
	公民科教育法	2					
		本学所要最低単位数				40	

(注1) 編入学者・学士入学者・科目等履修生・転学科等、他学部・他大学・短期大学等で教職に関する科目を履修済みの者は、事前に西生田学務課教務・資格係に相談してください。

(注2) 教科教育法について
「中学社会」、「高校公民」の教科教育法の履修は、下記の表を参照してください。

	社会科教育法Ⅰ 及び 社会科教育法Ⅱ	社会・公民科教育法	社会・地理歴史科教育法	公民科教育法
中学社会	○	○	○	
中学社会 高校公民	○	○	○	○
高校公民		○		○

教育学科
《高校(公民)》

教
職

免許法規定の科目及び含めることが必要な事項		本学該当科目	単位数	年次	備考 ◆卒業単位外科目（卒業するために必要な単位に含めない授業科目）
規 定 科 目	右項の各科目に含めることが必要な事項				
教育の基礎的理解に関する科目 (第三欄)	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）	教職基礎論（中高）	必 2	1	◆
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育社会学Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育（中高）	必 2	1～	◆
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	カリキュラム論（中高）	必 2	1	◆
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 (第四欄)	・道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法（中）	必 2	2	◆ 中一種免必修／高一種免算入不可（「教科又は教職に関する科目」には充当されない）
	・総合的な学習の時間の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の指導法（中高）	必 2	1	◆
	・特別活動の指導法				
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法・技術（中高）	必 2	1～	◆
	・生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導（中高）	必 2	1～	◆
	・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	学校カウンセリング基礎論（中高）	必 2	2	◆
教育実践に関する科目 (第五欄)	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法				
	・教育実習	教育実習事前事後指導Ⅰ	必 1	3・4	◆
		教育実習事前事後指導Ⅱ（介護等体験）	選必 1	2	◆
		教育実習（中学校） 教育実習（高校） 教育実習Ⅰ（高校）	選必 4 選必 4 選必 2	4	◆ ◆ ◆
	・学校体験活動				
	・教職実践演習	教職実践演習（中高）	必 2	4	◆
大学が独自に設定する科目 (第六欄)					「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の免許法に定める最低修得単位数を超過して修得した単位を充当する
		本学所要最低単位数	中一種 30 高一種 25		

免許法第 5 条別表第 1 備考第 4 号及び免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

免許法施行規則に定める科目	本学該当科目			
	授業区分	授業科目	単位数	最低修得単位数
日本国憲法	展開科目	憲法（日本国憲法）	必 2	2
体育	展開科目	社会スポーツ実習 A・B・C	選必 2	2
外国語コミュニケーション	外国語科目	ベーシック・イングリッシュ d 英語会話Ⅰ（前期）、英語会話Ⅰ（後期） 英語会話Ⅱ（前期）、英語会話Ⅱ（後期） 英語	選必 2	2
情報機器の操作	基礎科目	基礎情報処理	必 2	2

2019 年度入学者より適用

文化学科
《中学(社会)》
教科及び教科の指導法に関する科目

各項目に含めることが 必要な事項		本学の該当科目及び単位数					備考
		必修		選択		最低修得単位数	
						中一種	
教科に関する専門的事項	日本史・外国史	日本史学論 東洋史学論 西洋史学論	2 2 2	日本史学方法論 東洋史学方法論 西洋史学方法論 芸術文化史Ⅰ：西洋 芸術文化史Ⅱ：日本 文化交流史Ⅰ 視覚文化史Ⅰ 視覚文化史Ⅱ 地域文化史Ⅰ 地域文化史Ⅱ 地域文化史Ⅲ 地域文化史Ⅳ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	6 以上	
	地理学（地誌を含む。）	地理学の方法 地誌学Ⅰ	2 2	人文地理学 地誌学Ⅱ	2 2	4 以上	
	「法学、政治学」	法学概論 政治学概論Ⅰ	2 2			4	
	「社会学、経済学」	社会学原論Ⅰ	2	社会学原論Ⅱ 現代経済論Ⅰ 現代経済論Ⅱ 現代アジア文化論 比較文化論Ⅰ 比較文化論Ⅱ	2 2 2 2 2 2	2 以上	
	「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概説Ⅰ 倫理学Ⅰ	2 2	哲学概説Ⅱ 倫理学Ⅱ 地域文化研究Ⅰ 地域文化研究Ⅱ 文化論Ⅲ：視覚 文化思想史Ⅰ：西洋 文化思想史Ⅱ：日本 芸術思想史Ⅰ：日本 芸術思想史Ⅱ：西洋 日本思想史	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 以上	※1科目 以上必修
	教科及び教科指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
	各教科の指導法 （情報機器及び教材の活用を含む。）	社会科教育法Ⅰ 社会科教育法Ⅱ 社会・公民科教育法 社会・地理歴史科教育法	2 2 2 2			8	◆ ◆ ◆ ◆
		本学所要最低単位数				36	

（注1）編入学者・学士入学者・科目等履修生・転学科等、他学部・他大学・短期大学等で教職に関する科目を履修済みの者は、事前に西生田学務課教務・資格係に相談してください。

（注2）教科教育法について
「中学社会」、「高校公民」の教科教育法の履修は、下記の表を参照してください。

	社会科教育法Ⅰ 及び 社会科教育法Ⅱ	社会・公民科教育法	社会・地理歴史科教育法	公民科教育法
中学社会	○	○	○	
中学社会 高校公民	○	○	○	○
高校公民		○		○

2019 年度入学者より適用

文化学科
《中学(社会)》

教
職

免許法規定の科目及び含めることが必要な事項		本学該当科目	単位数	年次	備考 ◆卒業単位外科目（卒業するために必要な単位に含めない・授業科目）
規 定 科 目	右項の各科目に含めることが必要な事項				
教育の基礎的理解に関する科目 (第三欄)	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）	教職基礎論（中高）	必 2	1	◆
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育社会学Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育（中高）	必 2	1～	◆
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	カリキュラム論（中高）	必 2	1	◆
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 (第四欄)	・道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法（中）	必 2	2	◆ 中一種免必修／高一種免算入不可（「教科又は教職に関する科目」には充当されない）
	・総合的な学習の時間の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の指導法（中高）	必 2	1	◆
	・特別活動の指導法				
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法・技術（中高）	必 2	1～	◆
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導・進路指導（中高）	必 2	1～	◆
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	学校カウンセリング基礎論（中高）	必 2	2	◆
教育実践に関する科目 (第五欄)	・教育実習	教育実習事前事後指導 1	必 1	3・4	◆
		教育実習事前事後指導 2（介護等体験）	選必 1	2	◆
		教育実習（中学校） 教育実習（高校） 教育実習Ⅰ（高校）	選必 4 選必 4 選必 2	4	◆ ◆ ◆
		・学校体験活動			
	・教職実践演習	教職実践演習（中高）	必 2	4	◆
大学が独自に設定する科目 (第六欄)					「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の免許法に定める最低修得単位数を超過して修得した単位を充当する
		本学所要最低単位数	中一種 30 高一種 25		

免許法第 5 条別表第 1 備考第 4 号及び免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

免許法施行規則に定める科目	本学該当科目			
	授業区分	授業科目	単位数	最低修得単位数
日本国憲法	展開科目	憲法（日本国憲法）	必 2	2
体育	展開科目	社会スポーツ実習 A・B・C	選必 2	2
外国語コミュニケーション	外国語科目	ベーシック・イングリッシュ d 英語会話Ⅰ（前期）、英語会話Ⅰ（後期） 英語会話Ⅱ（前期）、英語会話Ⅱ（後期） 英語	選必 2	2
情報機器の操作	基礎科目	基礎情報処理	必 2	2

2019 年度入学者より適用

文化学科
《高校(公民)》
教科及び教科の指導法に関する科目

各項目に含めることが 必要な事項		本学の該当科目及び単位数					備考
		必修		選択		最低修得単位数	
						高一種	
教科に関する専門的事項	「法学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	法学概論	2			4	
	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	政治学概論Ⅰ	2				
		社会学原論Ⅰ	2	社会学原論Ⅱ	2	4 以上	
		現代経済論Ⅰ	2	現代経済論Ⅱ	2		
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」			現代アジア文化論	2	4 以上	
				比較文化論Ⅰ	2		
				比較文化論Ⅱ	2		
		哲学概説Ⅰ	2	哲学概説Ⅱ	2	4 以上	
教科及び教科指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		倫理学Ⅰ	2	倫理学Ⅱ	2		
				地域文化研究Ⅰ	2		
				地域文化研究Ⅱ	2		
				文化論Ⅲ：視覚	2		
各教科の指導法 （情報機器及び教材の活用を含む。）				文化思想史Ⅰ：西洋	2		
				文化思想史Ⅱ：日本	2		
				芸術思想史Ⅰ：日本	2		
				芸術思想史Ⅱ：西洋	2		
				日本思想史	2		
		社会・公民科教育法	2			4	◆
		公民科教育法	2				◆
		本学所要最低単位数				40	

（注１）編入学者・学士入学者・科目等履修生・転学科等、他学部・他大学・短期大学等で教職に関する科目を履修済みの者は、事前に西生田学務課教務・資格係に相談してください。

（注２）教科教育法について
「中学社会」、「高校公民」の教科教育法の履修は、下記の表を参照してください。

	社会科教育法Ⅰ 及び 社会科教育法Ⅱ	社会・公民科教育法	社会・地理歴史科教育法	公民科教育法
中学社会	○	○	○	
中学社会 高校公民	○	○	○	○
高校公民		○		○

2019 年度入学者より適用

文化学科
《高校(公民)》

教
職

免許法規定の科目及び含めることが必要な事項		本学該当科目	単位数	年次	備考 ◆卒業単位外科目（卒業するために必要な単位に含めない授業科目）
規定科目	右項の各科目に含めることが必要な事項				
教育の基礎的理解に関する科目 (第三欄)	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）	教職基礎論（中高）	必 2	1	◆
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育社会学Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学Ⅰ（中高）	必 2	1～	◆
	・特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育（中高）	必 2	1～	◆
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	カリキュラム論（中高）	必 2	1	◆
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 (第四欄)	・道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法（中）	必 2	2	◆ 中一種免必修／高一種免算入不可（「教科又は教職に関する科目」には充当されない）
	・総合的な学習の時間の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の指導法（中高）	必 2	1	◆
	・特別活動の指導法				
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法・技術（中高）	必 2	1～	◆
	・生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導（中高）	必 2	1～	◆
	・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	学校カウンセリング基礎論（中高）	必 2	2	◆
教育実践に関する科目 (第五欄)	・教育実践に関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法				
	・教育実習	教育実習事前事後指導Ⅰ	必 1	3・4	◆
		教育実習事前事後指導Ⅱ（介護等体験）	選必 1	2	◆
		教育実習（中学校） 教育実習（高校） 教育実習Ⅰ（高校）	選必 4 選必 4 選必 2	4	◆ ◆ ◆
	・学校体験活動				
	・教職実践演習	教職実践演習（中高）	必 2	4	◆
大学が独自に設定する科目 (第六欄)					「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の免許法に定める最低修得単位数を超過して修得した単位を充当する
		本学所要最低単位数	中一種 30 高一種 25		

免許法第 5 条別表第 1 備考第 4 号及び免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

免許法施行規則に定める科目	本学該当科目			
	授業区分	授業科目	単位数	最低修得単位数
日本国憲法	展開科目	憲法（日本国憲法）	必 2	2
体育	展開科目	社会スポーツ実習 A・B・C	選必 2	2
外国語コミュニケーション	外国語科目	ベーシック・イングリッシュ d 英語会話Ⅰ（前期）、英語会話Ⅰ（後期） 英語会話Ⅱ（前期）、英語会話Ⅱ（後期） 英語	選必 2	2
情報機器の操作	基礎科目	基礎情報処理	必 2	2

3 教職免許状取得のための条件と最低修得単位数

2018 年度入学者まで適用

小学校・中学校・高等学校及び幼稚園教諭の免許状を取得するために必要な基礎資格及び最低修得単位数は、その免許状の種類によって定められています。

1. 基礎資格

小学校・中学校・高等学校、幼稚園の教員免許状を取得するためには、「学士」の学位が基礎資格として必要になります。「学士」の学位は、4年制大学を卒業することにより取得できるものです。

2. 最低修得単位数

(表1)

教育職員免許法に定める科目	教育職員免許法に定める単位数			
	幼稚園教諭 一種免許状	小学校教諭 一種免許状	中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状
教科に関する科目	6	8	20	20
教職に関する科目	35	41	31	23
教科又は教職に関する科目	10	10	8	16

(表2)

教育職員免許法施行規則 第66条の6に定める科目	教育職員免許法施行規則に定める単位数			
	幼稚園教諭 一種免許状	小学校教諭 一種免許状	中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状
日本国憲法	2	2	2	2
体育	2	2	2	2
外国語コミュニケーション	2	2	2	2
情報機器の操作	2	2	2	2

①「教科に関する科目」の単位の修得

「教科に関する科目」の教育職員免許法に定める単位数は、(表1)のとおりです。本学該当科目は、「4. 履修のしかた」に示すとおりです。それぞれの免許・校種・教科に応じ、表中のすべての必修科目の他に、所要最低単位を充たすように選択科目を履修してください。規定科目に該当する必修科目は、いずれか1科目必修となっている場合でも、すべてを履修することが望まれます。

②「教職に関する科目」の単位の修得

「教職に関する科目」の教育職員免許法に定める単位数は、(表1)のとおりです。本学該当科目は、「4. 履修のしかた」に示すとおりです。それぞれの免許・校種に応じて該当科目を履修してください。

③「教科又は教職に関する科目」の単位の修得

「教科又は教職に関する科目」の教育職員免許法に定める単位数は、(表1)のとおりです。本学では幼稚園・小学校のみ「教科又は教職に関する科目」を設定しています。本学該当科目は、「4. 履修のしかた」に示すとおりです。中学校・高等学校については、教科科目の学力水準の向上を目的とするために、本学では「教科又は教職に関する科目」を設定していません。

よって本学では、「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の教育職員免許法に定める最低修得単位数を超過して修得した単位を、「教科又は教職に関する科目」の単位に充当します。

「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の単位を出来る限り多く履修し、「教科又は教職に関する科目」の規程単位数を超えるように履修計画を立ててください。

④「日本国憲法」、「体育」、「外国語コミュニケーション」、「情報機器の操作」の単位の修得

上記の科目が特に単位の修得を必要とする科目として定められており、教育職員免許法施行規則に定められた単位数は（表 2）のとおりです。本学該当科目は、次項のとおりです。入学年度・所属学科により本学該当科目が異なりますので、学科ごとに定められた科目の単位を修得してください。

免許法施行規則に定める科目及び単位数		現代社会学科	社会福祉学科	教育学科	文化学科
日本国憲法	2	「憲法（日本国憲法）」（展開科目）必修			
体育	2	「社会スポーツ実習 A・B・C」（展開科目）の中から 2 単位必修			
外国語 コミュニケーション	2	【2015 年度入学者まで】 「外国語演習 I A」 「外国語演習 I B」 （現代社会学科基本科目）、「英語」（外国語科目）（2016 年度より）のうち、いずれか必修	【2015 年度入学者まで】 英語・独語・仏語・中国語・英語会話（2016 年度まで）・独語会話（2016 年度まで）・仏語会話（2016 年度まで）・中国語会話（2016 年度まで）、「英語会話 I（前期）」（2017 年度より）、「英語会話 I（後期）」（2017 年度より）、「英語会話 II（前期）」（2017 年度より）、「英語会話 II（後期）」（2017 年度より）（外国語科目）（いずれもⅢおよび資格英語・集中（独語・仏語・中国語）を除く、I は文法と読本の両方履修すること）の中から 2 単位必修	【2015 年度入学者まで】 「英語コミュニケーション」（教育学科基本科目）必修	【2015 年度入学者まで】 英語・独語・仏語・中国語・イタリア語（文化学科基本科目）（いずれもⅢおよび資格英語・集中（独語・仏語・中国語）を除く、I は文法と読本、イタリア語は文法と実用の両方履修すること）の中から 2 単位必修
		【2016 年度入学者より】 「ベーシック・イングリッシュ d」、 「英語会話 I」（2016 年度まで）、「英語会話 II」（2016 年度まで） 「英語会話 I（前期）」（2017 年度より）、「英語会話 I（後期）」（2017 年度より） 「英語会話 II（前期）」（2017 年度より）、「英語会話 II（後期）」（2017 年度より） 「英語」（外国語科目）のうち、いずれか必修			
情報機器の操作	2	「情報処理基礎 I」「情報処理基礎 II」（展開科目）（2017 年度まで） 「教育社会情報処理」（教育学科専門科目）（2017 年度まで） 「基礎情報処理」（展開科目）（2018 年度より）のうち、いずれか必修			

⑤「介護等体験」

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律（介護等体験法）」により、小学校及び中学校教諭の免許状を取得するために「介護等体験」が義務づけられています。

この体験は、教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性和教員の資質向上及び学校教育の充実を図ることを目的としています。

人間社会学部においては、「介護等体験」は「教育実習事前事後指導 2（介護等体験）」に位置づけられます。標準 2 年次に、「特別支援学校における介護等体験（2 日間）」および、「社会福祉施設における介護等体験（5 日間）」が実施されます。詳しくは、「5. 教育実習（事前指導・実習・事後指導）について」を参照してください。

申込説明会・手続・事前事後指導等については、「8. 2019 年度 教職課程年間予定」および資格掲示板を確認し、見落とし等の無いよう注意してください。

4

履修のしかた

2018 年度入学者まで適用

現代社会学科

《中学(社会)・高校(公民・地理歴史)》

「教職に関する科目」

免許法規定の科目及び単位数				本学の該当科目及び単位数			
規定科目		各科目に含める必要事項	単位数	授 業 科 目 名	単位数	年次	備 考
第二欄	教 職 の 意 義 等 に 関 する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教職基礎論（中高）	必 2	1	◆
第三欄	教 育 の 基 礎 理 論 に 関 する 科 目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	4	教育学概論Ⅰ（中高）	必 2	1～	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		教育心理学Ⅰ（中高）	必 2	1～	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育社会学Ⅰ（中高）	必 2	1～	
第四欄	教 育 課 程 及 び 指 導 法 に 関 する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	中一種 12	カリキュラム論（中高） 社会・地理歴史科教育法 社会・公民科教育法 社会科教育法Ⅰ 社会科教育法Ⅱ 地理歴史科教育法 公民科教育法	必 1	1	◆
		・各教科の指導法	高一種 6		必 2	2	◆
					必 2	2	◆
					選必 2	2	◆
					選必 2	2	◆
					必 2	2	◆
		・道徳の指導法		道徳教育の指導法（中）	必 2	2	◆中一種免必修／高一種免算入不可（「教科又は教職に関する科目」にも充当されない） 旧「道徳教育の研究（中）」
		・特別活動の指導法		特別活動・総合的な学習の時間の指導法（中高）	必 1	1	◆旧「特別活動の研究（中高）」
		・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法・技術（中高）	必 2	1～	旧「教育学工（中高）」
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	4	生徒指導・進路指導（中高）	必 2	1～	旧「青少年指導論（中高）」
		・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		学校カウンセリング基礎論(中高)	必 2	2	◆
第五欄	教育実習		中一種 5 高一種 3	教育実習事前事後指導 1	必 1	3・4	◆
				教育実習事前事後指導 2（介護等体験）	選必 1	2	◆中免・中高免必修
				教育実習（中学校）	選必 4	4	◆登録科目については
				教育実習（高校） 教育実習Ⅰ（高校）	選必 4 選必 2	4 4	◆ P.185 参照 ◆
第六欄	教職実践演習		2	教職実践演習（中高）	必 2	4	◆ P.196～197 参照
	所要最低単位数		中一種 31 高一種 23	本学所要最低単位数	32 25		中一種 高一種

◆ 卒業するために必要な単位に含めない科目
注 免許種別ごとの各教科の指導法必修科目
中学社会…「社会・地理歴史科教育法」「社会・公民科教育法」「社会科教育法Ⅰ」又は「社会科教育法Ⅱ」3科目6単位
高校公民…「社会・公民科教育法」「公民科教育法」 2科目4単位
高校地歴…「社会・地理歴史科教育法」「地理歴史科教育法」2科目4単位

免許法第 5 条別表第一備考第 4 号及び免許法施行規則第 66 条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目	本学該当科目		
科目	授業科目	単位数	最低修得単位数
日本国憲法	「憲法（日本国憲法）」（展開科目）	必 2	2
体育	「社会スポーツ実習 A・B・C」（展開科目）	選必 2	2
外国語コミュニケーション	【2015 年度入学者まで】「外国語演習Ⅰ A」「外国語演習Ⅰ B」（学科科目） 「英語」（外国語科目）2016 年度より該当 【2016 年度入学者より】「ベーシック・イングリッシュd」「英語会話Ⅰ」（2016 年度まで）、「英語会話Ⅱ」（2016 年度まで）、「英語会話Ⅰ（前期）」（2017 年度より）、「英語会話Ⅰ（後期）」（2017 年度より）、「英語会話Ⅱ（前期）」（2017 年度より）、「英語会話Ⅱ（後期）」（2017 年度より）、「英語」（外国語科目）	選必 2	2
情報機器の操作	「情報処理基礎Ⅰ」「情報処理基礎Ⅱ」（展開科目）（2017 年度まで） 「教育社会情報処理」（教育学学科目）（2017 年度まで） 「基礎情報処理」（展開科目）（2018 年度より）	選必 2	2

「教科に関する科目」
《高校公民（現代社会学科）》

免許法規定の科目	最低修得 単位数	本学の該当科目	赤字は必修（ ）は単位数	備考
「法学（国際法を含む。） 政治学（国際政治を含む。）」	4 以上	法学概論（2） 政治学概論Ⅰ（2）		
「社会学、経済学 （国際経済を含む。）」	4 以上	社会学原論Ⅰ（2） 現代経済論Ⅰ（2） 労働経済論Ⅰ（2） 比較社会論Ⅱ（2） 現代社会論Ⅴ（2） 社会スポーツ・レジャー論Ⅰ（2）	社会学原論Ⅱ（2） 現代経済論Ⅱ（2） 労働経済論Ⅱ（2） 現代社会論Ⅰ（2） 現代社会論Ⅵ（2） 社会スポーツ・レジャー論Ⅱ（2） 社会学理論（2） ジェンダー論（2） 比較社会論Ⅰ（2） 現代社会論Ⅱ（2）	
「哲学、倫理学、 宗教学、心理学」	4 以上	哲学概説Ⅰ（2） 倫理学Ⅰ（2）	哲学概説Ⅱ（2） 倫理学Ⅱ（2）	
本学所要最低単位	3 6 以上			

《高校地理歴史（現代社会学科）》

免許法規定の科目	最低修得 単位数	本学の該当科目	赤字は必修（ ）は単位数	備考
日本史	2 以上	日本史学論（2） 日本社会論Ⅲ（2） 現代生活論Ⅲ（2）	日本史学方法論（2） 日本社会論Ⅳ（2） 現代生活論Ⅳ（2）	
外国史	4 以上	東洋史学論（2） 西洋史学論（2）	東洋史学方法論（2） 西洋史学方法論（2）	
人文地理学 及び 自然地理学	4 以上	人文地理学（2） 人口学Ⅰ（2）	自然地理学（2） 地理学の方法（2）	
地誌	2 以上	地誌学Ⅰ（2） 比較社会論Ⅲ（2） 比較社会論Ⅵ（2） 文化人類学Ⅰ（2）	地誌学Ⅱ（2） 比較社会論Ⅳ（2） 比較社会論Ⅶ（2） 文化人類学Ⅱ（2） 比較社会論Ⅴ（2） 比較社会論Ⅷ（2）	
本学所要最低単位	3 6 以上			

《中学社会（現代社会学科）》

免許法規定の科目	最低修得 単位数	本学の該当科目	赤字は必修（ ）は単位数	備考
日本史 及び 外国史	6 以上	日本史学論（2） 東洋史学論（2） 西洋史学論（2）	日本史学方法論（2） 東洋史学方法論（2） 西洋史学方法論（2）	
地理学（地誌を含む。）	4 以上	地理学の方法（2） 地誌学Ⅰ（2） 比較社会論Ⅲ（2） 比較社会論Ⅵ（2）	人文地理学（2） 地誌学Ⅱ（2） 比較社会論Ⅳ（2） 比較社会論Ⅶ（2） 比較社会論Ⅴ（2） 比較社会論Ⅷ（2）	
「法学、政治学」	4 以上	法学概論（2） 政治学概論Ⅰ（2）		
「社会学、経済学」	2 以上	社会学原論Ⅰ（2） 比較社会論Ⅱ（2）	社会学原論Ⅱ（2） 現代経済論Ⅰ（2） 比較社会論Ⅰ（2） 現代経済論Ⅱ（2）	
「哲学、倫理学、宗教学」	2 以上	※哲学概説Ⅰ（2） ※倫理学Ⅰ（2）	哲学概説Ⅱ（2） 倫理学Ⅱ（2）	※
本学所要最低単位	2 8 以上			

※いずれか選択必修
「倫理学Ⅰ・Ⅱ」は文化学科提供

2018 年度入学者まで適用

社会福祉学科
《中学(社会)・高校(公民・福祉※)》※2017(平成29)年度入学者まで取得可能
「教職に関する科目」

免許法規定の科目及び単位数				本学の該当科目及び単位数			
規定科目		各科目に含める必要事項	単位数	授 業 科 目 名	単位数	年次	備 考
第二欄	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。) ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教職基礎論 (中高)	必 2	1	◆
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育学概論Ⅰ (中高)	必 2	1～	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)		教育心理学Ⅰ (中高)	必 2	1～	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育社会学Ⅰ (中高)	必 2	1～	
第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	中一種 12	カリキュラム論 (中高)	必 1	1	◆
		・各教科の指導法	高一種 6	社会・地理歴史科教育法	必 2	2	◆
				社会・公民科教育法	必 2	2	◆
				社会科教育法Ⅰ	選必 2	2	◆
				社会科教育法Ⅱ	選必 2	2	◆
				公民科教育法	必 2	2	◆
				福祉科教育法Ⅰ	必 2	3	◆
		・道徳の指導法		道徳教育の指導法(中)	必 2	2	◆中一種免必修／高一種免算入不可(「教科又は教職に関する科目」にも充当されない) 旧「道徳教育の研究(中)」
		・特別活動の指導法		特別活動・総合的な学習の時間の指導法(中高)	必 1	1	◆旧「特別活動の研究(中高)」
		・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		教育方法・技術(中高)	必 2	1～	旧「教育学工(中高)」
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法	4	生徒指導・進路指導(中高)	必 2	1～	旧「青少年指導論(中高)」
		・進路指導の理論及び方法		学校カウンセリング基礎論(中高)	必 2	2	◆
第五欄	教育実習	・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	中一種 5 高一種 3	教育実習事前事後指導Ⅰ	必 1	3・4	◆
				教育実習事前事後指導Ⅱ(介護等体験)	選必 1	2	◆中免・中高免必修
				教育実習(中学校)	選必 4	4	◆登録科目については
第六欄	教職実践演習		2	教育実習(高校)	選必 4	4	◆ P.185 参照
				教育実習Ⅰ(高校)	選必 2	4	◆
第六欄	所要最低単位数	中一種 高一種	31 23	教職実践演習(中高)	必 2	4	◆ P.196～197 参照
				本学所要最低単位数	32 25	中一種 高一種	

◆ 卒業するために必要な単位に含めない科目
注 免許種別ごとの各教科の指導法必修科目
中学社会…「社会・地理歴史科教育法」「社会・公民科教育法」「社会科教育法Ⅰ」又は「社会科教育法Ⅱ」3科目6単位
高校公民…「社会・公民科教育法」「公民科教育法」2科目4単位 高校福祉…「福祉科教育法Ⅰ」「福祉科教育法Ⅱ」2科目4単位

免許法第5条別表第一備考第4号及び免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目	本学該当科目		
科目	授業科目	単位数	最低修得単位数
日本国憲法	「憲法(日本国憲法)」(展開科目)	必 2	2
体育	「社会スポーツ実習A・B・C」(展開科目)	選必 2	2
外国語コミュニケーション	【2015年度入学者まで】英語・独語・仏語・中国語・英語会話(2016年度まで)・独語会話(2016年度まで)・仏語会話(2016年度まで)・中国語会話(2016年度まで)、「英語会話Ⅰ(前期)」(2017年度より)、「英語会話Ⅰ(後期)」(2017年度より)、「英語会話Ⅱ(前期)」(2017年度より)、「英語会話Ⅱ(前期)」(2017年度より)、(いずれもⅢおよび資格英語・集中(独語・仏語・中国語)を除く、Ⅰは文法と読本の両方履修すること)(外国語科目) 【2016年度入学者より】「ベージック・イングリッシュⅠ」、「英語会話Ⅰ」(2016年度まで)、「英語会話Ⅱ」(2016年度まで)、「英語会話Ⅰ(前期)」(2017年度より)、「英語会話Ⅰ(後期)」(2017年度より)、「英語会話Ⅱ(前期)」(2017年度より)、「英語会話Ⅱ(前期)」(2017年度より)、「英語」(外国語科目)	選必 2	2
情報機器の操作	「情報処理基礎Ⅰ」「情報処理基礎Ⅱ」(展開科目)(2017年度まで) 「教育社会情報処理」(教育学科科目)(2017年度まで) 「基礎情報処理」(展開科目)(2018年度より)	選必 2	2

「教科に関する科目」
《高校公民（社会福祉学科）》

免許法規定の科目	最低修得 単位数	本学の該当科目 赤字 は必修（ ）は単位数	備考
「法律学（国際法を含む。）、 政治学（国際政治を含む。）」	6 以上	法学概論（2） 政治学概論Ⅰ（2） 労働法（2） 司法福祉制度論（2） 社会保障論（2） 福祉国家論（社会保障史）（2）	
「社会学、経済学 （国際経済を含む。）」	6 以上	社会学原論Ⅰ（2） 社会学原論Ⅱ（2） 社会問題（2） 社会福祉発達史（2） 社会福祉計画論（2） 福祉財政論（2） 労働者福祉と就労支援（2）（旧「労働者福祉論」） 地域福祉論（2） 地域組織論（2） 国際社会福祉論Ⅰ（2） 国際社会福祉論Ⅱ（2）	
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	4 以上	哲学概説Ⅰ（2） 哲学概説Ⅱ（2） 倫理学Ⅰ（2） 倫理学Ⅱ（2） 社会思想論（2）	
本学所要最低単位	3 6 以上		

教
職

《中学社会（社会福祉学科）》

免許法規定の科目	最低修得 単位数	本学の該当科目 赤字 は必修（ ）は単位数	備考
日本史 及び 外国史	6 以上	日本史学論（2） 東洋史学論（2） 西洋史学論（2） 日本史学方法論（2） 東洋史学方法論（2） 西洋史学方法論（2）	
地理学（地誌を含む。）	4 以上	地理学の方法（2） 人文地理学（2） 地誌学Ⅰ（2） 地誌学Ⅱ（2）	
「法律学、政治学」	6 以上	法学概論（2） 政治学概論Ⅰ（2） 労働法（2） 司法福祉制度論（2） 社会保障論（2） 福祉国家論（社会保障史）（2）	
「社会学、経済学」	6 以上	社会学原論Ⅰ（2） 社会学原論Ⅱ（2） 社会問題（2） 社会福祉発達史（2） 社会福祉計画論（2） 福祉財政論（2） 労働者福祉と就労支援（2）（旧「労働者福祉論」） 地域福祉論（2） 地域組織論（2） 国際社会福祉論Ⅰ（2） 国際社会福祉論Ⅱ（2）	
「哲学、倫理学、宗教学」	2 以上	※哲学概説Ⅰ（2） 哲学概説Ⅱ（2） ※倫理学Ⅰ（2） 倫理学Ⅱ（2） 社会思想論（2）	※
本学所要最低単位	2 8 以上		

※いずれか選択必修

《高校福祉（社会福祉学科）※》 ※2017(平成29)年度入学者まで取得可能

免許法規定の科目	最低修得 単位数	本学の該当科目 赤字 は必修（ ）は単位数	備考
社会福祉学（職業指導を含む。）	6	社会福祉原理論Ⅰ（2） 社会福祉原理論Ⅱ（2） 社会福祉法制（2）	
高齢者福祉、児童福祉 及び 障害者福祉	6 以上	児 童 福 祉 論（2） 家族福祉政策論（2） 児童福祉実践論（2） 老 人 福 祉 論（2） 老年社会学（2） 障 害 福 祉 論（2） 福祉サービスの組織と経営（2）	
社会福祉援助技術	2 以上	社会福祉援助技術総論（2） 社会福祉援助技術演習Ⅰ（2） 社会福祉援助技術演習Ⅱ（2） 社会福祉援助技術論Ⅰ（2） 社会福祉援助技術論Ⅱ（2） 社会福祉調査（2）	
介護理論 及び 介護技術	4	介護概論（2） 介護技術（2）	
社会福祉総合実習 （社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。）	6 以上	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（2） 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（2） ※社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（2） ※社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（2） ※社会福祉現場実習（2） 閉講（2014 年度まで該当）	※
人体構造 及び 日常生活行動に関する理解	2	介護福祉論（こころとからだのしくみ）（2）	
加齢及び障害に関する理解	2	加齢と障がいの理解（2）	
本学所要最低単位	3 6 以上		

※いずれか選択必修

・「日本史学論」「日本史学方法論」は現代社会学科提供
・「倫理学Ⅰ・Ⅱ」は文化学科提供

2018 年度入学者まで適用

教育学科

《中学(社会)・高校(公民)》

「教職に関する科目」

免許法規定の科目及び単位数				本学の該当科目及び単位数			
規定科目		各科目に含める必要事項	単位数	授 業 科 目 名	単位数	年次	備 考
第一欄	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容 (研修、服務及び身分保障等を含む。) ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教職基礎論 (幼小中高) 教職基礎論 (中高) 教職基礎論 (小中高)	必 2	1	◆ 2017 年度入学者まで履修可 ◆ ※ ◆ 2018 年度入学者より履修可
		・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育学概論Ⅰ (幼小中高) 教育学概論Ⅰ (中高) 教育学概論Ⅰ (小中高)	必 2	1～	2017 年度入学者まで履修可 ※ 2018 年度入学者より履修可
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 (障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)		教育心理学Ⅰ (幼小中高) 教育心理学Ⅰ (中高) 教育心理学Ⅰ (小中高)	必 2	1～	2017 年度入学者まで履修可 ※ 2018 年度入学者より履修可
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育社会学Ⅰ (幼小中高) 教育社会学Ⅰ (中高) 教育社会学Ⅰ (小中高)	必 2	1～	2017 年度入学者まで履修可 ※ 2018 年度入学者より履修可
第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	中一種 12	カリキュラム論 (中高) 社会・地理歴史科教育法 社会・公民科教育法 社会科教育法Ⅰ 社会科教育法Ⅱ 公民科教育法 } 1 科目選択	必 1	1	※ ◆ 免許種別ごとの必修科目は、表の下注を参照 ◆ ◆ ◆ ◆
		・各教科の指導法	高一種 6		必 2	2	
					必 2	2	
					選必 2	2	
					選必 2	2	
					必 2	2	
		・道徳の指導法		道徳教育の指導法 (中)	必 2	2	◆ ※ 中一種免必修／高一種免算入不可 (「教科又は教職に関する科目」にも充当されない) 旧「道徳教育の研究 (中)」
		・特別活動の指導法		特別活動・総合的な学習の時間の指導法 (中高)	必 1	1	◆ ※ 旧「特別活動の研究 (中高)」
		・教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。)		教育方法・技術 (中高)	必 2	1～	※ 旧「教育工学 (中高)」
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	4	生徒指導・進路指導 (中高)	必 2	1～	※ 旧「青少年指導論 (中高)」
		・教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。) の理論及び方法		学校カウンセリング基礎論 (中高)	必 2	2	※
第五欄	教育実習		中一種 5 高一種 3	教育実習事前事後指導 1	必 1	3・4	◆
				教育実習事前事後指導 2 (介護等体験)	選必 1	2	◆ 中免・中高免必修
				教育実習 (中学校)	選必 4	4	◆ 登録科目については
				教育実習 (高校) 教育実習Ⅰ (高校)	選必 4 選必 2	4 4	◆ P.185 参照 ◆
第六欄	教職実践演習		2	教職実践演習 (中高)	必 2	4	◆ P.196～197 参照
	所要最低単位数		中一種 31 高一種 23	本学所要最低単位数	32 25		中一種 高一種

◆ 卒業するために必要な単位に含めない科目

※ 中高用科目 (幼小への充当不可)

注 免許種別ごとの各教科の指導法必修科目

中学社会…「社会・地理歴史科教育法」「社会・公民科教育法」「社会科教育法Ⅰ」又は「社会科教育法Ⅱ」3 科目 6 単位

高校公民…「社会・公民科教育法」「公民科教育法」 2 科目 4 単位

免許法第 5 条別表第一備考第 4 号及び免許法施行規則第 66 条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目	本学該当科目		
科目	授業科目	単位数	最低修得単位数
日本国憲法	「憲法 (日本国憲法)」 (展開科目)	必 2	2
体育	「社会スポーツ実習 A・B・C」 (展開科目)	選必 2	2
外国語 コミュニケーション	【2015 年度入学者まで】「英語コミュニケーション」 (学科科目)	必 2	2
	【2016 年度入学者より】「ベーンシック・イングリッシュⅡ」、「英語会話Ⅰ」 (2016 年度まで)、「英語会話Ⅱ」 (2016 年度まで)、「英語会話Ⅰ (前期)」 (2017 年度より)、「英語会話Ⅰ (後期)」 (2017 年度より)、「英語会話Ⅱ (前期)」 (2017 年度より)、「英語会話Ⅱ (後期)」 (2017 年度より)、「英語」 (外国語科目)	選必 2	
情報機器の操作	「情報処理基礎Ⅰ」「情報処理基礎Ⅱ」 (展開科目) (2017 年度まで) 「教育社会情報処理」 (教育学科科目) (2017 年度まで) 「基礎情報処理」 (展開科目) (2018 年度より)	選必 2	2

「教科に関する科目」
《高校公民（教育学科）》

免許法規定の科目	最低修得 単位数	本学の該当科目 赤字は必修 （ ）は単位数	備考
「法律学（国際法を含む。） 政治学（国際政治を含む。）」	4 以上	法学概論（2） 政治学概論Ⅰ（2） 教育行政学（2）	
「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	4 以上	社会学原論Ⅰ（2） 現代経済論Ⅰ（2） 発達社会学（2）（2017 年度まで該当） 国際教育学Ⅰ（2） 社会学原論Ⅱ（2） 現代経済論Ⅱ（2） 教育社会学方法論（2） 国際教育学Ⅱ（2） 人間形成の社会学（2）（2018 年度より該当） 生涯学習概論Ⅰ（2） 生涯学習概論Ⅱ（2）（2015 年度より該当）	
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	4 以上	哲学概説Ⅰ（2） 倫理学Ⅰ（2） 教育思想史Ⅰ（2） 教育哲学Ⅰ（2） 哲学概説Ⅱ（2） 倫理学Ⅱ（2） 教育思想史Ⅱ（2）（2017 年度まで該当） 教育哲学Ⅱ（2） 社会と文化：韓国（2）（2018 年度より該当） 言葉と文化：韓国（2）（2018 年度より該当）	
本学所要最低単位	3 6 以上		

《中学社会（教育学科）》

免許法規定の科目	最低修得 単位数	本学の該当科目 赤字は必修 （ ）は単位数	備考
日本史 及び 外国史	6 以上	日本史学論（2） 東洋史学論（2） 西洋史学論（2） 日本教育史Ⅰ（2） 外国教育史Ⅰ（2）（2017 年度まで該当） 日本史学方法論（2） 東洋史学方法論（2） 西洋史学方法論（2） 日本教育史Ⅱ（2） 外国教育史Ⅱ（2）	
地理学（地誌を含む。）	4 以上	地理学の方法（2） 地誌学Ⅰ（2） 人文地理学（2） 地誌学Ⅱ（2）	
「法律学、政治学」	4 以上	法学概論（2） 政治学概論Ⅰ（2） 教育行政学（2）	
「社会学、経済学」	2 以上	社会学原論Ⅰ（2） 教育社会学方法論（2） 国際教育学Ⅰ（2） 社会学原論Ⅱ（2） 国際教育学Ⅱ（2） 人間形成の社会学（2）（2018 年度より該当） 生涯学習概論Ⅰ（2） 発達社会学（2）（2017 年度まで該当） 生涯学習概論Ⅱ（2）	
「哲学、倫理学、宗教学」	2 以上	※哲学概説Ⅰ（2） ※倫理学Ⅰ（2） 教育思想史Ⅰ（2） 教育哲学Ⅰ（2） 哲学概説Ⅱ（2） 倫理学Ⅱ（2） 教育思想史Ⅱ（2）（2017 年度まで該当） 教育哲学Ⅱ（2） 社会と文化：韓国（2）（2018 年度より該当） 言葉と文化：韓国（2）（2018 年度より該当）	
本学所要最低単位	2 8 以上		

※いずれか選択必修
「倫理学Ⅰ・Ⅱ」は文化学科提供

2018 年度入学者まで適用

教育学科
《小学校・中学(社会)》
「教職に関する科目」

免許法規定の科目及び単位数			本学の該当科目及び単位数			
規定科目	各科目に含める必要事項	単位数	授 業 科 目 名	単位数	年次	備 考
第二欄	教職の意義等に関する科目	2	教職基礎論（幼小中高） 教職基礎論（小中高）	必 2	1	◆ 2017 年度入学者まで履修可 ◆ 2018 年度入学者より履修可
第二欄	教育の基礎理論に関する科目	6	教育学概論Ⅰ（幼小中高） 教育学概論Ⅰ（小中高）	必 2	1～	2017 年度入学者より履修可 2018 年度入学者より履修可
			教育心理学Ⅰ（幼小中高） 教育心理学Ⅰ（小中高）	必 2	1～	2017 年度入学者まで履修可 2018 年度入学者より履修可
			教育社会学Ⅰ（幼小中高） 教育社会学Ⅰ（小中高）	必 2	1～	2017 年度入学者まで履修可 2018 年度入学者より履修可
第四欄（小学校）	教育課程及び指導法に関する科目	小一 種 22	カリキュラム論（小）	必 1	1	
			初等国語科教育法	必 2	2	旧「国語科教材研究」
			初等社会科教育法	必 2	2	旧「社会科教材研究」
			初等算数科教育法	必 2	2	旧「算数科教材研究」
			初等理科教育法	必 2	2	旧「理科教材研究」
			初等生活科教育法	必 2	2	旧「生活科教材研究」
			初等音楽科教育法	必 2	3	旧「音楽科教材研究」
			初等図工科教育法	必 2	3	旧「図工科教材研究」
			初等家庭科教育法	必 2	3	旧「家庭科教材研究」
			初等体育科教育法	必 2	3	旧「体育科教材研究」
			道徳教育の指導法（小）	必 2	2	◆旧「道徳教育の研究（小）」
			特別活動・総合的な学習の時間の指導法（小）	必 1	1	◆旧「特別活動の研究（小）」
			教育方法・技術（小）	必 2	1～	旧「教育学（小）」
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4	生徒指導・進路指導（小）	必 2	1～	旧「青少年指導論（小）」
			学校カウンセリング基礎論（小）	必 2	2	
第四欄（中学校）	教育課程及び指導法に関する科目	中一 種 12	カリキュラム論（中高）	必 1	1	
			社会・地理歴史科教育法	必 2	2	◆
			社会・公民科教育法	必 2	2	◆
			社会科教育法Ⅰ	選必 2	2	◆
			社会科教育法Ⅱ	選必 2	2	◆
			道徳教育の指導法（中）	必 2	2	◆旧「道徳教育の研究（中）」
			特別活動・総合的な学習の時間の指導法（中高）	必 1	1	◆旧「特別活動の研究（中高）」
			教育方法・技術（中高）	必 2	1～	旧「教育学（中高）」
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4	生徒指導・進路指導（中高）	必 2	1～	旧「青少年指導論（中高）」
			学校カウンセリング基礎論（中高）	必 2	2	
第五欄	教育実習	5	教育実習事前事後指導 1	必 1	2・3	◆
			教育実習事前事後指導 2（介護等体験）	必 1	2	◆
			教育実習（小学校）	必 4	3	◆
			教育実習Ⅰ（中学校）	必 2	4	◆
第六欄	教職実践演習	2	教職実践演習（小中）	必 2	4	◆ P.196～197 参照
	所要最低単位数	小一 種 41 中一 種 31	本学所要最低単位数	46 34		小一 種 中一 種
◆ 卒業するために必要な単位に含めない科目						

2018 年度入学者まで適用

免許法第 5 条別表第一備考第 4 号及び免許法施行規則第 66 条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目	本学該当科目		
科目	授業科目	単位数	最低修得単位数
日本国憲法	「憲法（日本国憲法）」（展開科目）	必 2	2
体育	「社会スポーツ実習 A・B・C」（展開科目）	選必 2	2
外国語 コミュニケーション	【2015 年度入学者まで】「英語コミュニケーション」（学科科目）	必 2	2
	【2016 年度入学者より】「ベーシック・イングリッシュ d」、「英語会話Ⅰ」（2016 年度まで）、「英語会話Ⅱ」（2016 年度まで）、「英語会話Ⅰ（前期）」（2017 年度より）、「英語会話Ⅰ（後期）」（2017 年度より）、「英語会話Ⅱ（前期）」（2017 年度より）、「英語会話Ⅱ（後期）」（2017 年度より）、「英語」（外国語科目）	選必 2	2
情報機器の操作	「情報処理基礎Ⅰ」「情報処理基礎Ⅱ」（展開科目）（2017 年度まで） 「教育社会情報処理」（教育学科科目）（2017 年度まで） 「基礎情報処理」（展開科目）（2018 年度より）	選必 2	2

教
職

《 中学社会（教育学科） 》
「教科に関する科目」

免許法規定の科目	最低修得単位数	本学の該当科目	赤字は必修（ ）は単位数	備考
日本史 及び 外国史	6 以上	日本史学論（2） 東洋史学論（2） 西洋史学論（2） 日本教育史Ⅰ（2） 外国教育史Ⅰ（2）（2017 年度まで該当）	日本史学方法論（2） 東洋史学方法論（2） 西洋史学方法論（2） 日本教育史Ⅱ（2） 外国教育史Ⅱ（2）	
地理学（地誌を含む。）	4 以上	地理学の方法（2） 地誌学Ⅰ（2）	人文地理学（2） 地誌学Ⅱ（2）	
「法律学、政治学」	4 以上	法学概論（2） 政治学概論Ⅰ（2）	教育行政学（2）	
「社会学、経済学」	2 以上	社会学原論Ⅰ（2） 教育社会学方法論（2） 国際教育学Ⅰ（2） 人間形成の社会学（2）（2018 年度より該当） 生涯学習概論Ⅰ（2）	社会学原論Ⅱ（2） 国際教育学Ⅱ（2） 発達社会学（2）（2017 年度まで該当） 生涯学習概論Ⅱ（2）	
「哲学、倫理学、宗教学」	2 以上	※哲学概説Ⅰ（2） ※倫理学Ⅰ（2） 教育思想史Ⅰ（2） 教育哲学Ⅰ（2） 社会と文化：韓国（2）（2018 年度より該当）	哲学概説Ⅱ（2） 倫理学Ⅱ（2） 教育思想史Ⅱ（2）（2017 年度まで該当） 教育哲学Ⅱ（2） 言葉と文化：韓国（2）（2018 年度より該当）	※いずれか 選択必修
本学所要最低単位	2 8 以上			

「倫理学Ⅰ・Ⅱ」は文化学科提供

《 小学校（教育学科） 》
「教科に関する科目」

免許法規定の科目	最低修得単位数	本学の該当科目	赤字は必修（ ）は単位数	備 考
国語（書写を含む。）	2	国語科概論（書写を含む。）（2）		
社会	2	社会科概論（2）		
算数	2	算数科概論（2）		
理科	2	理科概論（2）		
生活	2	生活科概論（2）		
音楽	※ 4	音楽科概論（2）	音楽実技（2）	※免許法規定の科目から 2 科目以上かつ 4 単位以上必修
図画工作		児童造形（2）		
家庭		家庭科概論（2）		
体育		児童体育（2）	体育実技Ⅰ（1） 体育実技Ⅱ（1）	
本学所要最低単位	1 4 以上			

「教科又は教職に関する科目」

最低修得単位数	本学の該当科目	赤字は必修（ ）は単位数	備 考
2	学校インターンシップⅠ（1）	学校インターンシップⅡ（1）	

2018 年度入学者まで適用

教育学科

《幼稚園※・小学校》 ※2017(平成29)年度入学者まで取得可能

「教職に関する科目」

免許法規定の科目及び単位数				本学の該当科目及び単位数			
規定科目		各科目に含める必要事項	単位数	授 業 科 目 名	単位数	年次	備 考
第一欄	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教職基礎論（幼小中高） 教職基礎論（小中高）	必 2	1	◆ 2017 年度入学者まで履修可 ◆ 2018 年度入学者より履修可
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育学概論Ⅰ（幼小中高） 教育学概論Ⅰ（小中高）	必 2	1～	2017 年度入学者まで履修可 2018 年度入学者より履修可
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		教育心理学Ⅰ（幼小中高） 教育心理学Ⅰ（小中高）	必 2	1～	2017 年度入学者まで履修可 2018 年度入学者より履修可
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育社会学Ⅰ（幼小中高） 教育社会学Ⅰ（小中高）	必 2	1～	2017 年度入学者まで履修可 2018 年度入学者より履修可
第四欄（小学校）	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	小一種 22	カリキュラム論（小）	必 1	1	
		・各教科の指導法（小）		初等国語科教育法	必 2	2	旧「国語科教材研究」
				初等社会科教育法	必 2	2	旧「社会科教材研究」
				初等算数科教育法	必 2	2	旧「算数科教材研究」
				初等理科教育法	必 2	2	旧「理科教材研究」
				初等生活科教育法	必 2	2	旧「生活科教材研究」
				初等音楽科教育法	必 2	3	旧「音楽科教材研究」
				初等図工科教育法	必 2	3	旧「図工科教材研究」
				初等家庭科教育法	必 2	3	旧「家庭科教材研究」
	初等体育科教育法	必 2		3	旧「体育科教材研究」		
	・道徳の指導法	道徳教育の指導法（小）		必 2	2	◆旧「道徳教育の研究（小）」	
	・特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の指導法（小）		必 1	1	◆旧「特別活動の研究（小）」	
・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法・技術（小）	必 2	1～	旧「教育工学（小）」			
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	4	生徒指導・進路指導（小）	必 2	1～	旧「青少年指導論（小）」	
	学校カウンセリング基礎論（小）		必 2	2			
第四欄（幼稚園）	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法 ・保育内容の指導法	幼一種 18	カリキュラム論（幼稚園）	必 2	1	
		健康 人間関係 環境 言葉 表現		幼児健康教育論	必 2	2	
				幼児人間関係教育論	必 2	3	
				幼児環境教育論	必 2	3	
				幼児言語教育論	必 2	3	
	表現教育論			必 2	2		
	保育内容総論Ⅰ			必 2	1		
保育内容総論Ⅱ	必 2	1					
・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育方法論	必 2	1				
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・幼児理解の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	2	学校カウンセリング基礎論（幼稚園）	必 2	2		
第五欄	教育実習		5	教育実習事前事後指導 1	必 1	2・3	◆
				教育実習事前事後指導 2（介護等体験）	選必 1	2	◆小のみ
				教育実習（幼稚園）	選必 4	3	◆ ◆ ◆ ◆ P. 185 参照
				教育実習Ⅰ（幼稚園）	選必 2	4	
				教育実習（小学校）	選必 4	3	
教育実習Ⅰ（小学校）	選必 2	4					
第六欄	教職実践演習		2	教職実践演習（幼小） 教職実践演習（小中）	選必 2 選必 2	4	◆ ◆ P. 196～197 参照
	所要最低単位数	小一種 幼一種	41 35	本学所要最低単位数	46 37		小一種 幼一種

◆ 卒業するために必要な単位に含めない科目

免許法第 5 条別表第一備考第 4 号及び免許法施行規則第 66 条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目	本学該当科目		
科目	授業科目	単位数	最低修得単位数
日本国憲法	「憲法（日本国憲法）」（展開科目）	必 2	2
体育	「社会スポーツ実習 A・B・C」（展開科目）	選必 2	2
外国語 コミュニケーション	【2015 年度入学者まで】「英語コミュニケーション」（学科科目）	必 2	2
	【2016 年度入学者より】「ベーシック・イングリッシュ d」、「英語会話 I」（2016 年度まで）、 「英語会話 II」（2016 年度まで）、「英語会話 I（前期）」（2017 年度より）、 「英語会話 I（後期）」（2017 年度より）、「英語会話 II（前期）」（2017 年度より）、「英語 会話 II（後期）」（2017 年度より）、「英語」（外国語科目）	選必 2	2
情報機器の操作	「情報処理基礎 I」「情報処理基礎 II」（展開科目）（2017 年度まで） 「教育社会情報処理」（教育学科科目）（2017 年度まで） 「基礎情報処理」（展開科目）（2018 年度より）	選必 2	2

教
職

《小学校》

「教科に関する科目」

免許法規定の科目	最低修得 単位数	本学の該当科目 赤字は必修 （ ）は単位数	備 考
国語（書写を含む。）	2	国語科概論（書写を含む。）（2）	
社会	2	社会科概論（2）	
算数	2	算数科概論（2）	
理科	2	理科概論（2）	
生活	2	生活科概論（2）	
音楽	※ 4	音楽科概論（2） 音楽実技（2）	※免許法規定の科目 から 2 科目以上かつ 4 単位以上必修
図画工作		児童造形（2）	
家庭		家庭科概論（2）	
体育		児童体育（2） 体育実技Ⅰ（1） 体育実技Ⅱ（1）	
本学所要最低単位	1 4 以上		

「教科又は教職に関する科目」

最低修得 単位数	本学の該当科目 赤字は必修 （ ）は単位数	備 考
2	学校インターンシップⅠ（1） 学校インターンシップⅡ（1）	

《幼稚園※》

※2017(平成29)年度入学者まで取得可能

「教科に関する科目」

免許法規定の科目	最低修得 単位数	本学の該当科目 赤字は必修 () は単位数	備 考
国語（書写を含む。）	2	国語科概論（書写を含む。）（2）	
算数	2	算数科概論（2）	
生活	2	生活科概論（2）	
音楽	※6	音楽科概論（2） 音楽実技（2）	※免許法規定の科目 から 2 科目以上かつ 6 単位以上必修
図画工作		幼児造形（2） 児童造形（2）	
体育		児童体育（2） 幼児体育（2）	
		体育実技Ⅰ（1） 体育実技Ⅱ（1）	
本学所要最低単位	1 2 以上		

「教科又は教職に関する科目」

最低修得 単位数	本学の該当科目 赤字は必修 （ ）は単位数	備 考
2	学校インターンシップⅠ（1） 学校インターンシップⅡ（1）	

2018 年度入学者まで適用

文化学科

《中学(社会)・高校(公民)》

「教職に関する科目」

免許法規定の科目及び単位数				本学の該当科目及び単位数			
規定科目		各科目に含める必要事項	単位数	授 業 科 目 名	単位数	年次	備 考
第一欄	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教職基礎論（中高）	必 2	1	◆
第二欄	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育学概論Ⅰ（中高）	必 2	1～	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		教育心理学Ⅰ（中高）	必 2	1～	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育社会学Ⅰ（中高）	必 2	1～	
第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	中一種 12	カリキュラム論（中高）	必 1	1	◆
		・各教科の指導法	高一種 6	社会・地理歴史科教育法	必 2	2	◆
				社会・公民科教育法	必 2	2	◆
				社会科教育法Ⅰ	選必 2	2	◆
				社会科教育法Ⅱ	選必 2	2	◆
		公民科教育法	必 2	2	◆		
	・道徳の指導法		道徳教育の指導法（中）	必 2	2	◆中一種免必修／高一種免算入不可（「教科又は教職に関する科目」にも充当されない）旧「道徳教育の研究（中）」	
・特別活動の指導法		特別活動・総合的な学習の時間の指導法（中高）	必 1	1	◆旧「特別活動の研究（中高）」		
・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法・技術（中高）	必 2	1～	旧「教育学（中高）」		
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法	4	生徒指導・進路指導（中高）	必 2	1～	旧「青少年指導論（中高）」	
	・進路指導の理論及び方法						
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		学校カウンセリング基礎論（中高）	必 2	2	◆	
第五欄	教育実習	中一種 5 高一種 3	教育実習事前事後指導 1	必 1	3・4	◆	
			教育実習事前事後指導 2（介護等体験）	選必 1	2	◆中免・中高免必修	
			教育実習（中学校）	選必 4	4	◆登録科目については	
			教育実習（高校）	選必 4	4	◆P. 185 参照	
教育実習Ⅰ（高校）	選必 2	4	◆				
第六欄	教職実践演習	2	教職実践演習（中高）	必 2	4	◆ P. 196～197 参照	
	所要最低単位数 小一種	31	本学所要最低単位数	32		中一種	
	幼一種	23		25		高一種	

◆ 卒業するために必要な単位に含めない科目

注 免許種別ごとの各教科の指導法必修科目

中学社会…「社会・地理歴史科教育法」「社会・公民科教育法」「社会科教育法Ⅰ」又は「社会科教育法Ⅱ」3科目6単位

高校公民…「社会・公民科教育法」「公民科教育法」2科目4単位

免許法第 5 条別表第一備考第 4 号及び免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

免許法施行規則に定める科目	本学該当科目		
科目	授業科目	単位数	最低修得単位数
日本国憲法	「憲法（日本国憲法）」（展開科目）	必 2	2
体育	「社会スポーツ実習 A・B・C」（展開科目）	選必 2	2
外国語 コミュニケーション	【2015 年度入学者まで】英語・独語・仏語・中国語・イタリア語（基本科目）（いずれもⅢおよび資格英語・集中（独語・仏語・中国語）を除く、Ⅰは文法と読本、イタリア語は文法と実用の両方履修すること） 【2016 年度入学者より】「ベーシック・イングリッシュ d」、「英語会話Ⅰ」（2016 年度まで）、「英語会話Ⅱ」（2016 年度まで）、「英語会話Ⅰ（前期）」（2017 年度より）、「英語会話Ⅰ（後期）」（2017 年度より）、「英語会話Ⅱ（前期）」（2017 年度より）、「英語会話Ⅱ（後期）」（2017 年度より）、「英語」（外国語科目）	選必 2	2
情報機器の操作	「情報処理基礎Ⅰ」「情報処理基礎Ⅱ」（展開科目）（2017 年度まで） 「教育社会情報処理」（教育学科目）（2017 年度まで） 「基礎情報処理」（展開科目）（2018 年度より）	選必 2	2

「教科に関する科目」
《高校公民（文化学科）》

免許法規定の科目	最低修得単位数	本学の該当科目 赤字は必修（ ）は単位数	備考
「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	4 以上	法学概論（2） 政治学概論Ⅰ（2）	
「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	4 以上	社会学原論Ⅰ（2） 現代経済論Ⅰ（2） 文化論Ⅴ：比較（2）（2017 年度まで該当） 現代アジア文化論（2）（2018 年度より該当） 比較文化論Ⅱ（2）（2018 年度より該当） 社会学原論Ⅱ（2） 現代経済論Ⅱ（2） 文化論Ⅵ：比較（2）（2017 年度まで該当） 比較文化論Ⅰ（2）（2018 年度より該当）	
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	4 以上	哲学概説Ⅰ（2） 倫理学Ⅰ（2） 文化論Ⅲ：視覚（2） 文化学演習Ⅱ h（4）（2018 年度まで該当） 文化学演習Ⅱ q（4）（2018 年度まで該当） 文化論Ⅰ：地域（2）（2017 年度まで該当） 地域文化研究Ⅰ（2）（2018 年度より該当） 哲学概説Ⅱ（2） 倫理学Ⅱ（2） 文化思想史Ⅰ：西洋（2） 文化思想史Ⅱ：日本（2） 芸術思想史Ⅰ：日本（2） 芸術思想史Ⅱ：西洋（2） 日本思想史（2） 地域文化研究Ⅱ（2）（2018 年度より該当）	
本学所要最低単位	3 6 以上		

教
職

《中学社会（文化学科）》

免許法規定の科目	最低修得単位数	本学の該当科目 赤字は必修（ ）は単位数	備考
日本史 及び 外国史	6 以上	日本史学論（2） 東洋史学論（2） 西洋史学論（2） 芸術文化史Ⅰ：西洋（2） 文化学演習Ⅱ n（4）（2017 年度まで該当） 文化学演習Ⅱ a（4）（2018 年度まで該当） 文化交流史Ⅰ（2） 文化交流史Ⅱ（2）（2018 年度まで該当） 視覚文化史Ⅰ（2） 日本史学方法論（2） 東洋史学方法論（2） 西洋史学方法論（2） 芸術文化史Ⅱ：日本（2） 地域文化史Ⅰ（2） 地域文化史Ⅱ（2） 地域文化史Ⅲ（2） 地域文化史Ⅳ（2） 視覚文化史Ⅱ（2）	
地理学（地誌を含む。）	4 以上	地理学の方法（2） 地誌学Ⅰ（2） 人文地理学（2） 地誌学Ⅱ（2）	
「法律学、政治学」	4 以上	法学概論（2） 政治学概論Ⅰ（2）	
「社会学、経済学」	2 以上	社会学原論Ⅰ（2） 現代経済論Ⅰ（2） 文化論Ⅴ：比較（2）（2017 年度まで該当） 現代アジア文化論（2）（2018 年度より該当） 比較文化論Ⅱ（2）（2018 年度より該当） 社会学原論Ⅱ（2） 現代経済論Ⅱ（2） 文化論Ⅵ：比較（2）（2017 年度まで該当） 比較文化論Ⅰ（2）（2018 年度より該当）	
「哲学、倫理学、宗教学」	2 以上	※哲学概説Ⅰ（2） ※倫理学Ⅰ（2） 文化論Ⅲ：視覚（2） 文化学演習Ⅱ h（4）（2018 年度まで該当） 文化学演習Ⅱ q（4）（2018 年度まで該当） 文化論Ⅰ：地域（2）（2017 年度まで該当） 地域文化研究Ⅰ（2）（2018 年度より該当） 哲学概説Ⅱ（2） 倫理学Ⅱ（2） 文化思想史Ⅰ：西洋（2） 文化思想史Ⅱ：日本（2） 芸術思想史Ⅰ：日本（2） 芸術思想史Ⅱ：西洋（2） 日本思想史（2） 地域文化研究Ⅱ（2）（2018 年度より該当）	※
本学所要最低単位	2 8 以上		

※いずれか選択必修
・「日本史学論」「日本史学方法論」は現代社会学科提供

1. 教育実習を履修するにあたって

教育職員免許法により、教員免許状取得には“実習校における教育実習（事前事後指導を含む）”が必修とされていますが、実習校の協力なしに“教育実習”をすることは不可能です。しかし、実習校には教育実習生を受け入れる法的な義務はなく、実習校側の後継者養成の熱意と好意によって受け入れていただいているのが実状です。

また、実習生は、たとえ短期間とはいえ、実習校の児童・生徒にとっては“先生”であり、実習生の教育的・社会的責任はきわめて重大です。即ち、就職試験、大学院入学試験等の個人的な理由による欠席は認められません。同時に、実習校における教育実習は、単に実習生の個人的責任・体験にとどまらず、大学としての“日本女子大学の責任・評価が問われる”のです。

このため、本学部では科目「教育実習事前事後指導」および「教育実習」を開設していますが、これらを履修登録するための厳しい条件を設けています（「2.「教育実習」の履修条件」参照）。また、科目「教育実習事前事後指導」においては、全回出席および課題提出は当然のことであり、内容的にも実践重視であり、時間的・体力的にもかなりハードであることを覚悟しておいてください。

“実習校における教育実習”を希望する者は、再度以上の点について自ら省みて決断し、内諾交渉・履修登録を行い、有意義な教育実習を行えるように十分準備をしなければなりません。内諾交渉後、「教育実習」の履修登録条件が満たされた場合のみ、学長名の正式依頼文書が実習校に届けられ、実習校より正式受け入れ文書が本学に届き、ようやく正式に実習生の実習校における“教育実習”が認められます。

このように、“教育実習”はあくまでも本学が大学として責任をもって行う授業の一環であり、このことを実習校における“教育実習”を希望する者は念頭におき、意欲的に取り組むことを期待しています。

「教育実習事前事後指導1」は2年間で履修終了となる科目です。履修初年度より連続して合格していなければ、単位を与えません。

履修初年度に合格し、2年目が不合格となって再履修する場合は、履修初年度の合格は無効となるため、「教育実習事前事後指導1（2年次）」または「教育実習事前事後指導1（3年次）」から履修することになります。

2. 「教育実習」の履修条件

1) 履修条件の概要

- ① 教員免許状取得および教職に就くことの意志が強固であること。
- ② 各学科が定めている必修科目および「教科に関する科目」の大半は履修済みであり、“教育実習”に必要な学力を十分に有すること。
- ③ 「教職に関する科目」のうち、定められた科目を履修済みであること（次ページ「教職に関する科目の条件」参照）。
- ④ 「教育実習事前事後指導」のうち、“事前指導”（全回出席・課題提出）を履修済みであること（6.「教育実習事前事後指導」参照）。
- ⑤ 「定期健康診断」（各学年4月実施）において、教育実習が可能と判断されていること。
- ⑥ 「教育実習」登録手続き、費用納入を定められた期間内に完了していること。
- ⑦ 実習校における教育実習期間中に、民間企業などに関する就職活動による欠席をしないこと。
- ⑧ 本学の学則、その他の諸規程にそむく行為のないこと。本学部では、定期試験期間中に不正行為があった者は在学中に教員免許状を取得することができません。

※教育実習開始後（実習校との打合せを含む）に、教育実習の実施・継続が困難と所属学科が判断した場合は、教育実習を中止することもある。

教育実習の履修にあたっては、この「履修の手引き」の他、事前指導時に配付される「教育実習の手引き」、「教職課程年報」も必ず熟読してください。事前・事後指導の日程等は掲示で最新の情報を確認してください。

2) 「教職に関する科目」の条件

○印の科目について、幼・小免許取得希望者、小・中免許取得希望者は2年次終了まで、中・高免許取得希望者は3年次終了までに必ず履修済みでなければ、教育実習には参加できません。

2019 年度入学者より適用

教
職

〈取得免許状の種類（中、中高、高）〉 3年次終了までに履修済みでなければ、教育実習参加不可

科 目 名	中	中高	高
教職基礎論（中高）	○	○	○
教育学概論Ⅰ（中高）	○	○	○
教育心理学Ⅰ（中高）	○	○	○
教育社会学Ⅰ（中高）	○	○	○
社会・地理歴史科教育法	○	○	○
社会・公民科教育法	（いずれか）	（いずれか）	（いずれか）※1
特別活動・総合的な学習の時間の指導法（中高）	○	○	○
カリキュラム論（中高）	○	○	○

※1 希望の免許状取得に必要な、1科目を履修すること。

〈取得免許状の種類（小）〉 2年次終了までに履修済みでなければ、教育実習参加不可

科 目 名	小
教職基礎論（小）	○
教育学概論Ⅰ（小）	○
教育心理学Ⅰ（小）	○
教育社会学Ⅰ（小）	○
学校インターンシップⅠ	○
特別活動・総合的な学習の時間の指導法（小）	○
カリキュラム論（小）	○
初等教科教育法	○ （いずれか2科目）

注：上記の「教職に関する科目」と学科専門の必修科目が時間割上重なって履修できない場合は、「教職に関する科目」の時間割を変更できないため、各学科中央研究室ないし担当専任教員に相談すること。

2018 年度入学者まで適用

〈取得免許状の種類（中、中高、高）〉 3年次終了までに履修済みでなければ、教育実習参加不可

科 目 名	中	中高	高
教職基礎論（幼小中高）（2017年度入学者まで履修可）※1	○ (いずれか)	○ (いずれか)	○ (いずれか)
教職基礎論（小中高）（2018年度入学者より履修可）※1			
教育学概論Ⅰ（幼小中高）（2017年度入学者まで履修可）※1	○ (いずれか)	○ (いずれか)	○ (いずれか)
教育学概論（小中高）（2018年度入学者より履修可）※1			
教育心理学Ⅰ（幼小中高）（2017年度入学者まで履修可）※1	○ (いずれか)	○ (いずれか)	○ (いずれか)
教育心理学Ⅰ（小中高）（2018年度入学者より履修可）※1			
教育社会学Ⅰ（幼小中高）（2017年度入学者まで履修可）※1	○ (いずれか)	○ (いずれか)	○ (いずれか)
教育社会学Ⅰ（小中高）（2018年度入学者より履修可）※1			
社会・地理歴史科教育法	○	○	○
社会・公民科教育法	(いずれか)	(いずれか)	(いずれか) ※2
福祉科教育法Ⅰ(2017年度入学者まで履修可)			
特別活動の研究（中高）又は特別活動・総合的な学習の時間の指導法（中高） カリキュラム論（中高）	○	○	○

※1 教育学科の学生以外履修不可
 ※2 希望の免許状取得に必要な、1科目を履修すること。

注：上記の「教職に関する科目」と学科専門の必修科目が時間割上重なって履修できない場合は、「教職に関する科目」の時間割を変更できないため、各学科中央研究室ないし担当専任教員に相談すること。

2018 年度入学者まで適用

〔取得免許状の種類（幼※、幼小※、小、小中） 2 年次終了までに履修済みでなければ、教育実習参加不可〕
※2017（平成30）年度入学者まで取得可能

教
職

科 目 名	幼	幼小	小	小中
教職基礎論（幼小中高）（2017年度入学者まで履修可）	○	○	○	○
教職基礎論（小中高）（2018年度入学者より履修可）	（いずれか）	（いずれか）	（いずれか）	（いずれか）
教育学概論Ⅰ（幼小中高）（2017年度入学者まで履修可）	○	○	○	○
教育学概論Ⅰ（小中高）（2018年度入学者より履修可）	（いずれか）	（いずれか）	（いずれか）	（いずれか）
教育心理学Ⅰ（幼小中高）（2017年度入学者まで履修可）	○	○	○	○
教育心理学Ⅰ（小中高）（2018年度入学者より履修可）	（いずれか）	（いずれか）	（いずれか）	（いずれか）
教育社会学Ⅰ（幼小中高）（2017年度入学者まで履修可）	○	○	○	○
教育社会学Ⅰ（小中高）（2018年度入学者より履修可）	（いずれか）	（いずれか）	（いずれか）	（いずれか）
学校インターンシップⅠ	○	○	○	○
社会・地理歴史科教育法				○
社会・公民科教育法				（いずれか）※1
特別活動の研究（小）又は特別活動・総合的な学習の時間の指導法（小） カリキュラム論（小）		○	○	○
特別活動の研究（中高）又は特別活動・総合的な学習の時間の指導法（中高） カリキュラム論（中高）				※2
教材研究（2019年度より初等教科教育法）		○ （いずれか2科目）	○ （いずれか2科目）	○ （いずれか2科目）
保育方法論	○	○		
保育内容の指導法（免許法規定の科目） ※3	○ （いずれか2科目）	○ （いずれか2科目）		

※1 この科目のみ、3 年次終了までに履修済みであればよい。
※2 2014年度までに「特別活動の研究」「カリキュラム論」を履修済みでない場合は、「特別活動の研究（小）」「カリキュラム論（小）」及び「特別活動の研究（中高）」「カリキュラム論（中高）」の履修が必要。ただし、「特別活動の研究（中高）」「カリキュラム論（中高）」は、3 年次終了までに履修済みであればよい。
※3 「幼児健康教育論」「表現教育論」「保育内容総論Ⅰ」「保育内容総論Ⅱ」の4 科目
注：上記の「教職に関する科目」と学科専門の必修科目が時間割上重なって履修できない場合は、「教職に関する科目」の時間割を変更できないため、各学科中央研究室ないし担当専任教員に相談すること。

3）学科の定める条件

各学科は、それぞれの学科の方針として、学科教育科目や教職課程以外の資格取得などの履修について、教育実習履修条件を定めることがあり、学生は所属学科の定めに従わなければなりません。

3. 登 録

教育実習及び教育実習事前事後指導（介護等体験を含む）を履修するには、以下の登録が必要となります。

1) 「教育実習予備登録票」提出

希望免許種類により、「教育実習予備登録票」の提出時期が異なります。教育実習事前指導①に出席後、教員面談を経てから担当教員に提出してください。（「8. 2020年度 教職課程年間予定」参照）
（中・中高免許希望者…2年次12月提出 小免許希望者…1年次12月提出）

2) 「教育実習事前事後指導」授業登録

授業登録は、該当する学生に自動的に登録されます。履修科目登録する必要はありません。各年次4月のWeb履修登録時に、履修する「教育実習事前事後指導」の科目名が正しく表示されているかを確認してください。

〈取得免許状の種類（中、中高、高）〉

登録年次	授業登録科目名	希望免許種類			備考
		中	中高	高	
2年次	「教育実習事前事後指導2(介護等体験)」	○	○		前年度、「介護等体験申込書」提出済みの学生
3年次	「教育実習事前事後指導1(3年次)」	○	○	○	前年度、「予備登録票」提出済みの学生のみ
4年次	「教育実習事前事後指導1」	○	○	○	

2019 年度入学者より適用

〈取得免許状の種類（小）〉 ※小中2免許取得希望者は、〈取得免許状の種類（中、中高、高）〉も確認すること

		希望免許種類	備考
登録年次	授業登録科目名	小	
2年次	「教育実習事前事後指導2（介護等体験）」	○	前年度、「介護等体験申込書」提出済みの学生
	「教育実習事前事後指導1(2年次)」	○	前年度、「予備登録票」提出済みの学生のみ
3年次	「教育実習事前事後指導1」	○	

2018 年度入学者まで適用

〈取得免許状の種類（小）〉

登録年次	授業登録科目名	希望免許種類				備考
		幼※	幼小※	小	小中	
2年次	「教育実習事前事後指導2（介護等体験）」		○	○	○	前年度、「介護等体験申込書」提出済みの学生
	「教育実習事前事後指導1(2年次)」	○	○	○	○	前年度、「予備登録票」提出済みの学生のみ
3年次	「教育実習事前事後指導1」	○	○	○	○	

※2017（平成29）年度入学者まで取得可能

3) 教育実習に関する費用納入

指定された期間に所定の費用（事前事後指導費用・実習校への実習費等）を西生田総務課に納入してください。なお、費用納入は分けて行うので、各回とも忘れずに納入してください。

これらの費用を定められた期間内に納入しない場合は、教育実習及び介護等体験を行うことはできません。納入期間、金額はその都度掲示でお知らせします。

4)「教育実習」授業登録

「教育実習」の授業登録は、実習開始年度4月に希望調査票及び教育実習受入内諾書等を基に、該当する免許状によって次のとおり自動的に登録されます。Web履修登録時に、履修する「教育実習」の科目名が正しく表示されているかを確認してください。「教育実習」の授業登録がされることをもって、実習の本登録とみなします。

ただし、科目等履修生は所定の手続きを行う必要がありますので、事前に西生田学務課 教務・資格係へ申し出てください。

【現代社会・社会福祉・教育・文化学科】（中・中高・高）					
登録年次	授業登録科目名	希望免許種類			実習内容
		中	中高	高	
4年次	教育実習Ⅰ（高校）			○	高等学校2週間
	教育実習（高校）		○ (いずれか)		高等学校3週間
	教育実習（中学校）	○			中学校3週間

【教育学科】（幼※1・幼小※1・小・小中※2）							
実習年次	授業登録科目名	希望免許種類					実習内容
		幼 ※1	幼小(幼) ※1	幼小(小) ※1	小	小中 ※2	
3年次 後期	教育実習（幼稚園）※	○	○				幼稚園3週間
	教育実習（小学校）			○	○	○	小学校3週間
4年次 前期	教育実習Ⅰ（幼稚園）※	○		○			幼稚園2週間
	教育実習Ⅰ（小学校）		○		○		小学校2週間
	教育実習Ⅰ（中学校）					○	中学校2週間

幼小（幼）…幼主コース 幼小（小）…小主コース

※1：2017（平成29）年度入学者まで取得可能
※2：2018（平成30）年度入学者まで適用
2019（平成31）年度入学者は、小学校での教育実習（3年次後期3週間＋4年次前期2週間）に加えて、中学校での教育実習（4年次前期3週間）となります。

5)登録に際しての注意事項

- ① 登録後の変更は認められません。また、登録後の取消や実習中止も原則として認められませんが、病気等やむを得ない理由で教育実習に参加できなくなった場合は、ただちに教育実習担当者及び西生田学務課 教務・資格係へ届け出て指示を受けてください。
- ② 事前・事後指導を1回でも欠席した場合は実習には参加できません。事前・事後指導の日程を勘案し、出席できない恐れがある場合は登録できません。
- ③ 教員免許状の取得を希望し、かつ留学を希望する場合は、早めに西生田学務課に相談すること。

4.「教育実習」成績評価の方法

実習校・園と大学との関連・総合評価とします。評価の資料は、第一に実習校の評価資料（幼小・中高実習）、第二に実習日誌が基本資料です。参考資料として、訪問指導の報告を用います。

5.「介護等体験」の履修について

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状に係る教育職員免許法の特例等に関する法律（介護等体験特例法）」の制定に伴い、1998（平成10）年度の入学者より、小学校・中学校の教職免許状を取得する場合に、特別支援学校（盲・ろう・養護学校）及び社会福祉施設において、7日間の介護等体験を行う事が義務付けられました。

1年次10月頃に、介護等体験の概要及び諸手続に関する説明会を行います。この説明会で「介護等体験申込書」及び「教育実習の手引き（介護等体験）」を配布しますので、小学校・中学校のいずれかの免許取得希望者は、必ず出席してください（幼稚園または高等学校のみの免許取得希望者は、出席する必要はありません）。

「介護等体験申込書」の提出、介護等体験費納入等必要手続きを全て行った学生についてのみ、神奈川県教育委員会及び社会福祉協議会に対して介護等体験先斡旋の依頼を行います。

介護等体験申し込み後の取り消しは認められません。いったん納入した介護等体験費は返金しません。たとえ教職課程の履修をとりやめる場合でも、申し込み後は介護等体験へは必ず参加しなければならないのでよく考えて申し込んでください。

6. 「教育実習事前事後指導」

科目「教育実習事前事後指導」は、下記の通り実施されます。日程は「8. 2020年度 教職課程年間予定」を参照すると同時に、年度当初に確定した日程を掲示（資格関係）により確認してください。

〔履修上の注意〕

1. 全回必ず出席すること。遅刻者の入室、途中退室、再入室は認めていません。
2. 無断欠席者は実習への参加を認めません。また、就職活動、クラブ活動、語学研修等の個人的な理由による欠席は一切認めません。当日、突発事故などが発生した場合や、急病等で欠席の場合は、西生田教職支援室 教職課程指導係にただちに電話連絡し、指示を受けてください。
3. 学校や幼稚園を訪問する際には、身だしなみや挨拶、言葉遣い等に気を付けてください。

「教育実習事前事後指導 1」

＜教職免許状取得希望者全員＞

項 目	内 容	時 期	
		中、中高、高	幼 ※1、 幼小 ※1、 小、小中※2
教育実習 事前指導①	1「教育実習の概要」「履修カルテの説明」 教育実習の概要とその必要性を理解し把握する。個別指導を行う。 教職に対しての不安・疑問等を明確にする。	2 年次 11 月	1 年次 11 月
	2「教育実習の意義」 現職教員の講演等により、現在の教職について状況を把握する。	3 年次 5 月	2 年次 5 月
	3「授業参観の準備」 授業参観を行うにあたって、授業研究の方法、参観の視点、実施後のレポートの書き方を学ぶ。	3 年次 7 月	
	4「教育実習の心構えと事前準備」 実習参加者の反省を聴くことで教育実習にむけての心構えとイメージを具体化する。		2 年次 11 月
教育実習 事前指導②	「授業参観」 教師、児童、生徒、授業に実際に触れ教育現場の現状を把握する。 （学外へ）	3 年次 8 ～ 9 月	
	「教育実習の準備」 教材研究の導入・学習指導案の書き方入門		2 年次 9 月
教育実習 事前指導③	「教育実習の実践的方法」 ・授業の方法（目線、発問、言葉遣い、板書の仕方等）、子どもとの接し方、見方を、現職教員の講演、マイクロティーチング等により学ぶ。 ・具体的な学習指導案の作成、教材研究の仕方、日誌の書き方等、より具体的な内容について理解する。（ワーク等を含む）	4 年次 4 月	3 年次 4 月、 ★ 3 年次 7 月 4 年次 4 月
	「教育実習への取り組み」 教材研究と学習指導案の作成等具体的な方法を総合的に理解し、教育実習にむけての準備を行う。		★ 3 年次 7 月は、 事前指導④部分 のみ
教育実習 事前指導④	「教育実習直前指導」（全体会＋学科別指導） 教育実習への心構えを持ち、教育実習に向けての 1 人 1 人の課題を明確にする。 ＜別途、事前にゼミ担当者による意志確認のための面談あり＞		
教育実習 事後指導	「教育実習反省会」 会得したこと、悩み、疑問を皆で考え、教育実習の反省を行う。	4 年次 7 月	3 年次 12 月、 4 年次 7 月

教
職

※1：2017（平成29）年度入学者まで取得可能

※2：2018（平成30）年度入学者まで適用

2019（平成31）年度入学者で、小中2免許取得希望者は、「小学校用」教育実習事前事後指導と「中高用」教育実習事前事後指導、両方の履修が必要です。

「教育実習事前事後指導 2（介護等体験）」

＜小学校・中学校教員免許状取得希望者のみ＞

項 目	内 容	時 期
介護等体験 事前指導①	「介護等体験の意義」「申込み説明会・個別指導」（10月）、「介護等体験の心構え」（12月） 介護等体験の意義について考え、教職を取得する心構えについて自己確認する。	1 年次 10 月 1 年次 12 月
介護等体験 事前指導②	「特別支援学校について」 特別支援学校での介護等体験を控え、特別支援学校についての知識を深めるとともに、現場の先生の講演等により現状認識を深める。	2 年次 4 月
介護等体験 事前指導③	「社会福祉施設について」 社会福祉施設での介護等体験を控え、各施設について知識を深めるとともに、社会福祉現場の方の講演等により現状認識を深める。	2 年次 6 月
介護等体験 事後指導	「反省会」 介護等体験について互いに反省を述べ合うことで体験内容をさらに深めると同時に、2回にわたる介護等体験を通して自らの心身の成長を再確認し、教職を取得する者として今後学ぶべきことを確認する。	2 年次 12 月

6

教育実習校における教育実習

1. 教育実習校

- 1) 原則として、「出身校・園」で行います。
- ただし、出身校・園が東京都内にある公立校・園の場合は、東京都教育委員会の定めにより原則として教育実習の受け入れが制限されています。出身校・園が東京都内の公立校・園でも、例外措置を受けられる場合もあります。なお、実習先は自己都合で変更できません。また、出身校以外の縁故校での実習も行いません。
- 2) 出身の学校・園が廃校・園となった場合、あるいは幼稚園教員免許状取得希望者（2017（平成29）年度入学者まで）で保育園出身などの場合は、相談してください。

2. 教育実習期間

教育実習期間は、実習校・園の指定により定められますが、本学における教育実習実施方法について下記のような時期を予定しています。実習時期・期間は自己都合では変更できません。実習校園の都合により変更することはあります。

取得希望免許	教育実習登録科目名	実習先	実習時期・実習期間
高等学校のみ	教育実習Ⅰ（高校）	高等学校	4年次前期・2週間（10日間）
中学校・高等学校	教育実習（中学校） 又は 教育実習（高等学校）	中学校 又は 高等学校	4年次前期・3週間（15日間）
中学校のみ	教育実習（中学校）	中学校	4年次前期・3週間（15日間）
2019年度入学者より 小学校・中学校	教育実習（小学校）	小学校	3年次後期・3週間（15日間）
	教育実習Ⅰ（小学校）		4年次前期・2週間（10日間）
	教育実習（中学校）	中学校	4年次前期・3週間（15日間）
2018年度入学者まで 小学校・中学校	教育実習（小学校）	小学校	3年次後期・3週間（15日間）
	教育実習Ⅰ（中学校）	中学校	4年次前期・2週間（10日間）
小学校のみ	教育実習（小学校）	小学校	3年次後期・3週間（15日間）
	教育実習Ⅰ（小学校）		4年次前期・2週間（10日間）
小学校・幼稚園（小主） ※	教育実習（小学校）	小学校	3年次後期・3週間（15日間）
	教育実習Ⅰ（幼稚園）※	幼稚園	4年次前期・2週間（10日間）
小学校・幼稚園（幼主） ※	教育実習（幼稚園）※	幼稚園	3年次後期・3週間（15日間）
	教育実習Ⅰ（小学校）	小学校	4年次前期・2週間（10日間）
幼稚園のみ ※	教育実習（幼稚園）※	幼稚園	3年次後期・3週間（15日間）
	教育実習Ⅰ（幼稚園）※		4年次前期・2週間（10日間）

※2017（平成29）年度入学者まで取得可能

3. 教育実習の注意事項

- 実習にあたっては、事前事後指導で配付する「教育実習の手引き」を必ず熟読してください。
- 教育実習は無断欠勤、遅刻、早退をしないこと。突発的な事故等でやむを得ず欠勤する場合は直ちに実習校園、学科の実習担当者及び西生田学務課または西生田教職支援室教職課程指導係へ電話連絡をして指示を受けてください。病気・引き等の場合は、大学へ電話連絡の上、実習校の指示に従ってください。
- 実習校園を訪問する際には、身だしなみや挨拶、言葉遣い等に気を付けてください。

- 1) 社会人として教員としての基本的な態度

- 社会人としてふさわしい服装（身だしなみ）、挨拶、言葉遣いで誰に対しても接する。挨拶をしてから退勤する。
- 欠勤・遅刻・早退は厳禁。出勤時に毎日、出勤簿へ押印する。
- 心身の健康（睡眠時間の確保、栄養バランスを考えた食事）を自己管理する。
- 実習期間中のアルバイト、就職活動、就職試験は厳禁。
- 提出物の期限を厳守、借用した教材等の返却を徹底する。
- 職務上の制限を自覚して行動する。
 - ・勤務時間中は実習に専念する。
 - ・信用を失うような行動はしない。
 - ・知り得た園児・児童・生徒や学校に関する情報等は、一切他に漏らさない。

- 2）実習校との打ち合わせを行い、教材研究、指導案の作成などの準備を十分に行う。
- 3）実習期間中は教育実習日誌を毎日記録する。

教育実習・介護等体験に関する情報倫理に反する内容をツイッターやフェイスブック、LINE等のソーシャルメディアに掲載することは厳に禁止する。

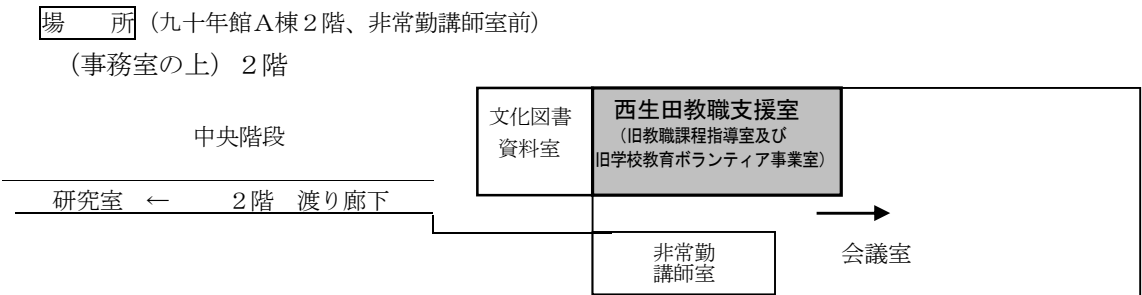
これが遵守されなかった場合は、教育実習（介護等体験を含む）及び教職実践演習の単位の修得を認めない等、厳正に処分する。なお、態様によっては、以上の処置をした上、学則に基づき懲戒を加えることもある。

充分に注意すること。

《西生田教職支援室（旧教職課程指導室及び旧学校教育ボランティア事業室）について》

2014年4月1日から教職課程指導室（西生田）と学校教育ボランティア事業室が統合され、西生田教職支援室となりました。

西生田教職支援室 教職課程指導係では、教職を志す学生に対して、指導及び相談を受け付けています。教職課程専門の担当者が勤務していますので、積極的に利用してください。



免許状は免許法に定める単位を修得し、卒業要件を充たした者が各都道府県教育委員会へ申請することによって初めて授与されます。各自が、4年次4月授業登録時に「履修の手引き」で、免許状取得に必要な単位が充たされているか必ず確認してください。（授与された免許状は再交付されないので、紛失しないよう厳重に注意してください。）

1. 一括申請

教育職員免許状は本来、本人が居住地の都道府県の教育委員会に授与を申請するものですが、特別な措置として大学は3月卒業時に免許状を必要とする学生のために各人の申請を代行して一括して免許状申請を行っています。一括申請による免許状は卒業式当日交付します。

一括申請の取扱を希望する者は、以下の手続を完了してください。

1) 教職免許状一括申請申込・修得単位調べ用紙提出、姓名等変更届出

4年次4月に配布する教職免許状一括申請申込・修得単位調べ用紙を、定められた期日までに記入して西生田学務課 教務・資格係へ提出してください。この際各自が、修得すべき単位が満ちているか、授業登録の洩れはないかどうか確認してください。また、姓名等に変更のある学生は届け出てください。

教職免許状一括申請申込・修得単位調べ用紙提出をもって一括申請申込とみなし、大学より神奈川県教育委員会への申請準備を開始します。

2) 一括申請説明会

4年次後期開始以降、「免許状一括申請説明会」を開催します。（2019年度は、9/20(金)・9/25(水)開催予定）

この会では、授与願の配布と記載事項の確認、免許申請の欠格事項に該当しないことの宣誓、署名等を行なうので、必ず本人が出席しなければなりません。

3) 費用

所定の費用を西生田総務課に納入してください。説明会に出席しない学生、費用を納入しない学生、または書類不備で受理されない学生は、一括申請の取り扱いはできません。

4) その他

一括申請のために必要な書類・手続、事務日程等については神奈川県の指示に従って、変更することがあるので掲示に注意してください。

2. 個人申請

一括申請手続をしなかった場合、本学以外で取得した単位（「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」の単位を除く）を使用して申請する場合（学士・編入学者など）、または卒業後に科目等履修生制度等によって所定単位を修得した場合等は、個人で申請手続をすることになります。

個人申請者は居住する都道府県の教育委員会で所定の授与願用紙の交付を受け、証明書を添えて、各自で申請します。ただし、教育委員会によって申請方法、申請書類が異なるので、よく確認の上、手続をしてください。

個人申請は卒業後いつでもできますが、多くの教育委員会では2月頃から4月頃の繁忙期には個人申請の受付を停止しています。（申請が遅れることで不利益をこうむらないよう、4月から教職に就く者は必ず一括申請の手続をしてください。）

個人申請の受付期間は各自所管の教育委員会へ問い合わせてください。

3. 教員免許更新制について

平成21年4月1日から教育職員免許状の制度が変わり、平成21年4月1日以降に初めて申請する教育職員免許状に、所要資格を得てから10年の有効期間がつき、免許状更新講習を30時間以上受講・修了が必要となります。また、改正前の免許状取得者にも更新制度の基本的な枠組みが適用されます。

詳しくは、文部科学省、各都道府県のHPを参照してください。

1. 幼※1、幼小※1、小、小中※2 免許状取得希望者（幼免のみ※は介護等体験なし）

※1：2017（平成29）年度入学者まで取得可能

※2：2018（平成30）年度入学者まで適用

2019（平成31）年度以降入学者で、小中2免許取得希望者は、「小学校用」教育実習事前事後指導と「中高用」教育実習事前事後指導、両方の履修が必要です。次項「2. 中、中高、高免許取得希望者」も確認すること。

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
3 月		3/31 教職課程履修ガイダンス	3/31 教職課程履修ガイダンス	
4 月	授業登録確認 「学校インターシップ I」	授業登録確認 「事前事後指導 1（2 年次）」 「学校インターシップ II」 説明会、オリエンテーション	健康診断受診	健康診断受診 教職免許状一括申請申込 修得単位調べ用紙提出 4/7～4/24
		健康診断受診 授業登録確認 「事前事後指導 2 （介護等体験）」 体験費納入	授業登録確認 「教育実習」 「事前事後指導 1」 教育実習費②納入	授業登録確認 「教育実習」 「教職実践演習」 教育実習費③納入
		4/9 介護等体験事前指導 （特別支援学校） 介護等体験開始 （特別支援学校） （5 月～翌年 2 月のうち 2 日）	4/23 教育実習事前指導③④ 実習直前指導 1 実習書類配付会	4/23 教育実習事前指導③④ 実習直前指導 実習書類配付会
		「学校インターシップ II」 事前指導		
5 月		5/14 教育実習事前指導①-1.2 教育実習内諾説明会 教育実習費①納入		
6 月・ 7 月	「学校インターシップ I」 オリエンテーション	6/4 介護等体験事前指導 （福祉施設） 介護等体験開始 （福祉施設） （7 月～翌年 3 月のうち 5 日）		教育実習 （2 週間）
		「学校インターシップ II」 事後指導・反省会	7/9 教育実習事前指導④ 実習直前指導 2	7/2 教育実習事後指導 「教育実習反省会」
8 月				
9 月	「学校インターシップ I」 事前指導	9/17 教育実習事前指導② 「教育実習の準備」		9/23,25 教職免許状一括申請説明会 免許状申請費納入 教職実践演習 開講 履修カルテの活用
10 月	10/22 介護等体験事前指導 合同指導・申込説明会		教育実習 （3 週間）	
11 月	11/12 教育実習事前指導①-1 個別面談・予備登録			
12 月	「学校インターシップ I」 事後指導・反省会	12/3 教育実習事前指導①-4 教育実習反省会聴講	12/3 教育実習事後指導 「教育実習反省会」	
	12/17 介護等体験事前指導 「介護等体験反省会聴講」	12/17 介護等体験事後指導 「介護等体験反省会」		
1 月				
2 月				
3 月				3/20 （卒業式当日） 教職免許状交付

介護等体験プログラム

日程・時間等詳細については変更になる場合がありますので、必ず資格掲示板を確認してください。

この日程は 2020 年度の日程です。2021 年度以降については、当該年度の履修の手引きを確認してください。

2. 中、中高、高免許取得希望者（高免のみは介護等体験なし）

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
3 月		3/31 教職課程履修ガイダンス	3/31 教職課程履修ガイダンス	
4 月				4/7～4/24 健康診断受診 教職免許状一括申請申込 修得単位調べ用紙提出 授業登録確認 「教育実習」 「事前事後指導 1」 「教職実践演習」 教育実習費②納入
		健康診断受診 授業登録確認 「事前事後指導 2 (介護等体験)」 体験費納入	授業登録確認 「事前事後指導 1(3 年次)」	
		4/9 介護等体験事前指導 (特別支援学校) 介護等体験開始 (特別支援学校) (5 月～翌年 2 月のうち 2 日)		4/23 教育実習事前指導③④ 実習直前指導 実習書類配付会
5 月			5/14 教育実習事前指導①-1.2 教育実習費①納入	
6 月		6/4 介護等体験事前指導 (福祉施設) 介護等体験開始 (福祉施設) (7 月～翌年 3 月のうち 5 日)		教育実習 (2～3 週間)
7 月			7/2 教育実習事前指導①-3.4 授業参観準備 教育実習反省会聴講	7/2 教育実習事後指導 「教育実習反省会」
8 月				
9 月			9/16～ 9/18の うち 1 日 教育実習事前指導② 「授業参観」	9/23,25 教職免許状一括申請説明会 免許状申請費納入 教職実践演習 開講 履修カルテの活用
10 月	10/22 介護等体験事前指導 合同指導・申込説明会			
11 月		11/12 教育実習事前指導①-1 個別面談・予備登録 教育実習内諾説明会		
12 月				
	12/17 介護等体験事前指導 「介護等体験反省会聴講」	12/17 介護等体験事後指導 「介護等体験反省会」		
1 月				
2 月				
3 月				3/20 (卒業式当日) 教職免許状交付

介護等体験プログラム

日程・時間等詳細については変更になる場合がありますので、必ず資格掲示板を確認してください。

この日程は 2020 年度の日程です。2021 年度以降については、当該年度の履修の手引きを確認してください。

1. 教育職員免許法（抜粋）

（種類）

第四条 免許状は、普通免許状、特別免許状及び臨時免許状とする。

- 2 普通免許状は、学校（中等教育学校を除く。）の種類ごとの教諭の免許状、及び養護教諭の免許状及び栄養教諭の免許状とし、それぞれ専修免許状、一種免許状及び二種免許状（高等学校教諭の免許状にあつては、専修免許状及び一種免許状）に区分する。

（授与）

第五条 普通免許状は、別表第一、別表第二若しくは別表第二の二に定める基礎資格を有し、かつ、大学若しくは文部科学大臣の指定する養護教諭養成機関において別表第一、別表第二若しくは別表第二の二に定める単位を修得した者又はその免許状を授与するため行う教育職員検定に合格した者に授与する。ただし、次の各号のいずれかに該当する者には、授与しない。

- 一 十八歳未満の者
- 二 高等学校を卒業しない者（通常の課程以外の課程におけるこれに相当するものを修了しない者を含む。）。ただし、文部科学大臣において高等学校を卒業した者と同等以上の資格を有すると認めた者を除く。
- 三 禁錮（こ）以上の刑に処せられた者
- 四 第十条第一項第二号又は第三号に該当することにより免許状がその効力を失い、当該失効の日から三年を経過しない者
- 五 第十一条第一項から第三項までの規定により免許状取上げの処分を受け、当該処分の日から三年を経過しない者
- 六 日本国憲法施行の日以後において、日本国憲法又はその下に成立した政府を暴力で破壊することを主張する政党その他の団体を結成し、又はこれに加入した者

- 7 免許状は、都道府県の教育委員会（以下「授与権者」という。）が授与する。

（効力等）

第九条 普通免許状は、その授与の日の翌日から起算して十年を経過する日の属する年度の末日まで、すべての都道府県（中学校及び高等学校の教員の宗教の教科についての免許状にあつては、国立学校又は公立学校の場合を除く。次項及び第三項において同じ。）において効力を有する。

（有効期間の更新及び延長）

第九条の二 免許管理者は、普通免許状又は特別免許状の有効期間を、その満了の際、その免許状を有する者の申請により更新することができる。

- 3 第一項の規定による更新は、その申請をした者が当該普通免許状又は特別免許状の有効期間の満了する日までの文部科学省令で定める二年以上の期間内において免許状更新講習の課程を修了した者である場合又は知識技能その他の事項を勘案して免許状更新講習を受ける必要がないものとして文部科学省令で定めるところにより免許管理者が認めた者である場合に限り、行うものとする。

2020 年度 教職に関する科目 授業科目表

◎教職免許状の種類により、必修科目・選択科目が異なります。履修すべき科目については、〔4. 履修の仕方〕をよく確認してください。なお、教育学科設置の科目と共通の科目（◆を付していない科目）についての履修条件等は教育学科の頁を参照してください。

※入学年次により適用される科目が異なるので、該当する頁を参照してください。

〔教職に関する科目〕（2018 年度入学者まで適用）

欄	授業科目名	担当者名	単位数	期	年次	備 考
第二欄	教職基礎論		必 2		1	閉講
	教職基礎論(幼小中高)	宮井 和恵 野田 不二夫	必 2	前期	1	教育学科 幼小中必修 ◆ 教育学科 中高選択必修 ◆ 教育学科の学生以外履修不可 「教職基礎論」の単位取得者は履修不可 2018 年度入学者適用の「教職基礎論(幼小中高)」と合同授業 2017 年度入学者まで履修可
	教職基礎論(小中高)	宮井 和恵 野田 不二夫	必 2	前期	1	教育学科 小中必修 ◆ 教育学科 中高選択必修 ◆ 教育学科の学生以外履修不可 「教職基礎論」の単位取得者は履修不可 2017 年度入学者まで適用の「教職基礎論(幼小中高)」と合同授業 2018 年度入学者のみ履修可
	教職基礎論(中高)	小関 祐之	必 2	前期	1	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科 中高必修 ◆ 教育学科 中高選択必修 ◆ 「教職基礎論」、「教職基礎論(幼小中高)」、「教職基礎論(小中高)」を履修中または単位取得者は履修不可
第三欄	教育学概論 I		必 2		1 ～	閉講
	教育学概論 I (幼小中高)	今井 康雄 渡辺 典子	必 2	前(後)	1 ～	教育学科 幼小中必修 教育学科 中高選択必修 教育学科の学生以外履修不可 「教育学概論 I」の単位取得者は履修不可 2018 年度入学者適用の「教育学概論(小中高)」と合同授業 2017 年度入学者まで履修可
	教育学概論 I (小中高)	今井 康雄 渡辺 典子	必 2	前(後)	1 ～	教育学科 小中必修 教育学科 中高選択必修 教育学科の学生以外履修不可 「教育学概論 I」の単位取得者は履修不可 2017 年度入学者まで適用の「教育学概論 I (幼小中高)」と合同授業 2018 年度入学者のみ履修可
	教育学概論 I (中高)	日暮 トモ子	必 2	後期	1 ～	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科 中高必修 教育学科 中高選択必修 「教育学概論 I」、「教育学概論 I (幼小中高)」、「教育学概論 I (小中高)」を履修中または単位取得者は履修不可
	教育心理学 I		必 2		1 ～	閉講
	教育心理学 I (幼小中高)	瀬尾 美紀子 魚崎 祐子	必 2	前(後)	1 ～	教育学科 幼小中必修 教育学科 中高選択必修 教育学科の学生以外履修不可 「教育心理学 I」の単位取得者は履修不可 2018 年度入学者適用の「教育心理学 I (小中高)」と合同授業 2017 年度入学者まで履修可
	教育心理学 I (小中高)	瀬尾 美紀子 魚崎 祐子	必 2	前(後)	1 ～	教育学科 小中必修 教育学科 中高選択必修 教育学科の学生以外履修不可 「教育心理学 I」の単位取得者は履修不可 2017 年度入学者まで適用の「教育心理学 I (幼小中高)」と合同授業 2018 年度入学者のみ履修可
	教育心理学 I (中高)	(未定)	必 2	後期	1 ～	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科 中高必修 教育学科 中高選択必修 「教育心理学 I」、「教育心理学 I (幼小中高)」、「教育心理学 I (小中高)」を履修中または単位取得者は履修不可
	教育社会学 I		必 2		1 ～	閉講

欄	授業科目名	担当者名	単位数	期	年次	備 考
第三欄	教育社会学Ⅰ（幼小中高）	荒牧 草平 藤村 朝子	必2	前(後)	1～	教育学科 幼小中必修 教育学科 中高選択必修 教育学科の学生以外履修不可 「教育社会学Ⅰ」の単位取得者は履修不可 2018年度入学者適用の「教育社会学Ⅰ（小中高）」と合同授業 2017年度入学者まで履修可
	教育社会学Ⅰ（小中高）	荒牧 草平 藤村 朝子	必2	前(後)	1～	教育学科 小中必修 教育学科 中高選択必修 教育学科の学生以外履修不可 「教育社会学Ⅰ」の単位取得者は履修不可 2017年度入学者まで適用の「教育社会学Ⅰ（幼小中高）」と合同授業 2018年度入学者のみ履修可
	教育社会学Ⅰ（中高）	中西 啓喜	必2	前期	1～	現代社会学科・社会福祉学科・文化学科 中高必修 教育学科 中高選択必修 「教育社会学Ⅰ」、「教育社会学Ⅰ（幼小中高）」、「教育社会学Ⅰ（小中高）」を履修中または単位取得者は履修不可
第四欄	カリキュラム論		必1		1	閉講
	カリキュラム論（小）	阿部 藤子	必2	後期	1	小学校必修 ◇ 「カリキュラム論」の単位取得者は履修不可 教育学科の学生以外履修不可
	カリキュラム論（中高）	阿部 藤子	必2	後期	1	中高必修 ◇ 「カリキュラム論」の単位取得者は履修不可
	社会科教育法Ⅰ	田部 俊充	選必2	前期	2	中学社会選択必修 ◆
	社会科教育法Ⅱ	寺尾 隆雄	選必2	後期	2	中学社会選択必修 ◆
	社会・地理歴史科教育法	寺尾 隆雄	必2	後期	2	中学社会・高校地歴必修 ◆
	社会・公民科教育法	小松 伸之	必2	後期	2	中学社会・高校公民必修 ◆
	地理歴史科教育法	池 俊介	必2	後期	2	高校地歴必修 ◆
	公民科教育法	小松 伸之	必2	後期	2	高校公民必修 ◆
	福祉科教育法Ⅰ		必2	通年	3	高校福祉必修 ◆ 2017年度入学者まで履修可 2020年度休講集中
	福祉科教育法Ⅱ		必2	通年	3	高校福祉必修 ◆ 2017年度入学者まで履修可 2020年度休講集中
	初等国語科教育法	宮井 和恵	必2	後期	2	小学校必修 ◇ 旧「国語科教材研究」
	初等社会科教育法	田部 俊充	必2	後期	2	小学校必修 ◇ 旧「社会科教材研究」
	初等算数科教育法	野田 不二夫 大谷 洋貴	必2	後期	2	小学校必修 ◇ 旧「算数科教材研究」
	初等理科教育法	五十嵐 敏文 森田 和良	必2	後期	2	小学校必修 ◇ 旧「理科教材研究」
	初等生活科教育法	芳賀 亮作	必2	後期	2	小学校必修 ◇ 旧「生活科教材研究」
	初等音楽科教育法	丸林 実千代	必2	前期	3	小学校必修 ◇ 旧「音楽科教材研究」
	初等図工科教育法	橋本 文恵	必2	前期	3	小学校必修 ◇ 旧「図工科教材研究」
	初等家庭科教育法	増茂 智子	必2	前期	3	小学校必修 ◇ 旧「家庭科教材研究」
	初等体育科教育法	柴崙 淳	必2	前期	3	小学校必修 ◇ 旧「体育科教材研究」
	道德教育の研究		必2		2	閉講
	道德教育の指導法（小）	小笠原 優子	必2	前期	2	小学校必修 ◆、「道德教育の研究」の単位取得者は履修不可 教育学科の学生以外履修不可 旧「道德教育の研究(小)」
	道德教育の指導法（中）	竹原 幸太	必2	後期	2	中学校必修 ◆、「道德教育の研究」の単位取得者は履修不可 旧「道德教育の研究(中)」
	特別活動の研究		必1		1	閉講
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法（小）	（ 未定 ）	必2	後期	1	小学校必修 ◆ 旧「特別活動の研究(小)」 「特別活動の研究」の単位取得者は履修不可 教育学科の学生以外履修不可
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法（中高）	（ 未定 ）	必2	後期	1	中高必修 ◆ 旧「特別活動の研究(中高)」 「特別活動の研究」の単位取得者は履修不可

欄	授業科目名	担当者名	単位数	期	年次	備 考
第四欄	教育工学		必2		1～	閉講
	教育方法・技術（小）	今野 貴之	必2	前期	1～	小学校必修、「教育工学」の単位取得者は履修不可 教育学科の学生以外履修不可 旧「教育工学(小)」
	教育方法・技術（中高）	辻 靖彦	必2	後期	1～	中高必修、「教育工学」の単位取得者は履修不可 旧「教育工学(中高)」
	カリキュラム論(幼稚園)		必2		1	閉講
	幼児健康教育論		必2		2	閉講
	幼児人間関係教育論		必2		3	閉講
	幼児環境教育論		必2		3	閉講
	幼児言語教育論		必2		3	閉講
	表現教育論		必2		2	閉講
	保育内容総論Ⅰ		必2		1	閉講
	保育内容総論Ⅱ		必2		1	閉講
	保育方法論		必2		1	閉講
	青少年指導論		必2		1～	閉講
	生徒指導・進路指導（小）	仲野 由佳理	必2	前期	1～	小学校必修 「青少年指導論」の単位取得者は履修不可 教育学科の学生以外履修不可 旧「青少年指導論(小)」
	生徒塩生・進路指導（中高）	林 明子	必2	後期	1～	中高必修 「青少年指導論」の単位取得者は履修不可 旧「青少年指導論(中高)」
	学校カウンセリング基礎論		必2		2	閉講
	学校カウンセリング基礎論(小)	井上 信子	必2	前期	2	小学校必修 ○ 「学校カウンセリング基礎論」の単位取得者は履修不可 教育学科の学生以外履修不可
	学校カウンセリング基礎論(中高)	井上 信子	必2	後期	2	中高必修 ○◇ 「学校カウンセリング基礎論」の単位取得者は履修不可
	学校カウンセリング基礎論(幼稚園)		必2		2	閉講
第五欄	教育実習事前事後指導 1	【現社】 上田 誠二 【社福】 永井 暁子 【教育】	必1		2・3 3・4	幼小中高必修 ◆＊ ・事前事後指導に全回出席しなければ単位は与えられない ・教育実習前年度より教育実習初年度まで開講される。 教育実習事前事後指導 1 は2年間で履修終了となる科目である。 履修初年度より連続して合格していなければ単位を与えない。
	教育実習事前事後指導 2 (介護等体験)	幼： 宮井 和恵 井上 信子	選必1		2	小中必修 ◆＊ ・事前事後指導に全回出席しなければ単位は与えられない 一部集中
	教育実習(中学校)	小： 野田 不二夫	選必4		4	◆＊ 取得する免許状により以下のとおり必修とする。 中……教育実習(中学校) 中高…教育実習(中学校)または教育実習(高校) 高……教育実習Ⅰ(高校) 幼……教育実習(幼稚園)・教育実習Ⅰ(幼稚園) 2017年度入学者まで履修可 幼小…教育実習(幼稚園)・教育実習Ⅰ(小学校)又は 教育実習(小学校)・教育実習Ⅰ(幼稚園) 2017年度入学者まで履修可 小……教育実習(小学校)・教育実習Ⅰ(小学校) 小中…教育実習(小学校)・教育実習Ⅰ(中学校)
	教育実習(高校)	清水 睦美	選必4		4	
	教育実習Ⅰ(高校)	齋藤 慶子 山下 絢	選必2		4	
	教育実習(小学校)	中高： 田部 俊充	選必4		3・4	
	教育実習(幼稚園)	荒牧 草平	選必4		3・4	
	教育実習Ⅰ(小学校)	野田 不二夫	選必2		4	
	教育実習Ⅰ(幼稚園)	介護等体験： 田中 雅文 丸林 実千代	選必2		4	
	教育実習Ⅰ(中学校)	宮井 和恵 【文化】 川崎 公平	選必2		4	
第六欄	教職実践演習(幼小)	宮井 和恵 加藤 ひとみ 小塚 麻衣	必2	後期	4	幼、幼小必修。小のみ選択必修 ◆＊ ・「教育実習Ⅰ」および「教育実習」を履修中または履修後でなければ履修不可 ・「教育実習Ⅰ」を辞退または不合格等の理由により、その単位を修得するに至らなかった場合(履修中の場合にあっては、辞退または不合格等により単位を修得するに至らないことが確定した時点で期首に遡って)、登録を削除する。 2017年度入学者まで履修可 「教職総合演習」履修済みの場合は履修不可。

欄	授業科目名	担当者名	単位数	期	年次	備 考
第六欄	教職実践演習(小中)	野田 不二夫 森田 弘文	必2	後期	4	小中必修 小のみ選択必修 ◆＊ ・「教育実習Ⅰ」および「教育実習」を履修中または履修後でなければ履修不可 ・「教育実習Ⅰ」を辞退または不合格等の理由により、その単位を修得するに至らなかった場合(履修中の場合にあっては、辞退または不合格等により単位を修得するに至らないことが確定した時点で期首に遡って)、登録を削除する。 「教職総合演習」履修済みの場合は履修不可。
	教職実践演習(中高)	山下 絢 寺尾 隆雄	必2	後期	4	中高必修 ◆＊ ・「教育実習Ⅰ」または「教育実習」を履修中または履修後でなければ履修不可 ・「教育実習Ⅰ」を辞退または不合格等の理由により、その単位を修得するに至らなかった場合(履修中の場合にあっては、辞退または不合格等により単位を修得するに至らないことが確定した時点で期首に遡って)、登録を削除する。 「教職総合演習」履修済みの場合は履修不可。
	教職実践演習(小)		必2		4	小のみ必修 ◆＊ 2018年度入学者より履修可 2020年度休講
【教育実習参加条件】取得する免許状により、以下の条件とする。						
＜中、中高、高は、3年次終了までに下記の①から③を履修済みのこと。＞						
(中) ①「教職基礎論」(2014年度まで開講)又は「教職基礎論(中高)」又は「教職基礎論(幼小中高)」(教育学科のみ)又は「教職基礎論(小中高)」(教育学科のみ)2単位、「教育学概論Ⅰ」(2014年度まで開講)又は「教育学概論Ⅰ(中高)」又は「教育学概論Ⅰ(幼小中高)」(教育学科のみ)又は「教育学概論Ⅰ(小中高)」(教育学科のみ)2単位、「教育心理学Ⅰ」(2014年度まで開講)又は「教育心理学Ⅰ(中高)」又は「教育心理学Ⅰ(幼小中高)」(教育学科のみ)又は「教育心理学Ⅰ(小中高)」(教育学科のみ)2単位、「教育社会学Ⅰ」(2014年度まで開講)又は「教育社会学Ⅰ(中高)」又は「教育社会学Ⅰ(幼小中高)」(教育学科のみ)又は「教育社会学Ⅰ(小中高)」(教育学科のみ)2単位。 ②「社会・地理歴史科教育法」2単位または「社会・公民科教育法」2単位のうちいずれか2単位。 ③「特別活動の研究」(2014年度まで開講)と「カリキュラム論」(2014年度まで開講)、又は「特別活動の研究(中高)」と「カリキュラム論(中高)」2科目2単位。						
(中高) ①「教職基礎論」(2014年度まで開講)又は「教職基礎論(中高)」又は「教職基礎論(幼小中高)」(教育学科のみ)又は「教職基礎論(小中高)」(教育学科のみ)2単位、「教育学概論Ⅰ」(2014年度まで開講)又は「教育学概論Ⅰ(中高)」又は「教育学概論Ⅰ(幼小中高)」(教育学科のみ)又は「教育学概論Ⅰ(小中高)」(教育学科のみ)2単位、「教育心理学Ⅰ」(2014年度まで開講)又は「教育心理学Ⅰ(中高)」又は「教育心理学Ⅰ(幼小中高)」(教育学科のみ)又は「教育心理学Ⅰ(小中高)」(教育学科のみ)2単位、「教育社会学Ⅰ」(2014年度まで開講)又は「教育社会学Ⅰ(中高)」又は「教育社会学Ⅰ(幼小中高)」(教育学科のみ)又は「教育社会学Ⅰ(小中高)」(教育学科のみ)2単位。 ②「社会・地理歴史科教育法」2単位または「社会・公民科教育法」2単位のうちいずれか2単位。 ③「特別活動の研究」(2014年度まで開講)と「カリキュラム論」(2014年度まで開講)、又は「特別活動の研究(中高)」と「カリキュラム論(中高)」2科目2単位。						
(高) ①「教職基礎論」(2014年度まで開講)又は「教職基礎論(中高)」又は「教職基礎論(幼小中高)」(教育学科のみ)又は「教職基礎論(小中高)」(教育学科のみ)2単位、「教育学概論Ⅰ」(2014年度まで開講)又は「教育学概論Ⅰ(中高)」又は「教育学概論Ⅰ(幼小中高)」(教育学科のみ)又は「教育学概論Ⅰ(小中高)」(教育学科のみ)2単位、「教育心理学Ⅰ」(2014年度まで開講)又は「教育心理学Ⅰ(中高)」又は「教育心理学Ⅰ(幼小中高)」(教育学科のみ)又は「教育心理学Ⅰ(小中高)」(教育学科のみ)2単位、「教育社会学Ⅰ」(2014年度まで開講)又は「教育社会学Ⅰ(中高)」又は「教育社会学Ⅰ(幼小中高)」(教育学科のみ)又は「教育社会学Ⅰ(小中高)」(教育学科のみ)2単位。 ②「社会・地理歴史科教育法」2単位、「社会・公民科教育法」2単位、「福祉科教育法Ⅰ」2単位のうち、希望免許に必要な、1科目2単位。 ③「特別活動の研究」(2014年度まで開講)と「カリキュラム論」(2014年度まで開講)、又は「特別活動の研究(中高)」と「カリキュラム論(中高)」2科目2単位。						
＜幼、幼小、小は、2年次終了までに下記の①から③を履修済みのこと。＞						
(幼) ①「教職基礎論」(2014年度まで開講)又は「教職基礎論(幼小中高)」又は「教職基礎論(小中高)」2単位、「教育学概論Ⅰ」(2014年度まで開講)又は「教育学概論Ⅰ(幼小中高)」又は「教育学概論Ⅰ(小中高)」2単位、「教育心理学Ⅰ」(2014年度まで開講)又は「教育心理学Ⅰ(幼小中高)」又は「教育心理学Ⅰ(小中高)」2単位、「教育社会学Ⅰ」又は「教育社会学Ⅰ(幼小中高)」又は「教育社会学Ⅰ(小中高)」2単位。 ②「保育方法論」2単位、規定科目の保育内容の指導法の科目よりいずれか2科目4単位。 ③「学校インターンシップⅠ」2単位。						
(幼小) ①「教職基礎論」(2014年度まで開講)又は「教職基礎論(幼小中高)」又は「教職基礎論(小中高)」2単位、「教育学概論Ⅰ」(2014年度まで開講)又は「教育学概論Ⅰ(幼小中高)」又は「教育学概論Ⅰ(小中高)」2単位、「教育心理学Ⅰ」(2014年度まで開講)又は「教育心理学Ⅰ(幼小中高)」又は「教育心理学Ⅰ(小中高)」2単位、「教育社会学Ⅰ」又は「教育社会学Ⅰ(幼小中高)」又は「教育社会学Ⅰ(小中高)」2単位。 ②「保育方法論」2単位、規定科目の保育内容の指導法の科目よりいずれか2科目4単位、教材研究よりいずれか2科目4単位。						

	③「学校インターンシップⅠ」2単位、「特別活動の研究」（2014年度まで開講）と「カリキュラム論」（2014年度まで開講）、又は「特別活動の研究（小）」と「カリキュラム論（小）」の2科目2単位。2011年度入学者までは「道德教育の研究」（2014年度まで開講）又は「道德教育の研究（小）」2単位。
(小)	①「教職基礎論」（2014年度まで開講）又は「教職基礎論（幼小中高）」又は「教職基礎論（小中高）」2単位、「教育学概論Ⅰ」（2014年度まで開講）又は「教育学概論Ⅰ（幼小中高）」又は「教育学概論Ⅰ（小中高）」2単位、「教育心理学Ⅰ」（2014年度まで開講）又は「教育心理学Ⅰ（幼小中高）」又は「教育心理学Ⅰ（小中高）」2単位、「教育社会学Ⅰ」又は「教育社会学Ⅰ（幼小中高）」又は「教育社会学Ⅰ（小中高）」2単位。 ② 教材研究よりいずれか2科目4単位。 ③「学校インターンシップⅠ」2単位、「特別活動の研究」（2014年度まで開講）と「カリキュラム論」（2014年度まで開講）、又は「特別活動の研究（小）」と「カリキュラム論（小）」の2科目2単位。
＜小中は、2年次終了までに下記の①から③を満たすこと。＞	
	①「教職基礎論」（2014年度まで開講）又は「教職基礎論（幼小中高）」又は「教職基礎論（小中高）」2単位、「教育学概論Ⅰ」（2014年度まで開講）又は「教育学概論Ⅰ（幼小中高）」又は「教育学概論Ⅰ（小中高）」2単位、「教育心理学Ⅰ」（2014年度まで開講）又は「教育心理学Ⅰ（幼小中高）」又は「教育心理学Ⅰ（小中高）」2単位、「教育社会学Ⅰ」（2014年度まで開講）又は「教育社会学Ⅰ（幼小中高）」又は「教育社会学Ⅰ（小中高）」2単位、教材研究よりいずれか2科目4単位。 ② 2012年度入学者より「学校インターンシップⅠ」2単位、「特別活動の研究」（2014年度まで開講）と「カリキュラム論」（2014年度まで開講）の2科目2単位又は「特別活動の研究（小）」と「カリキュラム論（小）」及び「特別活動の研究（中高）」と「カリキュラム論（中高）」の4科目4単位。ただし、「特別活動の研究（中高）」と「カリキュラム論（中高）」の2科目2単位は、3年次終了までに履修済であればよい。 ③ 3年次終了までに「社会・地理歴史科教育法」2単位または「社会・公民科教育法」2単位のうちいずれか2単位。

履修方法

- ◆…………卒業するために必要な単位に含めない科目
 - ◇…………教育学科学生を除き、卒業するために必要な単位に含めない科目
 - *…………科目等履修生は、本学卒業者、本学大学院修了者または本学大学院在學生に限る。
- 編入学者、学士入学者、科目等履修生等の教職総合演習、教職実践演習の履修については、文部科学省令に従い各自の前大学の修得単位及び単位認定により個別に指導を行う。

〔教職に関する科目（小学校）〕（2019 年度入学者より適用）

系列	授業科目名	担当者名	単位数	期	年次	備 考
教科の指導法に関する科目	初等国語科教育法	宮井 和恵	必 2	後期	2	◇
	初等社会科教育法	田部 俊充	必 2	後期	2	◇
	初等算数科教育法	野田 不二夫 大谷 洋貴	必 2	後期	2	◇
	初等理科教育法	五十嵐 敏文 森田 和良	必 2	後期	2	◇
	初等生活科教育法	芳賀 亮作	必 2	後期	2	◇
	初等音楽科教育法		必 2	前期	3	2020 年度休講 ◇
	初等図工科教育法		必 2	前期	3	2020 年度休講 ◇
	初等家庭科教育法		必 2	前期	3	2020 年度休講 ◇
	初等体育科教育法		必 2	前期	3	2020 年度休講 ◇
	初等外国語科教育法	海崎 百合子	必 2	後期	2	◇
教育の基礎的理解に関する科目	教育学概論Ⅰ（小）	今井 康雄 渡辺 典子	必 2	前（後）	1 ～	教育学科の学生以外履修不可
	教職基礎論（小）	宮井 和恵 野田 不二夫	必 2	前期	1	教育学科の学生以外履修不可
	教育社会学Ⅰ（小）	荒牧 草平 藤村 朝子	必 2	前（後）	1 ～	教育学科の学生以外履修不可
	教育心理学Ⅰ（小）	瀬尾 美紀子 魚崎 祐子	必 2	前（後）	1 ～	教育学科の学生以外履修不可
	特別支援教育（小）	平田 正吾	必 2	後期	1 ～	教育学科の学生以外履修不可
	カリキュラム論（小）	阿部 藤子	必 2	後期	1	教育学科の学生以外履修不可
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育の指導法（小）	小笠原 優子	必 2	前期	2	教育学科の学生以外履修不可
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法（小）	（ 未定 ）	必 2	後期	1	教育学科の学生以外履修不可
	教育方法・技術（小）	今野 貴之	必 2	前期	1 ～	教育学科の学生以外履修不可
	生徒指導・進路指導（小）	仲野 由佳理	必 2	前期	1 ～	教育学科の学生以外履修不可
	学校カウンセリング基礎論（小）	井上 信子	必 2	前期	2	教育学科の学生以外履修不可 ○
教育実践に関する科目	教育実習事前事後指導Ⅰ	【教育】 小：	必 1		2 ・ 3	◆＊
	教育実習事前事後指導Ⅱ（介護等体験）	野田 不二夫 清水 睦美	選必 1		2	◆＊
	教育実習（小学校）	齋藤 慶子 山下 絢	選必 4		3 ・ 4	2020 年度休講 ◆＊
	教育実習Ⅰ（小学校）	介護等体験： 田中 雅文 丸林 実千代 宮井 和恵	選必 2		4	2020 年度休講 ◆＊
	教職実践演習（小）		必 2	後期	4	2020 年度休講 ◆＊

教育実習参加条件 2 年次終了までに下記の①から③を履修済みのこと。
①「教職基礎論（小）」2 単位、「教育学概論Ⅰ（小）」2 単位、「教育心理学Ⅰ（小）」2 単位、「教育社会学Ⅰ（小）」2 単位
②初等教科教育法よりいずれか 2 科目
③「学校インターンシップⅠ」2 単位、「特別活動・総合的な学習の時間の指導法（小）」2 単位、「カリキュラム論（小）」2 単位

履修方法
◆……………卒業するために必要な単位に含めない科目
◇……………教育学科学生を除き、卒業するために必要な単位に含めない科目
＊……………科目等履修生は、本学卒業者、本学大学院修了者または本学大学院在學生に限る。

〔教職に関する科目（中高）〕（２０１９年度入学者より適用）

系列	授業科目名	担当者名	単位数	期	年次	備 考
教科の指導法に関する科目	社会科教育法Ⅰ	田部 俊充	必２	前期	２	中学校社会科必修 ◆
	社会科教育法Ⅱ	寺尾 隆雄	必２	前期	２	中学校社会科必修 ◆
	社会・地理歴史科教育法	寺尾 隆雄	必２	後期	２	中学校社会科・高等学校地理歴史科必修 ◆
	社会・公民科教育法	小松 伸之	必２	後期	２	中学校社会科・高等学校公民科必修 ◆
	地理歴史科教育法	池 俊介	必２	後期	２	高等学校地理歴史科必修 ２◆
	公民科教育法	小松 伸之	必２	後期	２	高等学校公民科必修 ◆
教育の基礎的理解に関する科目	教育学概論Ⅰ（中高）	日暮 トモ子	必２	後期	１～	◆
	教職基礎論（中高）	小関 祐之	必２	前期	１	◆
	教育社会学Ⅰ（中高）	中西 啓喜	必２	前期	１～	◆
	教育心理学Ⅰ（中高）	（ 未定 ）	必２	後期	１～	◆
	特別支援教育（中高）	平田 正吾	必２	後期	１～	◆
	カリキュラム論（中高）	阿部 藤子	必２	後期	１	◆
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育の指導法（中）	竹原 幸太	必２	後期	２	中学校必修 ◆
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法（中高）	（ 未定 ）	必２	後期	１	◆
	教育方法・技術（中高）	辻 靖彦	必２	後期	１～	◆
	生徒指導・進路指導（中高）	林 明子	必２	後期	１～	◆
	学校カウンセリング基礎論（中高）	井上 信子	必２	後期	２	◆
教育実践に関する科目	教育実習事前事後指導Ⅰ	【現社】 上田 誠二	必１		３・４	2020年度休講 ◆＊
	教育実習事前事後指導Ⅱ（介護等体験）	【社福】 永井 暁子	選必１		２	中学校必修 ◆＊
	教育実習（中学校）	【教育】 中高：	選必４		４	中学校および中学校・高等学校免許状取得希望者対象 2020年度休講 ◆＊
	教育実習（高校）	田部 俊充 荒牧 草平	選必４		４	中学校・高等学校免許状取得希望者対象 2020年度休講 ◆＊
	教育実習Ⅰ（高校）	野田 不二夫 介護等体験： 田中 雅文 丸林 実千代 宮井 和恵	選必２		４	高等学校免許状取得希望者対象 2020年度休講 ◆＊
		【文化】 川崎 公平				
	教職実践演習（中高）		必２	後期	４	2020年度休講 ◆＊

教育実習参加条件 ３年次終了までに下記の①から③を履修済みのこと。
 ①「教職基礎論（中高）」２単位、「教育学概論Ⅰ（中高）」２単位、「教育心理学Ⅰ（中高）」２単位、「教育社会学Ⅰ（中高）」２単位
 ②「社会・地理歴史科教育法」２単位または「社会・公民科教育法」２単位のうち、いずれか２単位
 ③「特別活動・総合的な学習の時間の指導法（中高）」２単位、「カリキュラム論（中高）」２単位

履修方法
 ◆……………卒業するために必要な単位に含めない科目
 ◇……………教育学科学生を除き、卒業するために必要な単位に含めない科目
 ＊……………科目等履修生は、本学卒業者、本学大学院修了者または本学大学院在學生に限る。

履修にあたって

司書は、図書館法に規定された図書館における専門的職員の資格です。その専門性は、図書館の利用者の要求に応じて、資料の収集や整理・分類を行い、各種の情報を確実に伝えていくところにあります。図書館法は、地方自治体が設立した図書館（公立図書館。一般には公共図書館）、一般社団・財団法人が設立した図書館（私立図書館）を対象としていますので、直接的には、これらの図書館の専門的職員の国家資格ということになります。一方、大学の図書館（大学図書館）や企業の図書館（専門図書館）では、専門的職員のための国家資格がないため、司書資格の取得をもって、図書館に関する知識・技能の目安とすることが多いです。したがって、いかなる図書館であれ、専門的に関わっていくための基礎的な資格という性格も実質的に併せ持っています。

図書館は、生涯学習の中核施設としてさらに機能していくことが求められます。図書館が機能していくことで、利用者が、自らの人格を高め、使命を見出し、全身全霊を尽くして前進（「信念徹底」）し、各自の創造的能力の尊重と開発に努める（「自発創生」）ようになります。そして、より良い社会をつくるための連帯感と協調を図る（「共同奉仕」）ことが可能になっていきます。

本学では、司書を得ようとする者のために、図書館法施行規則の規定に基づき、別記のとおり司書に関する科目を置きます。その方針は上記の理念・目的を実現するためのものであり、具体的には、図書館のあり方と意義を理解するための科目と、さまざまな媒体に存在する資料を整理し、探し出し、提供できるようするための技能を習得するための科目を編成・提供します。

司書課程に関する連絡事項は、西生田学務課掲示板[資格課程]または JASMINE-Navi で通知します。

司書の資格を取得するためには、司書に関する科目群について、所定の単位を修得しなければなりません。

規 定 科 目		最低 修得 単位数	本学の該当科目	最低 修得 単位数	備 考
必修科目 (甲群)	生涯学習概論	2	生涯学習概論Ⅰ 生涯学習概論Ⅱ	※2 ※2	どちらか1科目選択必修 (両方履修してもよい)
	図書館概論	2	図書館概論	2	◆
	図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2	◆
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2	◆
	図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2	◆
	情報サービス論	2	情報サービス論	2	◆
	児童サービス論	2	児童サービス論	2	◆
	情報サービス演習	2	情報サービス演習Ⅰ	2	◆
			情報サービス演習Ⅱ	2	◆
	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2	◆
	情報資源組織論	2	情報資源組織論	2	◆
	情報資源組織演習	2	情報資源組織演習	4	◆
選択科目 (乙群)	図書館基礎特論	1	図書館基礎特論	2	◆
	図書館サービス特論	1			
	図書館情報資源特論	1	図書館情報資源特論	2	◆
	図書・図書館史	1			
	図書館施設論	1			
	図書館総合演習	1			
	図書館実習	1			
計		24	本学最低修得単位数	30	

【履修上の注意】

- 1) 必修科目 12 科目 26 単位、選択科目 2 科目 4 単位を履修しなければなりません。
- 2) ◆印は、卒業するために必要な単位に含めない授業科目。
※・・・いずれか選択必修
- 3) 編入学者・学士入学者は、必ず履修科目登録前に西生田学務課 教務・資格係に申し出てください。

2020 年度 司書に関する科目 授業科目表

◎学科設置の科目と共通の科目 [◆を付していない科目]についての履修条件等は、各提供学科の頁を参照。

系列		授 業 科 目 名	担当者名	単位数	期	年次	備 考	提供学科
甲 群	基礎科目	生涯学習概論Ⅰ	田中 雅文	選必2	前期	1 ～	教育学科と共通	教育
		生涯学習概論Ⅱ	田中 雅文	選必2	後期	1 ～	教育学科と共通	
		図書館概論	木村 麻衣子	必2	後期	1 ～	履修初年度に履修することが望ましい。	◆
		図書館制度・経営論	大谷 康晴	必2	後期	2 ～		
		図書館情報技術論	中島 玲子	必2	前期	3 ・ 4		
	図書館サービスに関する科目	図書館サービス概論	高田 淳子	必2	後期	1 ～		
		情報サービス論	高田 淳子	必2	後期	2 ～		
		児童サービス論	伊藤 明美	必2	後期	2 ～		
		情報サービス演習Ⅰ	栗原 智久	必2	後期	3 ・ 4		
		情報サービス演習Ⅱ	中島 玲子	必2	前期	3 ・ 4		
	図書館情報資源に関する科目	図書館情報資源概論	三日市 紀子	必2	後期	1 ～		◆
		情報資源組織論	三日市 紀子	必2	前期	2 ～		
		情報資源組織演習	三日市 紀子	必4	通年	3 ・ 4		
乙 群		図書館基礎特論	木村 麻衣子	必2	後期	2 ～		◆
		図書館情報資源特論	木村 麻衣子	必2	前期	2 ～		◆

司書

- 履修方法
- ・「生涯学習概論Ⅰ」または「生涯学習概論Ⅱ」のうち1科目を選択必修とします。
それ以外の科目は全て履修しなければなりません。
 - ・乙群は「図書館基礎特論」と「図書館情報資源特論」の2科目を両方とも履修しなければなりません。
 - ・◆印は、卒業するために必要な単位に含めない授業科目です。

履修にあたって

司書教諭とは、学校図書館の職務をつかさどる専門職であり、学校図書館への配置が学校図書館法に明記されています。司書教諭は、学校図書館を活用した学習指導や情報活用能力の育成といった教師としての役割や、多様なメディアに精通し、それらを収集・整理・保存・提供するメディアスペシャリストとしての役割を担います。それらの役割を担うための素養を身に付けることが本学司書教諭課程の目的です。

学校図書館を活用した学習には、児童・生徒の意欲や自発性、協調性（グループワークの際等）が求められます。それらは、「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」という本学の教育理念と通底しています。本学の教育理念を踏まえた意欲ある学生に、司書教諭としての基礎を教育することが本課程の理念です。

本学では、司書教諭となる資格を得ようとする者のために、上記の理念・目的に即した実践的な学修ができるよう、学校図書館司書教諭講習規程に基づき、別記のとおり司書教諭科目をおいています。

1 司書教諭課程の履修について

小学校・中学校・高等学校の学校図書館において専門的職務に従事する司書教諭の資格を得るためには、小学校、中学校、高等学校いずれかの、教諭の普通免許状を取得し、かつ司書教諭に関する科目について、所定の単位を修得しなければなりません。従って、本学部の場合、心理学科を除く4学科所属で、小学校あるいは中学社会、高校公民、高校地理歴史の教員免許状の取得を期する学生のみ希望が可能です。

規 定 科 目		単位数	本学該当科目 全科目必修	単位数	備 考
必修	学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	◆
	学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2	◆
	学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	◆
	読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	◆
	情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2	◆
	計	10		10	

【履修上の注意】

- ◆ …卒業するために必要な単位に含めない科目
- ・編入学者・学士入学者は、必ず履修科目登録前に西生田学務課 教務・資格係に申し出てください。

2

司書教諭申請について

司書教諭申請の取扱いを希望する学生は、4年次4月以降、以下の手続を完了してください。

1. 司書教諭申請申込・修得単位調べ用紙提出
- 4年次4月、「司書教諭申請申込・修得単位調べ用紙」を定められた期日までに提出してください。
この際各自が、修得すべき単位が充足しているかどうか確認してください。（用紙は西生田学務課で
配付しますので、希望者は各自受取りに来てください。）
「司書教諭申請申込・修得単位調べ用紙」提出後、資格取得をとり止めた学生は、直ちに西生田学
務課に届け出てください。

2. 書類記入会
- 4年次に司書教諭申請の書類記入会を行います。単位の修得状況により、以下の2通りの申請方法
があり、年1回（例年夏頃）の申請受付にむけ、それぞれ説明会を開催します。定められた日に必ず
本人が出席してください。

	書類記入会 (申請申し込み) 日程	対 象 者	司書教諭講習修了証書 交付時期
①	前期 4年次6月（予定）	大学に2年以上在学し62単位以上修得し、なおかつ3 年次修了までに司書教諭に関する科目を全科目修得 した者	卒業式当日各学科より 交付（予定）
②	後期 4年次9月（予定）	4年次修了の時点で司書教諭に関する科目を全科目 修得する見込みの者	卒業した翌年の4月頃 文部科学省より交付さ れたものを西生田学務 課より送付

※ ただし、①、②の場合とも、教員免許状を取得後、初めて、司書教諭の資格としての効力が生じます。

3. 費 用
- 所定の費用を西生田総務課に納入してください。
※司書教諭申請申込・修得単位調べ用紙を提出しない学生、説明会に出席しない学生、費用を納入
しない学生、または書類不備で受理されない学生は、司書教諭申請の取扱いはできません。

司書教諭課程に関する連絡事項は、西生田学務課掲示板(資格課程)または JASMINE-Navi で通知します。

2020 年度 司書教諭に関する科目 授業科目表

系列	授 業 科 目 名	担当者名	単位数	期	年次	備 考
	学校経営と学校図書館	後藤 敏行	必2	通年	2～	集中授業 8月12・13・14・日 目白地区開講 ◆
	学校図書館メディアの構成	松本 美智子	必2	後期	2～	◆
	学習指導と学校図書館	松本 美智子	必2	後期	2～	◆
	読書と豊かな人間性	中山 美由紀	必2	通年	2～	集中授業 8月17・18・19日 目白地区開講 ◆
	情報メディアの活用	木村 麻衣子	必2	通年	2～	集中授業 9月7・8・9日 目白地区開講 ◆

履修方法
・ 司書教諭の資格を取得する場合は、小学校、中学校、高等学校の教諭のいずれかの免許状の取得が必要です。
・ ◆ 印は卒業するために必要な単位に含めない授業科目です。

司書教諭

Ⅳ

博物館学芸員課程

履修にあたって

博物館学芸員課程は、卒業後博物館学芸員の職に就くにあたって必要な資格を取得するための、博物館学芸員養成の課程です。履修学生には、単に資格取得のためだけに履修するのではなく、博物館学芸員課程の実をあげるとともに、博物館に対する認識を深めることを期待します。

本学では、博物館学芸員養成教育を特に重視しています。実際に学芸員になるためには、専門とする分野を深く学び、基礎的な教養を身につける必要があります。履修学生は、自分の専門とする分野について深く学び、基礎科目を身につけるとともに、博物館法施行規則に基づく博物館学芸員にかかわる授業科目の十分な理解と修得を目指します。

1

博物館に関する科目

規 定 科 目		単位数	本学部の該当科目	単位数	備 考
必修	生涯学習概論	2	生涯学習概論Ⅰ 生涯学習概論Ⅱ	※2 ※2	どちらか1科目を選択必修 (両方履修してもよい)
	博物館概論	2	博物館概論	2	◆
	博物館経営論	2	博物館経営論	2	◆
	博物館資料論	2	博物館資料論	2	◆
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	◆
	博物館展示論	2	博物館展示論	2	◆
	博物館教育論	2	博物館教育論	2	◆
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	◆
	博物館実習	3	博物館実習	3	◆
計		19	本学修得単位数計	19	

学

芸

員

規 定 科 目		単位数	本学部の該当科目	単位数	備 考
選 択	文 化 史	2 系列 以上 に わ た り 2 科 目 以 上 8 単 位 以 上 を 履 修 す る こ と	地域文化史Ⅲ	2	} 文化学科の学生に限り履修できる 2016年度からの履修に限る 2016年度からの履修に限る
			地域文化史Ⅳ	2	
			視覚文化史Ⅰ	2	
			視覚文化史Ⅱ	2	
			文化交流史Ⅰ	2	
			文化交流史Ⅱ	2	
			文化論Ⅰ：地域	2	
			文化論Ⅴ：比較	2	
			比較文化史Ⅰ	2	
			比較文化史Ⅱ	2	
			現代生活論Ⅲ	2	
			現代生活論Ⅳ	2	
	美 術 史		文化論Ⅲ：視覚	2	} 文化学科の学生に限り履修できる 2017年度からの履修に限る 2017年度からの履修に限る
			文化論Ⅳ：視覚	2	
			芸術文化史Ⅰ：西洋	2	
			芸術文化史Ⅱ：日本	2	
			比較芸術	2	
			表象文化論a	2	
			表象文化論b	2	
			表象文化論c	2	
			視覚芸術論Ⅰ	2	
			視覚芸術論Ⅱ	2	
			現代芸術論Ⅰ	2	
			現代芸術論Ⅱ	2	
	民 俗 学		文化人類学Ⅰ	2	
			文化人類学Ⅱ	2	
			民俗学Ⅰ	2	
			民俗学Ⅱ	2	

◆ …卒業するために必要な単位に含めない科目

2 履修上の注意

1. 本学部において学芸員の資格を得ようとする場合は、必修科目のほか、選択科目より2系列以上にわたり2科目以上8単位以上を履修しなければなりません。ただし、反復履修によって得られた単位はこの単位に数えられません。
2. 博物館実習の履修条件
(2012年度入学者より)
「博物館実習（3年次）」は、
「博物館概論」、「博物館経営論」、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」、「博物館展示論」の計10単位を履修済みまたは履修中でなければなりません。
「博物館実習（4年次）」は、
「博物館概論」、「博物館経営論」、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」、「博物館展示論」の計10単位を履修済みで、かつ、「博物館実習（3年次）」に合格しなければ、履修できません。
3. 編入学者・学士入学者は、必ず履修科目登録前に西生田学務課 教務・資格係に申し出てください。
4. 科目等履修生として博物館に関する科目を履修できる者は、本学卒業者、本学大学院修了者または本学大学院在学学生に限ります。

3 博物館実習について

博物館実習は、3年次前期より4年次後期にわたって開講され、その単位は4年次後期終了時に認定されます。2年にわたって連続して履修しなければ単位は与えられません。

博物館実習の単位には事前事後指導を含みます。博物館実習事前指導・事後指導等に全出席しなければ単位は与えられません。また事前事後指導への遅刻入室は認めません。

博物館実習に関して必要な事柄及び変更については（館園からの連絡も含めて）、掲示板またはJASMINE-Navi等で通知します。これらに注意し、呼び出しには直ちに応じて下さい。

1. 博物館実習（3年次）

「博物館実習（3年次）」は、毎週2時間（通年）の講義と夏季休暇中及び授業期間の休日等の集中授業とし、集中授業は、30時間相当の見学等を行います。

(1) 「博物館実習（3年次）」授業について

- 1) 「博物館実習（3年次）」は、第一週目の授業に必ず出席してください。この時必ず、受講カードを担当者に提出してください。
- 2) 「博物館実習（3年次）」の集中授業は、大学の定める期間に30時間相当の見学等を夏季休暇中、または授業期間の休日等に行います。なお、教育実習の事前指導（授業参観）、介護等体験、夏期集中授業等を履修予定の者は、「博物館実習（3年次）」の日程と重ならないように注意してください。日程については4月始業日に掲示を必ず確認してください。

(2) 履修手続（授業科目登録・実習登録）

博物館実習を履修しようとする者は、3年次4月の授業科目登録期間に、学科でのガイダンス等を受けた上で、授業科目「博物館実習（3年次）」を登録画面で、学科等の科目とともに入力してください。登録後は、正確に科目が表記されているか各自、確認してください。これをもって、博物館実習登録とします。博物館実習の授業科目登録手続を期間内に完了しない者は、博物館実習を履修することはできません。前期の授業科目登録期間後の変更及び追加、取消は、いかなる理由があっても受け付けません。

(3) 実習費納入

3年次の指定された期間に、所定の実習費を西生田総務課に納入してください。

実習費を納入しない者は、博物館実習を履修することはできません。なお、一旦納入した実習費は返金しません。

2. 4年次博物館実習に向けての手続（3年次）

4年次に行われる博物館実習の実習施設は、原則として学生各自が交渉して内諾を得てくるものとします。4年次に問題なく実習を行うためには、3年次の間に各自で館園との交渉を進めなければなりません。

第1回博物館実習事前指導にて実習館園を決めるための資料配布と詳しい説明がありますので、指導のもとに各自で実習施設を決定してください。

①実習施設について

実習は、成瀬記念館、博物館法による登録博物館または博物館相当施設（大学でこれに準ずると認めた施設を含む）及び独立行政法人国立博物館で行うものとします。

これ以外の施設での実習は認めません。

②実習期間及び日程について

「博物館実習（4年次）」の実習期間は原則として夏季休暇中の1週間（6日以上）としますが、実習施設の指定により実施します。実習施設より1週間を超える期間を指示された場合はこれに従います。

また、実習日程は、実習施設の指示通りとします。学生の都合による変更等は認めません。

ただし、「博物館実習」と同年度内に、「教育実習」または「日本語教育実習」を履修する場合は、原則として「博物館実習」は夏季休暇以降とします。

なお、就職試験、公務員試験、大学院入学試験等を受験する予定のある者は、博物館実習が優先となりますので注意してください。

(1) 実習希望館園見学

学生は3年次の夏季休暇中に各自で実習を希望する館園を複数館見学し、候補を決めます。

希望の館園が決まり次第、図書館等で日本博物館協会編「全国博物館園職員録」を参照し、実習を希望する館園が博物館法によるものであることを確認してください。それ以外の館園での実習を希望する場合は、西生田学務課に相談してください。

また、本学の学生が博物館実習を行ったことのない館園（新規館園）を希望した場合は、事前に、館の資料を持参の上、西生田学務課に申し出てください。希望する館園が新規館園かどうかは、第1回事前指導時に配布される資料を参照してください。

(2) 「博物館実習希望票」及び「身上書」（専攻、希望理由等）の提出について

各自で実習を希望する館園決定後、「博物館実習希望票」、「身上書」を記入し、指定された期日までに西生田学務課に提出してください。

(3) 博物館実習館園決定まで

提出された「博物館実習希望票」をもとに、博物館実習担当者が人数の調整等を行います。調整結果については、掲示で通知します。

希望館園の決定後、学生各自で大学からの紹介状を持って館園を訪問します。

なお、実習館園決定までは、調整結果の発表、館園の都合による変更等掲示で通知しますので、掲示には注意し、呼出しには直ちにに応じてください。

(4) 内諾交渉状況報告及び履歴書の提出

希望した館園から内諾を得られ次第、西生田学務課へ必要事項（依頼状等必要書類、宛先、その他館から指示された事項）を届け出てください。内諾を届け出た学生については、大学より館園へ正式に依頼状を送付します。

内諾を得られない場合も、3年次の1月末までに、内諾交渉の状況を西生田学務課へ報告してください。

履歴書は、内諾の有無に関わらず、指定された提出期限までに提出してください。館園への提出用となるので、大学生協で販売の「日本女子大学履歴書・自己紹介書」（校章入り・A4判）に丁寧に記入・写真を貼付の上、提出してください。

館園からの回答をもって、4年次博物館実習の実習施設決定となります。

※内諾の届け出は、学生自身が西生田学務課へ報告するものであって、先方の実習館園に書いていただいたり印をいただいたりするものではありません。

※実習内容や実習期間について不明な点がある場合は、必ず締め切り日以前に西生田学務課へ相談に来てください。

3. 博物館実習（4年次）

（1）履修手続

1) 授業科目登録

実習履修条件となっている科目（2012年度入学者より）5科目を修得し、かつ「博物館実習（3年次）」に合格した学生に限り、次年度に授業科目「博物館実習（4年次）」が自動登録されます。（ただし、科目等履修生は所定の手続を行ってください。）

その後定められた期間に、Web履修登録画面上に、登録した科目が正確に表記されているか、各自確認してください。

2) 修得単位調べ用紙の提出

4年次4月に配布する「博物館に関する科目」修得単位調べ用紙を、定められた期日までに提出してください。この際各自が、修得すべき単位数が足りているか、授業科目登録の洩れはないかを確認してください。

3) 健康診断

4年次4月の健康診断を必ず受診してください。

（2）実習費納入

4年次の指定された期間に、所定の実習費を西生田学務課に納入してください。

実習費を納入しない者は、博物館実習を履修することはできません。なお一旦納入した実習費は返金しません。

（3）実習事務手続

1) 第5回事前指導時に、各自に「実習日誌」及び必要書類を配布します。

これらの書類をすべて、実習時に実習館園に持参してください。ただし、館より送付の依頼があった場合、大学より送付しますので、西生田学務課に提出してください。

2) 実際に実習に行く前に、事前指導で配布される「4年次博物館実習の心得」をよく読んでおいてください。

3) 実習参加中は、館園の指導に従ってください。

（4）博物館実習事後指導（反省会）

実習終了後、「博物館実習事後指導（反省会）」がありますので、出席してください。

その際、実習日誌を持参して、担当者に提出してください。

この「博物館実習事後指導（反省会）」への出席をもって、博物館実習の終了とします。

4

その他

編入学者・学士入学者・転学科者及び留学希望者は西生田学務課教務・資格係に事前に申し出てください。

博物館学芸員課程に関する連絡事項は、西生田学務課の掲示板(資格課程)または JASMINE-Navi で通知します。

1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
3 ・ 4 月		3/31 博物館学芸員課程 履修ガイダンス		3/31 博物館学芸員課程 履修ガイダンス		健康診断受診	
		4/14 ～16 Web 履修登録画面の 資格予備調査に回答 (授業登録期間内)		4/14 ～16 Web 履修登録画面で「博物 館実習（3 年次）」授業科 目登録・確認		4/7 ～24 博物館に関する科目 修得単位調べ用紙の提出	
5 月						5/9 決定次第 随時 博物館実習事前指導④ 実習費（4 年次）納入期間	
6 月				6/6 博物館実習事前指導① 6/8 ～15 実習費納入期間		6/6 博物館実習事前指導⑤ 書類説明会	
7 月				〈博物館実習希望館園を 見学し、各自4年次実習館 園を決定する〉		〈博物館実習〉	
8 月							
9 月					9/19, 21 博物館実習希望票提出		
10 月				10/10 博物館実習事前指導②		10/24 博物館実習事後指導 (反省会)	
11 月				11/7 博物館実習事前指導③			
12 月							
1 月				1/8 博物館実習館園交渉状況 報告、履歴書提出締切			
2 月							
3 月							

※日程等は変更する場合がありますので、掲示に注意してください

2020 年度 博物館に関する科目 授業科目表

◎学科設置の科目と共通の科目（◆を付していない科目）についての履修条件等は各提供学科の頁を参照してください。

	授 業 科 目 名	担当者名	単位数	期	年次	備 考	提供 学科
必 修	生涯学習概論Ⅰ	田中 雅文	選必2	前期	1～		教育
	生涯学習概論Ⅱ	田中 雅文	選必2	後期	1～		
	博物館概論	古川 元也	必2	前期	1～	◆	
	博物館経営論	古川 元也	必2	後期	2・3	◆	
	博物館資料論	古川 元也	必2	前期	2・3	◆	
	博物館資料保存論	角田 拓朗	必2	後期	2・3	◆	
	博物館展示論	角田 拓朗	必2	前期	2・3	◆	
	博物館教育論	岡部 幹彦	必2	前期	1～	◆	
	博物館情報・メディア論	堀越 洋一郎	必2	後期	2・3	◆	
	博物館実習	佐川 美智子	必3	通年	3	毎週3時間のうち1時間分を集中授業で行う *◆	
		古川 元也		通年	4	45時間のうち事前事後指導は6時間、館務実習は39時間で、原則として夏休み集中 *◆	
選 択	文化 史	地域文化史Ⅲ	細野 喜代	選2	前期	2～	文化
		地域文化史Ⅳ	細野 喜代	選2	後期	2～	
		視覚文化史Ⅰ	森下 佳菜	選2	前期	2～	
		視覚文化史Ⅱ	森下 佳菜	選2	後期	2～	
		文化交流史Ⅰ	糸 和沙	選2	後期	2～	
		文化交流史Ⅱ	手塚 恵美子	選2	後期	2～	
		文化論Ⅰ：地域	朴 倍暎	選2	前期	1	文化学科の学生に限り履修できる
		文化論Ⅴ：比較	坂井 妙子	選2	前期	1	文化学科の学生に限り履修できる
		比較文化史Ⅰ	佐々木 雄大	選2	前期	2～	2016年度からの履修に限る
		比較文化史Ⅱ	佐々木 雄大	選2	後期	2～	2016年度からの履修に限る
		現代生活論Ⅲ	渋谷 望	選2	前期	2～	現社
		現代生活論Ⅳ	渋谷 望	選2	後期	2～	

		授 業 科 目 名	担当者名	単位数	期	年次	備 考	提供 学科
選 択	美 術 史	文化論Ⅲ：視覚	木村 覚	選2	前期	1	文化学科の学生に限り履修できる	文化
		文化論Ⅳ：視覚	川崎 公平	選2	後期	1	文化学科の学生に限り履修できる	
		芸術文化史Ⅰ：西洋	木村 覚	選2	後期	2～		
		芸術文化史Ⅱ：日本	成原 有貴	選2	前期	2～		
		比較芸術	河本 真理	選2	前期	3～		
		表象文化論a	成原 有貴	選2	後期	2～		
		表象文化論b	木村 覚	選2	後期	2～		
		表象文化論c	味岡 京子	選2	後期	2～		
		視覚芸術論Ⅰ	神野 祐太	選2	前期	2～		
		視覚芸術論Ⅱ	利根川 由奈	選2	後期	2～		
		現代芸術論Ⅰ	河本 真理	選2	前期	2～	2017年度からの履修に限る	
		現代芸術論Ⅱ	河本 真理	選2	後期	2～	2017年度からの履修に限る	
	民 俗 学	文化人類学Ⅰ	西村 一之	選2	前期	1～		現社
		文化人類学Ⅱ	西村 一之	選2	後期	2～		
		民俗学Ⅰ	室井 康成	選2	前期	2～		文化
		民俗学Ⅱ	室井 康成	選2	後期	2～		

- ◆ …卒業するために必要な単位に含めない科目
- ＊ …博物館実習の単位には事前事後指導を含む。事前事後指導に全出席しなければ単位は与えられない。
博物館実習は、博物館実習（3年次）、翌年度の博物館実習（4年次）にわたり、連続して履修する科目である。
博物館実習（4年次）は、前年度に博物館実習（3年次）に合格していなければ単位を与えない。

- 履修方法
1. 選択科目については、2系列以上にわたり、2科目以上8単位以上を履修しなければなりません。ただし、反復履修によって得られた単位数は、上記の単位に数えられません。
2. 博物館実習の履修条件
「博物館実習（3年次）」は、「博物館概論」、「博物館経営論」、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」、「博物館展示論」 の計10単位を履修済みまたは履修中でなければなりません。
「博物館実習（4年次）」は、「博物館概論」、「博物館経営論」、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」、「博物館展示論」 の計10単位を履修済みで、かつ、「博物館実習（3年次）」に合格しなければ、履修できません。
3. 科目等履修生は、本学卒業者、本学大学院修了者または本学大学院在學生に限りです。

1 社会教育主事とは

本学部では、社会教育主事の職務につくために必要な科目を修得することができます。

社会教育主事とは、都道府県や市町村、東京都特別区などの教育委員会事務局の職員として、社会教育や生涯教育の計画づくりに携わったり、学習・スポーツ・レクリエーションなどの活動を行う人たちに専門的技術的な助言や指導を行う、専門的職員を指します。また、学校が地域との連携にもとづく教育活動を行う場合、学校からの求めに応じて助言を行うことができます。実際に社会教育主事の職務につくためには、社会教育法に規定されるように大学での必要科目の修得に加え、一定の職務経験が必要となります。

（社会教育主事の資格）

社会教育法第九条の四 第三号

「大学に二年以上在学して、六十二単位以上を修得し、かつ、大学において文部科学省令で定める社会教育に関する科目の単位を修得した者で、第一号イからハまでに掲げる期間*を通算した期間が一年以上になるもの」

※ イ 社会教育主事補の職にあった期間

ロ 官公署、学校、社会教育施設又は社会教育関係団体における職で、司書、学芸員その他の社会教育主事補の職と同等以上の職として文部科学大臣の指定するものにあった期間

ハ 官公署、学校、社会教育施設又は社会教育関係団体が実施する社会教育に係のある事業における業務であって、社会教育主事として必要な知識又は技能の習得に資するものとして文部科学大臣が指定するものに従事した期間（イ又はロに掲げる期間に該当する期間を除く。）

社会教育主事の資格取得をめざす学生は、下記の点に留意してください。

1. 資格取得に必要な単位を大学で取得しても、無条件に社会教育主事の職に就けるわけではありません。
 2. 現段階では、社会教育主事の職に就くためのルートとして、下記の3つが主流です。
 - (1) 社会教育主事の候補者（社会教育主事補）を特別枠で採用する地方自治体の場合、そのための採用試験に合格して一定の経験を経ってから社会教育主事となる。
 - (2) 地方公務員として勤務した後、一定の条件を満たしてから当該地方自治体内の人事異動によって社会教育主事となる。
 - (3) 公立学校の教員として勤務した後、一定の条件を満たしてから当該地方自治体内の人事異動によって社会教育主事となる。
- ⑬ ただし、(1)のルートによって社会教育主事を登用する自治体は少なく、(2)や(3)の形態が多くなっています。

社会教育主事講習等規程の一部改正について（2019年度までの入学者適用）

社会教育主事講習等規程の一部改正に伴い、2020年度より新課程に対応した科目（新科目）を開講します。2019年度までの入学者は、資格の取得を希望する場合は、以下の点に注意してください。

1. 2019年度までの入学者は、2020年4月以降も引き続き**旧規定に基づいて資格を取得**することになります。
2020年度以降に開講する科目（新科目）を履修することにより、**2019年度まで開講していた科目（旧科目）に読み替えることができます。**
2. 2019年度までの入学者に旧規定が適用になるのは、2020年4月1日前より引き続き在籍中である場合に限りです。したがって、旧規定で要件未充足のまま卒業等により在籍が中断した場合については、以後、新規定が適用になるので、注意してください。

2

社会教育主事の資格取得のための単位

【2020年度入学者より適用】

分類	省令規定科目	単位	本学部の該当科目	単位	備 考
必修	生涯学習概論	4	生涯学習概論Ⅰ	2	
			生涯学習概論Ⅱ	2	
	生涯学習支援論	4	生涯学習支援法Ⅰ	2	
			生涯学習支援法Ⅱ	2	
	社会教育経営論	4	社会教育経営Ⅰ	2	
			社会教育経営Ⅱ	2	
	社会教育実習	1	社会教育実習	1	
選択必修	社会教育演習	3	社会教育演習	1	規定科目から、3単位以上 （「社会教育演習Ⅰ-1」、「社会教育演習Ⅰ-2」は、教育学科の学生に限り履修できる）
			社会教育演習Ⅰ－1	4	
			社会教育演習Ⅰ－2	4	
	社会教育課題研究		社会教育課題研究	2	
選択科目	社会教育特講Ⅰ (現代社会と社会教育)	8単位以上履修すること。 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにわたって履修することが望ましい。	家庭教育論	2	
			女性教育史論	2	旧「現代教育論Ⅶ(女性教育史論)」
			現代女性教育論	2	旧「現代教育論Ⅷ(現代女性教育論)」
			青少年指導論（小）	2	2019年度まで該当
			生徒指導・進路指導（小）	2	2019年度より該当
			青少年指導論（中高）	2	2019年度まで該当
			生徒指導・進路指導（中高）	2	2019年度より該当 ◆
			老人福祉論	2	
	社会教育特講Ⅱ (社会教育活動・事業・施設)		教育行政学	2	
			博物館概論	2	◆
			博物館資料論	2	◆
			博物館経営論	2	◆
			博物館情報論・メディア論	2	◆
			図書館概論	2	◆
			現代教育論Ⅵ（キャリア形成論）	2	2018年度まで開講
	社会教育特講Ⅲ (その他必要な科目)		教育学概論Ⅰ（幼小中高）	2	
			教育学概論Ⅰ（小中高）	2	2018年度より該当
			教育学概論Ⅰ（小）	2	2019年度より該当
			教育学概論Ⅰ（中高）	2	2019年度より ◆
			現代社会論Ⅰ	2	
			社会福祉原理論Ⅰ	2	
			社会福祉原理論Ⅱ	2	
			現代社会論Ⅲ	2	
			現代社会論Ⅳ	2	
			現代生活論Ⅰ	2	
			現代生活論Ⅱ	2	
			地域社会論Ⅲ（農村）	2	
			地域社会論Ⅳ（農村）	2	
			倫理学Ⅰ	2	
			倫理学Ⅱ	2	
			現代経済論Ⅰ	2	
			現代経済論Ⅱ	2	
			社会スポーツ・レジャー論Ⅰ	2	
			社会スポーツ・レジャー論Ⅱ	2	

◆ …卒業するために必要な単位に含めない科目

(注) 社会教育主事の資格を取得した場合、社会教育士(養成課程)と称し、履歴書や名刺に「社会教育士」と記載することができる。

社
教
主
事

社会教育主事課程新旧読替表(2019年度入学者まで)

	旧規則による規定科目	単位	旧規則による 本学開講科目	単位	新規則による 本学開講科目	単位
必修	生涯学習概論	4	生涯学習概論Ⅰ	2	生涯学習概論Ⅰ	2
			生涯学習概論Ⅱ	2	生涯学習概論Ⅱ	2
	社会教育計画	4	生涯教育計画Ⅰ	2	社会教育経営論Ⅰ	2
			生涯教育計画Ⅱ	2	社会教育経営論Ⅱ	2
	社会教育演習	4	社会教育演習Ⅰ－1	4	社会教育演習Ⅰ－1	4
			社会教育演習Ⅰ－2	4	社会教育演習Ⅰ－2	4
	社会教育実習		2	社会教育演習	1	
				社会教育実習	1	
	社会教育課題研究		2	社会教育課題研究	2	
	選択		社会教育特講Ⅰ	12	新規則・旧規則 開講科目変更なし	
社会教育特講Ⅱ						
社会教育特講Ⅲ						

社会教育主事講習等規程の一部改正により、2020年度より規定科目・本学該当科目が変更になりました。
ただし、2019年度までの入学者は、なお旧規則での資格取得が可能です。
これに該当する者は、新規則による本学開講科目を履修し、これを旧規則による規程科目に読み替えて、
必要な単位を修得してください。

2020年度 社会教育主事に関する科目 授業科目表

◎履修条件等は、各提供学科・他資格の頁を参照してください。

	授業科目名		担当者名	単位数	期	年次	備 考	提供 学科等
必修	生涯学習概論Ⅰ		田中 雅文	2	前期	1～		教育
	生涯学習概論Ⅱ		田中 雅文	2	後期	1～		
	生涯学習支援法Ⅰ			2	前期	2～	2021年度より開講	
	生涯学習支援法Ⅱ			2	後期	2～	2021年度より開講	
	社会教育経営Ⅰ		田中 雅文	2	前期	2～	旧「生涯教育計画Ⅰ」 2020年度、2021年度に限り☆	
	社会教育経営Ⅱ		中曽根 聡	2	後期	2～	旧「生涯教育計画Ⅱ」 2020年度、2021年度に限り☆	
	社会教育実習		田中 雅文 小笠原 東生	1	通年	2～	○ 集中 旧「社会教育インターンシ ップ」 2020年度以降入学者のみ必修 2020年度履修者より選択必修1単位 2019年度履修者まで選択必修2単位	
選択必修	社会教育演習		田中 雅文	1	通年	2～	○ 集中	
	社会教育演習Ⅰ－1		田中 雅文	4	通年	3	教育学科「教育学演習Ⅰ」（田中ク ラス）と共通 ○ 教育学科の学生に限り履修できる。	
	社会教育演習Ⅰ－2		田中 雅文	4	通年	4	教育学科「教育学演習Ⅱ」（田中ク ラス）と共通 ○ 教育学科の学生に限り履修できる。	
	社会教育課題研究		山口 香苗	2	後期	2～		
選択	社会教育特講Ⅰ	家庭教育論	奥村 典子	2	後期	1～		教育
		女性教育史論	齋藤 慶子	2	後期	1～	旧「現代教育論Ⅶ（女性教育史論）」	
		現代女性教育論	渡辺 典子	2	後期	1～	旧「現代教育論Ⅷ（現代女性教育論）」	
		青少年指導論		2			閉講	
		青少年指導論（小）		2			閉講	
		生徒指導・進路指導（小）	仲野 由佳理	2	前期	1～	教育学科の学生に限り履修できる 「青少年指導論」の単位履修者は履修不 可	
		青少年指導論（中高）		2			閉講	
		生徒指導・進路指導（中高）	林 明子	2	後期	1～	「青少年指導論」の単位履修者は履修不 可 2019年度入学者より◆	
		老人福祉論	渡部 律子	2	後期	1～		社福
	社会教育特講Ⅱ	教育行政学	山下 絢	2	後期	1～		教育
		博物館概論	古川 元也	2	前期	1～	◆	博物館
		博物館資料論	古川 元也	2	前期	2・3	◆	
		博物館経営論	古川 元也	2	後期	2・3	◆	
		博物館情報・メディア論	堀越 洋一郎	2	後期	2・3	◆	
		図書館概論	大谷 康晴	2	後期	1～	◆	司書
		現代教育論Ⅵ(キャリア形成論)		2			閉講	教育

社
教
主
事

	授業科目名		担当者名	単位数	期	年次	備 考	提供 学科等
選 択	社会 教育 特講 Ⅲ	教育学概論Ⅰ（幼小中高）	今井 康雄 渡辺 典子	2	前 （後）	1～	教育学科の学生に限り履修できる 2019年度入学者より適用の「教育学概論Ⅰ（小）」および2018年度入学者のみ適用の「教育学概論Ⅰ（小中高）」と合同授業 2017年度入学者まで履修可	教育
		教育学概論Ⅰ（小中高）	今井 康雄 渡辺 典子	2	前 （後）	1～	教育学科の学生に限り履修できる 2019年度入学者より適用の「教育学概論Ⅰ（小）」と合同授業 2018年度入学者のみ履修可	
		教育学概論Ⅰ（小）	今井 康雄 渡辺 典子	2	前 （後）	1～	教育学科の学生に限り履修できる 2019年度入学者より履修可	
		教育学概論Ⅰ（中高）	日暮 トモ子	2	後期	1～	2018年度入学者まで適用 「教育学概論(幼小中高)」 「教育学概論Ⅰ（小中高）」を履修中または単位取得者は履修不可 ◆2019年度入学者より適用	
		現代社会論Ⅰ	遠藤 知巳	2	前期	2～	文化学科「メディア論」と共通	現社
		社会福祉原理論Ⅰ	坏 洋一	2	前期	3		社福
		社会福祉原理論Ⅱ	坏 洋一	2	後期	3		
		現代社会論Ⅲ	田中 大介	2	前期	2～		現社
		現代社会論Ⅳ	田中 大介	2	後期	2～		
		現代生活論Ⅰ	中野 裕美子	2	前期	2～	隔年	
		現代生活論Ⅱ	大沢 真知子	2	後期	2～	隔年	
		地域社会論Ⅲ（農村）	尾中 文哉	2	前期	1～	隔年 2020年度休講	
		地域社会論Ⅳ（農村）	尾中 文哉	2	後期	1～	隔年 2020年度休講	
		倫理学Ⅰ	田中 久文	2	前期	1～	○	文化
		倫理学Ⅱ	田中 久文	2	後期	1～	○	
		現代経済論Ⅰ	込江 雅彦	2	前期	2～		現社
		現代経済論Ⅱ	込江 雅彦	2	後期	2～		
		社会スポーツ・レジャー論Ⅰ	大沼 義彦	2	前期	2～		
		社会スポーツ・レジャー論Ⅱ	大沼 義彦	2	後期	2～		

◆ …卒業するために必要な単位に含めない科目
○ …人数制限の可能性もありうる

1 日本語教員養成講座とは

日本語教員養成講座とは、外国人に日本語を教える人を育てることを目的としています。

日本語を教えるということは、日本語・日本文化の知識を伝えるばかりでなく、いろいろな文化の人々が共に生きる社会の形成に貢献するという事です。

本学の日本語教員養成講座では、言語学・日本語教授法などに関する深い専門的知識を学びます。それと同時に現代社会に関する広い視野と知識を持つよう、さまざまな科目を履修します。

この講座を受講するみなさんには、文化の違いに対する興味と関心を持つこと、自己のよってたつ文化に対する誇りと他者の文化を尊重する意識を持つことを期待します。

この講座の授業は次のような内容によって構成されます。

- ・ 世界のさまざまな国で多様な学習者が日本語を学んでいることに関心を持つための種々の情報。
- ・ 日本語の使い方を外国人の立場に立って考え、日本人の発想について捉えなおしをする日本語教育学・日本語学関係の科目。
- ・ 留学生教育を実際に見て考える学外の授業見学。
- ・ 日本語能力が発達途上の学習者に対してどのように接するかを実体験する日本語教育実習。

そして、さらに興味を持つ人は都内の日本語学校などでのビジターセッションやスロベニアでの短期海外研修に参加することができます。

この講座の修了には3年間かかります。興味をお持ちの方は、2年次からでも受講可能ですが、ぜひ1年次から履修することをお勧めします。

1. 日本語教員の資格

本学の日本語教員養成講座の所定の単位を修得すると、卒業時に「日本女子大学日本語教員養成講座修了証書」が授与されます。

2. ガイダンスおよび履修について

日本語教員養成講座の科目は、一部を除き目白キャンパスで開講されます。

日本語教員養成講座を履修中、もしくは本年度から新たに履修しようとする2年次以上の学生は、毎年、2年次以上の始業日に日本語教員養成講座委員会が実施する「日本語教員養成講座履修ガイダンス」に必ず出席して、指導を受けてください。本年度「日本語教育実習」を履修する予定の学生は同日開催する事前指導に出席してください。ただし、受講者多数の場合は受講を制限することがあります。

なお、科目等履修生として「日本語教育実習」を履修できるのは、本学卒業者、本学大学院修了者または本学大学院在学学生に限ります。

本講座科目に該当する科目で目白キャンパス開講の科目を履修することによって修得した単位は、特定の科目を除き人間社会学部の「所属学科又は所属学科以外の科目」として卒業要件単位に算入されます。

3. 目白キャンパス開講科目の登録方法について

西生田キャンパス開講の科目と同じく、Web履修登録を行ってください。

(ただし、日本語教育実習は自動登録のため、各自でWeb履修登録する必要はありません)

【注意】異なる地区の授業科目を履修する場合、移動時間の関係から、同じ日の続き時限の授業を目白と西生田間で履修することは出来ないものとします。

日本語教員養成講座の授業科目、必要修得単位数

– 220 –

系列	授 業 科 目	開講 地区	単位数	最低修得 単位数		備 考
				必修	選択	
言語一般	言語学概論 1	目白	選 2	4		
	言語学概論 2		選 2			
	英語学概論－構造 1		選 2			
	英語学概論－構造 2		選 2			
	英語学概論－文化 1		選 2			
	英語学概論－文化 2		選 2			
	対照言語学		選 2			
	比較言語文化概論 1		選 2			
	比較言語文化概論 2		選 2			
	言葉と文化：イギリス	西生田	選 2			
	言葉と文化：アメリカ		選 2			
	言葉と文化：ドイツ		選 2			
	言葉と文化：フランス		選 2			
	言葉と文化：中国		選 2			
	言葉と文化：イタリア		選 2			
	言葉と文化：イスラム		選 2			
	言葉と文化：日本		選 2			
	言葉と文化：韓国		選 2			
最低修得単位数			2 8	8		
			3 6			

＊ …目白地区開講科目に該当する科目があるもの（両地区の科目を修得した場合、反復履修とみなします。）
◆ …卒業するために必要な単位に含めない科目

【履修の方法】

- 日本語系列から 4 単位以上、言語と社会系列から 4 単位以上、言語と心理系列から 2 単位以上、言語と教育系列から14単位、言語一般系列から 4 単位以上、合計36単位以上を履修してください。ただし、反復履修によって得られた単位は上記の単位に数えられません。
- 「日本語教授法講義 1」、「日本語教授法講義 2」、「日本語教授法演習 1」、「日本語教授法演習 2」は、「日本語概説Ⅰ、Ⅱ」（または「日本語学概論」）、「日本語教育概論 1」、「日本語教育概論 2」の 計 8 単位を履修後でなければ履修できません。
- 「日本語教育実習」を履修するためには、以下の条件があります。
「日本語教育実習」の履修は、前年度日本語教育実習予備登録者に限ります。
「日本語概説Ⅰ、Ⅱ」（または「日本語学概論」）、「日本語教育概論 1」、「日本語教育概論 2」、「日本語教授法講義 1」、「日本語教授法講義 2」の計 1 2 単位を実習前年度までに履修済みでなければなりません。

3

「日本語教育実習」について

1. 「日本語教育実習」履修上の諸手続き

- 予備登録
実習前年度 4 月の授業科目登録期間中に「日本語教育実習予備登録票」を日本語教員養成講座研究室（目白キャンパス百年館高層棟 11 階）に提出してください。この予備登録をしないと、実習前年度 8 月から始まる日本語教育実習の事前・事後指導に出席することができず、また翌年度に「日本語教育実習」を履修することができません。
★「日本語教育実習予備登録票」は、期限を過ぎた場合は受け付けられません。
★予備登録についての詳細は、日本語教員養成講座研究室前の掲示板で確認してください。
- 実習登録
所定の条件を満たし許可された学生について、実習年度 4 月に、授業科目の自動登録をします（各自で登録する必要はありません）。
4 月の Web 履修登録時に、指定されたクラスの「日本語教育実習」が正しく表示されているかを確認してください。
実習登録後の取り消しは原則として認められません。
- 実習費納入
「日本語教育実習」を履修する場合は、実習年度の定められた期間に実習費を西生田総務課に納入しなければなりません。実習費を納入しない場合は、「日本語教育実習」を履修することはできません。
また、一旦納入した実習費は、原則として返金しません。

2. 日本語教育実習事前・事後指導

日本語教育実習を履修する場合は、必ず事前・事後指導に出席しなければなりません。無届欠席者は実習への参加が認められません。
日本語教育実習の事前・事後指導の詳細な日程については、その都度掲示によってお知らせします。

3. 「日本語教育実習」年間予定

実習前年度	7月下旬～8月上旬	日本語教育実習第1回事前指導（前年度の実習報告会聴講を含む）
実習年度	4月上旬	日本語教育実習第2回事前指導（クラス調整など）
	5月中旬	日本語教育実習第3回事前指導（学外授業見学・実習について）
	5月下旬～6月上旬	学外機関の授業見学
	6月中～下旬	日本語教育実習1（集中授業）
	7月上～中旬	日本語教育実習2（集中授業）
	7月下旬～8月上旬	日本語教育実習事後指導（実習報告会）

4 修得単位調べ用紙提出

「日本語教員養成講座修了証書」の授与を希望する学生は、4年次4月に配付する「修得単位調べ用紙」を、定められた期日までに西生田学務課に提出してください。

5 編入学・学士入学について

日本語教員養成講座の授業科目を履修する場合は、履修登録期間前に必ず日本語教員養成講座研究室で指導を受けてください。

6 科目等履修生について

科目等履修生として日本語教員養成講座の授業科目を履修する場合の履修方法・手続きについては、出願前に必ず日本語教員養成講座研究室で指導を受けてください。

日本語教員養成講座に関する連絡事項は、日本語教員養成講座研究室前の掲示板、西生田学務課の掲示板及び JASMINE-Navi で通知します。掲示板は必ず両方を確認してください。
(日本語教員養成講座研究室掲示板: 目白地区 百年館高層棟 11 階、西生田学務課掲示板: 水田記念学生ホール資格掲示板)
また、不明な点がある場合は、日本語教員養成講座研究室に問い合わせてください。

2020年度 日本語教員養成講座に関する科目 授業科目表

《目白地区開講科目》						
授業科目名		担当者名	単位数	期	年次	備 考
日本語	日本語学概論	三原 裕子	必4	通年	1～	日本文学科と共通
	日本語学講義Ⅰ	山田 里奈	選4	通年	2～	日本文学科と共通
	日本語学講義Ⅱ	篠崎 晃一	選4	通年	2～	日本文学科と共通
	日本語学講義Ⅲ	仁科 明	選4	通年	2～	日本文学科と共通 2015年度からの履修に限る
	日本語学特論Ⅰ	坂本 清恵	選2	前期	2～	日本文学科と共通
	日本語学特論Ⅱ	清水 康行	選2	後期	2～	日本文学科と共通
	日本語学特論Ⅲ		選2			日本文学科と共通 2020年度休講
	日本語学特論Ⅳ		選2			日本文学科と共通 2020年度休講
	日本語学演習1	清水 康行	選2	前期	2～	日本文学科と共通 ○
	日本語学演習2	清水 康行	選2	後期	2～	日本文学科と共通 ○
	日本語学演習3	坂本 清恵	選2	前期	2～	日本文学科と共通 ○
	日本語学演習4	坂本 清恵	選2	後期	2～	日本文学科と共通 ○
	日本語学演習5	坂本 清恵	選2	前期	2～	日本文学科と共通 ○
	日本語学演習6	加藤 大鶴	選2	後期	2～	日本文学科と共通 ○
	日本語学演習7	加藤 大鶴	選2	前期	2～	日本文学科と共通 ○
	日本語学演習8	吉田 健三	選2	後期	2～	日本文学科と共通 ○
	日本語史	加藤 大鶴	選4	通年	2～	日本文学科と共通

授業科目名		担当者名	単位数	期	年次	備 考	
言語と社会	ことばとは何か	清水 康行	選2	前期	1～	教養科目と共通	
	ことばと社会	浅井 優一	選2	後期	1～	教養科目と共通	
	日本史概説－1	藤井 雅子	選2	前期	1～	史学科と共通 旧「日本史概説(前期)」	
	日本史概説－2	吉村 雅美	選2	後期	1～	史学科と共通 旧「日本史概説(後期)」	
	日本風俗史	田中 淑江	選2	前期	2～	日本文学科と共通 2020年度休講	
	日本文化史－1	三島 暁子	選2	前期	2～	史学科と共通	
	日本文化史－2	清水 紀枝	選2	後期	2～	史学科と共通	
	日本文学概論		選4			日本文学科と共通 2016年度までの履修に限る	
	日本文学史Ⅴ－1 (近代)	渡部 麻実	選2	前期	1～	日本文学科と共通 旧「日本文学史Ⅴ (近代) (前期)」	
	日本文学史Ⅴ－2 (近代)	山口 俊雄	選2	前期	1～	日本文学科と共通 旧「日本文学史Ⅴ (近代) (後期)」	
言語と心理	心理学	栗原 佳代子 澤田 匡人	選2	前 (後)	1～	教養科目と共通	
	学習心理学		選2			児童学科と共通 2016年度までの履修に限る	
	児童相談心理学		選2			児童学科と共通 2016年度までの履修に限る	
言語と教育	日本語教育概論 1	池田 智子	必2	前期	1～		◆
	日本語教育概論 2	池田 智子	必2	後期	1～	「日本語教育概論 1」履修後が望ましい	◆
	日本語教授法講義 1	衣川 隆生	必2	前期	2・3	「日本語学概論」「日本語教育概論 1」「日本語教育概論 2」履修後でなければ履修不可	◆
	日本語教授法講義 2	衣川 隆生	必2	後期	2・3	「日本語学概論」「日本語教育概論 1」「日本語教育概論 2」履修後でなければ履修不可 「日本語教授法講義 1」履修後が望ましい	◆
	日本語教授法演習 1	田辺 和子 衣川 隆生	必2	前期	2～	「日本語学概論」「日本語教育概論 1」「日本語教育概論 2」履修後でなければ履修不可	◆
	日本語教授法演習 2	田辺 和子 衣川 隆生	必2	後期	2～	「日本語学概論」「日本語教育概論 1」「日本語教育概論 2」履修後でなければ履修不可 「日本語教授法演習 1」履修後が望ましい	◆
	日本語教育実習	衣川 隆生 清水 由貴子 三原 裕子	必2	前期	3・4	60時間のうち30時間は前期の授業期間に行い、残り30時間は5月から8月の集中授業で行う(事前事後指導を含む) 前年度に日本語教育実習予備登録者に限る 欄外の履修条件を参照	◆
言語一般	言語学概論 1	松森 晶子	選2	前期	2～	英文学科と共通	
	言語学概論 2	松森 晶子	選2	後期	2～	英文学科と共通	
	英語学概論－構造 1	藤井 洋子	選2	前期	1～	英文学科と共通	
	英語学概論－構造 2	藤井 洋子	選2	後期	1～	英文学科と共通	
	英語学概論－文化 1	高梨 博子	選2	前期	1～	英文学科と共通	
	英語学概論－文化 2	高梨 博子	選2	後期	1～	英文学科と共通	
	対照言語学	吉田 健二	選2	前期	2～	日本文学科と共通 「言語学概論 1・2」、「日本語学概論」履修後が望ましい	
	比較言語文化概論 1	浅井 優一	選2	前期	2～	英文学科と共通 「英語学概論－構造 1・2」、「英語学概論－文化 1・2」履修後が望ましい	
	比較言語文化概論 2	浅井 優一	選2	後期	2～	英文学科と共通 「英語学概論－構造 1・2」、「英語学概論－文化 1・2」履修後が望ましい	
日本語教育実習 履修条件 「日本語概説」(又は「日本語学概論Ⅰ、Ⅱ」) 4単位、「日本語教育概論 1」2単位、「日本語教育概論 2」2単位、「日本語教授法講義 1」2単位、「日本語教授法講義 2」2単位の5科目 12単位を実習前年度までに履修済みであること。							

- ・「日本語学演習1」「日本語学演習2」「日本語学演習3」「日本語学演習4」「日本語学演習5」「日本語学演習6」「日本語学演習7」「日本語学演習8」は、 受講希望者が多数の場合は人数調整を行います。
- ・注…英文学科との共通科目を英文学科以外の学生が受講を希望する場合は、初回に必ず出席して担当者に申し出てください。

日本語

《西生田地区開講科目》

◎学科設置の科目と共通の科目についての履修条件等は各提供学科の頁を参照してください。

授業科目名		担当者名	単位数	期	年次	備 考	提供 学科
日本語	日本語概説Ⅰ	衣川 隆生	必2	前期	1～	目白地区開講の「日本語学概論」に該当	-
	日本語概説Ⅱ	衣川 隆生	必2	後期	1～		
	文化思想史Ⅱ：日本	田中 久文	選2	前期	2～	隔年 文化学科と共通 2020年度休講	文化
言語と社会	文化交流史Ⅰ	糸 和沙	選2	後期	2～		
	文化交流史Ⅱ	手塚 恵美子	選2	後期	2～		
	地域文化論：日本		選2			閉講	
	社会と文化：日本		選2			閉講	
	日本学Ⅰ		選2			2016年度より該当 2018年度までの履修に限る	
	日本学Ⅱ		選2			2016年度より該当 2018年度までの履修に限る	
	異文化アウェアネス		選2			閉講	
	日本文学Ⅰ	鈴木 貴子	選2	前期	2～		
	日本文学Ⅱ	鈴木 貴子	選2	後期	2～		
	文学を楽しむⅠ	鈴木 貴子	選2	前期	1～		
	文学を楽しむⅡ	鈴木 貴子	選2	後期	1～		
言語と心理	生涯学習と臨床心理学	井上 信子	選2	後期	1～	旧「児童心理学」	教育
	社会心理学Ⅰ		選2			2017年度までの履修に限る	心理
	社会心理学Ⅱ		選2			2017年度までの履修に限る	
	基礎心理学概説・Ⅰ－Ⅱ		選2			2017年度までの履修に限る	
	基礎心理学概説・Ⅷ		選2			2018年度までの履修に限る	
	学習・言語心理学Ⅱ	麦谷 綾子	選2	後期	2～		
言語と教育	日本語教育概論Ⅰ	齋藤 伸子	必2	前期	1～	◆目白地区開講の「日本語教育概論Ⅰ」に該当	-
	日本語教育概論Ⅱ	齋藤 伸子	必2	後期	1～	◆目白地区開講の「日本語教育概論Ⅱ」に該当 「日本語教育概論Ⅰ」履修後が望ましい	
言語一般	言葉と文化：イギリス	ニール・アディソン	選2	前期	2～		文化
	言葉と文化：アメリカ	田中 有美	選2	後期	2～		
	言葉と文化：ドイツ	満留 伸一郎	選2	後期	2～		
	言葉と文化：フランス	高井 奈緒	選2	後期	2～		
	言葉と文化：中国	三田 明弘	選2	後期	2～	隔年	
	言葉と文化：イタリア	佐々木 雄大	選2	前期	2～	隔年	
	言葉と文化：イスラム	須永 恵美子	選2	後期	2～		
	言葉と文化：日本	三村 友希	選2	後期	2～		
	言葉と文化：韓国	朴 倍暎	選2	前期	2～	隔年	

◆…卒業するために必要な単位に含めない

○…人数制限の可能性もありうる。

履修方法

- ・日本語系列から4単位以上、言語と社会系列から4単位以上、言語と心理系列から2単位以上、言語と教育系列から14単位、言語一般系列から4単位以上、合計36単位以上を履修すること。ただし、反復履修によって得られた単位は上記の単位に数えない。
- ・科目等履修生は本学卒業生、本学大学院修了者または本学大学院在学学生に限る。
- ・目白地区開講の各該当科目との反復履修によって得られた単位は日本語教員養成講座の単位として数えない。

その他、人間社会学部において卒業後に取得できる資格は次の通りです。

1 社会福祉主事 任用資格

社会福祉主事資格とは、各地方自治体の福祉事務所などに所属して、福祉サービスを必要としている人に生活指導・相談・手続き等を行う公務員の資格ですが、大学で「社会福祉主事に関する指定科目」を修めて卒業した者に任用資格が認められています。また、社会福祉の基礎的な学習をしたことの見込ともされていることから、社会福祉施設職員等の資格に準用されています。

指定科目は厚生労働省のホームページに掲載の科目を各自で確認してください。

2 児童福祉司 任用資格

児童福祉司は、児童相談所に所属して児童の保護、その他福祉に関する保護者及び児童からの各種相談・指導・援助業務等を行います。

現代社会学科・社会福祉学科・教育学科・心理学科を卒業後、都道府県の公務員に採用され、該当の業務に一年以上従事した後には得られます。

3 児童指導員 任用資格

児童指導員は、児童養護施設や母子生活支援施設等で子どもと直接関わり生活指導をするとともに、保護者との関係調整、学校や児童相談所等の関係機関との連携業務を行います。

現代社会学科・社会福祉学科・教育学科・心理学科を卒業後、都道府県・市町村等の公務員に採用され、該当の業務に任用されるときに必要な資格です。

その他

4 社会調査士

社会調査士は、一般社団法人社会調査協会から認定される、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえることのできる能力を有する「調査の専門家」としての資格です。社会調査士の取得には、①人間社会学部を卒業すること、②社会調査士科目の標準カリキュラムに対応した科目単位を取得すること、が資格要件となっています。詳細は西生田学務課で確認してください。（社会調査協会 HP : <http://jasr.or.jp/>）

規程について

日 本 女 子 大 学 学 則 ・ ・ ・ ・ 2 2 9

日本女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程 ・ ・ ・ ・ 2 4 0

大 学 の 3 方 針 ・ ・ ・ ・ 2 4 2

- ・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）
- ・教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）
- ・入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

学 部 の 3 方 針 ・ ・ ・ ・ 2 4 3

- ・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）
- ・教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）
- ・入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

学 科 の 3 方 針 ・ ・ ・ ・ 2 4 4

- ・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）
- ・教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）
- ・入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

日本女子大学学生表彰規程及び日本女子大学学生懲戒規程 ・ ・ ・ ・ 2 4 8

日本女子大学学則

日本女子大学学則

昭和23年4月1日
制定

第1章 総則

(目的)

第1条 本学は、平和的な国家及び社会の形成者育成のために、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、その応用的能力の展開をはかるとともに、人格の完成につとめることを目的とする。

2 各学部・学科・課程等の人材の養成に関する目的、教育研究上の目的については、別に定める。

(自己点検・評価)

第2条 本学は、前条の目的及び社会的使命を達成するために、教育研究水準の向上を図り、教育研究活動等の状況について、不断の自己点検及び評価を行う。

2 前項の自己点検及び評価の実施体制については、別に定める。

(学部・通信教育課程)

第3条 本学に、家政学部、文学部、人間社会学部及び理学部を置く。

2 家政学部、通信教育課程を置く。

3 通信教育課程に関する事項は、日本女子大学家政学部通信教育課程規程に定める。

(大学院)

第4条 本学に、大学院を置く。

2 大学院に関する事項は、日本女子大学大学院学則に定める。

(図書館)

第5条 本学に、図書館を置く。

2 図書館に関する事項は、日本女子大学図書館規則に定める。

(研究所)

第6条 本学に、総合研究所及び現代女性キャリア研究所を置く。

2 総合研究所に関する事項は、日本女子大学総合研究所規則に定める。

3 現代女性キャリア研究所に関する事項は、日本女子大学現代女性キャリア研究所規則に定める。

(学寮)

第7条 本学に、学寮を置く。

2 学寮に関する事項は、日本女子大学学寮規則に定める。

第2章 通則

(学年)

第8条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第9条 学年を分けて、前学期及び後学期とする。

前学期 4月1日から9月14日まで

後学期 9月15日から翌年3月31日まで

(休業日)

第10条 学年中、休業日は次のとおりとする。

(1) 日曜日及び国民の祝日に関する法律(昭和23年法律178号)に規定される休日

(2) 本学創立記念日 4月20日(ただし、教養特別講義の授業を行う。)

(3) 春季休暇 3月下旬

(4) 夏季休暇 8月上旬から9月中旬まで(ただし、教養特別講義の授業を行うことがある。)

(5) 冬季休暇 12月下旬から翌年1月上旬まで

2 前項に規定する休業日において、必要がある場合は授業その他を行うことがある。また、必要がある場合は、学長は前項の休業日を臨時に変更することができる。

3 第1項に定めるもののほか、学長は臨時の休業日を定めることができる。

第3章 教職員組織並びに大学改革運営会議、教授会、基礎科目委員会、教養教育委員会、大学評議会、連合教授会及び全学委員会

(教職員組織)

第11条 本学に学長、副学長、教授、准教授、講師、助教、助手、研究員及び職員を置く。

(学長)

第12条 学長は、学校教育法の定めるところにより、校務に関して最終決定を行う権限を有する。

(大学改革運営会議)

第13条 本学に、大学改革運営会議を置く。

2 大学改革運営会議は学長、副学長、各学部長、家政学部通信教育課程長、各学部教授会構成員から選出された教員各1名、大学院各研究科委員長及びJWU女子高等教育センター所長をもって組織する。

3 大学改革運営会議の議長は、学長又は副学長が当たる。

- 4 大学改革運営会議は、構成員の3分の2以上の出席によって成立する。
- 5 大学改革運営会議は、次の事項を審議し、決定する。
 - (1) 教育研究に関わる全学的な方針の策定に関する事項
 - (2) 教育課程の編成に関わる全学的な方針の策定に関する事項
 - (3) 学生支援に関わる全学的な方針の策定に関する事項
 - (4) 社会貢献に関わる全学的な方針の策定に関する事項
 - (5) 教育活動における内部質保証に関する事項
 - (6) その他必要と認める事項
- 6 大学改革運営会議の議決は、出席構成員の過半数による。ただし、大学改革運営会議が必要と認めた場合には、出席構成員の3分の2以上による。
- 7 大学改革運営会議の審議の結果は、大学評議会に報告する。
- 8 大学改革運営会議に関し必要な事項は、別に定める。

(教授会)

第14条 本学の各学部、に、教授会を置く。

- 2 教授会は各学部の教授、准教授及び専任講師をもって組織する。
- 3 教授会は学部長が招集し、議長となる。
- 4 教授会は、構成員の3分の2以上の出席によって成立する。
- 5 教授会は、次の事項について学長が決定を行うに当たり意見を述べる。
 - (1) 学生の入学、卒業に関する事項
 - (2) 学位の授与に関する事項
 - (3) 前二号に掲げる事項のほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なのとして学長が定める事項
- 6 教授会は、前項に定めるもののほか、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 7 学長は、必要と認めたとき、教授会の招集を要請し又は教授会に出席して発言することができる。
- 8 教授会に関し必要な事項は、各学部において定める。

(基礎科目委員会・教養教育委員会)

第15条 本学目白地区に基礎科目委員会・教養教育委員会を置く。

- 2 前項の各委員会に委員長を置く。
- 3 第1項の各委員会は、それぞれの委員長が招集し、議長となる。
- 4 基礎科目委員会は、目白地区における基礎科目の編制、運営方法等を協議し、また、基礎科目の実施、運営に当たる。
- 5 教養教育委員会は、目白地区における教養科目の編制、運営方法等を協議し、また、教養科目の実施、運営に当たる。
- 6 基礎科目委員会及び教養教育委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(大学評議会)

第16条 本学に、大学評議会を置く。

- 2 大学評議会は、大学の全学にわたる教学に関する重要事項並びに各学部、大学院各研究科及びその他の機関、施設間の連絡調整に関する重要事項を協議するために、学長が定期的に招集する。ただし、学長が必要と認めるとき又は構成員の3分の2以上の開催の要請があるときは、随時学長が招集する。
- 3 大学評議会は、次の大学評議員をもって組織する。
 - (1) 学長
 - (2) 副学長
 - (3) 各学部長
 - (4) 家政学部通信教育課程長
 - (5) 各学部ごとに教授、准教授又は専任講師から3名
 - (6) 大学院各研究科委員長
- 4 大学評議会の議長は、学長が当たる。
- 5 大学評議会は、構成員の3分の2以上の出席によって成立する。
- 6 大学評議会は、次の事項を協議する。
 - (1) 学則その他重要な規則の制定、改廃に関する事項
 - (2) 大学、大学院の予算の方針に関する事項
 - (3) 学部、学科及び大学院研究科、専攻、課程並びにこれに準ずるものの設置、改廃に関する事項
 - (4) 教員人事の基準、大綱に関する基本的事項
 - (5) 教員の研究、助成に関する基本的事項
 - (6) 授業科目の設置、改廃に関する基本的事項
 - (7) 学生の身分、厚生、指導に関する基本的事項
 - (8) 各学部、大学院各研究科、その他の機関、施設の連絡調整に関する事項

- (9) 全学委員会に関する事項
- (10) 大学の将来計画に関する基本的事項
- (11) その他学長の諮問する事項
- 7 大学評議会の協議の結果は、教授会に報告する。
- 8 大学評議會は、大学改革運営会議の審議事項について意見を述べることができる。
(連合教授会)
- 第17条 本学に、連合教授会を置く。
- 2 連合教授会は、大学の教学に関わる緊急かつ重要で大学評議会で協議が調わない事項を審議するために、学長が必要と認めるとき又は教授会が議案を示して開催の要請をし、かつ学長が必要と認めるときに、学長が招集する。ただし、学長に支障があるときは、各学部長の連名により招集する。
- 3 連合教授会は、学長、全学部の教授、准教授、専任講師をもって組織する。
- 4 連合教授会の議長は、学長が当たる。ただし、学長に支障があるときは、学部長の互選により定める。
- 5 連合教授会は、構成員の3分の2以上の出席によって成立する。
- 6 連合教授会の議決は、出席者の過半数以上による。ただし、連合教授会が必要と認めた場合には、出席者の3分の2以上による。
(全学委員会)
- 第18条 本学に、各種の全学委員会を置く。
- 2 全学委員会は、教授会の付託を受けて、大学の全学にわたる教学事項を審議するために、全学部から選出された委員によって構成される。
- 3 全学委員会には、委員長を置く。
- 4 全学委員会は、それぞれの委員長が招集し、議長となる。
- 5 全学委員会の種類及び委員の数並びにその選出方法については、別に定める。
- 第4章 学部
- 第1 学科及び教育課程
(修業年限・在学年限)
- 第19条 家政学部、文学部、人間社会学部及び理学部の修業年限は、4年とする。ただし、8年を超えて在学することはできない。
(家政学部の学科)
- 第20条 家政学部には、次の学科を置く。
児童学科、食物学科、住居学科、被服学科及び家政経済学科
- 2 食物学科は、二専攻に分け、食物学専攻、管理栄養士専攻とする。
- 3 住居学科は、二専攻に分け、居住環境デザイン専攻、建築デザイン専攻とする。
(文学部の学科)
- 第21条 文学部には、次の学科を置く。
日本文学科、英文学科及び史学科
(人間社会学部の学科)
- 第22条 人間社会学部には、次の学科を置く。
現代社会学科、社会福祉学科、教育学科、心理学科及び文化学科
(理学部の学科)
- 第23条 理学部には、次の学科を置く。
数物科学科、物質生物科学科
(授業科目)
- 第24条 家政学部、文学部及び理学部の授業科目は、教養特別講義、基礎科目（外国語・情報処理・身体運動）、教養科目、学部共通科目（家政学部）、学科科目、教職に関する科目、司書及び司書教諭に関する科目、博物館に関する科目、日本語教員養成講座に関する科目、キャリア形成科目とし、単位制とする。
- 2 人間社会学部の授業科目は、学科教育科目（基本科目、学科専門科目、展開科目）、教養特別講義、教職に関する科目、司書及び司書教諭に関する科目、博物館に関する科目、社会教育主事に関する科目、日本語教員養成講座に関する科目、キャリア形成科目とし、単位制とする。
(単位)
- 第25条 各授業科目の単位数は、45時間の学修を必要とする内容をもって1単位とすることを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。
- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作の授業科目については、これらの学修

- の成果を評価して単位を授与することができる。
(教養特別講義、基礎科目、教養科目の授業科目・単位数)
- 第26条 家政学部、文学部及び理学部における教養特別講義、基礎科目（外国語・情報処理・身体運動）及び教養科目の授業科目及び単位数は、別表第1のとおりとする。
(家政学部の授業科目・単位数)
- 第27条 家政学部における学部共通科目及び学科科目の授業科目及び単位数は、別表第2のとおりとする。
(文学部の授業科目・単位数)
- 第28条 文学部における学科科目の授業科目及び単位数は、別表第3のとおりとする。
(人間社会学部の授業科目・単位数)
- 第29条 人間社会学部における授業科目及び単位数は、別表第4のとおりとする。
(理学部の授業科目・単位数)
- 第30条 理学部における学科科目の授業科目及び単位数は、別表第5のとおりとする。
(履修方法)
- 第31条 教養特別講義は、1年次の学生に対して講義、見学及び軽井沢セミナーを行う教養特別講義1と2、3年次の学生に対して講義を行う教養特別講義2に分け、各学部とも卒業するために、各々1単位、合計2単位を修得しなければならない。
- 2 家政学部、文学部及び理学部の基礎科目（外国語）は、卒業するために、次の単位を修得しなければならない。
- 家政学部 英語8単位
文学部
日本文学科 英語8単位及び英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から8単位
英文学科 英語8単位及び英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から8単位
史学科 英語8単位及びドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から一つの言語16単位
理学部 英語8単位及び英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から4単位
- 3 家政学部、文学部及び理学部の基礎科目（情報処理）は、卒業するために、2単位を修得しなければならない。
- 4 家政学部、文学部及び理学部の基礎科目（身体運動）は、卒業するために、2単位を修得しなければならない。
- 5 家政学部、文学部及び理学部の教養科目は、A（地球市民をめざして）、B（よき生をもとめて）、C（知と感性を磨く）の3系列からなり、卒業するために、3系列からそれぞれ2単位以上、合計12単位以上を修得しなければならない。
- 6 家政学部、文学部及び理学部においては、卒業するために、次の単位を修得しなければならない。

家政学部											
学科		卒業するために必要な最低修得単位数	教養特別講義（必修）	基礎科目			教養科目	学部共通科目	学科科目		自由選択科目（所属学科又は所属学科以外の科目）
				外国語	情報処理	身体運動			必修	選択	
児童学科		126	2	8	2	2	12	6	20	44	30
食物学科	食物学専攻	128	2	8	2	2	12	6	69	19	8
	管理栄養士専攻	134	2	8	2	2	12	6	99	0	3
住居学科	居住環境デザイン専攻	128	2	8	2	2	12	6	74	10	12
	建築デザイン専攻	128	2	8	2	2	12	6	76	18	2
被服学科		126	2	8	2	2	12	6	19	59	16
家政経済学科		128	2	8	2	2	12	6	38	50	8

文学部									
学科	卒業するために必要な最低修得単位数	教養特別講義（必修）	基礎科目			教養科目	学科科目		自由選択科目（所属学科又は所属学科以外の科目）
			外国語	情報処理	身体運動		必修	選択	
日本文学科	126	2	16	2	2	12	42	22	28
英文学科	128	2	16	2	2	12	40	38	16
史学科	124	2	24	2	2	12	24	36	22

理学部									
学科	卒業するために必要な最低修得単位数	教養特別講義	基礎科目			教養科目	学科科目		自由選択科目（所属学科又は所
			外国語	情報	身体		必修	選択	

	修得単位数	(必修)		処理	運動				属学科以外の科目)
数物科学科	126	2	12	2	2	12	91	0	5
物質生物科学科	126	2	12	2	2	12	89	0	7

7 人間社会学部においては、卒業するために、次の単位を修得しなければならない。

学科	卒業するために必要な最低修得単位数	教養特別講義(必修)	基本科目			学科専門科目			展開科目			所属学科又は所属学科以外の科目(自由選択)
			必修	選択	計	※必修	選択	計	必修	選択	計	
現代社会学科	124	2	28	0	28	14	46	60	2	24	26	8
社会福祉学科	124	2	16	0	16	26	28	54	0	22	22	30
教育学科	128	2	22	0	22	18	40	58	2	20	22	24
心理学科	126	2	18	0	18	26	34	60	2	28	30	16
文化学科	126	2	44	0	44	14	32	46	0	22	22	12

※卒業論文・卒業研究を含む

8 第6項及び第7項の授業科目の種類・単位数及び履修方法等については、各学部・学科の定めるところによる。

9 教育職員の免許状の授与を受けようとする者は、教科に関する科目及び教職に関する科目(別表第6)を履修しなければならない。

10 本学の各学部学科で取得させることのできる教員免許状の種類(免許教科の種類を含む。)は、次のとおりである。

学部	学科	免許状の種類	免許教科
家政学部	児童学科	中学校教諭一種免許状	家庭
		高等学校教諭一種免許状	
		幼稚園教諭一種免許状	
	食物学科 食物学専攻	中学校教諭一種免許状	家庭
		高等学校教諭一種免許状	
	食物学科 管理栄養士専攻	栄養教諭一種免許状	
	住居学科 居住環境デザイン専攻 建築デザイン専攻	中学校教諭一種免許状	家庭
		高等学校教諭一種免許状	
	被服学科	同上	家庭
	家政経済学科	中学校教諭一種免許状	家庭
		高等学校教諭一種免許状	
		中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	公民
文学部	日本文学科	中学校教諭一種免許状	国語
		高等学校教諭一種免許状	
	英文学科	同上	英語
	史学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史
人間社会学部	現代社会学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史、公民
	社会福祉学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	公民
	教育学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	公民
		小学校教諭一種免許状	
	文化学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	公民
理学部	数物科学科	中学校教諭一種免許状	理科、数学
		高等学校教諭一種免許状	
		高等学校教諭一種免許状	情報

	物質生物科学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	理科
--	---------	---------------------------	----

- 11 保育士となる資格を得ようとする者は、家政学部児童学科に入学し、児童福祉法施行令及び同法施行規則に定める指定科目に関する科目（別表第7）を履修しなければならない。資格取得に係る必要な事項は別に定める。
- 12 栄養士免許証の交付を受けようとする者及び管理栄養士国家試験の受験資格を得ようとする者は、家政学部食物学科管理栄養士専攻に入学し、栄養士法に定める授業科目（別表第8）を履修しなければならない。
- 13 食品衛生管理者、食品衛生監視員となる資格を得ようとする者は、家政学部食物学科に入学し、食品衛生法施行令及び同法施行規則に定める指定科目に関する科目（別表9）を履修しなければならない。
- 14 司書、司書教諭となる資格を得ようとする者は、司書に関する科目（別表第10）、司書教諭に関する科目（別表第11）をそれぞれ履修しなければならない。
- 15 学芸員となる資格を得ようとする者は、博物館に関する科目（別表第12）を履修しなければならない。
- 16 社会教育主事となる資格を得ようとする者は、社会教育主事に関する科目（別表第13）を履修しなければならない。
- 17 本学の日本語教員養成講座修了証書の授与を受けようとする者は、日本語教員養成講座に関する科目（別表第14）を履修しなければならない。
- 18 キャリア形成科目の授業科目及び単位数は、別表第15のとおりとする。
- 19 社会福祉士の受験資格を得ようとする者は、人間社会学部社会福祉学科に入学し、社会福祉士及び介護福祉士法に定める指定科目に関する科目（別表第17）を履修しなければならない。
- 20 精神保健福祉士の受験資格を得ようとする者は、人間社会学部社会福祉学科に入学し、精神保健福祉士法に定める指定科目に関する科目（別表第18）を履修しなければならない。
- 21 公認心理師の受験資格を得ようとする者は、人間社会学部心理学科に入学し、公認心理師法に定める指定科目に関する科目（別表第19）を履修しなければならない。
（他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）
- 第32条 学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 2 前項の規定は、第46条に規定する留学及び学生の海外短期研修に準用する。
（大学以外の教育施設等における学修）
- 第33条 学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。
- 2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項及び第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えない。
（入学前の既修得単位等の認定）
- 第34条 学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学の定めるところにより本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 2 学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。
- 3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第32条第1項及び第2項並びに前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えない。

第2 入学、休学、復学、転学科、留学、転学及び退学

（入学の時期）

第35条 本学の入学の時期は、学年の始めとする。ただし、再入学の時期は学年の始め又は後学期始めとする。

（収容定員）

第36条 本学の収容定員は、次のとおりとする。

		（入学定員）	（収容定員）
家政学部			
児童学科		97名	388名
食物学科	食物学専攻	31名	124名
	管理栄養士専攻	50名	200名
住居学科	居住環境デザイン専攻	55名	220名
	建築デザイン専攻	37名	148名
被服学科		92名	368名

家政経済学科	85名	340名
文学部		
日本文学科	134名	536名
英文学科	146名	584名
史学科	97名	388名
人間社会学部		
現代社会学科	97名	388名
社会福祉学科	97名	388名
教育学科	97名	388名
心理学科	73名	292名
文化学科	121名	484名
理学部		
数物科学科	92名	368名
物質生物科学科	97名	388名

(入学資格)

第37条 各学部に入學することのできる者は、高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者若しくは通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

2 次の各号の一に該当する者は、本學入學に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる。

- (1) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (3) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
- (5) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（廃止前の大学入學資格検定規程による大学入學資格検定に合格した者を含む。）
- (6) 本學において、個別の入學資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの

(入學の出願)

第38条 本學への入學を志願する者は、所定の入學願書に、別に定めるところの書類その他を添えて願出しなければならない。

(入學試験)

第39条 前条の入學志願者については、試験の上、入學を許可する。

(入學手続)

第40条 入學を許可された者は、保証人を定め、本學所定の誓約書及び保証人署名の保証書を指定された期日までに提出しなければならない。

(保証人)

第41条 保証人は、独立の生計を営む親族又はこれに代わる成年者で、保証人としての責任を果たし得る者でなければならない。

- 2 保証人は、本人在學中の事項について、責任を負う。
- 3 保証人が死亡した場合には、新たに保証人を定め、届け出なければならない。保証人を変更しようとするときもまた同様とする。
- 4 保証人が転居又は改姓したときは、直ちにその旨を届け出なければならない。
- 5 保証人が海外在住の場合は、緊急時に責任をもって學生本人や保証人と連絡がとれる日本国内に在住する成年者である連絡人を届け出なければならない。

(休學)

第42条 病気その他やむを得ない理由により修學できない者は、保証人連署で願出でて、前學期又は後學期を単位として休學することができる。

- 2 病気を理由とする休學願には、医師の診断書を添付しなければならない。
- 3 休學できる期間は、原則として1年以内とする。ただし、特別の理由のある場合は、引き続き休學を願出することができる。
- 4 休學期間は、通算して2年を超えることはできない。
- 5 休學期間は、在學期間に算入しない。

(復学)
第43条 休学の理由がなくなったときは、願いにより復学することができる。
2 病気のため休学した者は、復学願に校医の診断書を添付しなければならない。

(出席停止)
第44条 学長は、学校保健法第12条により、病気のため特に必要があると認めた者について、出席停止を命ずることがある。

(転学科)
第45条 他の学科に転学科を志望する者があるときは、選考の上、許可することがある。

(留学・学生の海外短期研修)
第46条 外国の大学又は短期大学で学修することを志望する者は、許可を得て留学することができる。
2 前項の留学期間は、1年間を限度として在学期間に算入することができる。
3 留学により履修した授業科目について修得した単位は、第32条の規定にかかわらず、30単位を限度として本学の卒業に必要な単位として認めることができる。
4 留学に関し必要な事項は、学生の外国留学規則に定める。
5 前各項に定めるもののほか、本学が認める学生の海外短期研修についても単位を認定できるものとし、必要な事項は学生の海外短期研修規則に定める。

(転学)
第47条 他の大学に転学を志願しようとする者は、その理由を記し、願い出て許可を得なければならない。

(退学)
第48条 退学しようとする者は、その理由を記し、保証人連署の上、願い出なければならない。

(再入学)
第49条 退学した者が再入学を願い出たときは、教授会の議を経て、学長はこれを許可することがある。
2 再入学に関し必要な事項は、再入学に関する規程に定める。

第3 成績の評価及び単位の授与

(履修登録)
第50条 授業科目の履修に当たっては、所定の期間内に登録しなければならない。

(成績の評価)
第51条 すべての授業科目は、その履修終了時において成績の評価を行う。
2 成績の評価は、試験その他の方法によって行う。
3 成績の評価は、合格（A⁺、A、B、C、P）及び不合格（F、X）とする。評点及び評価の基準は、次のとおりとする。

合否	合格					不合格	
評価	A ⁺	A	B	C	P	F	X
評点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	合格	59点以下	評価なし
評価の基準	到達目標を十分に達成できている非常に優れた成績	到達目標を十分に達成できている優れた成績	到達目標を達成できている成績	到達目標を最低限達成できている成績	段階なし	到達目標を達成できていない成績	評価なし

(単位の授与)
第52条 合格した授業科目については、所定の単位を与える。

(追試験)
第53条 病気その他やむを得ない事故により、所定の試験を受けられなかった者に対しては、追試験を行う。

第4 卒業及び学士の学位

(卒業)
第54条 本学に4年以上在学し、第31条に従い所定の単位を修得した者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認め学士の学位を授与する。

(学士の学位の専攻分野の名称)
第55条 本学において授与する学士の学位の専攻分野の名称は、次のとおりとする。

家政学部		学士（家政学）
文学部		学士（文学）
人間社会学部	現代社会学科	学士（社会学）
人間社会学部	社会福祉学科	学士（社会福祉学）
人間社会学部	教育学科	学士（教育学）
人間社会学部	心理学科	学士（心理学）
人間社会学部	文化学科	学士（文学）
理学部		学士（理学）

- 第5 編入学・学士入学
(編入学・学士入学)
- 第56条 編入学・学士入学を願い出た者については、選考の上、入学を許可することができる。
- 2 編入学・学士入学に関する事項は、編入学・学士入学に関する規程に定める。
- 第6 外国人留学生
(外国人留学生)
- 第57条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を願い出た者については、選考の上、入学を許可することができる。
- 2 前項の外国人留学生に対しては、第24条に規定する授業科目のほか、外国人留学生科目（別表第13）を置くことができる。
- 3 外国人留学生に関し必要な事項は、外国人留学生規則に定める。
- 第7 科目等履修生、研究生、特別聴講学生、交流学生、寄附授業特別聴講生、委託研修員、交換留学生及び短期留学生
(科目等履修生・研究生)
- 第58条 本学において開設される授業科目のうち、特定の授業科目だけを履修することを志望する者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することができる。
- 2 本学の教授会構成員から直接の指導を受け、一定期間、特定の課題を研究することを志望する者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することができる。
- 3 科目等履修生及び研究生に関し必要な事項は、日本女子大学科目等履修生規則及び日本女子大学研究生規則に定める。
- (特別聴講学生・交流学生)
- 第59条 本学と協定のある日本国内又は外国の大学又は短期大学に在籍する学生で、本学所定の授業科目を履修することを志望する者があるときは、選考の上、特別聴講学生又は交流学生として履修を許可することができる。
- (寄附授業特別聴講生)
- 第60条 本学に寄附授業を提供している寄附者側からの推薦がある者については、選考の上、寄附授業特別聴講生として希望する寄附授業の聴講を許可することができる。
- 2 前項の寄附授業特別聴講生は、寄附者と本学の協定によりあらかじめ特定された授業科目を聴講することができる。
- (委託研修員)
- 第61条 国立、公立又は私立学校等の教職員等の所属機関等の長から、その所属教職員等について、研究指導の委託の願い出があるときは、審議の上、委託研修員として受入れを許可することができる。
- 2 委託研修員に関し必要な事項は、委託研修員規則に定める。
- (交換留学生)
- 第62条 本学と協定のある外国の大学の学生を、交換留学生として入学を許可することができる。
- 2 前項の交換留学生に対しては、第24条に規定する授業科目のほか、交換留学生科目（別表第16）を置くことができる。
- 3 交換留学生に関し必要な事項は、交換留学生規則に定める。
- (短期留学生)
- 第63条 外国の4年制大学又はそれに準ずる機関に在籍する学生で、当該大学又はそれに準ずる機関を卒業する意思があり、かつ、一定期間本学の学科に所属し学修することを希望する者があるときは、選考の上、短期留学生として入学を許可することができる。
- 2 短期留学生について必要な事項は、短期留学生規則に定める。
- 第5章 検定料、入学金、授業料及び施設設備費等
(検定料)
- 第64条 本学に入学を志願する者は、検定料35,000円を納めなければならない。ただし、センター試験利用入試の検定料は、1学科につき15,000円とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、次の各号の場合には、それぞれ検定料併願割引を適用する。
- (1) 一般入試において複数学部を同時に出願する場合
- ① 2学部併願の場合の検定料 50,000円
- ② 3学部併願の場合の検定料 65,000円
- (2) 英語外部試験利用型一般入試において次のいずれかに該当する場合 1学科につき10,000円
- ① 一般入試と同時に出願する場合の検定料
- ② 当該入試で2学科以上同時出願の場合の2学科目以降の検定料
- (入学時納入金)
- 第65条 本学に入学を許可された者は、入学金200,000円及び入学する期の授業料等を所定の期日までに納めなければならない。
- (授業料・施設設備費等)
- 第66条 授業料は、年額、次のとおりとする。

- (1) 家政学部児童学科及び被服学科 820,000円
 (2) 家政学部食物学科 950,000円
 (3) 家政学部住居学科 900,000円
 (4) 家政学部家政経済学科、文学部及び人間社会学部 720,000円
 (5) 理学部 920,000円
- 2 施設設備費は、年額、290,000円とする。
- 3 学生図書費は、年額、1,200円とする。
 (授業料等の納入)
- 第67条 授業料、施設設備費及び学生図書費は、毎年4月30日までに納入しなければならない。ただし、2期に分納することができる。
- 2 授業料、施設設備費及び学生図書費を分納する場合の納入額及び納入期日は、次のとおりとする。ただし、入学初年度前期の施設設備費は入学手続き時に納入する。
- 前期 授業料 (1) 家政学部児童学科及び被服学科 410,000円
 (2) 家政学部食物学科 475,000円
 (3) 家政学部住居学科 450,000円
 (4) 家政学部家政経済学科、文学部及び人間社会学部 360,000円
 (5) 理学部 460,000円
- 施設設備費 145,000円
 学生図書費 600円
 納入期限 4月30日
- 後期 授業料 (1) 家政学部児童学科及び被服学科 410,000円
 (2) 家政学部食物学科 475,000円
 (3) 家政学部住居学科 450,000円
 (4) 家政学部家政経済学科、文学部及び人間社会学部 360,000円
 (5) 理学部 460,000円
- 施設設備費 145,000円
 学生図書費 600円
 納入期限 10月31日
- 3 学生は大学が指定する保険料(以下「保険料」という。)を納入しなければならない。なお、保険料の金額等契約にかかる事項は所管する団体の定めるところによる。
 (休学の場合の学費)
- 第68条 休学の場合には、休学期間中の授業料、施設設備費、学生図書費を免除し、別途在籍料を納入する。
- 2 前項の在籍料は、前期及び後期各100,000円とする。
- 3 前2項の規定にかかわらず、入学と同時に休学を開始する場合のみ、入学した期の学費は所定額の全額を納めなければならない。
 (科目等履修生・研究生の学費)
- 第69条 本学に科目等履修生又は研究生として入学を志願する者は、表に示す選考料を納めなければならない。
- 2 本学に科目等履修生又は研究生として入学を許可された者は、入学手続の際に表に示す費用を納めなければならない。
- | 内訳 | 科目等履修生
(単位コース) | 研究生 |
|--------------------------------|-------------------|----------|
| 選考料 | 10,000円 | 10,000円 |
| 科目履修料(1単位につき) | 16,400円 | — |
| 単位認定試験料
(単位認定を必要とする者1単位につき) | 2,000円 | — |
| 研究料(年額) | — | 284,000円 |
- 3 前項に定める費用のほか、保険料を入学手続き時に納めなければならない。
 (委託研修員の学費)
- 第70条 本学に委託研修員として受入れを許可された者は、次の区分による研修委託費を納めなければならない。
- (1) 実験 月額 38,000円
 (2) 非実験 月額 21,600円
- 2 前項の研修委託費は、研究期間の全額を前納するものとする。ただし、研究期間が1か月未満の場合でも月額を徴収する。
 (交換留学生の学費)

第71条 交換留学生の学費は、当該大学との学生交換に関する協定に定める。

(短期留学生の学費)

第72条 本学に短期留学生として入学を志願する者は、選考料10,000円を納めなければならない。

2 短期留学生として受入を許可された者は、在学期間に応じた授業料、学生図書費及び保険料を納めなければならない。

3 入学が学期途中となる場合、当該期の学費は、科目等履修生に準じ、履修する科目に応じて算出するものとする。

(納入金の不還付)

第73条 既に納めた検定料、入学金及び授業料並びに科目等履修生及び研究生の費用並びに委託研修員の研修委託費は、いかなる理由によるも返付しない。

(学費未納の取扱い)

第74条 授業料その他の学費を納めない者は、当該期又は年度の履修について成績評価を受けることはできない。

(除籍)

第75条 授業料その他の学費を納めることを怠り、督促を受けてなお納めない者は、これを除籍する。

2 前項による除籍者が再入学を願い出た場合は、別に定める再入学に関する規程により、学長はこれを許可することがある。

(実験実習料)

第76条 実験実習に必要な費用は、別に徴収する。

第6章 賞罰

(表彰)

第77条 学業成績、人物ともに優秀な学生には、別に定める日本女子大学学生表彰規程により、表彰することがある。

(懲戒)

第78条 学生が、本学の学則その他諸規程若しくは命令に背き又は学生の本分に反する行為のあるときは、懲戒を加えることができる。

2 懲戒は、別に定める日本女子大学学生懲戒規程による。

附 則

1 この学則は、2020年4月1日から施行する。

2 第65条、第66条、第67条に定める入学時納入金の取扱い及び金額については、2020年度4月の入学者より適用する。

3 2019年度以前に入学した学生の授業料については、第66条、第67条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

日本女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程

平成 22 年 4 月 1 日制定
改正 平成 26 年 4 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は、日本女子大学学則第 1 条第 2 項に基づき、各学部・学科・課程等の人材の養成に関する目的、教育研究上の目的を定めたものである。

(家政学部)

第 2 条 家政学は人間の生活を科学する実践的総合科学である。家政学部では生活の科学を学び、生きる力を養うとともに、生活の質を向上させ社会をより豊かにする力を持ち、人類の健康、安全、福祉に貢献したいという意欲あふれる女性を育成することを目的とする。

- 2 児童学科は、子どもの成長・発達や子どもを取り巻く環境を総合的に研究し、実際に子どもと触れ合うことをとおして理解を深め、理論と実践をバランスよく学ぶことにより、子どもに関する問題を解決できる人材を養成することを目的とする。
- 3 食物学科は、食品、調理、栄養、医学など食関連諸科学を学び研究し、その専門知識と技能、考察力をもって、人々の健全な食生活の推進と健康の維持増進、疾病の治療に寄与し、食に関する問題の解決を目指して社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。
- 4 住居学科は、住宅から 公共建築、都市にいたるまでのあらゆる生活空間を学術・技術・芸術的側面から学び、生活者の視点から、安全でかつ健康的な建築・都市・生活環境の計画・デザインをとおして社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。
- 5 被服学科は、さまざまな環境に生きる人の生活を、より安全に快適に豊かに楽しくする役割を担う被服を、科学的・文化的視点から総合的に解明し、新しい時代の衣生活を創造する能力を持ち、被服をとおして社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。
- 6 家政経済学科は、時代とともに複雑化する生活の諸問題について、経済学を基に家政学や政治学・法学、経営学等の成果も取り入れて分析・研究・考察し、その解決方法を探るとともに、自ら問題を発見し解決していくことのできる人材を養成することを目的とする。

(家政学部通信教育課程)

第 3 条 通信教育課程では、家政学部の教育上の目的に則り、人間が生きるために欠かせない衣・食・住のあり方について、また子どもの環境について総合的に科学し、専門的に学修した知識を実生活や職場で役立てることのできる人材を育成することを目的とする。

- 2 児童学科は、子どもの成長・発達や子どもを取り巻く環境を総合的に研究し、実際に子どもと触れ合うことをとおして理解を深め、理論と実践をバランスよく学ぶことにより、子どもに関する問題を解決できる人材を養成することを目的とする。
- 3 食物学科は、食品、栄養、調理を中心とした食と生活にかかわる諸科学を広く学び、食についての正しい科学的知識を修得し、その知識を生活および社会において人々の健全な食生活の推進と健康の維持増進のために活かして社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。
- 4 生活芸術学科は、被服学と住居学について科学的・文化的・芸術的な側面から総合的に理解を深め、広い視野と専門的知識を生かして生活環境の問題解決と向上のために考え、実践する力をもった人材を養成することを目的とする。

(文学部)

第 4 条 文学部は、日本ならびに諸外国の文学・言語・歴史の探究をとおして自己と世界についての認識を深め、単なる実用性にとどまらず、より高度な学問的追究と批評精神をもって新しい文化の創造に貢献する自立した女性を育成することを目的とする。

- 2 日本文学科は、日本語および日本文学を探究し、国際社会において日本文化の伝統を伝える担い手として、広く社会に貢献できる人材、高度の専門的研究の基礎となる知識・方法論を身につけ、学問の発展に寄与できる人材を養成することを目的とする。
- 3 英文学科は、英語による円滑なコミュニケーション能力と確かな文章表現力を養成し、英語の原文資料を通して、英語圏の文学・言語・文化・社会についての知識を深めていく。その上で、英語圏とは異なる視点に立脚した鋭い批判力と深い思考力を養い、広い視野と独創性、英語による力強い発進力を兼ね備えた国際人を養成することを目的とする。
- 4 史学科は、さまざまな地域や時代の歴史事象を探究することにより、多様な人間存在への考察を深めるとともに、膨大な歴史情報をまとめ上げるための思考力を身につけ、広い視野から現代世界を認識できる人材を養成することを目的とする。

（人間社会学部）

第5条 人間社会学部は、人間の視点から社会を、社会の視点から人間を、多様なアプローチのもとで専門的・実践的かつ総合的に学び、人間と社会についての幅広い教養と深い学識を身につけた意欲ある女性を育成することを目的とする。

2 現代社会学科は、身の周りから国際社会まで、多様な視点から現代社会を見つめ、問題意識をもつ感性、現場を調査する能力、情報を処理する能力、社会現象を深く分析する能力を養い、社会問題の解決に資する人材を養成することを目的とする。

3 社会福祉学科は、社会福祉に関する多彩な学問を広く深く学び、人間尊重の精神と社会・文化に関する深い教養を養うとともに、柔軟な思考で「共生社会」をつくり、多様化する社会問題に対して新しい福祉の創造に意欲をもつ人材を養成することを目的とする。

4 教育学科は、家庭、学校、社会における教育の営みについて理論的・実践的な理解を深め、人間形成について広い知識と深い洞察力を身につけ、あわせて理論や洞察を実証的に確かめる方法と技術を修得した人材を養成することを目的とする。

5 心理学科は、人間の心理についての幅広い教養と深い学識を養い、現代社会が抱える多様な心の問題を科学的・実践的に探求し、解決し得る専門的な知識と能力を備え、豊かな感性をもって対応できる人材を養成することを目的とする。

6 文化学科は、文化の生まれてくる背景を考えながら他民族、他国、他者の文化を掘り下げて理解するとともに、自国の文化や地域の文化に対する認識をも深め、国際的な視野をもって社会で活躍できる能力、独創的なものに挑戦できる創造力をもった人材を養成することを目的とする。

（理学部）

第6条 理学部は、実験的および理論的な訓練を土台とした自然科学教育により、自然の真理を探求する論理的思考能力と創造力、そして複雑な現象に隠されている原理を発見し応用する力を兼ね備えた、自立した女性を育成することを目的とする。

2 数物科学科は、数学あるいは物理学、およびこれらに密接に関連する情報分野の基礎を確実に身につけ、高度な論理性と広い科学的見識で問題解決にあたり、社会の各方面で活躍できる自立した人材を養成することを目的とする。

3 物質生物科学科は、化学、生物学、ならびに両者の融合分野である分子生命科学の教育・研究を通じて、社会における様々な局面で求められる的確な問題解決能力をもち、多様な分野で活躍できる人材を養成することを目的とする。

（改廃）

第7条 この規程の改廃は、各教授会の議を経て、学長が行う。

附 則

（省 略）

大学の3方針（学位授与方針、教育課程編成方針、入学者受入方針）

■大学全体

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

日本女子大学は、建学の精神及び本学が育成する学生像を踏まえて、本学の教育と学修を通して学生が次の能力を修得することを学位授与の方針としている。

- ・ 建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
- ・ 強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
- ・ 自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
- ・ 他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

日本女子大学は、その教育理念に基づき、幅広い教養と高度な専門知識・技能、そして豊かな人間性を備えた女性を育成するため、次の科目群を開設している。

- ・ 本学の建学の精神と教育理念を学ぶとともに、現代を生きる女性の様々な生き方や考え方にふれ、自己実現をはたすための教養特別講義。
- ・ 女性の仕事と人生の歩み方を考えるためのキャリア関連科目。
- ・ 様々な学問分野について広く知識を身に付け、柔軟な思考力と的確な行動力を身に付けるための教養教育に関わる科目。
- ・ 専門教育の基礎であるとともに現代人に必須のコミュニケーション能力を養うための外国語科目と情報処理関連の科目。
- ・ 豊かな人生の基盤となる心身の健康を保持・増進するためのスポーツ・身体運動。
- ・ 専門的知識・技能を身に付け、自発的に課題を見出し解決する能力を養う専門科目。
- ・ 個別指導による、学士課程の集大成としての卒業論文・卒業研究・卒業制作。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

日本女子大学が求める学生は次のとおりである。

- ・ 本学の建学の精神及び教育理念に共感する人。
- ・ 自ら考え実践する姿勢を持ち、学ぶ意欲の高い人。
- ・ 女性の仕事と生き方について考えを深めたい人。
- ・ 本学で学んだことがらを生かして、卒業後に様々な分野で社会貢献をしたいと思っている人。

学部の3方針（学位授与方針、教育課程編成方針、入学者受入方針）

■人間社会学部

人材養成・教育研究上の目的

人間社会学部は、人間の視点から社会を、社会の視点から人間を、多様なアプローチのもとで専門的・実践的かつ総合的に学び、人間と社会について幅広い教養と深い学識を身につけた意欲ある女性を育成することを目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

- ・ 人間と社会、及び両者の関わりについて様々な視点から考察することができる。
- ・ 人々と実践的に関わり合いながら、専門的知識を踏まえてものごとを見ることができる。
- ・ 地域社会の問題から世界の問題まで、広い視野に立って考察し、具体的な解決を引きだすことができる。

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

- ・ 人間と社会を多様な視点から考察するために、5 学科の専門科目を置く。
- ・ 資料・文献の読解力、コミュニケーション力を養うための外国語科目を置く。
- ・ 5 つの分野が有機的に結びつき、国際的及び学際的な見方ができるよう、教養的な科目の他に他学科専門科目を通して 3 つの領域を総合的に学ぶ展開科目を置く。
- ・ 問題発見力、データ収集力、データ統合・分析力を能動的に学び、自立した実践力・行動力を養うための学生参加型の演習・実習科目を置く。
- ・ 4 年間の学修の集大成として、卒業論文・卒業研究のいずれかを必修とする。
- ・ 現代女性の生涯を視野に入れたキャリア形成に必要な知識や現状を学ぶことを目指すため、3 コースからなるキャリア女性学副専攻を置く。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

- ・ 自分の身のまわりのことから世界で起きていることまで、社会の様々なことがらをいろいろな角度から考え、国際的な視野を身に付けたい人。
- ・ 人間が社会とどう関わっているのか、その社会とはどんなものなのか、という疑問を持っている人。
- ・ テーマにそって資料を調べ、更に実地調査や実験を行い、それらの実証的なデータをもとに考えをまとめ、展開してみたい人。

学科の3方針（学位授与方針、教育課程編成方針、入学者受入方針）

■現代社会学科

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	・社会学、歴史学、経済学、人類学等の専門諸科学の理論と方法に関する幅広い知見を身に付け、そのうちいずれかを援用して、特定の対象や問題関心を追究することができる。そのことで現代社会の広がりに対する感覚と認識を身に付けている。	・現代社会の諸現象を、客観的視点から分析、思考することができる。またそのことによって解決すべき課題とその方向性を判断できる。	・現代社会の諸問題に強い関心を持ち、それを解決しようとする高い意欲と倫理的態度を有している。	・社会科学的に適切な問題意識から、社会的諸問題を自らの視点で論文やレポートにまとめ、論じることができる。あるいはまた、一定程度の現場調査能力・データ分析能力を修得し、上記の問題を実証的に分析し、論文やレポートにまとめ、論じることができる。 ・現代社会の構造を知るため、その中に自己を位置づけ対象化する能力を持ち、社会と自己の関係を表現する力を備え、それによって他者と討議交流することができる。 ・日本語及び外国語を運用する能力を持ち、文献・資料を的確かつ批判的に解読することができる。	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	・現代社会の仕組みと動向を理解するために、社会学、歴史学、経済学、人類学等専門分野の基礎を学ぶ科目並びに学際的な科目を履修するとともに、広い視野を涵養するために、人文科学と自然科学に関する科目も履修し、幅広い知識と教養を身に付ける。	・論理的思考とともに、客観的な視点に裏打ちされた批判思考を段階的に醸成するため、初年次より少人数による基礎演習を導入し、現代社会への問題関心を養い、基礎的理論と方法を学修する。 ・3～4年次の演習により、自らの問題意識と専門知識・技法を高められるようにする。また資料・データに基づく判断や討議能力の育成を図る。	・自らの関心に閉じこもらないように、幅広い関心と現実探究の意欲を喚起することに努める。 ・すべての科目において、問題解決を主題とする、身近な事物を対象とする等、関心・意欲を引き出しうる方法で科目運営をするよう心がける。	・社会科学的な調査能力とデータ分析能力を獲得する。 ・専門的な学修に必要な外国語の能力を獲得する。 ・卒業論文を作成することにより、自らの問題関心に基づいて研究を遂行し、専門的知識・能力の向上を図る。	
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	・現代社会に対する広範な知識と深い理解を修得していくための基礎的な知識と理解力、及びその適性を考查し選抜する。 ・高等学校で履修する国語、地理歴史、公民に関する一定の知識と理解力がある。 ・日本文と外国語を読み取り、その内容を理解し、まとめることができる。	・現状のつきつける課題に向き合い、その持つ意味を思考し、的確に判断することができる。 ・現代社会が抱える諸課題に対する問題意識を持っている。 ・論理的な思考能力があり、現代社会の諸問題を複数の視点から考える意思がある。 ・諸問題を構成する様々な立場の当事者性に対して想像力がある。	・現代世界における諸問題に関心を持ち、その解決に向けて多角的に考えている。 ・身近な出来事と社会全体の動向との関わりの探究に意欲を持っている。 ・日本及び世界の社会や歴史に関心を持ち、それを多角的、総合的に理解・把握したいと考えている。	・現代世界における諸問題を理解し、分析するために必要な、知識、観察能力、分析能力並びに語学能力がある。 ・様々な人々と意見を交流させることができる。	

■社会福祉学科

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	・生活上の諸問題、社会福祉の基本的な構造や機能、人間行動や社会システムとの関係性について理解し、社会問題の解決に向けた実践に生かすことができる。	・人々の生活上の諸問題について、社会構造的要因分析の視点を持つことができる。 ・多様な価値観を受け入れ、共生社会を構築するための寛容性を身に付け、そうした社会づくりに向け、他者と協働しながら思考することができる。	・社会のあらゆる生活問題に関心を持つことができる。 ・人権と社会正義の原理に基づいた援助観を身に付け、行動できる。 ・他者に対する共感的態度を持つことができる。	・他者と協働して課題に取り組むことができる。 ・援助者（ソーシャルワーカー）としての基本的技能や価値・倫理を身に付け、実践することができる。	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	・福祉・保健医療・労働関連の制度・政策、社会福祉実践における援助方法に関する科目を置く。 ・1年次には学修の基本的方法を学ぶための基礎演習を置く。 ・3年次以降は専門演習に所属して研究テーマを設定し、その集大成として卒業研究を必修とする。	・社会問題に関する歴史的・科学的思考ができる科目を置く。 ・社会問題の背景にある社会構造的課題を理解できる科目を置く。 ・「女工保全科」の伝統を受け継ぎ、働く女性の支援に係わる制度・政策や、労働と福祉を関連づけて理解する科目を置く。 ・多様な社会問題の現状とその課題等について理解できる科目を置く。	・初年次において幅広く学び、興味・関心領域を見極めるための科目を置く。 ・実習関連科目を通して、社会福祉現場実習や就労に対する意識を高めるための科目を置く。	・福祉・保健医療・労働・教育等幅広い分野にわたる問題意識を深めるとともに、各専門分野における知識の活用能力を高め、専門職としての価値・倫理を身に付けるための科目を置く。 ・コミュニケーション能力の向上を目的とした援助技術演習科目を置く。 ・大学における学びの集大成として卒業研究に取り組み、口頭及びポスターにより報告を行う。	
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	・生活上の諸問題を理解するための基礎的な知識と理解力を身に付けている。 ・具体的な実践から得られる知と、学問の探求から得られる知、双方の価値を理解している。	・物事を多面的に考えることができる資質を備えている。 ・社会の諸問題を広い視野で深く考えることができる。	・生活上の問題をかかえる人々への社会的支援のあり方に関心を持っている。	・多様な価値観や自分とは異なる感性を柔軟に受け入れることができる。	

■教育学科

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	・教育に関する哲学、歴史学、社会学、心理学の各理論と方法論を学び、教育学的な知識及び視点を修得している。 ・教育に関わる事象や問題について、教育学的な視点及び方法論を活用して、分析的かつ統合的に理解することができる。	・教育に関わる事象や諸問題の背景やメカニズムについて教育学的な観点や方法論を用いて分析・考察することができる。 ・教育実践に関わる諸問題に対して、教育学的知識に基づきながら解決の方向性を探究し、幅広い視野に立って判断を行うことができる。	・現代の教育問題に専門的な視点からの関心を持つと同時に、真摯に向き合う意欲を有している。 ・自発的・能動的に学修を進め、生涯にわたり自己を高めて社会に貢献していこうとする意欲や態度を有している。	・人が育つ、人を育てるという教育的営みに必要な相互対話的コミュニケーションを行うための技能と表現力を修得している。	

規
程

教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い基礎知識と視野を修得するために、1～2年次に教育学基礎・教育学基本理論を学ぶ科目群を設置し、一定単位数以上の選択必修とする。 ・2～3年次を中心に小・中学校の教育学領域、人間形成・生涯学習の教育学領域、国際・地域・政策の教育学領域に対応した専門科目群を設置し、各専門分野の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育学の方法論を学ぶために、1～2年次に「教育学研究法」を演習科目群として設置し必修とする。 ・設置した3つの領域に応じた専門科目によって、より高い専門性と実践的な立場から、教育の諸問題について思考・洞察する力を身に付ける。 ・3～4年次の「教育学演習」及び「卒業論文」を必修科目とし、各自の興味・関心に応じて、教育に関する諸問題について深く思考しながら、望ましい教育のあり方について探究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1～2年次の教育学基礎・教育学基本理論科目群で、現代の教育に関する諸問題を扱うことにより、比較的早い段階から教育問題に向き合う意欲や態度を形成する。 ・全学年で「学校インターンシップ」「社会教育インターンシップ」「教育フィールドワーク実践演習」等の教育実践場面で能動的学修を行う科目群を選択必修とし、教育現象の理解や教育実践に対する関心、意欲を高め、態度を形成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と協同で行う少人数演習科目を全学年に置き、教育的営みに必要なコミュニケーション能力の素地を育成する。 ・教育実践場面での能動的学修の科目群によって、多様な他者に対応するための実践的なコミュニケーション能力を修得できるようにする。 	
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校までの教育課程における基礎学力が備わっている人。 ・教育に関する広範な知識の修得と深い理解を達成するために、人間や社会に関する基礎的知識を持っている人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育や社会に関する問題について、資料やデータに基づき論理的に思考できる人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育問題に関心を持つとともに、自ら学び、自分を高めようとする意欲がある人。 ・教育に関する専門家や実践家をめざしたい人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分とは異なる他者の意見を理解し受けとめることができ、また相手の理解を得るために自分の考えを表現することをいとわない人。 ・外国語でコミュニケーションする力を高めようと思う人。 	

■心理学科

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の心の働きとその仕組みを広く学び、それらが生物学的、個人的、社会・文化的諸要因の影響を受けていることを理解し、心に関わる現象を実証的な方法で探求していくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間が示す心理学的現象の法則性を論理的に導き、その意味を、調査や実験に基づいて、生物学的、社会的な観点から洞察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心の働きと仕組みに関する基礎知識を基盤にして、探究を深める意欲を持つとともに、多様な心的機制的解明に関心を広げ社会貢献に生かしていきたいという意欲を有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の普遍的な行動現象を解明できる解析能力とともに、多様な状況にある人々に対して、柔軟に対応できる基礎的技法と表現能力を有する。 	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次必修科目に演習科目、実験演習科目を置き、基礎的な心理実験を体験し、解析方法を少人数グループで体験できる仕組みにしている。 ・4年間の学修を集大成する卒業論文を必修とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次には実験演習を通じ、心理学の研究法を更に深く体験する科目を置く。3年次の演習（ゼミ）では、専門性の高い学術研究の講読や実習を行い、特定テーマの心理現象の深い理解を促す科目を置く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験演習のレポート作成と添削を受ける、フィードバック経験を通じ、資料の解析と学術的な報告書作成の技能が修得できる設定をしている。 ・3、4年次の演習（ゼミ）科目を通じて、学術論文の正確な理解と、批判的な思考を介して、新たな研究へと発展させていく態度が養成されるよう配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公認心理師の取得を希望する者のための科目を置く。また、卒業後、大学院において臨床心理士取得を希望する者のために役立つ科目を置いている。 ・コンピュータを用いた統計的解析法、並びに表現法を学ぶ科目を置いている。社会科学的な調査能力とデータ分析能力を扶育し、社会調査士の資格取得に繋がる科目も置いている。 	

入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	・基礎的な書物を通じて心理学の知識を取得できる、基礎学力を有する人。日本語、英語に加え、社会・文化的な背景あるいは生物学的な周辺領域についても関心を持ち、人間の行動を学問融合的に捉えていくことのできる人。	・人間の示す心理現象の成り立ち、原因、そして意味を、実証的な資料の解析に基づいて理解することに興味のある人。	・人間が示す行動の背後にある因果関係に関心を持ち、修得した知識をもとに人間理解を深めたいと考える人。更に、専門的な知識と技術を生かして、多様な人間関係の改善に貢献したいと願う人。	・人間の行動特性の普遍性を実証的な資料に基づいて的確に捉え、文章や言葉で正確に伝える能力のある人。自分とは異なる考えも傾聴し、より高いレベルの考察へと修正していくことを望む人。	
---------------------------	--	--	---	--	--

■文化学科

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	・自他の文化に関する、その背景知をも含めた、奥行きのある専門的知識と幅広い教養を身に付けている。	・自他の文化の多様性及び相互の関係性について、複眼的・論理的に判断するとともに、創造的に思考することができる。	・多様な文化現象に対して柔軟な理解と共感を示し、常にそれらを学際的な視点から探究しようとする意欲を持っている。	・文化研究を通してえられた認識の成果を論理的にまとめ、国際的な場においても発表することができる言語表現能力を持っている。	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	・語学的知見を深めるとともに、多様な地域・分野の文化に関する広汎な知識を修得するため諸国の社会と文化、言葉と文化等の講義科目を置く。	・特定の地域・分野を超えた広い視野から複眼的に思考し、論理的に判断することによって認識を深めるための多種多様な国家や文化領域に関する演習科目を置く。	・多様な文化現象に対する知的好奇心を促進し、それらに関する多様な研究方法に関心を抱き、研究意欲を高めるための講義・演習科目を置き、海外研修等を実施する。	・論理的な表現能力を養い、研究成果を口頭発表するための演習科目を置くとともに、論文表現形式の発表としての卒業研究を課し、口頭試問や公開発表会を実施する。	
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	・世界の多様な文化を専門的に理解するために必要な外国語及び教養の基礎的な知識を修得している人。	・文化を国際的・学際的な視点から複眼的・論理的に比較考量する思考力を身に付けたい人。	・多様な文化に対する旺盛な知的好奇心と文化理解への意欲を持ち、文化的国際人としての深い教養を身に付けたい人。	・十分な外国語能力を獲得し、自分の考えを論理的に表現する力の向上を目指す人。	

日本女子大学学生表彰規程及び日本女子大学学生懲戒規程

日本女子大学学生表彰規程	(規程の公示) 第10条 本規程の改正が行われた場合には、直ちに公示する。	(7) 学生の学修、研究及び教職員の教育研究活動等の正当な活動を妨害する行為 (8) 本学の諸規則・規程に違反する行為 (9) そのほか、学生の本分に著しく反する行為及び本学の秩序を乱し、本学の名誉・信用を棄損する行為
平成27年4月1日制定		
(目的) 第1条 この規程は、日本女子大学学則第77条及び日本女子大学大学院学則第70条に規定する学生の表彰の実施に関し必要な事項を定め、その適正な実施を図ることを目的とする。	附則 (省 略)	(懲戒の種類と方法) 第6条 懲戒処分は、戒告・けん責・停学及び退学の4種とし、その方法は次のとおりとする。 (1) 戒告・けん責は、学生の行った行為の責任を確認し、将来にわたってそのようなことのないよう、大学の教育的意思表示として書面をもって戒めるものとする。 (2) 停学は、一定期間、学生の教育課程の履修、研究活動及び課外活動等を停止させるものとする。 (3) 懲戒による退学は、学生としての身分を剥奪するものとする。原則として再入学することを認めない。
(対象者) 第2条 この規程において対象とする者は、日本女子大学（以下「本学」という。）の学部学生及び大学院学生（以下「学生」という。）のことをいう。 2 科目等履修生、研究生、特別聴講学生、交流学生、寄附授業特別学生、委託研修員、交換留学生及び短期留学生の取扱い は、本学の学生に準ずるものとする。	平成27年4月1日制定 (目的) 第1条 この規程は、日本女子大学学則第78条及び日本女子大学大学院学則第71条に規定する学生の懲戒の実施に関し必要な事項を定め、その適正な実施を図ることを目的とする。 (対象者) 第2条 この規程において対象とする者は、日本女子大学（以下「本学」という。）の学部学生及び大学院学生（以下「学生」という。）のことをいう。 2 科目等履修生、研究生、特別聴講学生、交流学生、寄附授業特別学生、委託研修員、交換留学生及び短期留学生の取扱い は、本学の学生に準ずるものとする。	(停学の期間) 第7条 停学の期間は、有期及び無期とし、有期の停学とは、6か月以内の期限を付して命じる停学をいい、無期の停学とは、期限を付さずに命じる停学をいう。 2 無期の停学は、当該学生の反省の度合い等を勘案の上、当該停学の解除の時期を決定する。 3 停学の期間は、修業年限に含めないが、在学期間に含める。ただし、停学の期間が1か月以内の場合には、この間の教育的指導に基づき修業年限に含めることができる。
(表彰の対象) 第4条 表彰は、次の各号の一に該当する者について行う。 (1) 学業・研究活動等において顕著な功績があった者 (2) 課外活動等で顕著な成績を上げた者 (3) ボランティア活動等社会活動において顕著な功績があった者 (4) その他、学長が特に表彰に値すると認めた者	(懲戒の考え方) 第3条 懲戒は、学生が第5条に定める懲戒の対象となる行為を行った場合、学校教育法及び学校教育法施行規則に基づいて、教育機関としての大学の教育目的の達成と規律の維持のために行う。 2 懲戒は、懲戒の対象となる行為の様態、結果等を総合的に検討し、教育的配慮に基づいて行う。 3 懲戒により学生に課す不利益は、懲戒目的を達成するため、必要最小限にとどめなければならない。	(停学に付帯する措置) 第8条 停学期間中の措置は、次のとおりとする。 (1) 無期停学の処分及び1か月を超える停学処分があった場合には、当該期に履修中のすべての授業科目の履修登録を取り消す。 (2) 停学期間中の授業料及び施設費を納付しなければならない。 (3) 停学期間中は、サークル活動、大学施設の利用など、本学に関わる一切の活動を認めない。
(実施) 第3条 学長は、この規程により学生の表彰を行う。		
(表彰の時期) 第6条 表彰は、その必要に応じて行うものとする。	(懲戒の対象とする期間) 第4条 懲戒の対象とする期間は、入学後、本学の学籍を有する期間とする。	(停学期間中の教育的指導) 第9条 停学期間中は教育的指導を行う。 2 当該学生への面談等の教育的指導は、学部長が行うものとする。ただし、他の教員に委任することができる。 3 学部長は、教育的指導に必要と判断される場合、当該学生の施設利用を認めることができる。
(表彰) 第5条 表彰は、表彰状を授与して行うものとし、併せて副賞を授与することができる。	(懲戒の対象とする行為) 第5条 懲戒の対象とする行為は、次の各号に掲げるものとする。 (1) 犯罪行為及びそれに準ずる社会的諸秩序を侵害する行為 (2) 人権を不当に侵害する行為 (3) ハラスメント行為 (4) 論文等の作成における学問的倫理に反する行為 (5) 試験等における不正行為 (6) コンピュータ及びネットワークに係る情報倫理に反する行為	
(別規程) 第7条 別に規程等が定められている場合はその規程等に従う。		
(雑則) 第8条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施にあたって必要な事項は、別に定める。		
(改廃) 第9条 この規程の改廃は、教授会及び研究科委員会の議を経て、学長が行う。		

(事実関係の調査)

第10条 懲戒の対象となる行為又はその疑いが生じたとき、学長は事実調査委員会を招集し、事実調査委員会は遅滞なく対象学生等に対する事情聴取等の調査を行い、事実関係を確認し、学長に報告する。

2 前項の調査にあたり、事実調査委員会は、事前に学生に対して、要旨を口頭又は文書で告知し、当該事実に関する弁明の機会を与えなければならない。ただし、対象事案が重大犯罪であり、対象学生がこれを行ったことが明白と認められるなど、特段の事情がある場合は、この限りではない。

3 弁明の機会が与えられたにもかかわらず、対象学生が、正当な理由なく欠席し又は弁明書を提出しなかったときは、この権利を放棄したものとみなす。

(事実調査委員会の設置)

第11条 事実調査委員会は次の各号の者をもって構成する。ただし、第5号委員は指名しないことがある。

- (1) 副学長のうち1名
- (2) 関係学部・の学部長及び、関係学部以外の学部長
- (3) 学務部長
- (4) 学生生活部長
- (5) 学長が指名する者 若干名

2 事実調査委員会に委員長を置き、前項第1号の者をもってあてる。

3 事実調査委員会は、当該行為の事実調査を行い、その調査結果を文書により学長に報告する。

4 事実調査委員会の運営及び調査については、事案に応じて適切な在り方を事実調査委員会で決定するものとする。

(自宅待機)

第12条 学長は、処分が決定するまでの間に、当該学生に対し自宅待機を命ずることができる。

2 自宅待機中の者が停学処分となった場合は、自宅待機の期間を処分期間に含めるものとする。

(謹慎)

第13条 学長は、学生の行為が明らかに懲戒処分に該当すると判断した場合、懲戒処分前に2か月を超えない範囲で当該学生に対し、謹慎を命ずることができる。

2 前項の謹慎期間中は、第8条第3号の規定を準用する。

3 謹慎期間は停学期間に含めるものとする。

(懲戒決定の手続き)

第14条 事実調査委員会は、第10条の事実関係の調査により、懲戒が相当と判断した場合、第6条に定める懲戒のうち相当と判断される懲戒処分を、当該学生が所属する学部の教授会に提案する。

(懲戒の発効)

第15条 懲戒は、教授会の議を経て、学長が決定する。

2 懲戒は、学生に対して懲戒内容の文書に記載された日付から発効する。

(学生への通告及び保証人への通知)

第16条 学長は、学生に対し懲戒の内容を文書により通告する。

2 学長は、学生の保証人に対し懲戒の内容を文書により通知する。

3 第1項の通告及び前項の通知を受領すべき学生又は保証人の所在を知ることができないときは、公示送達、その他適切な方法により、その発信をもって代えることができる。

(公示)

第17条 学長は、懲戒を行った場合、遅滞なく公示を行う。

2 公示する事項は、所属、学年、懲戒理由、懲戒の種類とその適用条文とする。

(無期停学の解除)

第18条 無期停学は、懲戒の発効日から6か月を経過した後でなければ解除できない。

2 無期停学の解除は、事実調査委員会が無期停学の解除が適当であると判断した場合、当該学生が所属する学部の教授会の議を経て、学長が行う。

3 無期停学解除の学生への通告、保証人への通知は、文書で行う。

(不服申立て)

第19条 懲戒を課せられた学生は、懲戒の発効日から2週間以内にその懲戒に対する不服申立てを行うことができる。ただし、この期間内に不服申立てをすることができない理由が認められる場合は、その理由が消滅した日から起算して2週間以内に不服申立てを行うことができる。

2 前項の申立ては、不服理由を記載した文書を学長宛に提出しなければならない。

(不服申立ての審査)

第20条 前条による不服申立てがあった場合は、学長の命により、副学長又は不服申立てを行った学生が所属しない学部・の学部長より2名、学務部・学生生活部副部長及び学務部事務部長の計4名からなる不服申立審査委員会において、速やかに不服申立ての採否について審査を行う。

2 不服申立審査委員会委員は、事実調査委員会委員とは重複しないものとする。

3 大学又は当該学生の要請により不服申立審査委員会が認める場合は、弁護士等専門家が付き添うことができる。

4 第1項の審査にあたっては、第10条第2項及び第3項の規定を準用する。

5 不服申立審査委員会は、不服申立ての採否について、文書により学長に報告書を提出する。

(不服申立ての採否の決定)

第21条 不服申立委員会の報告により、教授会は処分の変更又は不服申立ての却下について審議し、学長が決定する。

2 前項の処分又は不服申立ての却下は、第16条及び第17条を準用する。

3 第1項の決定は、不服申立人に対して、その内容を文書で発信した日から発効する。

(懲戒に関する記録)

第22条 懲戒の事実、学籍簿及び学籍台帳に記録する。

(懲戒対象者の退学又は休学の申し出の取扱い)

第23条 学長は、第5条に規定する事情聴取等調査の対象となった者から、懲戒の決定前に退学又は休学の申し出があった場合、懲戒が決定するまでこの申し出を受理しない。

2 停学期間中は、退学又は休学することを認めない。

(別規程)

第24条 別に規程等が定められている場合はその規程等に従う。

(雑則)

第25条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施にあたって必要な事項は、別に定める。

(読み替え)

第26条 この規程において大学院学生は、特に記載のない場合は「学部」を「研究科」、「学部長」を「研究科委員長」、「教授会」を「研究科委員会」に読み替えるものとする。

(改廃)

第27条 この規程の改廃は、教授会及び研究科委員会の議を経て、学長が行う。

(規程の公示)

第28条 本規程の改正が行われた場合には、直ちに公示する。

附則

(省 略)



日本女子大学

〒214-8565 神奈川県川崎市多摩区西生田1-1-1
(<http://www.jwu.ac.jp>)

学籍番号							
氏 名							